

# **演習林年報**

**2008年度活動報告等**

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林  
2009.11

## はじめに

2009年4月に演習林長を拝命しました。それまで演習林を研究教育に使わせて頂いていた一利用者から、あたかも落下傘部隊のように前線に降り立ち、演習林の管理や運営に携わる責任ある立場となりました。折しもこの4月に演習林と同じ農学生命科学研究科の附属施設である多摩農場で禁止農薬が見つかり、タスクフォースが編成され、研究科全体の農薬管理体制の再点検や田無地区の組織再編論が噴出しました。この事件は図らずも新米林長をして、演習林を含む附属施設の現状や将来のあり方を強制的に考えさせる契機となりました。その過程でもっとも鮮明に見えてきたことは、演習林の保有する大きな資源すなわち多くの教職員と広大な土地・森林は、東京大学の執行部にとっても大きな資源であるということです。法人化後の大学運営の変化を汲み取ってもっと率直に言い直せば、私たちはこの大きな資源を預かって管理・運営をしており、この資源を満度に活用し、与えられたミッションを果たしていかなければならないということです。

では演習林に課せられたミッションとは何でしょうか。下村彰男前演習林長が2006年度の演習林年報緒言で述べておられるとおり、まず第一には優れた「教育研究のフィールド」を提供することにあります。森林管理はその出口として林業経営という産業があるために、往々にして優れたフィールド=よい山をつくると考えがちです。しかし、研究教育から見たフィールドへの要請は多様であり、従って優れたフィールドとは研究教育のニーズを満たす多様な山づくりに他なりません。「技術」もそのための技術が求められます。そして眼前にある多様な森林の「今」は、過去の森林の取り扱いの結果としてここにあるのであり、過去を語るデータと将来設計である研究計画はこの「今」を結節点として繋がっています。過去（蓄積されたデータや情報）と現在（調査や施業）、そして将来（計画）をセットにして提供することが重要なゆえんです。演習林における情報整備や平成23年度に実施しようとしている各演習林の研究計画の期間の統一などもこうした視点から見ると理解しやすいのではないでしょうか。

そして第二は、社会貢献です。上の「教育研究のフィールド」提供においては森林科学を専門とする学生や研究者が対象であると考えるなら、この社会貢献はそれ以外の人々に対するフィールドの提供であると言えるでしょう。教育にも教養課程学生を対象としたものから専門教育まで各段階が連続的にあるように、実は教育研究と社会貢献の境界もさほど明確なものではないかもしれません。森林に対する社会的関心が高まっている現在、大学演習林のやり方での要請に応えることが重要です。

以上述べてきたとおり、東京大学演習林には過去から現在までに築いてきた貴重な森林環境、技術、記録データがあり、これを最大限に活用して教育研究と社会に貢献していく使命があります。本年報が、演習林の「今」をスナップした客観的な記録として、過去と将来を繋ぐ多様な用途に役立つことを願っています。

2009年11月  
東京大学大学院  
農学生命科学研究科  
附属演習林長  
白石則彦

# 目次

## はじめに

<b>演習林の概要</b> .....	1
<b>演習林の活動</b>	
<b>教育活動</b>	
大学院講義等.....	4
学部講義等.....	6
他大学の非常勤講師.....	9
招待講演・講師の派遣等.....	10
森林生態圈管理学大講座ゼミ.....	15
演習林研究部ゼミ .....	17
実習等.....	18
<b>研究活動</b>	
地方演習林研究活動報告.....	22
演習林技術職員等試験研究・研修会議.....	36
教職員の論文等.....	38
学会発表等.....	47
著書.....	51
外部資金によって行われた研究 .....	52
<b>社会連携</b>	
公開講座・セミナー等.....	55
講師の派遣等.....	58
学外各種委員会等委員.....	60
<b>国際交流</b>	
交流事業.....	62
国際シンポジウム.....	62
共同研究.....	62
外国人研究者の来訪.....	63
海外渡航.....	64
<b>出版広報活動</b>	
演習林報告.....	66
演習林.....	67
科学の森ニュース .....	68
演習林出版物.....	69
新聞・雑誌・放送等.....	70
<b>利用状況</b>	
演習林を利用して行った論文等 .....	74
全利用者.....	77

## **研修**

技術職員	124
事務職員	124
<b>各種委員会報告</b>	<b>125</b>

## **安全衛生**

安全・防災のための講習会等	136
資格取得のための講習等	136
災害統計	137
山火事予防活動	137

## **資料**

<b>人事異動</b>	<b>140</b>
-------------	------------

## **予算配分と収入**

予算配分	142
収入	142
演習林林産収入細分表	142

## **組織図**

本部(研究部)	143
千葉演習林	144
北海道演習林	145
秩父演習林	146
愛知演習林	147
富士演習林	148
樹芸研究所	148
田無試験地	148

## **付録**

管理業務実行位置図	150
管理面積集計表	157
林相別蓄積集計表	157
立木伐採量	158
育林実行量	159
植栽樹種	159
素材生産総括表	160
土木実行総括表	160
道路現況	160
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 同縮尺図	162
各演習林所在地及び連絡先	164
演習林活動の統計	165
教職員の写真	167

## 演習林の概要

1890年に東京農林学校が帝國大学に併合されて農科大学となり、1894年にはその附属施設として日本で初めての大学演習林が房総半島の南東部に位置する清澄に設けられた。これが、今日の東京大学千葉演習林の始まりである。引き続いて、教育研究目的や森林の生態的な特性を考慮しながら、北海道演習林(1899)、秩父演習林(1916)、愛知演習林(1922)、富士演習林(1925)、樹芸研究所(1943)、田無試験地(1929)が設置され、さまざまな森林帯にわたる約32,000haの広大な面積の、世界的にも貴重で多様な森林資源を守り育ててきた。さらに、2000年度には大学院重点化が行われ、従来から関係の深い森林科学専攻ならびに関連分野の研究者との教育・研究協力関係を一段と発展させながら、大学院農学生命科学研究科の他の附属施設(農場、牧場、水産実験所、家畜病院、緑地植物実験所)とともに生圏システム学専攻の協力講座として新たなスタートを切り、大学院教育にも主体的に参画している。現在、東京大学演習林(通称:科学の森教育研究センター)は7つの地方演習林と研究部から構成され、研究部を中心に演習林全体としての共通理念に立脚しつつ、各地方演習林独自の試験研究計画にもとづいて多くの教職員等が共同で管理する森林や多数の試験地によって支えられ教育研究および社会連携を進めている。

### 【地方演習林・研究部の概要】

千葉演習林は暖温帯に位置する総面積約2,200haの日本で最初の大学演習林である。スギ、ヒノキ、マツ類などの主要造林木の育成技術と持続的森林施業に関する試験を100年余にわたって実施してきた。また、モミ、ツガや広葉樹からなる貴重な天然林を有し、学内外のさまざまな分野の研究・教育に大きく貢献している。近年では、特に自然史や生態系に関する調査、研究を幅広く行っている。

北海道演習林は亜寒帯に位置する総面積約23,000haの、東京大学では2番目に古い演習林である。択伐施業の実証的・理論的研究によって、林学と北方林業の発展に寄与してきた。各種の試験林が造成される一方、奥地天然林には11,000haの鳥獣保護区が設けられるなど北海道の森林動植物に関する各種の調査・研究に利用している。特に1958年以降、北海道演習林の天然林全域を対象として、北方林の持つ環境保全機能と木材生産機能との調和を図る一大森林施業実験「林分施業法」が実施しており、その成果は国内外から高い評価を受けている。

秩父演習林は冷温帯に位置し、総面積約5,800haと東京大学では2番目、青森県以南の大学演習林では最大の面積を有する演習林である。険しく多様な山岳地形の中にある、森林植生は変化に富み、生物相も多様である。大面積にわたる貴重な天然林を対象に森林生態系に関する調査・研究を数多く行っている。また、急傾斜の山岳林における人工林施業法、映像情報による森林情報の収集・蓄積・利用などに関する研究も行っている。

愛知演習林は崩壊の起きやすい花崗岩地域に設けられた総面積1,300haの演習林である。生産性の低い立地における森林水文ならびに森林植生回復に関する研究を行っている。70年にわたる量水観測は、わが国における土壤保全、水文研究の科学的、技術的発展に重要な役割を果たしてきた。また今日では、都市近郊林としての保健休養・環境保全機能や、河川の不安定化、洪水の増大などで苦しんでいる熱帯地域への国際協力面でも貢献が出来ると考えている。

富士演習林は富士山麓山中湖畔に位置する総面積約40haの演習林である。立地条件を生かして森林の保健休養機能の解析や景観評価、環境教育に関する研究を行っている。また、演習林の一部には東京大学の学生・教職員の休養施設が設置され活用されている。

樹芸研究所は伊豆半島南端の温暖な地にある総面積約250haの演習林である。特用樹木の利用と育成に関する基礎研究や演習林内に泉源を持つ温泉熱を利用した温室における熱帯・亜熱帯産樹木の育成と展示を行っている。

田無試験地は本学農学部キャンパスに近い西東京市に設けられている総面積約9haの演習林である。大学に近いことや、土地が平坦なことから造林学、森林植物学、森林動物学などの生物系の圃場実習や室内実験に多く利用されている。

農学部(弥生)キャンパスに設置されている研究部は東京大学演習林の教育研究活動の中心であり、演習林全体の試験研究計画の円滑な実行を支援している。さらに、多方面の演習林利用希望者の便宜をはかること、共同研究の企画調整、各演習林の気象等観測結果のデータベース化と観測・研究成果の公表の場としての「演習林報告」および「演習林」の編集・発行、森林科学関連学術雑誌の図書館機能、インターネット等を利用した情報公開促進・広報等、東京大学演習林全体に関わるさまざまな役割を担っている。

## ■教育活動■

### 大学院講義等

#### 大学院農学生命科学研究科

##### 生圈システム学専攻修士課程

教 員 名			講 義 名	
梶 幹男 鎌田直人 後藤 晋			森林圏生物動態学	
梶 幹男 鎌田直人 後藤 晋			森林圏生態学演習	
山田利博 鴨田重裕 井上広喜			森林遺伝子機能開発学	
山田利博 鴨田重裕			森林生物機能学演習	
石橋整司			森林生態圏管理学特論	
斎藤 馨 安村直樹 藤原章雄			森林圏管理システム学	
石橋整司 藏治光一郎 安村直樹			森林圏生態社会学演習	
山本博一 芝野博文 尾張敏章 廣嶋卓也			持続的森林圏経営論	
山本博一 芝野博文 尾張敏章 廣嶋卓也			森林流域管理学	
山本博一 芝野博文 尾張敏章 廣嶋卓也			森林流域管理学演習	
山本博一 梶 幹男 鎌田直人 石橋整司 芝野博文				
山田利博 鴨田重裕 後藤 晋 尾張敏章 藏治光一郎 生圏システム学実験・研究				
廣嶋卓也 安村直樹				
山中征夫 池田裕行 鈴木 牧			生圏システム学総合演習	
鈴木 牧			フィールド科学総合演習実習	

##### 森林科学専攻修士課程

教 員 名			講 義 名	
石橋整司			森林生態圏管理学特論	
斎藤 馨 安村直樹 藤原章雄			森林圏管理システム学	
山本博一 芝野博文 尾張敏章 廣嶋卓也			持続的森林圏経営論	
山本博一 芝野博文 尾張敏章 廣嶋卓也			森林流域管理学	
山田利博 鴨田重裕 井上広喜			森林遺伝子機能開発学	
山本博一 梶 幹男 石橋整司 山田利博 芝野博文				
後藤 晋 鎌田直人 鴨田重裕 尾張敏章 藏治光一郎 森林科学特別実験				
廣嶋卓也 安村直樹				
山本博一 梶 幹男 石橋整司 山田利博 芝野博文				
後藤 晋 鎌田直人 鴨田重裕 尾張敏章 藏治光一郎 森林科学特別演習				
廣嶋卓也 安村直樹				

### 生圈システム学専攻博士課程

教 員 名				講 義 名
梶 幹男	鎌田直人	後藤 晋		
山田利博	鴨田重裕			
石橋整司	藏治光一郎	安村直樹		
山本博一	芝野博文	尾張敏章	廣嶋卓也	森林流域管理学特別演習
山本博一	梶 幹男	鎌田直人	石橋整司	芝野博文
山田利博	鴨田重裕	後藤 晋	尾張敏章	藏治光一郎 生圈システム学特別実験・研究
廣嶋卓也	安村直樹			

### 森林科学専攻博士課程

教 員 名					講 義 名
梶 幹男	鎌田直人	山田利博	後藤 晋	鴨田重裕	森林生態圈管理学特別演習 I
酒井秀夫	山本博一	石橋整司	芝野博文	藏治光一郎	森林生態圈管理学特別演習 II
廣嶋卓也	尾張敏章	安村直樹			
梶 幹男	鎌田直人	山田利博	後藤 晋	鴨田重裕	森林生態圈管理学特別実験 I
酒井秀夫	山本博一	石橋整司	芝野博文	藏治光一郎	森林生態圈管理学特別実験 II
廣嶋卓也	尾張敏章	安村直樹			
山本博一	大澤雅彦	福田健二	斎藤 馨		
山本博一	大澤雅彦	福田健二	斎藤 馨		
				森林生態社会学特別演習	
				森林生態社会学特別実験	

## 農学部講義・演習・実験実習

教員名		講義名	学部:課程(専修)等	開講年次・学期
山本博一	梶 幹男	鎌田直人		
石橋整司	芝野博文	山田利博		
鴨田重裕	後藤 晋	尾張敏章	森林科学概論	応用生命科学課程・環境資源 科学課程 3年次・冬学期
廣嶋卓也	安村直樹	浅野友子		
梶 幹男	山本博一	芝野博文		
山田利博	鎌田直人	石橋整司	森林生態圈管理	応用生命科学課程・環境資源
尾張敏章	廣嶋卓也	鴨田重裕	科学課程	3, 4年次・夏学期
後藤 晋	安村直樹			
寶月岱造	松下範久	梶 幹男		
坂上大翼	鈴木 牧	池田裕行	森林植物学実験	森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 3年次・夏学期
井上広喜				
富樫一巳	久保田耕平	加賀谷隆		
宮本義憲	前原 忠		森林動物学実験	森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 3年次・夏学期
丹下 健	益守眞也	大澤裕樹		
山中征夫	池田裕行	坂上大翼	造林学実験	森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 3年次・夏学期
井上広喜				
丹下 健	益守眞也	大澤裕樹		
藤原章雄	浅野友子		森林土壤学実験	森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 4年次・夏学期
鈴木雅一	芝野博文	藏治光一郎		
堀田紀文	浅野友子		森林保全学実習	森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 4年次・夏学期
白石則彦	龍原 哲	廣嶋卓也		
藤原章雄			森林経理学実習	森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 4年次・夏学期
永田 信	古井戸宏通	宮本義憲		
安村直樹	尾張敏章	齋藤暖生	森林政策学演習	森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 3年次・夏学期
横川昇二	小野良平	伊藤弘		
山本清龍			環境設計演習	森林環境資源科学専修 4年次・夏学期
鈴木雅一	芝野博文	藏治光一郎		
堀田紀文	田中延亮		測量学実習	森林環境資源科学専修 3年次・夏学期
龍原 哲	廣嶋卓也	藤原章雄	森林計測学実習	森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 3年次・冬学期
仁多見俊夫	藤原章雄			
			森林土木学実習	森林環境資源科学専修 4年次・夏学期
梶 幹男				
			樹木学	応用生命科学課程・環境資源 科学課程 3年次・夏学期
鴨田重裕	廣嶋卓也	浅野友子		
井上広喜	山本清龍		森林実習	国際開発農学専修 3年次・夏学期

## 理学部実習

教員名		講義名	学部:課程(専修)等	開講年次・学期
鈴木 牧		生態学野外実習	理学部:生物学科 植物学 コース	3年次・夏学期

## 教養学部講義・演習

教員名	講義名			開講学期
石橋整司 井上広喜	山中征夫 齋藤暖生	前原 忠	全学体験ゼミナール「森に学ぶ(1)危険生物の知識」	夏学期
石橋整司 藤原章雄	山本清龍 齋藤暖生	坂上大翼	全学体験ゼミナール「森に学ぶ(2)森林の保健休養機能～癒しの空間を考える～」	夏学期
山田利博 鈴木 牧	山中征夫 廣嶋卓也	池田裕行 井上広喜	全学体験ゼミナール「森に学ぶ(3)フィールドで考える野生動物の保護管理」	夏学期
芝野博文	田中延亮		全学体験ゼミナール「森に学ぶ(4)里山の森林に触れる」	夏学期
石橋整司 安村直樹	藤原章雄 齋藤暖生	山本清龍	全学体験ゼミナール「森に学ぶ(5)徹底検証『秩父』」	夏学期
梶 幹男	尾張敏章	宮本義憲	全学体験ゼミナール「森に学ぶ(6)北の森林と天然林施業を学ぶ」	夏学期
鴨田重裕			全学体験ゼミナール「森に学ぶ(伊豆)薪炭林を満喫しよう！」	夏学期
鴨田重裕 井上広喜	井出雄二	岡本 研	全学体験ゼミナール「夏版 伊豆に学ぶ 山、温泉、そして海。自然と人のつながりを学ぶ」	夏学期
鴨田重裕			全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ プラス」	夏学期
鎌田直人 石田 健	前原 忠	坂上大翼	全学体験ゼミナール「都市の緑の生き物に親しむ」	夏学期
斎藤 馨	藤原章雄		全学自由研究ゼミナール「デジタルビデオ森林映像製作－夏学期新緑編－」	夏学期
嶋田 透 勝間進 富樫一巳 宮下 直	田付貞洋 長澤寛道 久保田耕平	石川幸男 永田晋治 鎌田直人	全学自由研究ゼミナール「昆虫と節足動物の生物学」	夏学期
石橋整司 安村直樹	藤原章雄 齋藤暖生	山本清龍	総合科目D(人間・環境一般)「森林－人間系の科学」	夏学期
藏治光一郎			総合科目D(人間・環境一般)「青の革命と緑のダム」	夏学期
富樫一巳 鎌田直人 松下範久	丹下 健 久保田耕平	竇月岱造 益守眞也	総合科目D(人間・環境一般)「森の生物学：共生する森林生物」	夏学期
梶 幹男 坂上大翼	尾張敏章	宮本義憲	全学体験ゼミナール「雪の森林に学ぶ～北海道演習林」	冬学期
後藤晋 坂上大翼	齋藤暖生 奈良一秀	前原 忠	全学体験ゼミナール「キノコに親しむ－キノコと森、人とのつながりを学ぶ」	冬学期
山田利博 池田裕行	廣嶋卓也 井上広喜	山中征夫	全学体験ゼミナール「森林の炭素固定機能を検証する」	冬学期
鴨田重裕	下村彰男	井上広喜	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ 1」	冬学期

教員名	講義名	開講学期
鴨田重裕 下村彰男 井上広喜	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ2」	冬学期
石橋整司	全学体験ゼミナール「年輪の科学」	冬学期
芝野博文 蔵治光一郎 田中延亮 浅野友子	全学体験ゼミナール「山地災害と森林保全」	冬学期
藏治光一郎	全学自由研究ゼミナール「絶好調！名古屋・愛知の謎に迫る」	冬学期
鴨田重裕 後藤 晋	全学自由研究ゼミナール「人と生態系----森と耕地と海と人」	冬学期
斎藤 馨 藤原章雄	全学自由研究ゼミナール「森林のデジタル化とフィールドワーク(冬学期紅葉編)」	冬学期
鴨田重裕 山本清龍	総合科目D(人間・環境一般)「伊豆に学ぶ伊豆に思い、伊豆に思いまた伊豆に学ぶ」	冬学期
石橋整司 露木 聰 藤原章雄 山本清龍	総合科目D(人間・環境一般)「森をはかる」	冬学期

## 他大学の非常勤講師等

教員名	講 義 名	対象学部	学 科 等	学 年	大 学 名
石橋整司	環境論	電気通信学部	総合文化講座	1	電気通信大学
石橋整司	エコロジーA	造形学部	デザイン学科	2,3,4	東京造形大学
鎌田直人	森林資源科学特別講義	大学院農学研究科	森林資源科学専攻	大学院修士・博士	静岡大学
藏治光一郎	地域研究特別講義I	人文学部	環境社会学科	2,3,4	京都精華大学
齋藤暖生・(高野充広)	室田ゼミ・サブジェクト演習	経済学部		3	同志社大学
鈴木 牧	野外生態学実習I	理学部	生物学科		東邦大学
鈴木 牧	水生生物学実習及び動物生態調査実習	獣医学部	獣医保健看護学科		日本獣医生命科学大学
安村直樹	地域林業振興論	地域政策学部		2,3,4	高崎経済大学

注)括弧内は技術職員

## 招待講演・講師の派遣等

教員名	講 演 名	主 催	開 催 場 所	日 程
藏治光一郎	森の健康診断の意義	矢作川水系森林ボランティア協議会(矢森協)	中京大学文化市民会館	2008.4.12
藏治光一郎	日本における水資源コンフリクト	独立行政法人国際協力機構(JICA)中東地域統合的水資源管理	JICA東京	2008.4.15
尾張敏章	天然林における優良広葉樹の管理	全国天然木化粧合板工業協同組合連合会	北海道演習林	2008.4.16
藏治光一郎	日本の人工林 これまでとこれから	あいち建築デザイン専門学校	愛知演習林	2008.4.20
山本清龍	体験学習授業『山中湖の樹木』	山中湖村立山中小学	山中湖村立山中小学校	2008.5.20
藏治光一郎	森林は「緑のダム」	とよた森林学校	愛知演習林	2008.5.25
藏治光一郎	水をめぐるガバナンス	NHK名古屋文化センター	NHK名古屋文化センター	2008.5.30
藏治光一郎	林業、山仕事、森づくり、緑のダム、森の健康診断(パネルディスカッションのパネリスト)	四万十・流域圏学会	高知県立森林総合センター・情報交流館	2008.5.31
山田利博・山中征夫	君津青葉高校郊外実習	千葉県立君津青葉高校	郷台、清澄作業所管内	2008.6.3~6.4
梶幹男・尾張敏章・宮本義憲	天然林施業と路網、アイヌ先住民族の文化	森林研究機関国際連合(IUFRO)第3部会	北海道演習林、二風谷アイヌ文化博物館	2008.6.19~20
藏治光一郎	過去90年間における綾南川・綾北川の流況の変化	照葉樹林研究フォーラム	綾町サイクリングターミナル	2008.6.21
鎌田直人	「ふるさとの森 再び」キャンペーン「森林シンポジウム2008」コーディネータ	テレビ金沢	ホテル全日空金沢	2008.6.22
藏治光一郎	矢田川と森の歴史、現在、未来	モリコロの川を守るプロジェクト	渋川公民館	2008.6.28
田中延亮	「森と水学」ガイダンス	東京都港区	港区立エコプラザ	2008.7.2
梶幹男	北海道演習林としての安全管理	東京大学環境安全本部・農学生命科学研究所	本郷キャンパス弥生講堂	2008.7.4

教員名	講演名	主催	開催場所	日程
蔵治光一郎	瀬戸の森と水	NPO法人ネットワーク・せとっこ	パルティせとこ	2008.7.10
蔵治光一郎	川がむすぶ人と地域ー運命共同体としての「流域圏自治」の理念と実践ー	大井川の清流を守る研究協議会	大井神社宮美殿	2008.7.14
尾張敏章	東京大学北海道演習林の天然林施業	三次地方森林組合	北海道演習林	2008.7.14
梶幹男・尾張敏章	東京大学北海道演習林の天然林施業	日韓森林生態セミナー(森林総合研究所)	北海道演習林	2008.7.19
山中征夫・池田裕行	「生物部合宿」指導	東京大学教育学部附属中等教育学校	札郷作業所	2008.7.23～7.25
蔵治光一郎	三重中学校 平成20年度特別事業	三重中学校	愛知演習林	2008.7.28
蔵治光一郎	地球環境と調査	三重中学校	愛知演習林	2008.7.28
井上広喜	高校生のための森と海のゼミナール	高校生のための森と海のゼミナール実行委員会	千葉演習林, 千葉大洋バイオシステム研究センター	2008.7.29～7.31
蔵治光一郎	Effects of rainfall variability on hydrological and ecological functions of tropical rainforests in Sabah and Sarawak	SEMINAR ON LANDUSE CHANGE AND SOCIETAL ADAPTATION UNDER GLOBAL CLIMATE CHANGE IN ASIAN TROPICAL RAIN FORESTS: CASES IN BORNEO	University Malaysia Sabah	2008.8.4
山田利博・廣嶋卓也・山中征夫	船橋市立中学校理科教諭理科部会研修	船橋市立中学校理科教諭理科部会	清澄作業所	2008.8.6～8.7
井上広喜	船橋市立中学校理科教員研修会	船橋市立中学校理科担当教員の会	千葉演習林	2008.8.6～8.7
尾張敏章	森林の動植物	東海大学海洋学部海洋生物学科	北海道演習林	2008.8.27
蔵治光一郎	森林保全と沿岸環境管理	独立行政法人国際協力機構(JICA)漁業コミュニティ開発計画コース	JICA横浜	2008.9.4
蔵治光一郎	緑のダムと健康な森づくり	えな森づくり村おこし連続講座	中野方コミュニティセンター	2008.9.6

教員名	講演名	主催	開催場所	日程
齋藤暖生	山の神と安全－自然神信仰・格言と安全意識－	関東甲信越地区演習 林技術職員研修	秩父演習林	2008.9.10
藏治光一郎	Forest and water issues in Japan	Landscape Ecology & Forest Management Challenges and Solutions	Chengdu, China	2008.9.17
梶幹男	ブナ北限問題についての一考察	森林科学科(生物系)	農学部1号館7番教室	2008.9.18
山中征夫	「農山村留学」	千葉市立稻毛小学校	千葉演習林、清澄寺周辺	2008.9.18
藏治光一郎	緑のダムと健康な森づくり	愛知県樹木医会・シデコブシの会	愛知演習林	2008.9.27
齋藤暖生	公開講座「秩父演習林のキノコ」	秩父演習林	秩父演習林	2008.9.28
梶幹男	東大北海道演習林概要・森林資源の持続的利用	独立行政法人国際協力機構(JICA)	北海道演習林	2008.9.29
藏治光一郎	矢作川流域の森林の過去、現在、未来～私たちに何ができるか～	西尾市	西尾市役所	2008.10.4
山中征夫	「楽しい登山教室」－千葉演習林と自然保護－	千葉ハイキング連盟	千葉市中央コミュニティセンター	2008.10.8
藏治光一郎	森の健康診断をしよう	三重中学校	三重中学校	2008.10.15
藏治光一郎	特別講義	三重中学校	三重中学校	2008.10.15
齋藤暖生	山梨県における財産区有林と市町村行政	富士吉田市外二ヶ村恩賜国有財産保護組合ほか	恩賜林組合・林業センター	2008.10.18
梶幹男・尾張敏章	天然林施業と林産利用	北海道立林産試験場	北海道演習林	2008.10.21
梶幹男・尾張敏章	東京大学北海道演習林の天然林施業	森林研究機関国際連合(IUFRO)第1部会	北海道演習林	2008.10.22～10.23
尾張敏章	平成20年度地域別研修・環太平洋地域C&I森林認証コース	独立行政法人国際協力機構(JICA)	北海道演習林	2008.10.24
芝野博文	森林と水道水源の関係について	愛知県企業庁水道事業課	愛知演習林	2008.10.27

教員名	講演名	主催	開催場所	日程
蔵治光一郎	全国の一級水系（大臣管理区間）における流域委員会の実態	川の全国シンポジウム実行委員会	京都大学百周年時計台記念館	2008.11.3
蔵治光一郎	森林は緑のダム	森の駅きこり塾	額田会館	2008.11.9
梶幹男	温暖化と樹木・森林～後氷期気候変動と樹木の分布に関する研究から～	駒場友の会	駒場コミュニケーション・プラザ北館2階	2008.11.15
蔵治光一郎	森林から考える人と自然の共生（パネルディスカッションのパネリスト）	第2回人と自然の共生国際フォーラム	愛知県立大学	2008.11.15
山本清龍	富士山憲章制定10周年記念フォーラム「富士山の恵みを永遠に引き継ぐー過去、現在そして世界遺産へー」	山梨県・静岡県	ハイランドリゾートホテル・バンケットホール「富士」	2008.11.18
蔵治光一郎	森を診る人／森の働き・私たちの暮らしとの結びつき	ふくおか森づくりネットワーク	福岡市立婦人会館	2008.12.5
蔵治光一郎	伝統構法と森林（もり）をつなぐ（パネルディスカッションのパネリスト）	NPO法人森林（もり）をつくろう	神埼市中央公民館	2008.12.6
蔵治光一郎	森林の水源涵養機能と森の健康診断	岐阜大学COE	岐阜大学	2008.12.15
齋藤暖生	森は豊かですか—森林と人々、地域とのかかわりについて	岩手県ほか	西和賀町役場沢内庁舎	2009.1.17
田中延亮	森と水学①	東京都港区	港区立エコプラザ	2009.1.22
蔵治光一郎	長良川森の健康診断in郡上 報告会コメント	森の健康診断in郡上 実行委員会	郡上市総合文化センター	2009.1.25
尾張敏章	北海道演習林における山火事・台風被害とその後の森林回復	統計数理研究所数理・数論研究系、札幌医科大学医学部数学教室	北海道演習林	2009.2.6
齋藤暖生	稲武地区における財産区と入会	愛知県豊田市稲橋財産区	恩賜林組合・林業センター	2009.2.16
蔵治光一郎	日本人は未来の森を救えるか	東海中学	東海中学	2009.2.21
蔵治光一郎	東海中学サタデープログラム	東海高等学校・中学校	東海高等学校・中学校	2009.2.21

教員名	講演名	主催	開催場所	日程
石橋整司	考えてほしいな森のこと	根津小学校一日東大生	東京大学	2009.2.28
蔵治光一郎	緑のダムとは何か 期待される水源の森	(財) 東京顕微鏡院	時事通信ホール	2009.3.14
蔵治光一郎	緑のダムと健康な森づくり	恵那市林業振興協議会	愛知演習林	2009.3.30
蔵治光一郎	矢作川森の健康診断実行委員会	矢作川森の健康診断 実行委員会	豊田市職員会館	2008.4.14,7.2,10. 8,12.18, 2009.1.14,2.12,3. 11

注)括弧内は技術職員

## 森林生態圈管理学大講座ゼミ

第1回(2008年4月25日(金)13:00~17:00/農学部1号館2階 森林科学会議室/森林圏生態学研究室)

鎌田直人(秩父演習林)ナラ枯れの起源を探る:アジアにおけるカシノナガキクイムシの地理系統とナラ菌 *Raffaelea quercivora*の分布について

浅井英一郎(リサーチフェロー)クズとイシミカワの生物防除のための候補昆虫の探索

堀 真人(大学院研究生)鎌倉市広町緑地における里山的景観の復元と評価

鈴木 牧(秩父演習林)多種からなる樹木群集の動態シミュレーション:稀な樹種の動態パラメタをどう抽出するか?

第2回(2008年5月23日(金)13:00~17:00/農学部1号館2階 森林科学会議室/森林流域管理学研究室)

山本博一(新領域生物圏情報学)平成の市町村合併が森林に与える影響について

トリフコビッチ スタンコ(農学特定研究員)Historical overview of forest resources, zoning and recent forestry issues in Bosnia Herzegovina

王 清春(森林博士3年)Study on the local residents' responses on the nature reserve in China - Case study on 3 nature reserves in Beijing -

佐藤樹里(森林修士2年)木造建造物文化財に使用する立木の評価に関する研究—製材品の規格及び材質を推定する手法について—

松岡健二朗(森林修士1年)修士論文の計画

第3回(2008年6月27日(金)13:00~17:00/農学部1号館2階 森林科学会議室/森林圏生態社会学研究室)

佐竹(秋廣)敬恵(大学院研究生)住民参加・パートナーシップによる森林管理・利用システム—千葉県我孫子市「みどりのボランティア」会員の意識調査(中間報告)—

藤原章雄(秩父演習林)長期森林映像アーカイブを効果的に提供する方法の検討

石橋整司(演習林研究部)年輪の科学

齋藤暖生(秩父演習林)日本における野生キノコ利用とその生態的背景

第4回(2008年7月18日(金)13:00~17:00/農学部1号館2階 森林科学会議室/森林生物機能学研究室)

内山憲太郎(生圏システム学専攻)ウダイカンバの遺伝的構造形成プロセスー兄弟間競争の視点からー

坂上大翼(田無試験地)ツメイヨシノ苗木に発生した葉枯れ被害

鴨田重裕(樹芸研究所)エゾマツの病気 傾向と対策

寺田珠実(生物材料科学専攻)イチョウ、その生命力の秘密を探る

第5回(2008年9月19日(金)13:00~17:00/農学部1号館2階 森林科学会議室/森林圏生態学研究室)

梶 幹男(北海道演習林)ブナ北限問題について—2008年5月の霜害からいえること—

池田裕行(千葉演習林)房総半島と伊豆半島におけるクスノキ散布種子の経年変化および時期別散布パターンの比較

石田 健(生圏システム学専攻)秩父演習林、突出峠の鳥類

前原 忠(田無試験地)クロカタビロオサムシの時間遅れのない大発生終息の機構解明

第6回(2008年10月31日(金)13:00~17:00/農学部1号館2階 森林科学会議室/森林流域管理学研究室)

芝野博文(愛知演習林)中部低山帯における林分構造と立地環境の関係 -愛知演習林北谷・南谷小流域 LTERを事例として-

浅野友子(演習林研究部)流出特性の広域比較にむけて 一流域貯水量、平均滞留時間の推定手法の検討

廣嶋卓也(千葉演習林)高齢人工林における皆伐更新適地の選定

田中延亮(愛知演習林)新居試験地の炭素収支 一材線虫病被害の影響に着目してー

王 清春(森林博士3年)Study on local residents' responses towards nature reserve in China ---background and structure of dissertation

**第7回(2008年11月28日(金)13:00~17:00/農学部1号館2階 森林科学会議室/森林圏生態社会学研究室)**

後藤 晋(田無試験地)北方樹種11種の標高に対する適応反応

安村直樹(演習林研究部)秩父・栃木集落における薪ストーブ利用ートチモチに関わってー

山本清龍(富士演習林)南伊豆地域における景観とその認識

植村卓哉(生圈修士2年)人工林経営におけるクマハギ被害のリスク評価

**第8回(2008年12月19日(金)/10:30~12:00弥生講堂アネックス セイホクギャラリー/13:00~17:00農学部1号館2階 森林科学会議室/森林圏生態学研究室)**

山中征夫(千葉演習林)房総半島におけるヤマビルの生態と防除

石塚 航(森林修士2年)修士研究;ブナとイヌブナの実生初期動態 - 生残と成長の傾向 -

佐藤樹里(森林修士2年)木造建造物文化財に使用する立木の評価に関する研究

中馬美咲(森林修士2年)北方針広混光林における樹木実生の分布および稚樹の成長に関する環境要因

浜野 剛(森林学部4年)生物的攪乱が地表徘徊性に及ぼす影響

**第9回(2009年1月23日(金)13:00~17:30/農学部1号館2階 森林科学会議室/森林流域管理学研究室)**

尾張敏章(北海道演習林)北海道演習林におけるGIS基盤データ整備の成果と展望

宮本義憲(北海道演習林)エゾマツ天然木の伐根・年輪数調査からわかること

松岡健二朗(森林修士1年)建築物総合環境性能評価システム(CASBEE)が森林認証材の需要に及ぼす影響

**第10回(2009年2月20日(金)/13:00~16:30農学部1号館1階 6番講義室/16:30~17:00農学部1号館2階8番講義室(博士論文発表会)**

井上 淳(愛知演習林)東京大学愛知演習林におけるカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害の実態

及川 希(北海道演習林)北海道演習林におけるエゾナキウサギの生息状況

笠原久臣(北海道演習林)北海道演習林の直営生産における広葉樹の採材方法—ダケカンバを例として—

算用子麻未(富士演習林)富士演習林寒地性樹種育林試験地の成長解析

渡邊良広(樹芸研究所)全学体験ゼミナール『伊豆に学ぶ』は学生に何を伝えたのか

王 清春(森林博士3年)A study on local residents' consciousness and participation regarding nature reserve of China —Case study of Beijing area—

**第11回 (2009年3月13日(金)13:00~17:00/農学部1号館2階 森林科学会議室/森林生物機能学研究室)**

石野貴久(生物材料修士2年)樹木細胞培養系におけるタキソイド生成に関する研究

楠本 大(田無試験地)植物の病害抵抗性に関与するシグナル物質の作用

井上広喜(樹芸研究所)ビャクダンにおける精油成分の効果的生産法の検討

山田利博(千葉演習林)ヒメコマツかさぶたがんしゅ病の薬剤防除

斎藤 馨(新領域生物情報学)森林景観ロボットカメラへのネットワーク接続試験:Cyberforest2.0

注)発表者名のあとに括弧内は発表時の所属。「生圏」は生圏システム学専攻、「森林」は森林科学専攻所属の学生であることを示す。

## 演習林研究部ゼミ

回	月日	発表者氏名	発表タイトル
第1回	2008.4.11	松岡 健二朗	日本の紙業界におけるFSCCoC認証制度の現状－日本紙パルプ業界における普及と問題点に関する一考察－
第2回	2008.4.18	王 清春	Study on the local residents' perception on the nature reserve in China – Case study on local resident's participation –
第4回	2008.5.9	佐竹(秋廣) 敬恵	地域社会における住民参加・パートナーシップによる森林管理・利用システム－今後の事例比較研究計画について－
第5回	2008.5.16	堀 真人	広町緑地における植生管理の予備的実験
第6回	2008.5.30	中馬 美咲	北方針広混交林における実生及び稚樹期の更新と環境 研究経過および今後の予定
第7回	2008.6.6	植村 卓哉	人工林経営におけるクマ剥ぎ被害のリスク評価－既存研究の紹介と今後の方針を中心に－
第8回	2008.6.13	トリフコピッチ・スタンコ	Could low-density planting schemes, or establishing mixed-multistorey plantations, hold a potential to benefit forest owners in Japan?
第9回	2008.6.20	石塚 航	ブナ属2種( <i>Fagus crenata</i> , <i>F.japonica</i> )の太平洋側天然林における実生定着過程の差異の解明と2種のもつ異なる生活史戦略についての考察
第10回	2008.7.4	佐藤 樹里	木造建造物文化財に使用する立木の評価に関する研究－製材品の規格及び材質を推定する手法について－
第11回	2008.7.11	濱野 剛	生物による攪乱が及ぼす、地表徘徊性昆虫への影響
第12回	2008.10.3	佐竹(秋廣) 敬恵	The process of constructing the forest management and utilization system based on public participation and partnership in a local community in Japan
第13回	2008.10.10	中馬 美咲	北方進行混交林における実生及び稚樹期の更新と環境 今夏の調査について
第14回	2008.10.17	植村 卓哉	人工林経営におけるクマハギ被害のリスク評価
第15回	2008.11.7	濱野 剛	卒業論文「生物による攪乱が及ぼす、地表徘徊性昆虫への影響」
第16回	2008.11.14	佐藤 樹里	木造建造物文化財に使用する立木の評価に関する研究
第17回	2008.11.21	石塚 航	太平洋側山地におけるブナ属2種( <i>Fagus crenata</i> , <i>F.japonica</i> )の種特性と実生定着過程の解明
第18回	2008.12.5	植村 卓哉	人工林経営におけるクマ剥ぎ被害のリスク評価
第19回	2008.12.12	王 清春	A study on local residents' consciousness and participation regarding nature reserve of China – Case study of Beijing area –
第20回	2009.1.9	中馬 美咲	北方針広混交林における樹木実生の分布及び稚樹の成長に関わる環境要因
第21回	2009.1.16	佐藤 樹里	木造建造物文化財に使用する立木の品質評価に関する研究－天然ヒノキの事例－
第22回	2009.2.6	トリフコピッチ・スタンコ	Introductory review of the past research and a future study plan in brief
第23回	2009.2.13	後藤 晋	タイトルなし(Rの使い方講習)
第24回	2009.2.27	石塚 航	イヌブナ交互移植後の成長応答と順応 & イヌブナとブナ実生の初期定着過程に影響を及ぼす因子の比較
第25回	2009.3.6	松岡 健二朗	建築物総合環境性能評価システム(CASBEE)が森林認証材の需要に及ぼす影響

## 実習等

演習名	学校名	科目名	学部	学科等	学年	学生数	実施月	日数
千葉	東京大学	全学体験ゼミナール「森に学ぶ(1)危険生物の知識」	教養学部		1~2年	14	5月	2
千葉	東京大学	造林学実験	農学部	森林系3専修	3年	20	5月	5
千葉	東京大学	森林経理学実習	農学部	森林系2専修	4年	10	5月	4
千葉	東京大学	森林植物学実験野外実習	農学部	森林系3専修	3~4年	19	5月	3
千葉	東京大学	総合科目D(人間・一般)「森林一人間系の科学」	教養学部		1~2年	12	6月	2
千葉	東京大学	地球惑星環境野外調査 I	理学部	地球惑星環境学科	3年	11	7月	5
千葉	京都大学	地質調査法野外実習	理学研究科	地質学鉱物学教室	3年	14	9月	6
千葉	東京大学	全学体験ゼミナール「森に学ぶ(3)フィールドで考える野生動物の保護管理」	教養学部		1~2年	11	9月	2
千葉	東京大学	森圏管理学実習	農学部		3年	6	10月	2
千葉	静岡大学	地質調査法実習 II	理学部	生物地球環境科学科		14	10月	5
千葉	東京大学	フィールド科学総合演習	生圏システム学専攻	生物多様性科学研究室	院生	18	10月	3
千葉	東京大学	森林計測学実習	農学部	森林経理学研究室	3年	7	12月	4
千葉	東京大学	全学体験ゼミナール「森林の炭素固定機能を検証する」	教養学部		1~2年	4	2月	4
千葉	東京学芸大学	地質調査実習	環境科学分野					
北海道	北海道大学	北海道大学大学院講義「景域保全学」実習	大学院農學研究院	環境資源学専攻		21	5月	4
北海道	東京大学	自然景観情報野外実習	新領域創成科学研究科	自然環境学専攻	院生	11	5月	4
北海道	附属中等教育学校	宿泊研修「北海道コース」			5年生	41	7月	4
北海道	東京大学	持続的森林圏経営論	新領域創成科学研究科	自然環境学専攻	院生	9	7月	3
北海道	東京大学	森林政策学演習	農学生命科学研究科	森林科学専攻	3年、院生	20	8月	4
北海道	東京大学	全学体験ゼミナール「森に学ぶ(7)」			1~2年	11	9月	5
北海道	北海道教育大学	野外実習	教育学部	生物科	1~5年、院生	27	10月	2
北海道	東京大学	全学体験ゼミナール「雪の森林に学ぶ」			1~2年	24	3月	4
秩父	東京大学	森林土壤学実験	農学生命科学研究科	森林科学専攻		3	4月	4

演習林名	学校名	科目名	学部	学科等	学年	学生数	実施月	日数
秩父	東京大学	森林土木学実習	農学生命科学研究科	森林科学専攻	院生	2	4月	4
秩父	東京大学	生物環境学実験	新領域創成科学研究科	自然環境学専攻	院生	8	5月	1
秩父	日本獣医生命科学大学	水生生物学実習および動物生態学実習	獣医学部	獣医保険看護学科	学生	20	5月	5
秩父	東京大学	全学自由研究ゼミナール デジタルビデオ制作－夏学期新録編－	新領域創成科学研究科	自然環境学専攻	院生、学生	5	5月	3
秩父	東京大学	全学体験ゼミナール「危険生物の知識」	農学生命科学研究科	秩父演習林	院生	14	6月	2
秩父	東京大学	総合科目D「森林-人間系の科学」	農学生命科学研究科	秩父演習林	学生	6	6月	2
秩父	東邦大学	野外生態学実習 I	理学部	生物学科	院生、学生	22	6月	4
秩父	東京大学	森林植物学実験・野外実習	農学生命科学研究科	森林科学専攻	院生、学生	24	7月	4
秩父	埼玉県立秩父農工科学高等学校	樹木採集実習		森林科学科	高校生	39	7月	2
秩父	東京大学	フィールド科学総合演習	農学生命科学研究科	生圈システム学専攻	院生	9	7月	4
秩父	共栄学園高等学校	森林体験実習			中学生	1	7月	3
秩父	東京都立墨田川高等学校	学校設定科目 生物実習(1単位)およびSPPの実施			高校生	17	8月	1
秩父	首都大学東京	動物系統計学野外実習	都市教養学部	理工学系	院生、学生	14	8月	4
秩父	東京大学	生態学野外実習 I	理学系研究科	生物化学専攻	院生、学生	12	9月	4
秩父	東京大学	自然景観情報野外実習	新領域創成科学研究科	自然環境学専攻	院生	7	9月	3
秩父	東京大学	全学体験ゼミナール 徹底検証「秩父」	農学生命科学研究科	秩父演習林	学生	13	9月	4
秩父	東京大学	森林科学実習	農学生命科学研究科	生物材料科学専攻	院生、学生	21	9月	3
秩父	東京大学	自然環境デザイン実習	新領域創成科学研究科	自然環境学専攻	院生	9	10月	2
秩父	東京大学	全学体験ゼミナール「キノコに親しむ」	農学生命科学研究科	田無試験地	学生	11	10月	2
秩父	東京大学	全学体験ゼミナール「年輪の科学」	農学生命科学研究科	秩父演習林	学生	3	11月	2
秩父	東京大学	自然環境デザイン実習	新領域創成科学研究科	自然環境学専攻	院生	11	11月	2
愛知	東京大学	全学体験ゼミナール	教養学部		2年	6	5月	4
愛知	東京大学	森林保全学実習	農学部	3類	4年	8	6月	3
愛知	東京大学	総合科目D人間・環境	教養学部		1~2年	7	6月	2

演習林名	学校名	科目名	学部	学科等	学年	学生数	実施月	日数
愛知	三重中学校	特別授業「地球環境と調査」			2年	36	7月	1
愛知	東京大学	測量学実習	農学部	3類	3年	10	8月	5
愛知	名古屋大学	生物環境科学セミナー	大学院生命農学研究科		2年	36	12月	1
愛知	東京大学	全学自由研究ゼミナール	教養学部		1~2年	21	2月	3
愛知	東京大学	全学体験ゼミナール	教養学部		1年	1	3月	4
富士	東京大学	森圏管理学実験	農学生命科学研究科	生圏システム学専攻 森圏管理学研究室	不明	7	5月	2
富士	東京大学	総合科目D『森林一人間系の科学』	農学生命科学研究科	附属演習林	1~2年	10	6月	2
富士	東京大学	森林生態圏管理学特論	農学生命科学研究科	附属演習林	院生	5	6月	1
富士	東京大学	環境設計演習	農学生命科学研究科	森林科学専攻	4年	5	7月	2
富士	東京大学	森林動物学実験	農学生命科学研究科	森林科学専攻森林動物学研究室	4年	17	7月	3
富士	東京大学	全学体験ゼミ「森に学ぶ(2) —森林の保健休養機能」	農学生命科学研究科	附属演習林	1~2年	10	9月	4
富士	東邦大学	1年生野外実習	理学部	不明	1年	26	9月	3
富士	東京大学	フィールド演習	工学系研究科	社会基盤学専攻	不明	52	9月	4
富士	東京大学	総合科目「森をはかる」	農学生命科学研究科	附属演習林	1~2年	49	11月	1
樹芸	東京大学	森林管理学演習	農学生命科学研究科	生圏システム学専攻	院生他	6	4月	2
樹芸	東京大学	総合科目「森林一人間の科学」	教養学部			2	6月	2
樹芸	東京大学	応用生物学基礎実験 I	農学部	緑地生物学専修	3年	5	7月	3
樹芸	東京大学	全学体験ゼミナール「夏版 伊豆に学ぶ」	教養学部		1~2年	28	8月	4
樹芸	東京大学	森林実習	農学部	国際開発農学専修	3年	23	8月	4
樹芸	東京大学	全学体験ゼミナール「森に 学ぶ」	教養学部		1~2年	24	9月	4
樹芸	東京農業大学	森林実習	地域環境科学部	森林総合科学科	3~4年	48	11月	1
樹芸	東京大学	全学体験ゼミナール「伊豆 に学ぶ」1	教養学部		1~2年	37	2月	4
樹芸	東京大学	全学体験ゼミナール「伊豆 に学ぶ」2	教養学部		1~2年	34	2月	4
田無	東京大学	全学体験ゼミナール「都市 の自然に親しむ」	教養学部	全科類	1~2年	5	6月	3
田無	東京大学	全学体験ゼミナール「キノコ に親しむ」	教養学部	全科類	1~2年	11	10月	2

演習林名	学校名	科目名	学部	学科等	学年	学生数	実施月	日数
田無	東京大学	造林学実験	農学部	森林系2専修	3年	18	4月	1
田無	東京大学	造林学実験	農学部	森林系2専修	3年	18	6月	1
田無	東京大学	造林学実験	農学部	森林系2専修	3年	18	9月	1
田無	東京大学	森林動物学実験	農学部	森林系2専修	3年	17	6月	2
田無	白梅学園短期大学	森林実習		保育科	1年	24	4月	1
田無	白梅学園短期大学	森林実習		保育科	1年	20	4月	1
田無	白梅学園短期大学	森林実習		保育科	1年	22	5月	1
田無	東京大学	フィールド農学基礎実習	農学部	応用生物学専修	3年	29	5月	1

## ■研究活動■

### 地方演習林研究活動報告

#### 千葉演習林

##### 人工林の管理を中心に据えた持続的な林業経営

持続的な森林経営に関する情報を提供し続けることを千葉演習林における試験研究の基本理念とし、800haを超えるスギ・ヒノキを中心とした人工林を持続的に経営することが最も重要な課題である。これを実現するため、以下を実施した。

- 1) 人工林を対象とした森林科学教育の維持：植付、枝打ち、間伐など一連の保育を体験できる人工林を一定面積発生させた。
- 2) 遺伝的に均質な試料の確保：人工植栽に必要な苗畑、採種園を維持した。
- 3) 13期試験研究計画に備えて、10年間の中期伐採計画を策定するために、GISを利用して伐採適地を選定した。

##### 人工林の長伐期施業に対応した間伐方法の検討

人工林の約40%を占める80年生以上の高齢林を対象に、それら林分を健全に維持しつつ一定の収入を得るために、2007年度から次の3種の間伐方法を検討・実施している。

###### 1) 良質材指向型間伐

本法は、80年普通伐期人工林に対し、60年生以降に比較的低い間伐率で間伐を実施し、個体間競争を緩和しつつ中径良質材の生産を目指す。

###### 2) 大径材指向型間伐

本法は、160年長伐期人工林に対し、60年生以降に複数回にわたり比較的低い間伐率で間伐を繰り返し収入を得つつ、大径材の生産を目指す。

###### 3) 林種転換型間伐

本法は、地利の低い高齢人工林に対し強度の間伐を実施し、一定の収入を得たうえで、以後は広葉樹の進入を促し、将来的に針広混交林への林種転換をはかる。

##### ニホンジカによる造林木被害の対策

千葉演習林でのニホンジカによるスギ、ヒノキの食害被害は、局所的には1981年頃からであったが、特に目立つようになったのは1986年秋からである。その後、被害を記録するとともに電気柵、ネット物理柵、ヘキサチューブなどによる防護や大苗の植栽によって被害対策を行ってきた。しかし、ネット物理柵と大苗の植栽の組み合わせでは、期待された効果がみられたものの、それ以外では、十分な効果が得られたものは限られている。そこで、2001年8月から新素材のネットを開発している東工コーチン株式会社との共同研究を27林班の二段林(平坦地、スギを下層に植栽)で開始した。新素材は、「ダイニーマ」という超高分子ポリエチレンの強度の高い繊維と生分解プラスチックの「ラクトロン」繊維である。この他に新素材ではないが、柵内をニホンジカが見えにくくするために網目を細かくした「ラティース」網も使用した。3調査区(ダイニーマ柵、ラティース柵、ラクトロンネット)と対照区での効果測定は、植栽時での枯死と人為的な被害を除くとシカによる被害率は、ダイニーマ柵0%、ラティース柵0%、ラクトロンネット2%、対照区91%であった。

これまでの経過では、ダイニーマ柵、ラティース柵、ラクトロンネットの効果は十分認められたが、予期しない被害発生(特にノウサギの侵入)に対処するため、網の目を改良したところ、現在までの3年間、ノウサギの侵入を防止した。さらに調査を継続する必要があるが、新たな課題であるイノシシによる柵破壊、特に地面の設置部分からの侵入防止策や傾斜地での柵の管理法などについても検討した。

## ヤマビルの生態と防除

房総半島南東部では1985年頃からヤマビルの大量発生が認められ、農林業などの野外作業における吸血被害が増大している。緊急な防除対策として殺虫剤等による化学的防除法が試みられているが、落ち葉の下などに隠れているヤマビルには効果がほとんどなく、逆に生態系への悪影響が懸念されるなど、実用化には至っていない。そこで、ヤマビルの密度低下や分布域の局限化など、防除方法を考える上で重要な個体群変動要因、生活史、生息環境要因などの調査・実験等を始めた。また、ニホンジカによるスギ・ヒノキ植栽苗の被害防止及びヤマビルの個体数増加防止のため、ニホンジカの有害駆除を行った。

これまでの調査・実験等から、ヤマビルにとってニホンジカは好適な寄生主であり、かつ運搬者であること。ヤマビルの増加にニホンジカの分布域拡大や個体数増加が密接に関係していること。ふ化から産卵までの最短期間は5ヶ月であること。非常に繁殖力が強い動物であること。最長寿命は5年であること。ヤマビルの生息場所である落葉の下の温度は林内気温と比較して変動幅が少なく比較的安定していること。林冠がうつぱいでいる林床は湿度が非常に高く安定していること。天敵が不在なことを明らかにした。また、実用的な人的吸血被害防止策として、「塩靴下」の着用を推進した。

ニホンジカの有害駆除を実施した地域では、今後、ヤマビルの生息数の減少が期待される。また、実習・研修等で来演した学生・利用者の現場作業における吸血被害防止策として、製作が簡単な「塩靴下」は、ヤマビルの足元からの侵入を防ぐのに有効であった。今後、ヤマビルの生態研究を基礎に、さらに発展させ、安全で効果的な防除方法の確立に向け努力していきたい。

## 広葉樹二次林（旧薪炭林）の更新動態とニホンシカの影響

暖地性二次林（旧薪炭林）で更新のための伐採を実施し、伐採跡地と非伐採隣接林分における生物相の変化を経年追跡する。実験区の半分をシカ排除柵で囲い、ニホンシカによる更新阻害や生物相への影響を定量する。

2006年度に、演習林内の三箇所（小坪沢、平塚、檜尾）の旧薪炭二次林において各8個の調査区（10×10m）を設置し、実験開始前の林分状況と各種生物相を調査し、気温・日射・開空度・地温・リター及び土壤流亡速度の観測を開始した。2007年度には各調査地の8調査区内4個を皆伐し、伐採区2個と非伐採区2個をシカ排除柵で囲った。2008年度には、上記の気象・土壤条件等の観測に加え、萌芽更新、下層植生相、土壤動物相、鳥類相の調査を実施し、各生物相に対する伐採とシカ排除の影響を調査した。また、伐採前に採取した土壤を用いた播種実験と現地での発芽状況観察から、各調査地の伐採前の埋土種子相を推定した。

以上の調査の結果、処理後1年の段階で(1)伐採に伴い萌芽、実生発芽や土壤動物相に大きな変化が認められること、(2)シカ排除柵の設置は植物量と土壤動物量を有意に増加させること、(3)伐採とシカ排除柵の効果に非線形的な相互作用がみられること、などの知見が得られた。今後、継続的に二次林の更新に関わる伐採とシカの影響を明らかにするための各種調査を行う計画である。

## ヒメコマツの保全に関する研究

寒冷期の遺存種とされる房総丘陵のヒメコマツは、近年マツ材線虫病等により急速に枯損が進み、絶滅が危惧されている（2001年現在成木が約80本、内千葉演習林内27本）。また、千葉県のレッドデータブックにおいてヒメコマツは最重要保護生物「A」にランクされ、千葉県の「地球温暖化と生物多様性ちば県戦略」対象生物として取り上げられ保全活動が進められている。

千葉演習林においても1970年代からヒメコマツに関する調査研究を進め、積極的な保全活動に取り組んでいる。研究の結果、母樹間が離れているため種子の稔性が低く自殖が多いこと、現在生存している天然個体は100年以上前の集団の遺伝的形質を示すものであり、DNA分析の結果、約80本しか残っていない房総丘陵のヒメコマツは、集団としての遺伝的多様性はまだあまり劣化していないことが明らかとなった。このことから、これらの天然個体の接木増殖による採種園造成や人工交配の有効性が明らかとなった。現在、「地球温暖化と生物多様性ちば県戦略」ともからめ、天然個体の現状再調査（2009年3月現在千葉演習林内に成木21本確認、2001年から8本枯死（マツ材線虫病によると考えられる）、2本新発見）、天然個体の接木増殖と現地外保全、天然個体と天然由来の庭木、植栽木等を使った人工交配や、天然個体からの種子採取による苗木生産、接木苗や実生苗による採種園造成、生産苗の現地移植、幼・稚樹に大きな被害をもたらすヒメコマツかさぶたがんしゅ病防除に関する研究を進めている。

## 総合対照流域法による森林一環境系の応答解析

森林が環境に及ぼす影響について、対照流域法を用いて総合的に解析することを目的として、2林班C1小班に袋山沢試験地を設定した。試験地は、ひとつの集水域(C 流域、2.03ha)からなり、北側の A 小流域(0.80ha)、南側の B 小流域(1.09ha)および残流域に3分される。植生は、スギ、ヒノキ壮齢人工林である。A、B、C の 3 流域にそれぞれ量水堰堤が設けられており、流出水量・水質、堆砂量、浮遊砂濃度などを観測している。各流域の中では、降雨が樹冠に触れてから溪流へ流出するまでの経路に沿って、樹冠通過雨、樹幹流下雨の水量と水質、地表面流の発生場の分布、不飽和土壤水の深度分布と水質、地下水位の変動と地下水水質、地温、土壤中 CO<sub>2</sub> 濃度などの観測を行っている。

1998 年度に B 小流域の森林を皆伐した。伐採以降、皆伐の影響を重要課題として解析している。これまでに A、B 小流域で観測された流出量を比較したところ、年流出量では B 流域の方が多いにもかかわらず、流量過減時の基底流出は A 流域の方が多いという結果が得られた。

2003 年 3 月から新田における気象観測及び貯留降雨量等の観測に加え、2007 年 4 月からは袋山沢試験地における流量観測を東京大学森林理水及び砂防工学研究室から引き継ぎ、千葉演習林として観測を続けている。

## マツ材線虫病に対する抵抗性マツに関する研究

わが国においてマツ材線虫病によりマツの減少が続いている。千葉演習林ではマツ材線虫病に対する抵抗性育種を進めており、1983 年にアカマツ採種園を造成した。しかし、近年採種園導入クローネの枯死が見られることから、採種園産実生苗に対する接種試験を行ったところ、すべての個体群で枯死率が 30%以下であったことから抵抗性に問題がないことが確認された。また、実生個体群の方が母樹個体より抵抗性が増している可能性が示唆された。2008 年度には林木育種センターと共同で、採種園クローネの DNA 分析と種子の花粉親同定(花粉の流動状況調査)を行った。

また、多くの抵抗性個体を集めた採種園による多様性の高い実生苗木生産を目指して、2001 年より新たな抵抗性候補個体の選抜を実施しており、現在 6 クローネを新たに採種園に追加する準備を進めている。さらに、抵抗性マツ同士の人工交配を行い、人為的にさらに抵抗性の高い個体の創造にも取り組んでいる。

近年、抵抗性クロマツの需要が急増しており、その育成のため千葉県森林研究所と共同研究を実施しており、2008 年度には千葉県内で選抜したクロマツの抵抗性候補個体の評価のための接種試験を実施した。この試験は 2009 年度以降も実施する予定で、一次選抜に合格したクローネについては、二次試験として林木育種センターにおいて国の基準に基づいた試験を実施し、クロマツについても国レベルの抵抗性個体の選抜を行う予定である。

## 北海道演習林

### 北方天然林の持続的森林経営の実験

北海道演習林の施業は 1907 年の第 1 期施業案に始まる。第 8 期経営案(1958-1967)からは「林分施業法」が実行され、きめ細やかな天然林施業が行われるようになった。2006 年に第 12 期試験研究計画(2006-2015)を策定し、同計画に基づく施業実験が行われている。その特徴は、森林生態系を保全し生物多様性を維持しながら、各林分の個性に応じて健全で活力ある森林の育成を行い、木材生産機能と環境保全機能とを両立させる森林施業を目標とするところにある。

林分施業法では森林の取り扱いを、現在生育している樹木と天然更新状況を勘案して、天然林を択伐林分・補植林分・皆伐林分に区分して適切な施業を行う、としている。第 12 期計画では、約 2 万 ha の施業実験林を、地利級と林分成長率の観点から第 1 作業級と第 2 作業級に分け、それぞれ 15 年、20 年回帰で施業を行う。過半の面積を占める択伐林分における択伐率は、回帰年ごとに森林蓄積量が現状復帰するという成長見合いの原則によるが、12 期では 11 期の施業実績を参考して、第 1 作業級では択伐率 10~16%、第 2 作業級では 10~17%とした。天然林施業においては林相の改良を導くように伐採木を選ぶため低質材の伐採が不可欠となり、集材経費を低く押さえが必要がある。このために総延長 933km、林道密度 41.0m/ha の林道(車道)が設置され、毎年適切なメンテナンスを行っている。

トドマツ等の人工林は、北演産の種子を用いて育苗し、植林後は下刈り、つるきり除伐、間伐を適期に行い、主伐期を

設けず将来は針広混交の天然林に誘導することとした。山火事跡の再生林でウダイカンバやミズナラなどが優占する林分では優良広葉樹大径木を育成するための間伐を行う。これらは適正密度によるように伐採率を決めている。

天然林内のウダイカンバ、ハリギリなどで顕著な衰退現象を示す大径木を収穫し銘木市に出品することは従前通りおこなった。また、「樽材の持続的生産システムの開発」の委託研究を受けて、第1、第2作業級にわたる約8,500haの天然林において2.6万本のミズナラ大径木(胸高直径40cm以上)の個体情報を収集した。これを元に林分施業法と整合するようにミズナラ大径木の持続的な収穫計画を立て、さらにミズナラの更新補助、枝打ち、密生区域の間伐等の実行計画とをあわせて、12期計画ではミズナラ作業級を設定し、実行を開始した。

2008年度には立木資材量にして20,927m<sup>3</sup>を収穫し1億2633万円の収入を得た。このうち4,681m<sup>3</sup>を直営生産で行った。

### 天然林の長期観測大面積プロットにおける林分動態の解析

天然林では樹木の生育分布が均一でなく、わずかな立地条件の差の影響を受けやすい。その動態を把握するためには、十分な個体数と現存量のある箇所で大面積プロットによる継続調査が必要となる。また、樹木の寿命は非常に長く、環境変化に対する反応速度が遅いため長期的な継続調査によって個体の成長、枯死、更新の状況を把握することが不可欠である。これらについての良質な情報は大面積プロットにおける長期観測でしか得られない。本演では前山保存林に1992～1993年に36.5ha(50m×50m、146プロット)、岩魚沢保存林に1994年に19ha(50m×50m、75プロット)の大面積プロットを設置し、個体ごとの成長、進界・枯死木の記録測定を5年ないし10年ごとに行うことによって森林動態の長期モニタリングを実施している。1997～1998年に前山保存林全プロット、2002～2003年に前山保存林5年測定区40プロット、1999年に岩魚沢保存林全プロット、2004年に岩魚沢保存林5年測定区27プロットの測定を行った。2007年には1992～93年に前山に設置した面積36.5haの大面積プロットのうち、1992年に設置した99区画の毎木調査(胸高直径5cm以上)、副本(高さ1.3m以上、胸高直径5cm未満)本数等の調査を完了した。また、2008年には1993年に設置した46プロットの測定を完了した。

### 風害跡地における森林再生経過の解明

1981年、北海道を襲った台風15号は北演の森林にかってない大被害をもたらし、被害面積約8,700ha(内、激害地3,100ha)、被害材積約81万m<sup>3</sup>に達した。このため、多くの施業実験地や試験地が壊滅すると共に、広大な無立木地も生じた。

これらの風害地に対し、風害直後からその森林復旧対策として、植林と地がきを施した。また、これらの復旧対策と関連して、風害地内に各種の試験地を設定し、植生の遷移、立地と天然更新状況、森林の再生過程における森林土壤動物相の変化、菌類の動向、さらには水収支の変化等を課題とする研究を行ってきた。その結果、これまでに風害跡地は、その環境により森林の回復パターンに大きな違いが見られること、また、地がきにより天然下種更新を期待できることなどが明らかとなった。

### アイヌ民族文化の伝承と振興への寄与

1999年の北海道演習林100周年記念式典において、当時の林良博学部長・研究科長は「北海道演習林の創立前にアイヌの人たちが住んでいたことを忘れてはならない。今後はアイヌ民族との良い関係を作っていく。」と発言された。この提起を受けて、北海道演習林ではアイヌ民族文化の伝承と振興に寄与するために、北海道アイヌ協会支部やアイヌ民族が運営する博物館などに対して、造船のためのハリギリやカツラの超大径木、繊維をとるためのオヒョウやシナノキなどを持続的に提供している。特に、幕藩体制による鎖国政策で造船が禁止された外洋帆船イタオマチフ(板綴り船)を、現代のアイヌ民族自身の手によって二百数十年ぶりに復元するに際して、主要資材を演習林が提供したことの

意義は大きい。2006 年にはオヒョウヒシナノキの生立木に、伝統的な手法での樹皮剥による採取を行い、その後の経過観察を行っている。2007 年には、白老アイヌ民族博物館に丸木船用のハリギリを有償提供した。さらに、アイヌ文化においてオヒョウは樹皮から纖維を採取する重要な樹であるが、シカによる樹皮食を防ぐため、小径木のオヒョウ約 80 本に、スキーエン場などで用いられる安全ネットを応用した保護網を施した。2008 年には、アイヌ民族の伝統的空間・イオルを再現するために必要な資材を供給する「イオルの森」の造成実験を行うため、平取町有林 200ha において施業計画を立てる協力・指導を行った。

### エゾシカによる森林・農地被害

近年、エゾシカ個体数の増加に伴い、農作物や樹木への被害が大きな社会問題となっている。天然林試験地において、エゾシカによる被害の実態を把握する樹皮食と角とぎについての被害木調査を行っている。また、2006 年には農地被害抑制を目的として麓郷地区の農地に 81km(そのうち、15km は北演と隣接する)におよぶ防鹿柵が設置された。防鹿柵の設置に際しては、地元地権者より要望があり維持管理に必要と考えられた危険木の伐採を実施した。今後は、防鹿柵の効果やエゾシカをはじめとした野生動物への影響について調査していく必要がある。2007 年の 11 月中旬にライトセンサスによる調査を実施した。その結果、演習林内の個体数は少なかったが、農地際には 100 頭を越す集団が見られる箇所もあった。さらに、2008 年 3 月下旬に雪上の足跡調査を実施した。その結果、およそ 700m 以下の標高域に広い範囲に亘って足跡が観察された。また、2008 年 11 月中旬に実施したライトセンサスの結果、3 日間の観察で農地際で 561 頭、林道沿いで 220 頭のエゾシカが観察された。2009 年 3 月中旬にはスノーモービルによる雪上の足跡調査を実施した結果、ほぼ前年同様におよそ 700m 以下の標高域に広い範囲にわたり足跡が観察された。

### 遺伝子資源の保全管理と利用に関する研究

北海道演習林では 1952 年に林木育種の研究が開始され、成長が速く耐病性や耐鼠性に秀でた樹種に関する研究および育成が行われてきた。現在では、諸外国から収集・育苗した北方系樹種を展示するとともに、カラマツ属やカバノキ属などの各樹種の成長特性、適応性、種分化などの調査を行っている。また、北海道産の約 40 種の樹木について、開葉・開花・紅葉などのフェノロジー特性を長期的に観測し、各樹種の種特性や産地特性の解明、種苗造林技術への応用などを行っている。

アカエゾマツの形態特性について、個体レベルでみると、標高が高いほど樹高が低く、樹冠長が狭いこと、さらに樹高/DBH が小さいことが示された。すなわち、高山によるほどずんぐりした形態を持つことが示された。シートレベルでは、葉密度は標高が高いほど大きく、個葉レベルでは、標高が高いほど、厚み成分が大きくなる傾向が認められた。生理条件を調べた結果、クロロフィル a+b 量は標高が高いほど大きいと考えられた。一方、葉の窒素濃度は標高とは無関係であった。すなわち、紫外線量が多く、気温が低いなど、厳しい気象条件である高標高域では、頑丈な厚い葉を密度高く作っていることが考えられた。

### アスペスト鉱山跡地の緑化

37・84 林班に残るアスペスト鉱山跡の緑化に取り組んでいる。一部に回復してきている植生の構造を調査し、土壤の pH や電気伝導度分析を行っている。いくつかの候補種を選定した。アカエゾマツの植栽とシラカンバ、ウダイカンバ、イヌエンジュなどの播種を行い、小規模ではあるが試験地を設定した。今後、候補種ごとに根圏の観察と根圏の化学的指標によって、それぞれの環境適応能力を判断していく。

北海道演習林における植生調査の共同研究者である堀江は「北海道・超塩基性岩植物の化学的特性に関する研究」(2002) を著し、主に草本類の蛇紋岩植物や好石灰岩植物の生理的特性を明らかにしてきた。アスペスト鉱山跡地は崩壊地形をなし、また蛇紋岩が風化し続けていることもあって土質は粉碎された岩屑からなりコンパクトで貧栄養である。

緑化木については道内各地の崩壊地や岩壁で観察されるミヤマハンノキが有望な樹種であると考えられる。本種は、各種樹木図鑑等において亜高山帯の樹木とされているが、函館から霧多布までの太平洋に面する海岸段丘や岬の岩壁・崩壊地・ササ地などにほぼ連続的に分布・生育していることが観察されるが、これらの後背地には必ずしも高山帯のある山を伴わない(宮本、未発表)。また、幌満岳や内陸部の蛇紋岩地では比較的低標高の超塩基性岩地のガレ地においても分布している。せいぜい樹高10mの亜高木ではあるが、北海道演習林内では大麓山、大沢、仙人峠などに産する郷土樹種であること、崩壊地や岩壁など土壤の理学性と養分の面で劣る場所に根付くこと、根粒バクテリアをもつ“肥料木”であること、比較的成熟が早く天然更新による増殖が期待できること、葉、球果などにある芳香成分の利用が将来期待できそうなことなどを勘案し、ドロマイド鉱山の残壁とともに、緑化のための有望な先駆性樹種として2007年度から播種と育苗の実験を開始した。

### **抲伐施業林と無施業林の林分構造・更新状況の比較**

繰り返し抲伐された天然林と施業が行われていない天然林の林分構造および天然更新状況について調査を行い、種組成、サイズ構造、空間分布、粗大有機物、天然更新の観点から抲伐林の特徴を検討した。

### **林内におけるGPS測位精度の季節変動**

森林測量にGPSを利用する際の実践的な示唆を得ることを目的に、夏季と冬季における携帯型GPS受信機の測位精度について比較を行った。三元配置による分散分析の結果、季節が有意となり、測位誤差は冬季においてより小さくなつた。林冠の落葉によって測位精度が改善されたためと推察された。地形的に測位が困難な条件下ではあったが、衛星からの電波は問題なく受信できたことから、両機種とも同演習林内のほとんどの場所で利用が可能と思われた。

### **GPSを用いた収穫木探索の効率性評価**

天然林抲伐での収穫木探索におけるGPSの利用可能性を検討するため、GPSを用いた収穫木探索の効率性を従来の手書き図面による探索方法との比較により評価した。その結果、歩行距離では従来の方法よりも短縮された。一方、所要時間による比較では、GPSによる探索の方がより多くの時間を要する場合もあったが、GPSの利用に習熟することで、探索に要する時間は短縮可能と考えられた。

### **GISデータベースの構築**

北海道演習林は過去50年間の施業実験を通じ、長期的かつ大面積にわたる森林情報を記録・蓄積している。こうしたデータを総合的に管理・活用するため、GIS(地理情報システム)を用いたデータベース化を進めている。2008年度は、第11期試験研究計画期間(1996~2005)の施業区域図(林分区分・標準地位置)をGISデータに変換した。また、天然林施業試験地位置のGISデータを作成した。

### **植生調査**

旭川西高校(現:旭川市北郊野草園)の堀江健二博士の協力を得て、植生調査を行っている。2006年末現在、維管束植物940分類群を確認した。2007年以降、採取した標本の標本化作業を行っている。

### **水系総合調査**

北海道演習林には大小多くの空知川水系が存在する。水系総合調査は生態系を地質や水質などの環境条件とともに流域規模で把握し、相互に関与する要素を総合的にとらえながら源流域の総合的理解を図ろうとするものである。学内外の各分野の専門家が会し、2008年度には、北海道演習林と国有林との境界の東側、大麓山および経歳鶴の東側

山麓のシーソラプチ川上流部で調査を行った。

### 石灰岩地帯生態系総合調査および地質調査

北海道演習林内の石灰岩地帯の森林植生にはいくつかの特徴が見られる。例えば、石灰岩礫または露頭が散在する箇所ではエゾマツが地表更新し、林床にはササ類が無くシダ類が優占している箇所があり、せいぜい標高 500m までしか分布しないはずのカツラが標高 700m において大径木に育っている、などである。北海道演習林の施業では基岩地質については、これまでほとんど考察対象とされて来なかつたが、林分樹種構成および更新、成長に関して新たな観点から調査研究し、施業に活かす必要が生じている。

2008 年には、スロベニアのカルスト地方などバルカン半島の石灰岩・ドロストーン地帯の植生および樹木相の調査を行った。

### 遺跡調査

2004 年の水系調査で仙人峠の最上流部の水中から偶然に縄文石器(黒曜石スレーパー)が発見されたことや以前から黒曜石のヤシリや破片が北演内で採取されたこと、また北演と隣接する農地で遺跡発掘調査されていたことなどからして、北演内に遺跡の存在が予想されていた。2005-2006 年に富良野市教育委員会によって、地形や湧水の存在を手がかりに林内で遺跡の試掘調査が行われ、8 カ所の縄文遺跡が確認され、北海道教育委員会に報告され、これらの箇所には遺跡表示看板を設置し、新規の土場や林道開設によって表土が不用意に攪乱されないようにした。2007 年には、西達布川本流下流域において新たに2箇所の遺跡を確認した。主な出土品は、黒曜石の破片、縄文早期～晚期の土器片、北海道式石冠、スリ石、被熱した石片などである。そのほとんどがテフラ Ta-a(樽前山から 1739 年噴出した火山灰)の直下の森林褐色土層で確認され、表土が攪乱されていない貴重な遺跡である。しかし、現段階では本格的な調査の計画は未定である。

### 帯状皆伐地エゾマツおよびトドマツの伐根調査

2006 年に行われた直営生産区域、91 林班帯状伐採区および補正伐採区においてエゾマツ、アカエゾマツとトドマツの伐根を調査した。伐根表面の年輪数、伐採高、個体位置図を記録し、伐根表面の写真を撮影した。これらを収穫調査時に記録された胸高直径等とあわせて、天然更新および生育歴を解析し、高標高のエゾマツ・ダケカンバ帯の施業の参考にすることをめざす。

### ミズナラ作業級—ミズナラの持続的生産システムの確立

ミズナラ作業級施業実験の一環として、ミズナラ植栽試験地(33 林班、昭和 62 年播種区、平成 2 年植栽区)における除伐と枝打ちの試験地 4ha を設定した。73 林班のミズナラ植栽地においては、枝打ち後のハブシ(葉節)の出現状況およびシカの角とぎによる樹皮削剥の調査を行った。また、天然林内の胸高直径 40cm 以上の個体調査を継続して行い、2008 年度末で総計面積約 11,000ha を踏査し、32,000 本に達した。胸高直径、枝下高、形質、個体環境等を記録し、個体位置図を作成した。試験材として伐採収穫した個体 11 本について、伐根の年輪数を測定した。

### エゾマツとトドマツの年輪年代学の可能性について

考古学において木材の伐採年を決める方法に年輪年代学があり、本州のヒノキなど限られた樹種では実用化されているが、北海道のエゾマツ、トドマツではこれまでほとんど研究されてこなかつた。2008 年の直営生産現場(13、14 林班)の材を用いて、年輪幅を 10 ミクロン精度で計測している。年輪年代学への適用の可能性の外に、温暖化傾向など気候変動が年輪幅に現れているかどうか、あわせて検討する。

## 秩父演習林

### トウバク沢量水観測試験

トウバク沢土捨て場の流出特性への影響についてモニタリングしている。調査方法はトウバク沢土捨て場最下部にある量水堰堤に量水計と雨量計を設置して行った。

### 人工林固定測定地

人工林固定測定地はスギ、ヒノキ、サワラ、カラマツ人工林の成長量の測定や、間伐効果の検証を目的に 1956 年～1960 年に設置された。現在、矢竹沢地区、入山地区、大血川地区、栃木各所に 27 箇所の測定地があり、本学森林経理学研究室の協力を得て 5 年毎に測定調査を行っている。2008 年度は調査がなかった。

### 二次林測定試験地

二次林測定試験地は、1982 年より 5 年間隔で測定しているが、調査要因の関係から 1997 年に見直しを行い、全 15 プロットの内 7 プロットを調査間隔を 10 年とした。2008 年度は調査がなかった。

### 原生林測定

1970 年より演習林各所の原生林内に設定し、現在 13 箇所の測定地を 10 年間隔で測定している。調査結果から原生林の成長量と森林動態について基礎的なデータを収集している。2008 年度は調査がなかった。

### 大面積長期生態系プロット

太平洋側の山地帯天然性林における森林動態の解明、自然揺乱によるギャップ形成とその修復過程の解明、森林生態系保全のための基礎資料を得ること、森林における各種の研究および共同研究の確保、各発達段階における十分な個体情報の収集および各樹種もしくは樹種群と地形条件との関連の解明などを目的として、27 林班と 28 林班(標高 1,132～1,314m)のブナ、イヌブナ、ツガが優占する天然林内に 6.875ha の大面積長期生態系プロットを 1994 年に設定した。1994-1995 年、1998-2000 年、2003-2005 年に毎木調査を行ってきた。2008 年度は調査が無かった。

### ケヤキ人工林の間伐試験

1999 年に三段階の間伐を実施してケヤキ人工林間伐試験地に仕立て直した。これらの試験地を今後 10 年間隔で成長量を測定する。また間伐する際、強度の間伐であったため残立木の幹から萌芽枝が多く出てきている。そこでそれら萌芽枝の枝打ちを 2002 年 3 月に実施した。以上の試験を行い、その経過を記録することにより、ケヤキ造林技術を確立することを目標とする。2008 年度は測定を行った。

### 広葉樹二次林整理伐試験

1970 年に 4 林班は 11 小班広葉樹二次林で行った整理伐試験地について適時追跡調査を行っている。2008 年度調査はなかった。

### 森林性昆虫の発生予察

生物指標を利用して、道路周辺の樹木の健全度を総合的にモニターすることを目的とする。衰弱木や枯枝、枯死木、伐材の中に生育し、衰弱木などが増えるとその個体数が増加する穿孔虫類、特にキクイムシ類の発生状況を把握するために、秩父演習林内の滝川流域(国道 140 号沿い)と入川流域(入川林道沿い)にそれぞれ 6ヶ所づつ誘引トラップ

を設置し、1989 年以来、捕獲個体数のカウントを行ってきた。捕獲は 2005 年度で終了し、種別個体数のカウント作業を実行した。

### **人工林伐採跡地における天然下種更新の実用化**

3 林班い4 小班人工林伐採跡地において木本の更新調査や埋土種子の発芽試験を行った結果、早期の天然更新による森林造成は不可能と判断した。そこで 2005 年度にヒノキ、カラマツを植栽した後(い30 小班に改め)、シカ防護ネット柵で囲い、森林の回復を図ることにし、その回復過程を調査するため試験地を設定して植生調査を継続している。2008 年度は調査が無かった。

### **秩父山地亜高山帯域における風倒跡地林分の再生過程**

17 林班内標高 1,950m 付近の伊勢湾台風による被害跡地の再生過程を明らかにするため風害跡地と隣接する無被害林分に調査地を設置し、7~8 年間隔で毎木調査を行っている。2008 年度は調査が無かった。

### **ヒノキ天然性林のモニタリング**

雁坂トンネル秩父坑口の直上に生育する天然ヒノキ林を主体とする林分は①標高 1,000m 付近に位置し現存する天然林としては比較的低標高に分布する数少ない林分であること、②国道 140 号線沿いの景観保全上重要な位置にあること、③トンネルの出入口付近は排気ガス等の影響を受けやすい位置にあることから、この林分を安定的に維持するために長期的なモニタリングが継続されている。2008 年度は調査が無かった。

### **ブナ・イヌブナの豊凶現象に関する基礎的研究**

これまでの調査でブナ・イヌブナの豊作年は 2~5 年間隔であることが分かったが、なぜブナ・イヌブナに豊凶現象があるのかについて明らかにする。調査方法はリータートラップによるリタ一生産量と堅果落下量の測定、それら堅果の健全率や虫害率(食害昆虫の同定)などの内容確認、デンドロメータによる直径成長量の測定、観察鉄塔を使った樹冠部のフェノロジー観察である。これらを行うことにより豊作年における同化物質の配分や、虫害と豊凶との関係を明かにし、ブナ・イヌブナにとって、なぜ豊凶現象が必要であるかを解明する。2008 年度も継続したリータートラップとデンドロメータの調査を行った。

### **シオジ・サワグルミの更新過程**

秩父山地帶渓畔林の主要樹種であるシオジとサワグルミの更新特性とその過程について明らかにする。調査方法はリータートラップによるリタ一生産量と翼果落下量の測定、それら翼果の健全率や虫害率(食害昆虫の同定)などの内容確認、デンドロメータによる直径成長量の測定、実生の消長観察である。2008 年度もシオジについてリータートラップ調査を行った。

### **ウダイカンバ優占二次林調査**

1990 年に設定したワサビ沢試験地(林齡 60 年)、2000 年に設定した小赤沢試験地(林齡 12 年)、2001 年に設定したバケモノ沢試験地(林齡約 120 年)を定期的に測定することにより、秩父山地におけるウダイカンバ優占林分の林分構造と成立過程を明らかにする。

### **ミズナラ等のフェノロジー観察**

全演協地球環境モニタリングの一環として 1996 年度よりミズナラ、2004 年度にケヤキ、ブナ、イヌブナを追加して開芽

期、黄葉期、落葉期を大血川地区3個体、栃木地区6個体の計9個体について観察している。調査方法は4~6月と9~12月に週1~2回目視による判定と写真撮影を行っている。2008年度より、栃木地区のみの観測に変更した。

## ニホンジカ等の生息状況調査

秩父演習林ではニホンジカ等による森林への被害が増加していることから適正な密度管理の基礎資料とするため、2005年度から区画法とライトセンサスによるシカ等の生息状況調査を始めた。2008年度の区画法は、久度沢で10月に行つた。ライトセンサスは、入川(入川林道)、滝川(国道140号線)、大血川(東谷林道)の3路線について毎月1回、日没後に調査を行つた。

## 愛知演習林

### 森林水文に関する試験研究

試験流域の量水観測成果は、気象要素と共に観測以来約80年の資料が蓄積され、きわめて貴重な学術的価値を有している。現在のところ、量水観測は降雨一流出系の観測体制であり、その種の研究が中心となっている。今後は、この貴重な森林量水試験の蓄積を継続発展させ、降雨遮断・蒸発散・斜面流出等の水文素過程別の研究と合わせて、水源涵養機能のメカニズムを解明する事を目標としている。量水観測は流域の森林成長と同時並行的に継続観測されることが学術的に貴重である。しかし、過去に遡って森林の成長過程を数量的に追跡する方法論が確立されていないことで、森林状態と雨水流出との関連付けが未だ十分に行われておらず、今後の研究テーマの一つである。2003年11月より科学技術振興事業団の戦略的創造研究推進事業(CREST)プロジェクト「森林荒廃が洪水・河川環境に及ぼす影響の解明とモデル化」が採択され、対象フィールドの一つとして犬山研究林内のヒノキ人工林、天然生林が選ばれ、出水時の水量と水質の測定により、ヒノキ林の荒廃に伴う水量や水質の悪化の定量的評価に関する研究が開始された。蒸発散の直接測定が可能となり、これと組み合わせて森林微気象、樹液流、降水遮断の研究が赤津でも進展しつつあり、物質循環と水循環の関係の観測・解析と同様に森林生態学と水文学を結びつけた研究が計画されている。2000年度には、量水観測システムが導入された。主要な試験流域である白坂・穴の宮・東山で水晶式水位計が高精度で長期間安定なシステムとして作動しており、白坂小流域では、流量観測のための6箇所の水位観測と4箇所の地下水位観測が更新された。いずれも5分間隔で水位を記録するシステムであり、主要3流域の総合気象観測装置導入と合わせて、大量のデータを総合した流域間比較研究が進展するものと期待される。白坂流域の降水流出現象の形成過程を分析するために、88.6haの流域内に1ha程度の小流域を設定し、その流出観測を開始した。このような小流域はすでに北谷・南谷に50年の観測の蓄積がある。これも合わせて小流域のハイドログラフがどのように異なるのか、それが微地形によって表現されるのかについての検討をおこなっている。同時に雨量観測点も5ヶ所新たに設置して分布型流出モデル構築へ向けた観測を開始した。

### 瘦せ地における森林造成に関する試験研究

森林の環境保全機能(水源涵養、洪水防止、保健休養等)を維持しつつ木材生産をおこなう森林施業法を確立することも、愛知演習林における試験研究の重要な柱である。天然生林については、1968年からモザイク状皆伐更新法試験(沢を中心に左右交互に0.1haを上限に伐採、植栽)を実施している。これは、一斉皆伐に比較して、土壤の保全、あるいは動植物への影響の軽減、台風等気象災害の防止等、有効と考えられる。人工林においては、間伐法を変えたスギ、ヒノキの総収穫量の比較試験、植栽密度を変えたヒノキ林の生産量の比較試験、恒続的収穫と森林の公益的機能の發揮を両立させる複層林造成試験、成長が劣る林地における肥培効果の比較試験などをおこなっている。第四期試験研究計画の策定に向けて様々な林分での蓄積を測定しどのような特性が現れているかの分析に向けた調査が進展した。

### 都市近郊林に関する試験研究

愛知演習林は立地条件から、東海都市圏を取り巻くグリーンベルト地帯にあるので、森林の多元的機能の解明を目的とする研究実験林としての位置づけを明確にし、都市近郊林・環境林に関する自然科学、社会科学を複合する総合

的研究が始まろうとしている。計画段階の項目が多いが、具体的には、都市部と森林との相互作用を水・大気・土壤を媒介として測る自然科学的研究、都市住民あるいは都市部・農村部の産業活動に及ぼす森林環境の機能評価に関する社会科学的研究、森林生態系を保持しながら都市公園的機能を有する森林域の造成実験およびそれに関する各種の試験研究が挙げられる。犬山市民が期待する森林利用の形を探り、具体的な対応を検討する準備段階を迎えた。

### **環境教育と演習林の利用に関する研究**

公開講座、地域開放特別事業、親子森林教室、小学校における社会化教育あるいは総合的な学習等で愛知演習林が利用されるケースが多くなってきていている。これらの自然環境をベースとした教育に関してどのようなテーマがどのような学年に適しているのか、その効果がどのように評価されるのかを探りつつ、授業や野外活動の幅を広げてみたいと考えている。地域にあって研究機関としての存在意義を自然環境教育という形で実現し、質の高い教育内容を求めていくためのその効果を追跡するというプロセスが重要になっていくものと考えられる。多くの自然環境教育は最近開始されたばかりであるが、このプロセスの研究として、犬山研究林を利用した犬山市立今井小学校の探鳥会は、25年以上の実績を有しており、その効果を探るアンケート調査が実施された。探鳥会によってたらされた効果として児童の自然を見る目が養われており、人格形成に及ぼした影響が少なからずあつたであろうとの予見を与えるものであった。良質な自然が演習林に既に存在しており、教育者としての人的資質を高めることができれば社会からの要請に多面的にこたえることができるのではないかと考えられる。これまで同様技術職員が山づくりの専門家として位置づけられると同時に、自然教育の専門家としてその潜在能力を発揮できる道を探ることにもつながっていく研究である。

### **富士演習林**

### **環境教育および森林教育のプログラム開発、自然解説に関する研究**

地球環境問題だけでなく、地域の自然環境に対する関心の高まりの中で、富士演習林が山中湖村の学校教育や社会教育の場面において果たすべき役割は大きくなっている。また、山中湖村は観光地あるいはリゾートとして多くの来訪者を受け入れており、来訪者に地域理解を促すための有効な手段としてエコツアーガイドの活用が検討されている。富士演習林が目指す環境教育および森林教育のプログラム開発は、こうした地域の事情に合致するものであり、来訪者だけでなく地域住民に対して効果的なプログラムを提供することが重要な課題である。平成 20(2008)年度は前年度に引き継いで、科研等の外部資金を用いて森林教育プログラムの評価について検討を行った。

### **森林のアメニティに関する研究**

森林が人に与える快適性を解明するには人の生理と心理の両面からの検討が必要である。平成 20(2008)年度は、全学体験ゼミや総合科目を開講し、教養学部の学生に対し実践的にアメニティについて考える機会を提供した。

### **森林のレクリエーション機能に関する研究**

現在、世界的に森林の持続的な維持が課題となっているが、森林レクリエーション利用においても健全な森林を維持しつつ快適なレクリエーション機能を提供し続けることが求められている。本演習林は、日本を代表する自然レクリエーション地域である富士伊豆国立公園富士団地の特別地域に位置し、利用拠点である旭日丘集団施設地区に隣接している。また、重要な自然資源である山中湖に面すると同時に、主要な利用動線である国道 138 号線が内部を横断している。このように自然環境面の優れた立地特性を持ち、森林レクリエーションに関する調査、研究を実証的に行いうるのが本演習林の大きな特徴である。この立地特性を活かし研究を進展させるためには、レクリエーションの場として利用する人間へのアプローチが必要であり、その行動を通じた森林環境のあり方の追求が求められる。また、利用者の行動を特定する要因として空間構成やシーズンごとの特性などが考えられ、シーズンごとの利用に関する定期的な調査を行うことで、各要因の関係性を明らかにし空間計画へ繋げることができる。平成 20(2008)年度は全学体験ゼミを実施し、キノコ採りなどの体験を通して森林レクリエーションについて考える機会を設けた。また、冬季には、レクリエーションを通じた森林の理解のための体験教室を開催した。

## **森林景観研究**

これまで富士演習林では、景観への影響が大きいと考えられる皆伐等の施業は行わずに風致林として慎重に取り扱いが為されてきた。また、日本人の原風景と言われる富士山、更に風光明媚な山中湖畔に立地するという特性を活かしつつ 1980 年代より継続して行ってきた定点における景観観測など景観研究への資料が蓄積されており景観研究の一層の進展が望まれる。本演習林では、これまでの風致施業を踏まえながら「隠す」、「見せる」施業について再検討し、景観の類型化を通して研究サイトの多様性を向上させるとともに利用者から得られる森林景観の評価データを基に風致施業により生じる評価の差異を抽出し実際の施業へと活かす実践的研究を推進する。平成 20(2008)年度は全学体験セミおよび総合科目の授業において、学生の森林景観のSD評価実験を行うなど、景観管理のための情報を収集し分析を行った。

## **長期生態系プロット**

試験地は、標高1,050m の3 林班3 小班。1920 年代後半の植栽されたカラマツ人工林から天然生の落葉広葉樹林に遷移しつつある植生において遷移の過程を追跡し、東京大学の各演習林に設置されている長期生態系プロット等と比較して、森林動態の一般法則を発見することを目的にしている。平成 20(2008)年度に行った調査は無く、平成 21(2009)年度に調査を実施する予定である。

## **気象観測**

II 林班の標高 1,000m 地点において、昭和 27(1952)年 1 月から気象観測結果の記録を行っている。富士山の東麓にあって変化の激しい山地気象で、冬は富士山からの寒風を受け、近隣の地区よりも低温・多雪であるなど、特殊な山地気象の様相を呈している。観測データについては『演習林』等を参照されたい。

## **樹芸研究所**

### **暖帯常緑広葉樹林の持続的維持に関する繁殖生態学的研究**

暖帯の常緑広葉樹林において、現在の主林木がどのような更新過程を経て新しく森林として再生するか、特に種子散布から稚樹の初期成長過程を中心に解明して、森林生態系を持続的に維持保全する上での計画の基礎として役立てたい。本研究は科研費の補助金を得て、暖帯常緑広葉樹林としてシイ類(スダジイ、コジイおよびその中間的形質を示すものを含む)が優占する二次林、クスノキ人工林を対象にして、林分の構造、種子生産、種子の動態、林床稚樹の動態、種子の発芽・稚樹の成長条件等について現地調査や実験を行っている。

### **暖帯広葉樹二次林における林床稚樹群の動態**

伊豆半島のシイが優占する広葉樹二次林において、林床稚樹群の動態について 3 年間にわたり追跡調査を行った。その結果、シイ類を中心に種子の豊凶に連動しながら林床稚樹群は増減を繰り返し、上層木の状態や林床の光条件により、樹種構成や密度が異なることが明らかとなった。しかし、多くの実生は数年でほとんど枯死することから、林床に形成される地樹群は種子が継続的に散布されることにより維持されていると考えられる。今後、様々な環境のギャップを設定して稚樹の定着の関係について調査する必要がある。

### **ヤマガラとシジュウカラの繁殖生態調査**

鳥類は森林の構造や水平的配置に応じて選択的に生息していると言われている。青野研究林では 1972~75 年にヤマガラ・シジュウカラについて巣箱設置による詳細な研究が行われた。その調査から 30 年が経過し、その間の森林構造の変化が鳥類相への影響を及ぼしたのか大変興味深い。そこで、30 年前と同じ調査区に巣箱を設置して、巣箱を利用する種や利用率の違いなど、森林の時間経過による鳥類相への影響について検証を行っている。

## **大面积長期生態系プロット調査**

森林の長期的な動態を明らかにするため、当所では 1998 年から、1ha の長期生態系プロット 2 箇所を設定し定期的

に調査を行っている。50年生二次林及び45～46年生二次林内に調査地を設定し、木本種の群落構造と種の多様性を調査する。調査地の内部を25m×25mの小区に区切り胸高直径4cm以上の個体について胸高直径を測定し、新規登録木はその立木位置を記録した。今後継続して調査を行い、暖温帯林の代表的な林相である常緑広葉樹二次林の森林群集の動態を解明する。

### 森林水文・水質研究

樹芸研究所研究林域内の量水観測は降雨量と流出量について3流域(広葉樹天然林、針葉樹人工林、広葉樹人工林)で観測を行っている。東京農工大学との共同研究のより、それぞれ3流域の植生の違いによる流出量の違いなどのデータの分析を行った。今後とも引き続きデータを蓄積して、植生の違いによる水源涵養機能の差異を明らかにしたい。

### ニホンジカの生育密度と植生への影響に関する研究

近年、全国的にニホンジカの増加による被害が報じられており、東大演習林でもその調査、対策が行われている。樹芸研究所でも10年ほど前から徐々にその増加の傾向が観察されてきたが、今回、その生育密度の変化とその植生に与える影響を明らかにするため生息密度調査を行った。調査はまず予備試験的に、ニホンジカが特に好んで食すアオキの食害状況をルートセンサスにより調査し、その結果を元に千葉演、秩父演とほぼ同様の方式で区画法による生息数調査を実施した。また、糞粒法による調査も実施した。アオキによる調査では、青野作業所近辺の一角のみニホンジカの分布は少ないものの、境界など尾根を中心としてすでにほぼ全域に分布し、アオキの生育に大きく影響を与える状況である様子が明らかとなった。区画法調査では、3区画について調査を行い、その結果1林班を中心とした二次林の多い区画(43.52ha)にてニホンジカ7頭が目視にて確認された。他の区画では目視されなかった。また糞粒法調査では、1林班の区が220個、クスノキ人工林区が387個、6林班の区が952個となり、目視のなかつた他の区においてもより高密度でニホンジカが生息していることを裏付ける結果となった。今後も毎年同様の調査を継続し、また植生の変化も調査することで、ニホンジカ個体数の変動とその影響を明らかにしていく。

### 自然体験プログラムの開発に関する研究

樹芸研究所の森林は、地域の自然体験学習の場として利用されており、充実した自然体験プログラムの提供を近年ますます求められてきている。森林における自然体験学習を充実させ、身近で自然を体験できる場所を提供することを目的とし、本研究は公開講座等の自然体験学習の参加者を対象とし、森林体験直後にアンケートをとり、参加者の意識調査を行い、世代ごとの森林体験学習の内容とその具体的方法について提案する。

### 田無試験地

#### 都市域におけるマツ材線虫病の発生実態と防除効果

田無試験地における材線虫病被害木の発生本数を被害発生当初の1988年から経年記録するとともに、2001年から一部のマツ林において誘引捕獲によるマツノマダラカミキリ成虫の発生量調査を継続実施している。また、被害木を毎年網室に搬入し、マツノマダラカミキリ成虫の羽化脱出数とその消長を調査している。2000年の被害本数は11本であり、徹底的な伐倒駆除により、微害で推移しているものの、マツノマダラカミキリ成虫は依然として多数捕獲されている。今後も継続調査を行い、環境変化と都市域でのマツノマダラカミキリ発生状況の推移について検討する。

### 都市林生態系長期観測

暖温帯落葉広葉樹二次林の長期動態調査を目的として、1999年2月にI林班4小班に面積0.42haの永久調査枠を設定し、第一回目、2005年1月に第二回目の調査を実施した。一方、都市において樹林が微気象に与える影響を観測する目的で、生態系長期観測プロット内に気温センサーを設置するほか、第1苗畠気象観測露場において気温・湿度・降水量・地温(地下10・20・30cm)の観測を継続実施している。そのほか、井戸における地下水位の変動についても定期観測を行っている。また、生物基盤データ昆虫班が季節ごとにピットフォールトラップを設け、森林動物のモニタリング

を行っている。

### **ヒノキ採種園の種子生産性**

ヒノキ優良種苗の安定的供給を目標として、2004 年に秩父地方天然性ヒノキ実生家系のクローン苗を用いたクローン採種園を造成した。2005 年より着果量、種子量の調査を行っている。2008 年は合計で約 7000 球果・280g の種子が生産され、豊凶はあるものの着実に生産量は増加傾向にある。2009 年 3 月に整枝、断幹を行った。

### **田無試験地における埋土種子相調査**

埋土種子は搅乱後の植生回復に大きな役割を持ち、地域植生の復元に有効として注目されている。管理が行われている当試験地では、植生の変化にこれらの埋土種子が影響を及ぼしている可能性がある。そこで、当試験地における埋土種子相を把握するために、長期生態系プロット、スギクローン集植所、シラカシモデル林分、天然性ヒノキ集植地の 4 サイトから土壤を採取し、埋土種子調査を行うこととした。埋土種子については、土壤のふるい・乾燥が完了しており、今後、ハンドソーティング法による同定を行う。また、採取された埋土種子の種の同定に供するため、試験地内の植物の種子を収集し、木本種・草本種をあわせて 123 種の種子標本を作製した。

### **樹木位置データベースの整備**

本年度に田無試験地の測量事業が実施され、試験地内に測量の基準点(3 級、4 級)が多数設置された。これらの基準点を利用して、樹木園、カエデ見本林の一部について樹木位置図を作成した。樹木位置図についてはその他の林地においても整備を進め、GIS データベースとして利用できるようにする。最終的には、全毎木の樹木位置図を作成し、研究教育フィールドとしての基盤整備を進める予定である。

# 演習林技術職員等試験研究・研修会議

## 場所

東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター千葉演習林

## 日程

[平成 20 年 11 月 6 日 (木) ]

試験研究発表会 (於: 千葉演習林 清澄学生宿舎および清澄講義室)

13:30 開会式

13:40 試験研究発表 (○: 発表者) 司会: 井口和信技術主任 場所: 清澄学生宿舎食堂

「千葉演習林における保護樹を対象とした GISによるデータベース作成の取り組みについて」

○軽込 勉・米道 学・里見重成 (千葉演習林)

14:00 「シカの個体数増加が森林の音環境に及ぼす影響」

○齋藤俊浩 (秩父演習林)

14:20 「北海道演習林におけるエゾナキウサギの生息状況」

○及川 希・松井理生 (北海道演習林)

14:40 「秩父演習林におけるモニタリングサイト 1000への取り組み

—リタートラップからわかる森林群落の年変動—

○吉田弓子・西山教雄 (秩父演習林)

15:00 「東京大学愛知演習林におけるカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害の実態」

○井上 淳・高徳佳絵・澤田晴雄・渡部 賢 (愛知演習林)

15:20 「富士演習林寒地性樹種育林試験の成長解析」

○算用子麻未・千島 茂 (富士演習林)

15:40 休憩

15:50 「北海道演習林の直営生産における広葉樹の採材方法—ダケカンバを例として—」

○笠原久臣・磯崎靖雄・及川 希・福岡 哲・丹羽悠二・岡村行治 (北海道演習林)

16:10 「全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」は学生に何を伝えたのか」

○渡邊良広・村瀬一隆・辻 和明・辻 良子 (樹芸研究所)

16:30 「千葉演習林・公開講座『緑の教室』」

○藤平晃司・才木道雄 (千葉演習林) ・村川功雄 (北海道演習林) ・相川美絵子 (研究部)

16:50 「田無試験地における一般利用者の動向について」

○鶴見康幸・岩本則長 (田無試験地)

17:10 「どうする東京大学演習林—大学演習林のアンケート結果から—」

○大村和也・相川美絵子・荒木田善隆 (研究部)

17:30 「東京大学演習林における災害・ヒヤリハットの分析」

○荒木田善隆 (研究部)

17:50 休憩 (清澄講義室へ移動)

18:00 講評・講話 石橋整司 研究部長

18:40 懇親会 (清澄学生宿舎食堂)

宿泊: 清澄学生宿舎

[平成 20 年 11 月 7 日 (金) ]

講義・現地研修

8:45 講義

山中征夫 助教 (千葉演習林) 「ヤマビル研究とその前・・・」

池田裕行 助教 (千葉演習林) 「二次林調査について」

10:30 現地研修 (千葉演習林池ノ沢立木処分地)

12:00 昼食後解散

## 参加者

研究部 : 石橋整司・荒木田善隆・大村和也・相川美絵子

千葉演習林 : 山田利博・廣嶋卓也・山中征夫・池田裕行・井口和信・永島初義・

山中千恵子・大塚明宏・大石 諭・鈴木祐紀・米道 学・塙越禰咲・

里見重成・藤平晃司・阿達康眞・軽込 勉・才木道雄・三次充和・

唐鍊 勇・富川 勲・粕谷喜博・長谷川二郎・黒川よし子・宮原はな・

岡田康則・糟谷育代

北海道演習林 : 笠原久臣・及川 希

秩父演習林 : 斎藤俊浩・西山教雄・吉田弓子

愛知演習林 : 井上 淳

富士演習林 : 算用子麻未

樹芸研究所 : 渡邊良広

田無試験地 : 鶴見康幸



## 教職員の論文等

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一号	頁	年
澤田晴雄・梶幹男・大村和也・大久保達弘	秩父山地イヌブナーブナ林の齢構造と更新特性	東大演報	119	1-23	2008
寺田珠実・兼行民治郎・井上広喜・鴨田重裕	イチョウ組織培養系におけるステロールと細胞増殖(2) —メバロン酸代謝物の影響—	東大演報	119	45-57	2008
矢野初美・後藤晋	造園・園芸利用種アオキにおける異なる葉緑体ハプロタイプ間の交雑	東大演報	120	11-18	2009
Owari, T., Kasahara, H., Oikawa, N., Fukuoka, S.	Seasonal variation of global positioning system (GPS) accuracy within the Tokyo University Forest in Hokkaido (東京大学北海道演習林におけるGPS測位精度の季節変動)	東大演報	120	19-28	2009
石野貴久・会沢栄志・寺田珠実・鮫島正浩・鴨田重裕	日本産イチイ科植物におけるタキソイド生成能	東大演報	120	45-52	2009
農学生命科学研究科附属演習林	東京大学演習林気象報告(自2006年1月至2006年12月)	演習林(東大)	47	87-105	2008
澤田晴雄・荒木田きよみ・井上淳・高徳佳絵・渡部賢・後藤太成・荒木田善隆	愛知演習林ヒノキ・スギ人工林各種試験地の成長資料	演習林(東大)	48	9-24	2009
澤田晴雄・渡部賢・井上淳・高徳佳絵・荒木田きよみ・後藤太成・芝野博文・荒木田善隆	愛知演習林新居試験地におけるマツ材線虫病による被害の推移と対処経過	演習林(東大)	48	25-101	2009
東京大学演習林鳥類研究会	東京大学演習林鳥類目録	演習林(東大)	48	103-131	2009
軽込勉・米道学・里見重成	千葉演習林における保護樹を対象としたGISによるデータベース作成の取り組みについて	平成20年度技術職員等試験研究・研修会議報告		1-5	2008
齋藤俊浩	シカの個体数が森林の音環境に及ぼす影響	平成20年度技術職員等試験研究・研修会議報告		6-11	2008
及川希・松井理生	北海道演習林におけるエゾナキウサギの生息状況	平成20年度技術職員等試験研究・研修会議報告		12-17	2008
吉田弓子・西山教雄	秩父演習林におけるモニタリングサイト1000への取り組み—リートラップからわかる森林群落の年変動—	平成20年度技術職員等試験研究・研修会議報告		18-24	2008
井上淳・高徳佳絵・澤田晴雄・渡部賢	東京大学愛知演習林におけるカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害の実態	平成20年度技術職員等試験研究・研修会議報告		25-32	2008
算用子麻未・千島茂	富士演習林寒地性樹種育林試験の成長経過	平成20年度技術職員等試験研究・研修会議報告		33-39	2008

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻-号	頁	年
笠原久臣・磯崎靖雄・及川希・福岡哲・丹羽悠二・岡村行治	北海道演習林の直営生産における広葉樹の採材方法 —ダケカンバを例として—	平成20年度技術職員等試験研究・研修会議報告		40-43	2008
渡邊良広・村瀬一隆・辻和明・辻良子	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」は学生に何を伝えたか	平成20年度技術職員等試験研究・研修会議報告		44-47	2008
藤平晃司・才木道雄・村川功雄・相川美絵子	千葉演習林・公開講座『緑の教室』	平成20年度技術職員等試験研究・研修会議報告		48-52	2008
鶴見康幸・岩本則長	田無試験地における一般利用者の動向について	平成20年度技術職員等試験研究・研修会議報告		53-56	2008
澤田晴雄・梶幹男・大村和也・五十嵐勇治	ブナ類2種( <i>F. japonica</i> Maxim. and <i>F. crenata</i> Blume ) の豊凶現象が樹体の成長に与える影響	日林誌	90(3)	131-138	2008
保坂太郎・尾張敏章・後藤晋	北海道中央部の択伐天然林におけるトドマツ実生、稚樹、幼樹の分布と立地環境	日林誌	90(6)	357-363	2008
Owari, T., Sawanobori, Y.	Market benefits of chain-of-custody certification: perspectives of Japanese suppliers	森林資源管理と数理モデル	7	121-133	2008
山本清龍	富士山麓への来訪者の富士登山に対する期待と管理施策の支持との関係性	ランドスケープ研究(日本造園学会誌)	71, 5	639-642	2008
山本清龍	平成20年度全国大会研究発表会セッション報告—自然公園の利用行動	ランドスケープ研究	72., 2.	211	2008
工藤豊・山本清龍・下村彰男	昭和戦前期における文学作品にみる中伊豆地域の景観の特徴に関する研究	環境情報科学論文集	22	441-444	2008
松井理生・岡村行治・岡平卓巳・後藤晋	低標高地におけるエゾマツ植栽と天然更新による針広混交林造成の可能性	森林立地	50(1)	35-40	2008
岡村行治・犬飼浩・尾張敏章	東京大学北海道演習林の広葉樹市売—ウダイカンバ・ハリギリの旭川銘木市への出品について—	北海道の材木育種	51(2)	28-30	2008
小野涼子・小川瞳・後藤晋	北海道中央部の平沢湿地林におけるエゾノウワミズザクラのジェネット構造	北方林業	60(4)	73-76(1-4)	2008
安村直樹	ニュージーランド南島の森林・林業—広がる伐採後の転用—	木材情報	206	8-11	2008
田中延亮	霧による森林への水分供給量をはかる	森林科学	55	41	2008
越智匠作・太田猛彦・田中延亮・堀田紀文	幼齢林の樹冠遮断量測定のための大型雨量計の開発	東京農業大学農学集報	53	75-80	2008
洲崎燈子・藏治光一郎・丹羽健司	矢作川流域の人工林の健康状態の現状—2005～2007年「森の健康診断」の結果から—	矢作川研究	12	103-110	2008
梶幹男	木曾赤沢のヒノキ林	木の建築	20	裏表紙(写真+文章)	2008
梶幹男	春日山のナギ林	木の建築	21	裏表紙(写真+文章)	2008

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻-号	頁	年
梶幹男	富良野平沢のヤチダモ林	木の建築	22	裏表紙 (写真+文章)	2008
梶幹男	東大北海道演習林の目指す「理想の森林」づくり	山川草木を育てる集い設立二十周年記念誌「森の心」		21	2009
後藤晋	第17回バイテク林木育種研究会記録	林木の育種	228	41-42	2008
山田利博	病原菌からみたブナ科樹木萎凋枯死被害(ナラ枯れ)研究の最前線	樹木医学研究	12, 2	67-72	2008
山田利博	保全講座2:微生物の感染と樹木の反応	樹木医学研究	12, 2	91-97	2008
山田利博	樹木の材変色と腐朽	樹の生命	No.6	8-13	2008
山田利博	精密機器による樹木診断の現状と課題	グリーンエージ	No.416 (2008年8月号)	4-10	2008
山本清龍	来訪者の意識からみた自然公園における野外教育の展開の方向性について	日本野外教育学会第11回大会プログラム・研究発表抄録集		24-25	2008
山本清龍・トーマス・E・ジョーンズ・荒牧重雄	富士山における日本人登山者のための道標の役割に関する研究	日本観光研究学会全国大会第23回学術論文集		225-228	2008
蔵治光一郎	森と水—森林管理の現場から—第2回 森と水に関する科学的知見—どこまで解明されたのか—	現代林業	502	40-43	2008
蔵治光一郎	森と水—森林管理の現場から—第3回 人々の認識と科学者の認識のギャップ—科学的に完全に把握できるのか—	現代林業	503	38-42	2008
蔵治光一郎	森と水—森林管理の現場から—第4回 管理の意思決定方法—完全には把握できないものの管理—	現代林業	504	46-49	2008
蔵治光一郎	森と水—森林管理の現場から—第5回 修正する手法—見試し、PDCAサイクル、順応的管理—	現代林業	505	44-47	2008
蔵治光一郎	森と水—森林管理の現場から—第6回 流域市民と研究者との関係づくり—	現代林業	506	40-43	2008
蔵治光一郎	森と水—森林管理の現場から—第7回 国県町・学・民が一体となって照葉樹林を復元する 宮崎・綾の取り組み—	現代林業	507	48-51	2008
蔵治光一郎	森と水—森林管理の現場から—第8回 森と水の機能回復を評価する やまぐち森林づくり県民税関連事業評価システムの挑戦—	現代林業	508	46-50	2008
蔵治光一郎	森と水—森林管理の現場から—第9回 水と生きる企業の森づくり サントリー天然水株式会社 奥大山ブナの森工場—	現代林業	509	40-43	2008
蔵治光一郎	森と水—森林管理の現場から—第10回 愛知県豊田市の挑戦 森づくり会議とは—	現代林業	510	44-47	2008

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻-号	頁	年
藏治光一郎	森と水－森林管理の現場から－第11回 森林と水害－	現代林業	511	36-39	2009
藏治光一郎	森と水－森林管理の現場から－第12回 森林と水資源－	現代林業	512	38-41	2009
藏治光一郎	森と水－森林管理の現場から－第13回 地域型の情報管理を目指して 地域内シンクタンクの可能性－	現代林業	513	36-40	2009
藏治光一郎	野外研究サイトから(9)東京大学愛知演習林	日本生態学会誌	58	137-142	2008
藏治光一郎	荒れた人工林の実態を調べよう 全国に広がる「森の健康診断」	自然保護	507	24	2009
藏治光一郎	流域圏管理の実践に向けて	都市問題	100(2)	4-8	2009
藏治光一郎・溝口隼平	各ダムでどのような生態系への配慮が行われているのか	科学	79(3)	309-312	2009
藏治光一郎	水の革命－森林、食糧生産、河川、流域圏の統合的管理－	山林	1486	49	2008
藏治光一郎	森林、食糧生産、河川、流域圏の統合的管理	山林	1488	2-9	2008
尾張敏章	クヴェ照査法林の百年	山林	1488	27-32	2008
尾張敏章・佐々木尚三	ユーロ森林工学国際会議in北海道	機械化林業	658	17-22	2008
野中健一・齋藤暖生・足達慶尚	耕運機で森を食べる—ラオス天水田稲作地帯における農業近代化と野生資源利用の変化—	河野泰之編『論集 モンスーンアジアの生態史—地域と地球をつなぐ— 第1巻 生業の生態史』	71-84		2008
落合雪野・小坂康之・齋藤暖生・野中健一・村山伸子	五感の食生活	河野泰之編『論集 モンスーンアジアの生態史—地域と地球をつなぐ— 第1巻 生業の生態史』	203-224		2008
齋藤暖生	財産区の森の生きる道	京都だより	387	5-8	2008
Owari, T.	The role of forest certification in social responsibility reporting in Japan	Proceedings of the International Symposium on Wood Science and Technology (IAWPS2008)	583-584		2008
Thomas E Jones, Kiyotatsu Yamamoto and Shigeo Aramaki	A study of roles of trail signs for foreign climbers at Mt. Fuji	Annual Autumn meeting 2008 of The Japanese Forest Economic Society		Printed as a PDF	2008
Thomas E Jones, Kiyotatsu Yamamoto and Shigeo Aramaki	A Comparative Study of Roles of Mt. Fuji Trail Signs for Japanese and Foreign Climbers	Proceedings of JITR (Japan Institute of Tourism) Annual Conference 2008	221-224		2008

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻-号	頁	年
Tomonori Kume, Odair J. Manfroi, Kuraji Koichiro, Nobuaki Tanaka, Toshinobu Horiuchi, Masakazu Suzuki, Tomo'omi Kumagai	Estimation of canopy water storage capacity from sap flow measurements in a Bornean tropical rainforest	Journal of Hydorology	352	288-295	2008
Tanaka, N., Kume, T., Yoshifiji, N., Tanaka, K., Takizawa, H., Shiraki, K., Tantasirin, C., Tangtham, N., Suzuki, M.	A review of evapotranspiration estimates from tropical monsoon forests in Thailand and adjacent regions	Agricultural and Forest Meteorology	148	807-819	2008
Tomonori Kume, Hikaru Komatsu, Kuraji Koichiro and Masakazu Suzuki	Less than 20-min time lags between transpiration and stem sap flow in emergent trees in a Bornean tropical rainforest	Agricultural and Forest Meteorology	148	1181-1189	2008
Togashi, K., H. Kasuga, H. Yamashita and K. Iguchi	Effect of host tree species on larval body size and pupal-chamber tunnel of <i>Monochamus alternatus</i> (Coleoptera: Cerambycidae)	Applied Entomology and Zoology	43(2)	235-240	2008
Goto S, Takahashi M, Matsumoto A, Ieiri R, Tsumura Y	Genetic relationships and origin of commercial clones of Nangouhi, a vegetatively propagated cultivar of hinoki cypress ( <i>Chamaecyparis obtusa</i> )	Breeding Science	58	411-418	2008
Zhang Z, Fukushima T, Shi P, Tao F, Onda Y, Gomi T, Mizugaki S, Asano Y, Kosugi K, Hiramatsu S, Kitahara H, Kuraji K, Terajima T, Matsushige K."	Seasonal changes of nitrate concentrations in baseflow headwaters of coniferous forests in Japan:a significant indicator for N saturation	Catena	76	63-69	2008
Uchiyama K, Goto S, Ide Y	Effects of population density on male and female reproductive	Conservation Genetics	DOI 10.1007/s10592-008-9694-y		2008
Suzuki M, Miyashita T, Kabaya H, Ochiai K, Asada M, Tange T	Deer density affects ground-layer vegetation differently in conifer plantations and hardwood forests on the Boso Peninsula, Japan	Ecological Research	23	151-158	2008
SAITO, Haruo and G. Mitsumata	Bidding Customs and Habitat Improvement for Matsutake ( <i>Tricholoma matsutake</i> ) in Japan	Economic Botany	62,3	257-268	2008
Kamimura K, Gardiner B, Kato A, Shiraishi N and Hiroshima T	Developing a decision-support approach to reducing wind damage risk &#8211; a case study on sugi ( <i>Cryptomeria japonica</i> (L.f.) D.Don) forests in Japan	Forestry	81	429-445	2008
Togashi, K., Y. Taga, K. Iguchi and T. Aikawa	Bursaphelenchus mucronatus (Nematoda: Aphelenchoididae) vectored by <i>Monochamus urussovi</i> (Coleoptera: Cerambycidae) in Hokkaido, Japan	Japanese Forest Res	13(2)	127-131	2008
Aizawa, M, Yoshimaru, H, Katsuki, T, and Kaji, M	Imprint of postglacial history of a narrow endemic spruce, <i>Picea alcoquiana</i> , observed in nuclear microsatellites and organelle DNA markers in central Japan	Journal of Biogeography	35	1295-1307	2008

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一号	頁	年
Komatsu Hikaru, Hotta Nnorifumi, Kuraji Koichiro, Suzuki Masakazu	Relationship between nighttime wind speeds and thermal conditions above a sloping forest	Journal of Meteorological Society Japan	86	805-815	2008
Geng Q, Lian C, Goto S, Tao J, Kimura M, Islam S, Hogetsu T	Mating system, pollen and propagule dispersal, and spatial genetic structure in a high-density population of the	Molecular Ecology	17	4724-4739	2008
Lian C, Goto S, Kubo T, Takahashi Y, Nakagawa M, Hogetsu T.	Nuclear and chloroplast microsatellite analysis of <i>Abies</i>	Molecular Ecology	17	2948-2962	2008
Kamoi Tamaki, Tanaka Kenzo, Kuraji Koichiro and Momose Kuniyasu	Abortion pf reproductive organs as an adaptation to fluctuating daily carbohydrate production	Oecologia	154	663-677	2008
Xie, X., Yoneyama, K., Kusumoto, D., Yamada, Y., Yokota, T., Takeuchi, Y. and Yoneyama, K.	Isolation and identification of alectrol as (+)-orobanchyl acetate, a novel germination stimulant for root parasitic plants.	Phytochemistry	69	427-431	2008
Miyashita T, Suzuki M, Ando D, Fujita G, Ochiai K, Asada M	Forest edge creates small-scale variation in reproductive rate of sika deer	Population Ecology	50	111-120	2008
Xie, X., Yoneyama, K., Kusumoto, D., Yamada, Y., Takeuchi, Y., Sugimoto, Y. and Yoneyama, K.	Sorgomol, germination stimulant for root parasitic plants, produced by <i>Sorghum bicolor</i> .	Tetrahed. Lett.	49	2066-2068	2008
Zhao Zhang, Takehiko Fukushima, Yuichi Onda, Takashi Gomi, Shigeru Mizugaki, Yuko Asano, Ken'ichirou Kosugi, Shinya Hiramatsu, Hikaru Kitahara, Koichiro Kuraji, Tomomi Terajima, Kazuo Matsushige	Baseflow concentrations of nitrogen and phosphorus in forested headwaters in Japan	The sciences of total environments	402	113-122	2008
Nakajima T, Hirata Y, Hiroshima T, Furuya N and Tatsuhara S	An analysis of the relationships between tree growth and crown information derived from airborne LiDAR data	Proceedings of International Conference SilviLaser 2008		498-507	2008
Gomyo Mie, Kuraji Koichiro, Kitayama Kanehiro and Suzuki Masakazu	Characteristics of stream and rain water chemistry in a Bornean tropical rainforest	Abstracts of the International Conference ATBC Kuching Towards Sustainable Land-Use in Tropical Asia		25-26	2008

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一号	頁	年
Kume Tomonori, Komatsu Hikaru, Kuraji Koichiro and Suzuki Masakazu	Characteristics of transpiration in emergent trees in a Bornean Tropical Rainforest	Abstracts of the International Conference ATBC Kuching Towards Sustainable Land-Use in Tropical Asia		72	2008
Gomyo Mie, Kuraji Koichiro, Kitayama Kanehiro and Suzuki Masakazu	Characteristics of rainfall and rainwater chemistry in tropical rainforests	FORTROP II: Tropical Forestry Change in a Changing World		15	2008
Tanaka Nobuaki, Kuraji Koichiro, Tantasirin Chatchai, Takizawa Hideki, Yoshifiji Natsuko, Kume Tomonori, Tangtham Nipon and Suzuki Masakazu	Cloud water interception by a tropical montane seasonally-cloud forest in Thailand	FORTROP II: Tropical Forestry Change in a Changing World		60	2008
Kuraji Koichiro and Kowit Punyatrong	Long-term observation of an altitudinal increase in rainfall over Doi Inthanon and the Mae Chaem watershed, northern Thailand"	FORTROP II: Tropical Forestry Change in a Changing World		62	2008
Kuraji Koichiro and Gomyo Mie	Spatial and Temporal Variability in Rainfall Over Malaysian Borneo	Abstracts of the International Conference ATBC Kuching Towards Sustainable Land-Use in Tropical Asia		72-73	2008
Kuraji Koichiro, Mie Gomyo and Kanehiro Kitayama	Effects of rainfall variability on hydrological and ecological functions of tropical rainforests	Abstracts, Seminar on Landuse Change and Societal Adaptation under Global Climate Change in Asian Tropical Rain Forests: Cases in Borneo, UMS, Kota Kinabalu		10	2008
Gomyo Mie, Kuraji Koichiro, Masakazu Suzuki and Kanehiro Kitayama	Characteristics of rainwater and streamwater chemistry in small watersheds in Sabah and Sarawak	Abstracts, Seminar on Landuse Change and Societal Adaptation under Global Climate Change in Asian Tropical Rain Forests: Cases in Borneo, UMS, Kota Kinabalu		11	2008
Mie Gomyo and Kuraji Koichiro	Spatial and temporal variations in rainfall and the ENSO-rainfall relationship over Sarawak, Malaysian Borneo	SOLA	5	41-44	2009
Aizawa, M., Yoshimaru, H., Saito, H., Katsuki, T., Kawahara, T., Kitamura, K., Shi, F., Sabirov, R. and Kaji, M.	Range-wide genetic structure in a north-east Asian spruce( <i>Picea jezoensis</i> ) determined using nuclear microsatellite markers	Journal of Biogeography	36	996-1007	2009

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一号	頁	年
Kuraji Koichiro, Mie Gomyo and kowit Punyatrong	Inter-annual and spatial variation of altitudinal increase in rainfall over Mount Inthanon and Mae Chaem watershed, Northern Thailand	Hydrological Research Letters	3	18-21	2009
Suzuki AA, Suzuki M	Why do lower order branches show greater shoot growth than higher order branches? Considering space availability as a factor affecting shoot growth	Trees	23	69-77	2009

## 学会発表等

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一号	頁	年
池田裕行・鈴木祐紀・糟谷育代・尾崎煙雄・遠藤良太・藤林範子・藤平量郎	房総半島産ヒメコマツの苗木生産	日林学術講	119	P1c51	2008
澤田晴雄・芝野博文・金子力也	愛知演習林長期生態系プロットにおける樹木の分布状況と2004-2007年の動態	日林学術講	119	P1d26	2008
村田政穂・小林正秀・山田利博・鎌田直人・伊藤進一郎	Raffaelea quercivora の菌糸の伸展に対する辺材内に形成された反応障壁の効果	日林学術講	119	P2d03	2008
前原忠・鎌田直人	八甲田におけるクロカタビロオサムシの大量発生について	日林学術講	119	P2e20	2008
山田利博・村田政穂・池田裕行	ヒメコマツ、キタゴヨウに対するかさぶたがんしゅ病菌の無傷接種試験	日林学術講	119	P2d14	2008
芝野博文・澤畠薰・浅野友子・荒木田きよみ	渓流流出発生域における流出形態の多様性と代表性に関する一考察	日林学術講	119	P2f04	2008
小田智基・浅野友子・鈴木雅一	森林伐採に伴う渓流水中Cl-濃度変化を用いた流域の滞留時間推定	日林学術講	119	P2f15	2008
田中延亮・吉藤奈津子・タンタシリンチャチャイ・川元美歌・鈴木雅一	チーク落葉人工林の葉量と林内雨量・樹幹流下量の関係	日林学術講	119	P2f25	2008
藤本典之・龍原哲・廣嶋卓也	腐朽によるスギ・ヒノキ材の容積密度の推移	日林学術講	119	P3a22	2008
浅野友子・内田太郎	平水時の山地斜面からの流出水中硝酸濃度の変動に関わる環境要因	日林学術講	119	P3e04	2008
山本清龍・井倉洋二	ESDの観点からみた森林教育の評価に関する一考察	日林学術講	119	M17	2008
坂上大翼・西垣真由美・吳炳雲・寶月岱造	静岡県新居の材線虫病激害林におけるマツノザイセンチュウ個体群の遺伝的構造	日林学術講	119	A12	2008
中馬美咲・梶幹男	北方針広混交林における主要樹種の実生定着環境	日林学術講	119	CD-ROM (P2a24)	2008
高橋誠・後藤晋・梶幹男・渡邊敦史	ブナ産地試験地における葉緑体ハプロタイプと表現型形質との関係	日林学術講	119	32	2008
洲崎燈子・藏治光一郎・丹羽健司	市民主導の「森の健康診断」と人工林管理の将来展望	日林学術講	119	98	2008
福島武彦・張朝・恩田裕一・水垣滋・五味高志・小杉賢一朗・平松晋也・北原曜・藏治光一郎・寺嶋智己・松重一夫	森林の種類による栄養塩流出の違い	日林学術講	119	103	2008
逢沢峰昭・吉丸博志・勝木俊雄・梶幹男	本州中部におけるイラモミの後氷期の分布変遷	日林学術講	119	625	2008
久米朋宣・小松光・藏治光一郎・鈴木雅一	ボルネオ島熱帯雨林の巨大高木の樹液流特性—蒸散に対する樹液流のタイムラグは大きいか?	日林学術講	119	765	2008

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一号	頁	年
若原妙子・白木克繁・田中延亮・藏治光一郎・鈴木雅一	マレーシア・ランビルヒルズ国立公園における水収支と土壤水分変化の特性	日林学術講	119	766	2008
犬飼浩・高橋功一・遠国正樹・中川雄二・後藤晋	山火事跡二次林の間伐によるウダイカンバの樹冠発達	日林北支論	56	63-65	2008
岡平卓巳・松井理生・五十嵐勇治・千徳勝洋・後藤晋	人工造林はエゾマツの資源回復に有効か? -40年以上が経過したエゾマツ人工林の生育状況-	日林北支論	57	81-83	2009
宅間隆二・廣川俊英・岡村行治・尾張敏章	GPSを用いた収穫木探索の効率性評価	日林北支論	57	93-95	2009
高橋功一・犬飼浩・福士憲司・村川功雄・小池征寛・犬飼慎也・尾張敏章	東京大学北海道演習林における択伐施業林と無施業林の更新状況の比較	日林北支論	57	101-103	2009
小池征寛・犬飼浩・福士憲司・村川功雄・高橋功一・犬飼慎也・尾張敏章	東京大学北海道演習林における択伐施業林と保存林の林分構造の比較	日林北支論	57	105-107	2009
中馬美咲・梶幹男	北方針広混交林の林冠下における光環境と稚樹の成長と葉の形態	日林北支論	57	153-154	2009
上田明良・井口和信	樽前山山麓2004年18号台風風倒地における2008年度ヤツバキクイムシ類被害状況	日林北支論	57	155-157	2009
小川瞳・道上昭夫・大屋一美・鴨田重裕	苗畑における暗色雪腐病発生状況と今後の課題	日林北支論	57	159-161	2009
Tohru Nakajima, Toshiaki Owari, Jung-Soo Lee, Mitsuo Matsumoto, Satoshi Tatsuhara, Norihiko Shiraishi	Risk assessment of spatiotemporal wind hazards in Japanese mountain forests: linking an air-flow model and the local yield table construction system	日林北支論	57	97-99	2009
鶴見康幸・山中千恵子・永島初義・里見重成・藤平晃司	ヒノキ高齢林におけるヘリコプター集材の試み	日林関東森林研究	59	59-62	2008
米道学・鈴木祐紀・塙越剛史・里見重成・軽込勉・池田裕行・山田利博	千葉演習林におけるマツ材線虫病に対する抵抗性選抜育種-新たな選抜と採種園産苗木の再検定-	日林関東森林研究	59	113-116	2008
山中征夫・池田裕行・糟谷育代・高徳佳絵・宅間隆二	アブラギリの採取時期と発芽率について	日林関東森林研究	59	133-136	2008
池田裕行・鈴木祐紀・山田利博・尾崎煙雄・遠藤良太・藤平量郎・藤林範子	房総半島産ヒメコマツの保全活動	日林関東森林研究	59	141-144	2008
軽込勉・米道学・里見重成・池田裕行・鈴木誠	モウソウチクの発芽及び10年生実生林の現状	日林関東森林研究	59	187-190	2008
村川功雄・阿達康眞・前原忠	房総丘陵の河川における淡水エビ類の生息状況	日林関東森林研究	59	203-206	2008

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一号	頁	年
山田利博・飯倉寛・村田政穂	γ線樹木腐朽診断器による診断結果の季節による比較	日林関東森林研究	59	219-222	2008
大塚明宏・塚越剛史・山田利博・佐々木潔州・山本博一	スギ, ヒノキ大苗によるシカ食害防止の試み	日林関東森林研究	59	235-238	2008
井上淳・荒木田きよみ・澤田晴雄・高徳佳絵・後藤太成・渡部賢・荒木田善隆	東京大学愛知演習林ヒノキ密度試験地の成長経過	日林中部森林研究	57	15-18	2008
澤田晴雄・荒木田きよみ・高徳佳絵・後藤太成・渡部賢・井上淳・荒木田善隆	28年間無間伐のまま推移した78年生ヒノキ人工林の成長経過	日林中部森林研究	57	19-22	2008
山本清龍・鴨田重裕・渡邊良広・村瀬一隆・辻良子	小中学生の保護者の環境認識と森林体験への志向に関する研究	日林中部森林研究	57	93-96	2008
渡邊良広・山本清龍・鴨田重裕・村瀬一隆・辻和明・辻良子	東京大学樹芸研究所における森林体験が学生にもたらす教育効果の検証	日林中部森林研究	57	97-100	2008
高徳佳絵・澤田晴雄・渡部賢・鎌田直人	東京大学愛知演習林犬山試験地内におけるカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害の実態	日林中部森林研究	57	289-292	2008
越智匠作・太田猛彦・田中延亮・堀田紀文	スギ幼齢林からの降雨中の蒸発強度	日林中部森林研究	57		2008
Nakajima, T., Matsumoto, M., Sawada, H., Tatsuhashi, S., Tatang, T., Shiraishi, N.	Estimation of diameter growth parameters for Chamaecyparis obtusa and Cryptomeria japonica plantation under various thinning strategies using the Local Yield Table Construction System	日林中部森林研究	57	127-130	2008
佐藤晋介・久保田拓志・藏治光一郎・松本淳	東南アジアにおける陸上降雨量の推定精度	日本気象学会2008年度春季大会			2008
石塚航・梶幹男	秩父山地天然林に優占するブナとイヌブナの実生と成木の分布	日本生態学会大会講演要旨	55	P2-087	2008
鈴木牧・梶幹男・大久保達弘	太平洋型ブナ林大面积プロットにおける十年間の動態	日本生態学会大会講演要旨	55	P2-094	2008
山道真人・藤田剛・吉尾政信・鈴木牧・浅田正彦・落合啓二・立田晴記・宮下直	ミトコンドリア多型情報と階層ベイズモデルによるシカ個体群動態の推定	日本生態学会大会講演要旨	55	P2-192	2008
前原忠・鎌田直人	クロカタビロオサムシ大量発生時の越冬状況について	日本土壤動物学会	31		2008
会沢栄志・石野貴久・寺田珠実・鮫島正浩・井上広喜・鴨田重裕	イチョウにおける雌雄の早期判別法を探る(2)	日本木材学会大会			2008
嶋田大作・齋藤暖生・三俣学	スウェーデン・ノルウェー・フィンランドにおける万人権の制度比較—重層的な自然資源利用のあり方をめぐって—	林業経済学会			2008
浅井美香・齋藤暖生・泉留維・山下詠子	林野財産区をめぐるガバナンスの多様性と変容—山梨県と和歌山県の事例から—	林業経済学会			2008

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一号	頁	年
堤真知子・松下範久・高橋由紀子・坂上大翼・寶月岱造	東京大学演習林田無試験地におけるサクラでんぐ巢病菌の遺伝子型分布	樹木医学会発表等講要	13	20	2008
尾張敏章	木材加工企業の顧客価値に関する調査結果	北海道林業再生研究会			2008
尾張敏章	林分動態の長期モニタリングに基づく伐林の持続的管理システムの構築	2008年度東京大学AGS研究会年次報告会			2008
山本清龍・井倉洋二	青木ヶ原樹海利用の現状と課題－利用者体験の質の視点から	山梨県環境科学研究所国際シンポジウム2007報告書「青木ヶ原樹海の保護と利用－望ましい姿を求めて私たちにできること」			2008
藏治光一郎	林業、山仕事、森づくり、緑のダム、森の健康診断	四万十・流域圏学会第8回総会・学術研究発表会概要集		23-24	2008
藏治光一郎	過去90年間における綾南川、綾北川の流況の変化	第2回照葉樹林研究フォーラム～100年の森をめざして～要旨集		6-7	2008
藏治光一郎・Kowit Punyatrong	タイ・メーザム流域における10年間の降水量観測	水文・水資源学会2008年度研究発表会要旨集		2-3	2008
五名美江・若原妙子・白木克繁・藏治光一郎・鈴木雅一	マレーシア・サラワク州ランビル国立公園における硫酸酸性渓流水の形成メカニズムの検討	水文・水資源学会2008年度研究発表会要旨集		260-261	2008
SAITO, Haruo	Reviving Lucrative Matsutake Mushroom Harvesting and Restoring the Commons in Contemporary Japan	The 12th Biennial Conference of the International Association for the Study of Commons			2008
Nakajima T, Hirata Y, Hiroshima T, Lee JS, Furuya N and Tatsuhara S	Analysis of the relationships between tree growth and crown information derived from airborne LiDAR data	SilviLaser 2008			2008
Nakajima T, Lee JS, Hirata Y, Hiroshima T, Tatsuhara S and Shiraishi N	Risk assessment of wind hazard based on a crown model using remote-sensing data	Mtg Jpn For Soc 120			2009

**著書**

著者名	題 目	書名・編者	出版社名	頁	年
尾張敏章(共著)	同語異義	『東京大学アカデミックグループ』東京大学編	東京大学	59-76	2008
後藤晋(分担執筆)	ウダイカンバ・シラカンバ・ダケカンバ	『北海道における林木育種と森林遺伝資源』	北海道林木育種協会	147-158	2008
後藤晋(分担執筆)	ヤチダモ・アオダモ	『北海道における林木育種と森林遺伝資源』	北海道林木育種協会	180-188	2008
山田利博(共著)	Biochemical Responses in Pine Trees Affected by Pine Wilt Disease	『Pine Wilt Disease.』 Eds. Zhao BG, Futai K, Sutherland JR, Takeuchi Y.	Springer		2008
藏治光一郎(編著)	森林環境税は森を救えるか—第20回日本の森と自然を守る全国集会より—		東京大学演習林出版局		2008
藏治光一郎(分担執筆)	流域森林管理の歴史と現状	『人工林荒廃と水・土砂流出の実態』恩田裕一編	岩波書店	163-170	2008
藏治光一郎(分担執筆)	流域森林管理と市民参加	『人工林荒廃と水・土砂流出の実態』恩田裕一編	岩波書店	200-209	2008
藏治光一郎(分担執筆)	NGO、樹冠遮断、樹幹流	『川の百科事典』高橋裕・岩屋隆夫・沖大幹・島谷幸宏・寶鑑・玉井信行・野々村邦夫・藤芳素生(編)	丸善	174・376	2008
Wang Y, Yamada T, Sakaue D & Suzuki K	Influence of fungi on multiplication and distribution of the pinewood nematode	『Pine Wilt Disease: A Worldwide Threat to Forest Ecosystems.』 Eds. Mota, M. M. & Vieira, P.	Springer	115-127	2008
Tanaka, N., Kuraji, K., Tantasirin, C., Takizawa, H., Tangtham, N., Suzuki, M.	Relationships between rainfall, fog and throughfall at a hill evergreen forest site in northern Thailand	『Mountains in the Mist: Science for Conserving and Managing Tropical Montane Cloud Forests.』 Eds. Bruijnzeel, L.A., Scatena, F.N., Bubb, P.	UH Press, Honolulu.		2008
Kraxner, F., Mater, C., Owari, T.	Green building drives construction market and forest certification	『Certified forest products markets, 2007-2008 Forest Products Annual Market Review 2007-2008.』 Geneva Timber and Forest Study Paper 23,	United Nations, New York and Geneva UNECE/FAO,	107-122	2008

## 外部資金によって行われた研究

### 科学研究費

氏名	研究種目	研究課題	研究代表者	代表者所属
梶 幹男	基盤研究(A)	50年間の林分動態と施業履歴に基づく森林生態系の順応型管理システムの構築	梶 幹男	東京大学北海道演習林
山田利博	基盤研究(A)	劇症型樹木萎凋病の発病メカニズムに関する分子生物学的研究	二井一禎	京都大学
鎌田直人	基盤研究(A)	森林の時空間的存在様式が昆虫の遺伝的特性に及ぼす影響—ブナ林の昆虫を対象として—	久保田耕平	東京大学
鎌田直人	基盤研究(A)	高解像度衛星データ活用のための東アジアの植生調査	村本健一郎	金沢大学
坂上大翼	基盤研究(A)	昆虫嗜好性線虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雑と媒介昆虫種数の影響	富樫一巳	東京大学
藏治光一郎	基盤研究(A)	森林生態系における水・物質動態の流域特性の広域比較研究	丹下健	東京大学
山田利博	基盤研究(B)	マツノザイセンチュウに対する抵抗性マツの抵抗性発現機構の解明	山田利博	東京大学千葉演習林
鎌田直人	基盤研究(B)	隔離ブナ集団の繁殖能力低下をめぐる開花量とシナと散布前虫害との関係の解明	鎌田直人	東京大学秩父演習林
鎌田直人	基盤研究(B)	媒介昆虫と病原菌の遺伝的変異と病原性の変異からナラ枯れの起源に迫る	鎌田直人	東京大学秩父演習林
後藤 晋	基盤研究(B)	樹木個体群における自然選択に対する遺伝適応の実態解明	後藤 晋	東京大学田無試験地
後藤 晋	基盤研究(B)	地域スケールにおける樹木の遺伝構造の解明と森林生態系管理への提案	井出雄二	東京大学
坂上大翼	基盤研究(B)	マツ材線虫病におけるキャビテーション発生機構の解明	福田健二	東京大学
山田利博	基盤研究(B)	ナラ類萎凋病における樹種間の枯死機構と抵抗性機構の比較研究	伊藤進一郎	三重大学
山本清龍	基盤研究(B)	森林を題材とした新しい環境教育の創造とプログラムの開発・実践・評価	井倉洋二	鹿児島大学
後藤 晋	基盤研究(B)	中国の自然マングローブ保護区における主要樹種の遺伝的多様性と繁殖実態の調査	練 春蘭	東京大学

氏名	研究種目	研究課題	研究代表者	代表者所属
浅野友子	若手研究(B)	山地源流域における降雨一流出特性の広域比較手法の開発	浅野友子	東京大学演習林研究部
尾張敏章	若手研究(B)	地理空間情報技術を用いた森林生態系の精密管理システムの構築	尾張敏章	東京大学北海道演習林
山本清龍	若手研究(B)	森林の機能に対する理解が環境配慮意識・行動の形成に及ぼす影響に関する研究	山本清龍	東京大学富士演習林
前原忠・鎌田直人	基盤研究(C)	捕食性オサムシの生活史形質と個体生態研究による遅れのない密度依存性の機構の解明	前原忠	東京大学田無試験地
後藤晋	基盤研究(S)	森林樹木種および外生菌根菌種の網羅的分子遺伝解析と分子生態データベースの構築	宝月岱造	東京大学
齋藤暖生	特定領域研究	持続可能な発展の重層的環境ガバナンス(A03:グローバル時代のローカル・コモンズの管理)	室田武	同志社大学
大塚明宏	奨励研究	キヨスミミツバツツジの増殖保全法確立とデータベース化による一括保護管理	大塚明宏	東京大学千葉演習林
大石諭	奨励研究	GISを利用した多目的林道情報検索システムの開発	大石諭	東京大学千葉演習林
塙越剛史	奨励研究	実生サンブスギをベースにしたスギ品種の地域別着花量の比較	塙越剛史	東京大学千葉演習林
高野充広	奨励研究	森林から得られる燃料を使った林業体験プログラムの開発	高野充広	東京大学秩父演習林
村瀬一隆	奨励研究	南伊豆地域に生息する野生動物相調査	村瀬一隆	東京大学樹芸研究所
渡邊良広	奨励研究	旧薪炭林のスダジイをDNAで個体識別して森林動態解明の最先端林へ	渡邊良広	東京大学樹芸研究所

### その他補助金

氏名	補助金等名称	研究課題	研究代表者	代表者所属
下村彰男	平成19年度東京大学AGSサステイナブルキャンパス研究助成	演習林の炭素吸収能の向上に関する研究	下村彰男	演習林長

## 奨学寄付金

氏名	寄付目的	寄付者
山田利博	松くい虫防除に関する研究	(社)ゴルファーの緑化推進協力会
山田利博	放射線を用いた樹木内部の傷害様式の解明と非破壊診断法の高度化	(財)新技術開発財団
山田利博	房総丘陵産樹種の有効利用を目的とした増殖・育苗技術の確立	内山グリーン(株)
梶 幹男	学術研究及び農学生命科学研究奨励	(株)サントリー
梶 幹男	北海道演習林における持続的木材生産と環境保全に関する農学生命科学研究助成	小山 富士夫
鎌田直人	クズ・イシミカワの生物防除に用いる葉食性昆虫の探索と生物検定	アメリカ合衆国農務省

## 受託研究費

氏名	研究課題名	委託機関
廣嶋卓也	農林水産業における温暖化対策技術の高度化に関する研究	森林総合研究所
梶 幹男	石灰岩地帯の針広混交林における生態系基礎調査、石灰岩ドロマイドに関する地質学的研究及びドロマイド鉱山の緑化に関する研究	(株)王子緑化
鎌田直人	平成20年度IARC-JAXA情報システム(IJIS)及び衛星データ等を利用した北極圏研究業務	JAXA
藏治光一郎	熱帶林の熱・水循環の計測とモデリング及びモンスーン気候解析と降水現象の年々変動	(独)科学技術振興機構
藏治光一郎	森林施業と水流出の関係	(独)科学技術振興機構
山本清龍	富士登山の心理的・生理的効果の解明と環境配慮型登山プログラムの提案	静岡県

## 他機関との共同研究

氏名	研究課題名	共同研究機関
山本清龍	地域における自然体験活動を通した環境認識の形成に関する研究	山梨県環境科学研究所

## ■社会連携■

### 公開講座・セミナー等

講 座 名	主 催	開 催 場 所	日 程
鴨川市・東京大学交流事業 野鳥の巣箱をかけよう(巣箱作り)	鴨川市・千葉演習林共催	千葉演習林	2008.4.5
春の一般公開	千葉演習林	千葉演習林	2008.4.20
生物部合宿	教育学部附属中等教育学校生物 学部	千葉演習林	2008.7.23～7.25
高校生のための森と海のゼミナール	高校生のための 森と海のゼミ ナール実行委員 会	千葉演習林、千 葉大学海洋バイ オシステム研究セ ンター	2008.7.29～7.31
研修会	船橋市中教協理 科部会	千葉演習林	2008.8.6～8.7
公開講座 夏の森林教室	千葉演習林	千葉演習林	2008.8.9
農山村留学	千葉市立稻毛小 学校	千葉演習林	2008.9.18
緑の教室	鴨川市立天津小 学校	千葉演習林	2008.10.31
鴨川市・東京大学交流事業 野鳥の巣箱をかけよう(巣箱観察)	鴨川市・千葉演習林共催	千葉演習林	2008.11.8
秋の一般公開	千葉演習林	千葉演習林	2008.11.22,11.23,11.24,11.29,11.30
スクールミュージアム構想 野鳥の巣箱作り	君津市教育委員 会	君津市立藏玉小 学校	2008.12.13
公開講座 冬の森を歩こう	千葉演習林	千葉演習林	2009.1.17
森林博物資料館公開	千葉演習林	千葉演習林	2009.2.3
森林インストラクター東京会研修会	森林インストラク ター会東京会	千葉演習林	2009.3.20～3.21
演習林を歩こう	千葉演習林ボラ ンティア会Abies	千葉演習林	2009.3.29
森林GISフォーラム東京シンポジウム	森林GISフォーラ ム	東京	2009.2.1
市民公開セミナー「樹海めぐり」	北海道演習林	北海道演習林	2008.6.8
大麓山ハイキング登山	北海道演習林	北海道演習林	2008.7.21
サポートー養成講座第1回「秩父演習林の教育 研究」	秩父演習林	秩父演習林	2008.4.19

講 座 名	主 催	開 催 場 所	日 程
木が香る秩父フェスティバル	木が香る秩父 フェスティバル実行委員会	道の駅ちちぶ	2008.5.10～5.11
サポーター養成講座第2回「秩父演習林(森林・施設)の管理・運営」	秩父演習林	秩父演習林	2008.5.20
共催事業 森林で遊ぼうI「新緑のトロッコ軌道」	秩父演習林	秩父演習林・埼玉県立大滝げんきプラザ	2008.5.24
サポーター養成講座第3回「秩父演習林の植物(樹木・草本)」	秩父演習林	秩父演習林	2008.6.8
サポーター養成講座第4回「森林における安全管理」	秩父演習林	秩父演習林	2008.6.21
サポーター養成講座第5回「秩父演習林の動物」	秩父演習林	秩父演習林	2008.7.4
サポーター養成講座 第6回「森林生態系の管理と利用」	秩父演習林	秩父演習林	2008.8.30
サポーター養成講座 第7回「林業生産と育林技術」	秩父演習林	秩父演習林	2008.9.5
共催事業 「水生昆虫採集」	秩父演習林	秩父演習林・埼玉県立大滝げんきプラザ	2008.9.6
公開講座「秩父演習林のきのこ」	秩父演習林	秩父演習林	2008.9.28
サポーター養成講座第8回「森林の公益的功能(水源涵養・防災・景観)」	秩父演習林	秩父演習林	2008.10.17
ワサビ沢展示室特別開室	秩父演習林	ワサビ沢展示室	2008.10.18,10.19,10.25,11.2,11.8,11.9
自由見学日	秩父演習林	秩父演習林	2008.10.31～11.1
サポーター養成講座第9回「秩父演習林と秩父地方の歴史」	秩父演習林	秩父演習林	2008.11.6
影森祭	秩父演習林	影森苗畑	2008.12.14
公開講座「冬の森林観察」	秩父演習林	秩父演習林	2009.3.14
公開講座「鳥の巣箱作りと観察」③	愛知演習林	愛知演習林	2008.5.11
公開講座「水生昆虫」	愛知演習林	愛知演習林	2008.7.25
公開講座「鳥の巣箱作りと観察」①	愛知演習林	愛知演習林	2008.8.24
犬山市民講座「東京大学愛知演習林におけるカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害の実態」	犬山市	愛知演習林・犬山里山学センター	2008.11.8

講 座 名	主 催	開 催 場 所	日 程
公開講座「犬山の森を知ろう！！」親子で楽しむ東大演習林	愛知演習林・犬山市・エコアップ リーダー東大G	愛知演習林	2008.11.15
公開講座「マツ枯れ跡地に一緒にマツを植えませんか」	愛知演習林	愛知演習林	2009.3.15
公開セミナー「入会権の公共性」	科学研究費補助 金特定領域研究 「グローバル時代のローカル・コモンズの管理」 ／富士吉田市外 2ヶ村恩賜県有 財産保護組合 (共催)	富士吉田市 樹芸研究所	2008.10.18～10.19
中学校総合学習	静岡大学教育学部附属浜松中学 校	樹芸研究所	2008.4.9
公開講座「春の散策」	樹芸研究所	樹芸研究所	2008.5.14
温室特別公開	樹芸研究所	樹芸研究所	2008.6.17,10.16,11.20, 12.18,2009.1.22,2.19, 3.19
第1回職員研修	静岡県立下田高校 南伊豆分校	樹芸研究所	2008.7.8
公開講座「子ども樹木博士」	樹芸研究所	樹芸研究所	2008.7.13
静岡県高等学校理科AT公開授業	静岡県立下田高校	樹芸研究所	2008.7.29
森林と県民との交流事業「森林鑑定団」	静岡県	樹芸研究所	2008.11.15
公開講座「鳥の巣箱をつくろう！」	樹芸研究所	樹芸研究所	2008.12.6
森林科学セミナー(生物系)：針葉樹における局所適応の実態を探る	森林科学専攻	東京大学弥生 キャンパス 農学 部1号館	2008.4.17
森林教室	田無試験地	田無試験地	2008.8.31
子ども樹木博士	西東京市子ども 樹木博士を育て る会	田無試験地	2008.5.25,10.26
休日一般公開	田無試験地	田無試験地	2008.4.27,5.6,5.25, 8.31,10.26,11.29,11.30

## 講師の派遣等

氏名	講演名	主催	開催場所	日程
軽込勉	君津青葉高校郊外実習	千葉県立君津青葉高校	郷台、清澄作業所管内	2008.6.3～6.4
才木道雄・三次充和・鈴木祐紀・藤平晃司・阿達康眞・柏谷善廣・長谷川二郎	「生物部合宿」指導	東京大学教育学部附属中等教育学校	札郷作業所	2008.7.23～7.25
井上広喜・井口和信・才木道雄・三次充和	船橋市立中学校理科教諭 理科部会研修	船橋市立中学校理科 教諭理科部会	清澄作業所	2008.8.6～8.7
三次充和・才木道雄・永島初義・塚越剛史・唐鎌勇・富川勲	「農山村留学」	千葉市立稻毛小学校	千葉演習林、清澄寺周辺	2008.9.18
阿達康眞・才木道雄	「野鳥の巣箱づくり」	君津市教育委員会	蔵玉小学校	2008.12.13
犬飼浩	天然林における優良広葉樹の管理	全国天然木化粧合板工業協同組合連合会	北海道演習林	2008.4.16
犬飼浩・松井理生・平田雅和・笠原久臣・小川瞳	天然林施業と路網、アイヌ先住民族の文化	森林研究機関国際連合(IUFRO)第3部会	北海道演習林、二風谷アイヌ文化博物館	2008.6.19～6.20
大川あゆ子	ネイチャーリーダー養成講座「荒川上流浅瀬釣り体験」	埼玉県立大滝げんき プラザ・秩父演習林 共催	荒川上流:大滝げんきプラザ	2008.9.6
磯崎靖雄	環境展2008	ふらの市民環境会議	富良野市立図書館	2008.10.4
犬飼浩・笠原久臣	天然林施業と林産利用	北海道立林産試験場	北海道演習林	2008.10.21
犬飼浩・笠原久臣	東京大学北海道演習林の天然林施業	森林研究機関国際連合(IUFRO)第1部会	北海道演習林	2008.10.22～10.23
松井理生	北海道演習林における山火事・台風被害とその後の森林回復	統計数理研究所数理・数論研究系、札幌医科大学医学部数学教室	北海道演習林	2008.2.6
松井理生	東京大学北海道演習林におけるエゾマツ人工造林の取り組み	エゾマツ研究会	北海道大学	2008.2.27

氏名	講演名	主催	開催場所	日程
小川瞳	エゾマツ実生育苗の実際～ 2008年 度現在取り組んでいること～	エゾマツ研究会	北海道大学	2008.2.27
荒木田善隆・芝 野伸策・五十嵐 勇治・西山教雄・ 神塚武一	関東甲信越地区大学演習 林技術職員研修	東京大学	秩父演習林	2008.9.9～ 9.12
高徳佳絵	探鳥会指導	犬山市立今井小学校	犬山市立今井小学校	2008.4.25
高徳佳絵	探鳥会指導	犬山市立城東小学校	犬山市立城東小学校	2008.5.13
高徳佳絵	探鳥会指導	犬山市立今井小学校	犬山市立今井小学校	2008.6.20
高徳佳絵	探鳥会指導	犬山市立城東小学校	犬山市立城東小学校	2008.7.22
高徳佳絵	探鳥会指導	犬山市立城東小学校	犬山市立城東小学校	2008.11.6
澤田晴雄	犬山市・市民大学講座「東 京大学愛知演習林における カシノナガキクイムシによる ナラ枯れ被害の実態」	犬山市	犬山里山学センター	2008.11.8
高徳佳絵	探鳥会指導	犬山市立今井小学校	犬山市立今井小学校	2008.11.21
高徳佳絵	探鳥会指導	犬山市立今井小学校	犬山市立今井小学校	2009.2.7
高徳佳絵	生涯学習講座「バードウォッ チング」	下品野公民館	瀬戸市下品野公民館 ～岩屋堂周辺	2009.2.8
高徳佳絵	探鳥会指導	犬山市立城東小学校	犬山市立城東小学校	2009.3.25

## 学外各種委員会等委員

氏名	委員会等名称	委員会等所属機関
山田利博	樹木医研修カリキュラム委員会	(財)日本緑化センター
山田利博	コーディネーター会議	(財)放射線利用振興協会
山田利博	千葉県森林審議会	千葉県
山田利博	千葉県試験研究機関評価委員会	千葉県
山田利博	千葉県国土利用計画地方審議会	千葉県
山田利博	千葉県土砂採取対策審議会	千葉県
山田利博	鴨川市文化財保護審議会	鴨川市
廣嶋卓也	「森林吸收源インベントリ情報整備事業」(次期枠組みにおける吸收量計上方法等調査)委員会	国際緑化推進センター
廣嶋卓也	広報委員会	森林計画学会
廣嶋卓也	関東地区運営委員	森林GISフォーラム
廣嶋卓也	事務局	FORMAT研究会
山中征夫	千葉県特定鳥獣保護管理計画(ニホンジカ)策定検討委員会	千葉県環境生活部
梶 幹男	地域管理経営計画等に関する懇談会委員	北海道森林管理局
梶 幹男	北方林業会理事	北方林業会
梶 幹男	北海道林木育種協会評議員	北海道林木育種協会
梶 幹男	自然環境保全基礎調査検討会植生分科会検討委員	環境省自然管理局
梶 幹男	「木質バイオマス利用のハウス栽培事業化調査」委員会委員	南富良野町森林組合
梶 幹男	日本森林学会北海道支部評議員	日本森林学会北海道支部
尾張敏章	日本森林学会北海道支部幹事	日本森林学会北海道支部
尾張敏章	新林業機械作業システム検討協議会委員	北海道水産林務部
尾張敏章	林地残材集荷システム検討会議委員	北海道水産林務部
尾張敏章	アドバイザー	北海道科学技術総合振興センター
尾張敏章	プログラム指導員	北海道大学情報基盤センター
尾張敏章	南富良野地域環境情報協議会委員	森林総合研究所森林農地整備センター
尾張敏章	森林利用学会理事	森林利用学会
尾張敏章	森林利用学会誌編集委員	森林利用学会
小川 瞳	北海道林木育種協会地方連絡員	北海道林木育種協会
鎌田直人	兼六園マツ等樹木保全対策指導者	石川県
鎌田直人	「ふるさとの森 再び」推進委員会委員	テレビ金沢
鎌田直人	研究助成審査委員	日本学術振興会
鎌田直人	国選食糧農業機構森林資源部門森林保護セクション アドバイザー	FAO

氏名	委員会等名称	委員会等所属機関
鎌田直人	国際森林研究機関連合第7部会副会長	IUFRO
鎌田直人	国際森林研究機関連合WG07.02.05副会長	IUFRO
鎌田直人	Journal of Forest Research編集委員	日本森林学会
鎌田直人	編集委員	日本応用動物昆虫学会
鎌田直人	和文誌編集委員	日本生態学会
鎌田直人	編集委員	日本昆虫学会
鎌田直人	運営委員(会報担当)	個体群生態学会
藤原章雄	日本造園学会総務委員会	日本造園学会
蔵治光一郎	とよた森づくり委員会	豊田市
蔵治光一郎	水循環推進協議会	岡崎市
蔵治光一郎	国際委員会	水文・水資源学会
蔵治光一郎	評議員・監事	日本森林学会
蔵治光一郎	役員(副会長)	あいち自然環境団体・施設連絡協議会
山本清龍	山中湖村エコツーリズム推進協議会	山中湖村
山本清龍	山中湖村エコツーリズム推進協議会ワークショップ検討委員会	山中湖村
山本清龍	山中湖村景観計画検討委員会	山中湖村
山本清龍	富士山原始林保存管理計画検討委員会	山梨県
山本清龍	富士山青木ヶ原樹海等エコツーリズム推進協議会	山梨県
山本清龍	研究発表論文集編集委員会	日本造園学会
山本清龍	環境研究発表会査読委員	環境情報科学センター
後藤晋	樹木医学研究編集委員	
後藤晋	森林総合研究所重点会議評価委員	
楠本大	理事会	樹木医学会
石橋整司	埼玉県農林総合研究センター研究等評価委員会委員	埼玉県

## ■国際交流■

### 交流事業

相手大学および 機関名	国名	協定締結 の有無	交流期間	目的
東北林業大学帽儿 山実験林場	中華人民共和国	有	2005.3.28 (5年間)	森林経営に関する総合的な共同研 究・技術交流

### 国際シンポジウム

参加者氏名	シンポジウム名	主 催	開 催 地	日 程
廣嶋卓也	FORMATHE TOKYO 2009	FORMATHE研究会	東京	2009.3.14~15
藏治光一郎	ATBC Asian Chapter annual meeting "Towards sustainable land-use in the tropical Asia-Pacific region"	The Association for Tropical Biology and Conservation (ATBC)	Kuching	2008.4.23~24
尾張敏章	国際森林研究機関連合(IUFRO)第3部会全体会議	IUFRO	札幌、富良野	2008.6.15~20
藏治光一郎	International Seminar on Landuse Change and Societal Adaptation under Global Climate Change in Asian Tropical Rain Forests: Cases in Borneo	UMS/京都大学生態学研究センター	Kota Kinabalu	2008.8.4~5
藏治光一郎	Landscape Ecology International Conference	IUFRO Landscape Ecology Working Group	成都	2008.9.16~18
尾張敏章	木材科学技術に関する国際シンポジウム(IAWPS2008)	IAWPS	ハルビン(中国)	2008.9.27~29
浅野友子	HydroChange 2008	RIHN, IAHS, GWSP	京都	2008.10.1~3
田中延亮	FORTROPII "Tropical Forestry Change in a Changing World"	Kasetsart University	Bangkok	2008.11.17~20
藏治光一郎	FORTROPII "Tropical Forestry Change in a Changing World"	Kasetsart University	Bangkok	2008.11.17~20
浅野友子	AGU Fall meeting	American Geophysical Union	San Francisco	2008.12.15~19

### 共同研究

氏名	研究課題	共同研究者所属	氏名	国籍
藏治光一郎	タイ国メーチャム流域とその周辺域における降水量観測	国立公園野生生物管理局	Kowit Punyatrong	タイ
藏治光一郎	マレーシア・キナバル山における水文・水質特性	京都大学	北山兼弘	マレーシア
藏治光一郎	マレーシア・ランビル国立公園 サラワク森林コーポレーションにおける降雨・流出・水質特性	Lucy Chong		マレーシア

## 外国人研究者の来訪

来訪目的	日程	国籍	来訪人数
IUFRO国際会議エクスカーション	2008.6.18～6.20	アメリカ合衆国・カナダ・オーストラリア・韓国・台湾・マレーシア・スペイン・イタリア・スイス・オーストリア・ドイツ・スウェーデン・フィンランド・スロベニア・チェコ・ポーランド	77
タイミンタチバナの個体群調査	2008.8.4～10.1	ペルー	1
森林政策学演習	2008.8.19～8.22	イギリス	1
SOIL SAMPLING	2008.8.26～8.29	ハイチ	1
北海道演習林における研究活動及び管理運営に関する情報収集及び林内見学	2008.9.30～10.1	中国・韓国	3
修士論文研究	2008.10.1～10.9	ネパール	1
日本産樹木種子採取	2008.10.6～10.8	スイス	1
国際林業研究機関連合の国際研究集会に係る現地見学会	2008.10.22～10.23	スロヴェニア・フィンランド・ルーマニア・中国・エストニア・USA	15
JICA地域別研修「環太平洋地域C&I森林認証コース」	2008.10.24	アルゼンチン・中華人民共和国・インドネシア・ラオス・ミャンマー・ニカラグア・ベトナム	8
日本産カエデ属樹木の採集・写真撮影など	2008.11.4～11.8	ポーランド	2
養菌性キクイムシ類のニッチと共生菌に関する研究	2009.2.23～2.26	タイ	1
試験地の下見	2008.11.19	タイ	1
試験地の下見	2008.11.20	タイ	1
試験丸太の設置	2009.2.25	タイ	1

## 海外渡航

氏名	所属演習林	行き先	用務	出発日	帰国日
蔵治光一郎	愛知	マレーシア	The Association for Tropical Biology and Conservation (ATBC) 2008 出席	2008.4.22	2008.4.25
蔵治光一郎	愛知	マレーシア	キナバル・ランビル国立公園での水サンプル回収、水位計・雨量計のデータ回収	2008.5.6	2008.5.14
尾張敏章	北海道	スイス・ドイツ	スイス・南ドイツにおける持続的伐木管理システムの現地調査	2008.5.10	2008.5.18
後藤晋	田無	スイス・南ドイツ	スイスおよび南ドイツの伐木施業の現地検討	2008.5.12	2008.5.18
鎌田直人	秩父	タイ	カシノナガキクイムシと共生菌の採集	2008.5.27	2008.5.31
鎌田直人	秩父	南アフリカ	第23回国際昆虫学会議	2008.7.5	2008.7.13
田中延亮	愛知	タイ	熱帯モンスーン林における水文気象の観測	2008.7.7	2008.7.22
齋藤暖生	秩父	イギリス	コモンズ研究国際会議	2008.7.12	2008.7.20
齋藤暖生	秩父	イギリス	学会発表(The 12th Biennial Conference of the International Association for the Study of Commons)	2008.7.14	2008.7.19
鎌田直人	秩父	アメリカ(アラスカ)	H20年度IARC-JAXA情報システム及び衛星データ等を利用した北極圏研究業務に関する現地調査	2008.7.22	2008.8.10
蔵治光一郎	愛知	マレーシア	タイ国バンコク・カセサート大学での発表、チェンマイ国立公園野生生物局と、メーキャム流域内雨量観測ステーションでの報告	2008.7.29	2008.8.8
蔵治光一郎	愛知	マレーシア	キナバル国立公園におけるデータ回収と現地調査	2008.8.28	2008.9.1
鎌田直人	秩父	韓国	韓国における森林衰退の調査	2008.9.1	2008.9.8
蔵治光一郎	愛知	中国	Landscape Ecology International Conference 出席	2008.9.15	2008.9.19
鎌田直人	秩父	ロシア	ロシア沿海州における森林衰退の調査	2008.9.26	2008.10.3
尾張敏章	北海道	中国・韓国	木材科学技術に関する国際シンポジウム(IAWPS2008)において研究発表のため	2008.9.26	2008.10.1
蔵治光一郎	愛知	マレーシア	観測機器の撤収、現地共同研究者の研究成果の発表データ回収及び現地調査	2008.9.28	2008.10.3
宮本義憲	北海道	スロベニア・クロアチア	石灰岩・ドロマイ特地帯の植生調査	2008.10.15	2008.10.21
田中延亮	愛知	タイ	国際シンポジウムFORTROPII参加と熱帯モンスーン林における水文気象の観測機器の撤収	2008.11.17	2008.11.29

氏名	所属演習林	行き先	用務	出発日	帰国日
藏治光一郎	愛知	タイ	FORTROP II に出席、発表・チェンマイ 国立公園メチャム流域の測器検定及び 測器撤収	2008.11.17	2008.12.2
鎌田直人	秩父	インドネシア	科研調査打合せと調査許可申請および試験地の下見	2008.12.4	2008.12.13
西山教雄	秩父	インドネシア	インドネシアの熱帯雨林の植生・持続可能な森林管理手法の現状研修	2008.12.4	2008.12.13
鎌田直人	秩父	タイ	カシノナガキクイムシとその近縁種及び共生菌の採集	2009.1.10	2009.1.16
安村直樹	研究部	オーストラリア・ニュージーランド	循環型社会に資する「日本型」森林管理・経営モデルの構築	2009.1.11	2009.1.24
鎌田直人	秩父	フィリピン	カシノナガキクイムシとその近縁種及び共生菌の採集	2009.2.7	2009.2.15
齋藤暖生	富士	ラオス	現地調査(科研・基盤研究A「東南アジア平原地帯における複合的な資源利用とその持続的発展に関する研究」の研究協力者として)	2009.2.20	2009.3.3
藏治光一郎	愛知	マレーシア	アジア熱帯降雨林地域における土地利用転換の広域影響把握と、社会適応策の構築に関する現地調査	2009.2.24	2009.3.9
田中延亮	愛知	タイ	熱帯モンスーン林における水文気象の観測機器の点検	2009.2.25	2009.3.9
鎌田直人	秩父	タイ	カシノナガキクイムシとその近縁種及び共生菌の採集調査	2009.3.2	2009.3.9

## ■出版広報活動■

### 演習林報告

「演習林報告」119号・120号を発行した。

#### 演習林報告第119号 2008年12月25日発行

澤田晴雄・梶 幹男・大村和也・大久保達也 秩父山地イヌブナ-ブナ林の齢構造と更新特性	1-23
アレッサンドロ パレット・クリスティーナ セレーノ・古井戸宏通 欧州および日本における森林管理の歴史的展開	25-44
寺田珠実・兼行民治郎・井上広喜・鴨田重裕 イチョウ組織培養系におけるステロールと細胞増殖(2) —メバロン酸代謝物の影響—	45-57

#### 演習林報告第120号 2009年3月25日発行

進藤克実・松下範久 非滅菌環境下におけるマツタケとアカマツの菌根合体	1-9
矢野初美・後藤 晋 造園・園芸利用種アオキにおける異なる葉緑体ハプロタイプ間の交雑	11-18
尾張敏章・笠原久臣・及川 希・福岡 哲 東京大学北海道演習林におけるGPS測位精度の季節変動	19-28
エイミー チュアファンリン・鈴木雅一・大手信人・堀田紀文・久米朋宣 東南アジア熱帯雨林の蒸発散量季節変化: Biome-BGCモデルによる再現性の試行	29-44
石野貴久・会沢栄志・寺田珠実・鮫島正浩・鴨田重裕 日本産イチイ科植物におけるタキソイド生成能	45-52
東京大学農学部演習林報告自第百十一号至百二十号総目次	i-xiv

## 演習林

「演習林」48号を発行した。

### 演習林第48号 2009年1月31日発行

丹下 健・肖 映秋 育苗資料:床替え時期とスギ1年生苗の成長	1-8
澤田晴雄・渡部 賢・井上 淳・高徳佳絵・荒木田きよみ・後藤太成・芝野博文・荒木田善隆 愛知演習林新居試験地におけるマツ材線虫病による被害の推移と対処経過	9-24
澤田晴雄・荒木田きよみ・井上 淳・高徳佳絵・渡部 賢・後藤太成・荒木田善隆 愛知演習林ヒノキ・スギ人工林各種試験地の成長資料	25-101
東京大学演習林鳥類研究会 東京大学演習林鳥類目録	103-131
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 東京大学演習林気象報告(自2007年1月至2007年12月)	133-155

## 科学の森ニュース



### ■第42号 ■ 2008年6月10日発行

【表紙記事】ソメイヨシノ後継樹が駒場キャンパスに里帰り(田無試験地)

『記事』

- ・公開講座「マツ枯れ跡地と一緒にマツを植えませんか」(愛知演習林)
- ・満員御礼!「伊豆に学ぶ」(樹芸研究所)
- ・研究部木づかい運動<その1>(研究部)
- ・演習林のイベントダイジェスト 2008年2月～2008年9月

『クローズアップ』

演習林「鳥類研究会」(統括技術長 荒木田善隆)

『科学の森の動植物紹介』

チチブドウダン(秩父演習林)

『名所・名物紹介』

駒場からの移植樹木(田無試験地)



### ■第43号 ■ 2008年9月10日発行

【表紙記事】小宮山総長が北海道演習林を視察(北海道演習林)

『記事』

- ・東大基金パーティーでの企画展示(広報情報室)
- ・温室特別公開(樹芸研究所)
- ・本郷けやき保育園にウラジロモミを提供(秩父演習林・広報情報室)
- ・本の紹介 愛知演習林ブックレット②森林環境税は森を救えるか  
－第20回日本の森と自然を守る全国集会より－(愛知演習林)
- ・演習林のイベントダイジェスト 2008年5月～2008年12月

『クローズアップ』

ワサビ沢展示室(秩父演習林)

『科学の森の動植物紹介』

カラマツ(富士演習林)



### ■第44号 ■ 2008年12月10日発行

【表紙記事】千葉演習林紅葉の猪ノ川渓谷特別ガイドを実施(千葉演習林・広報情報室)

『記事』

- ・公開セミナー「入会権の公共性」(富士演習林)
- ・千葉演習林産のヒノキ材が「千葉県森林組合連合会長賞」受賞(千葉演習林)
- ・里親企画2008を開催しました(秩父演習林)
- ・里山フィールドサイエンス推進プログラム(東京大学秩父演習林黒石試験地長期占有利用用)

募集のお知らせ(秩父演習林)

・演習林のイベントダイジェスト 2008年8月～2009年3月

『クローズアップ』

演習林のボランティア(広報情報室・秩父演習林)



### ■第45号 ■ 2009年3月10日発行

【表紙記事】雨の中でも大盛況～東大演習林影森祭～(秩父演習林)

『記事』

- ・公開講座 犬山の森を知ろう！～親子で楽しむ東大演習林～(愛知演習林)
- ・シカ区画法調査にボランティア調査員が初参加(樹芸研究所)
- ・公開講座 冬の森を歩こう(千葉演習林)
- ・演習林のイベントダイジェスト 2008年11月～2009年6月

『クローズアップ』

東大からの架け箸(千葉演習林)

『科学の森の動植物紹介』

アオキ(田無試験地)

『コラム』

## 演習林出版物

### ■ 東京大学愛知演習林ブックレット② ■

【森林環境税は森を救えるか－第20回日本の森と自然を守る全国集会より－】

藏治光一郎 編 2008年8月21日発行

発行者 東京大学愛知演習林

発行所 東京大学演習林出版局

税込価格 1,500円 A5判 220頁

ISBN978-4-903321-07-3 C0061 ¥1429 E

#### 『目次』

主催者挨拶

歓迎の挨拶

主催者挨拶

歓迎の挨拶

#### 【基調講演】

原田裕保・梶返恭彦・内山佳美・佐藤和歌子

#### 【パネルディスカッション】

コーディネーター

飯尾 歩

報告

絹川純一郎

パネラー

丹羽健司・藏治光一郎・上杉 育・佐藤仁志

#### 【第2分科会】



## 新聞・雑誌・放送等

演習林名	メ デ ィ ア	日 付	内 容
千葉演習林	広報かもがわ	2008.4.1	「春の一般公開」案内
千葉演習林	千葉日報	2008.4.10	「春の一般公開」案内
千葉演習林	房日新聞	2008.4.13	「県の鳥獣保護員辞令交付」記事掲載
千葉演習林	朝日新聞（ちばマリオ ン）	2008.4.15	「春の一般公開」案内
千葉演習林	房日新聞	2008.5.22	「Abies岩崎さん」記事掲載
千葉演習林	房日新聞	2008.6.3	「高校生のための森と海のゼミナール」参 加者募集
千葉演習林	房日新聞	2008.6.18	「夏の森林教室」参加者募集
千葉演習林	広報かもがわ	2008.7.1	「夏の森林教室」参加者募集
千葉演習林	朝日新聞（ちばマリオ ン）	2008.7.1	「夏の森林教室」参加者募集
千葉演習林	学園のまちづくり通信 (鴨川市)	2008.7月号	「野鳥の巣箱をかけよう春」実施報告記事
千葉演習林	日本テレビ	2008.8.15	プラス1 「血を吸う謎の吸血生物（ヤマビル）」
千葉演習林	房日新聞	2008.8.26	「緑の教室」広報記事
千葉演習林	テレビ東京	2008.8.31	トコトンハテナ 「シカ出没、ヒルも出た」
千葉演習林	千葉ウォーカー	2008.No24	「秋の一般公開」案内
千葉演習林	房日新聞	2008.10.9	「秋の一般公開」案内
千葉演習林	房日新聞	2008.10.23	「緑の教室」広報記事
千葉演習林	千葉日報	2008.10.30	「野鳥の巣箱をかけよう」参加者募集
千葉演習林	広報かもがわ	2008.11.1	秋の一般公開案内、東京大学キャンパスツ ア一案内
千葉演習林	房日新聞	2008.11.8	「緑の教室」実施報告記事
千葉演習林	房日新聞	2008.11.16	「野鳥の巣箱をかけよう秋」実施報告記事
千葉演習林	千葉日報	2008.11.21	「秋の一般公開」案内
千葉演習林	広報かもがわ	2008.12.15	「冬の森を歩こう」参加者募集
千葉演習林	学園のまちづくり通信 (鴨川市)	2009.2月号	「東京大学キャンパスツアーア」実施報告記 事
千葉演習林	房日新聞	2009.3.6	「春の一般公開」案内
千葉演習林	千葉日報	2009.3.16	「房総丘陵トレイルラン&ハイク」実施報 告記事
千葉演習林	ぐりーん&らいふ	2009.春号	「センペルセコイア」記事掲載

演習林名	メ デ ィ ア	日 付	内 容
北海道演習林	北海道新聞	2008.6.11	森めぐり木の旅
北海道演習林	読売新聞	2008.9.27	森との共生 生態系再生のヒント
北海道演習林	北海道新聞	2008.12.23	森の大切さ 絵本に
北海道演習林	日刊富良野	2009.1.10	“樹海”テーマに手作り絵本
秩父演習林	北國新聞	2008.6.23	里山保全の意義考える 金沢で森林シンポジウム
秩父演習林	北國新聞	2008.6.30	「ふるさとの森再び」'08森林シンポジウム2008 里山と森の再生
秩父演習林	しんぶん赤旗	2008.8.10	真夏のミステリー 消えたブナの葉 岩手・安比高原
愛知演習林	情報環境紙リサ Vol.107 (中日新聞)	2008.4.1	愛知の森林の現状と私たちができること
愛知演習林	日刊木材新聞	2008.4/4	森の健康診断を開設 矢作川水系森林ボランティア協
愛知演習林	朝日新聞	2008.4.8	森の健診しませんか 研究者ら「楽しくてためになる」
愛知演習林	朝日新聞（東京）	2008.4.26	「明日への環境賞」贈る
愛知演習林	朝日新聞（三河）	2008.4.26	朝日環境賞を受賞 矢作川森の健診委
愛知演習林	矢作新報	2008.5.2	朝日新聞社東京本社で「明日への環境賞」贈呈式
愛知演習林	矢作新報	2008.5.2	ぶんやの眼「受賞にカンパイ」
愛知演習林	中日ホームニュース (瀬戸 尾張旭 長久 手)	2008.8.8	24日に公開講座 締め切り迫る 野鳥の巣箱を作ろう 東京大学愛知演習林
愛知演習林	中日新聞（なごや東）	2008.8.23	水生昆虫採集 子どもら体験 瀬戸の東大演習林
愛知演習林	とうめい新聞	2008.9.4	新刊紹介 森林環境税は森を救えるか — 第20回日本の森と自然を守る全国集会より — 蔵治光一郎編・東京大学演習林出版局
愛知演習林	しなの新聞	2008.9.15	8月24日（日）東京大学愛知演習林 「野鳥の巣箱をつくろう！」
愛知演習林	矢作新報	2008.9.19	東京大学愛知演習林から「森林環境税」分 かる本
愛知演習林	中日新聞（西三河版）	2008.10.11	森林の6、7割が不健康 「診断実行委」 が調査
愛知演習林	日刊とうめい	2008.11.22	「森林から考える人と自然の共生」パネル ディスカッション
愛知演習林	日刊とうめい	2008.12.2	生き生きウォーキングで交流 赤津研究林

演習林名	メ デ イ ア	日 付	内 容
愛知演習林	中日新聞（湖西）	2009.1.15	「松枯れ仕組み知って」 新居 3月に講座、参加者募る
愛知演習林	熊本日日新聞	2009.2.20.	1級河川「流域委員会」 住民参加の趣旨薄れる
愛知演習林	中日新聞（湖西）	2009.3.11.	「松枯れの海岸林 再生へ成果着々」 新居町 抵抗性クロマツ1000本植林
愛知演習林	中日新聞（県内版）	2009.3.15.	「”青松”再生へ250本植樹」 新居・表浜に抵抗性マツなど 児童ら参加、熱心に
愛知演習林	日刊 木材新聞	2009.3.25.	インタビュー 「森林整備促進に所有者の意識改革を」
愛知演習林	高知新聞	2009.3.26.	「高知出版学術賞に3点」 高知市で表彰式
愛知演習林	Radio SAN-Q	2008.4.21	藏治先生の環境講座
愛知演習林	Radio SAN-Q	2008.5.5	藏治先生の環境講座
愛知演習林	Radio SAN-Q	2008.7.21	藏治先生の環境講座
愛知演習林	Radio SAN-Q	2008.8.18	藏治先生の環境講座
愛知演習林	Radio SAN-Q	2008.9.22	藏治先生の環境講座
愛知演習林	Radio SAN-Q	2008.10.13	藏治先生の環境講座
愛知演習林	NHKラジオ第2「文化講演会」	2008.10.26	「水をめぐるガバナンス」（藏治講師）
愛知演習林	Radio SAN-Q	2008.11.10	藏治先生の環境講座
愛知演習林	Radio SAN-Q	2009.1.12	藏治先生の環境講座
愛知演習林	Radio SAN-Q	2009.2.23.	藏治先生の環境講座
愛知演習林	Radio SAN-Q	2009.3.23.	藏治先生の環境講座
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.4.10	公開講座「春の散策」参加者募集
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.4.18	アースデイ下田に賛同の輪 東大樹芸研究所の環境保護への取り組み紹介
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.4.20	アースデイ下田パネル展 東大樹芸研究所の環境保護への取り組み紹介
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.5.16	新緑の「岩樟園」散策 公開講座「春の散策」
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.5.17	記者コラム クスノキ林で公開講座
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.6.10	温室特別公開見学者募集
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.6.18	温室特別公開

演習林名	メ デ イ ア	日 付	内 容
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.6.22	公開講座「子ども樹木博士になって、伊豆の森林を楽しもう」参加者募集
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.6.27	公開講座「子ども樹木博士になって、伊豆の森林を楽しもう」参加者募集
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.7.8	県立下田高校南伊豆分校第1回職員研修
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.7.16	公開講座「子ども樹木博士になって、伊豆の森林を楽しもう」
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.7.19	記者コラム 子供たちの将来に不可欠な森林
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.10.9	温室特別公開見学者募集
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.11.14	温室特別公開見学者募集
樹芸研究所	広報南伊豆	2008.11.15	公開講座「鳥の巣箱を作ろう！」参加者募集
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.11.25	公開講座「鳥の巣箱を作ろう！」参加者募集
樹芸研究所	静岡朝日テレビ	2008.12.6	スーパーJチャンネル 公開講座「鳥の巣箱を作ろう！」
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.12.8	公開講座「鳥の巣箱を作ろう！」
樹芸研究所	読売新聞	2008.12.11	公開講座「鳥の巣箱を作ろう！」
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.12.14	シカ生息数調査ボランティア募集
樹芸研究所	伊豆新聞	2008.12.18	温室特別公開見学者募集
樹芸研究所	伊豆新聞	2009.1.23	シカ生息数調査実施
樹芸研究所	伊豆新聞	2009.2.19	温室特別公開見学者募集
樹芸研究所	伊豆新聞	2009.3.10	温室特別公開見学者募集

## ■利用状況■

### 演習林を利用して行った論文等

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一号	頁	年
池見公輔	暖温帯林で倒木更新するタマアジサイに共生するアーバスキュラー菌根菌の種構成	東京大学卒業論文		5	2008
奈良康平	降雨が土壤中CO <sub>2</sub> の挙動および土壤呼吸に与える影響	東京大学卒業論文		19	2008
長谷川賢太郎	山地渓流に於ける水質の形成に関する研究	東京大学卒業論文		23	2008
岩崎史義	森林内道路歩行時の勾配と運動強度の関係	東京大学卒業論文			2007
花岡健太	葉からの水分吸収がスギの水分状態に与える影響	東京大学卒業論文		37	2009
新田一仁	伊豆半島南部におけるシイ林伐採後の更新経過の推定	東京大学卒業論文			2009
浜野剛	生物による攪乱の多寡とオサムシ科昆虫群集の関係	東京大学卒業論文			2009
保坂太郎	北海道中央部の択伐天然林におけるトドマツ実生、稚樹、幼樹の分布と立地環境	北海道大学卒業論文			2007
松永咲	太平洋型ブナ林におけるブナ実生の生存と成長—太平洋側でブナ林は存続できるのか?—	東邦大学卒業論文			2008
菅生和希	東京大学犬山研究林における植生および地質と渓流の流出特性	東京農業大学卒業論文		1-21	2009
八谷宗典	裸地斜面における降雨による地表流と土砂移動との関係	東京農業大学卒業論文		1-50	2009
山本哲裕	斜面に植栽したスギ幼齢木の成長の違いと水分・窒素の関係	東京大学修士論文		1	2008
佐藤竜一	渓流棲落葉破碎食性昆虫の無機態リン放出者としての役割	東京大学修士論文		17	2008
孫芝英	GISを利用した路網計画手法の開発	東京大学修士論文		41	2008
Forestal Deyonzaire	Interference from neighborhoood growth of individual trees in even-aged forest stand	東京大学修士論文		45	2008
浜一郎	照葉樹林および亜熱帯林の林床に生育するミヤマトベラ属植物2種の繁殖様式	東京大学修士論文		19	2008
高木俊	シカの採食が植物の量と質を介して植食性昆虫の季節動態に与える影響:間接効果の時間スケール依存性	東京大学修士論文		39	2008
中馬美咲	北方針広混交林における樹木実生の分布及び稚樹の成長に関わる環境要因	東京大学修士論文			2008
谷口真知子	サクラんぐ巣病菌( <i>Taphrina wiesneri</i> )の伝染様式と樹体内分布の解明	東京大学修士論文		45	2009
寺本宗正	樹木挿し木苗におけるリン酸転流への施肥および外生菌根共生の影響-根分け実験系を用いた研究-	東京大学修士論文		45	2009
植村卓哉	東京大学秩父演習林におけるクマハギ被害の発生傾向—人工林経営におけるリスク評価に向けての検討—	東京大学修士論文			2009
小渕敦子	地表面加熱下における土壤中の撥水性の発現と有機物含有率の変化	東京大学修士論文			2009
諏訪広樹	対流圈オゾンが植物個体のバイオマスに及ぼす長期的影響—丹沢山地のブナ( <i>Fagus crenata</i> )を事例として—	横浜国立大学修士論文		59	2009
小田智基	Study on water runoff processes in the headwater catchments with hydrochemical tracer information(山地源流域における水文トレーサーを用いた降雨流出プロセスに関する研究)	東京大学博士論文		23	2008
進藤克実	マツタケの人工栽培に関する研究—非滅菌環境下での菌根合成法の確立と界面活性剤による菌糸体成長促進作用の検討—	東京大学博士論文		119	2009

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一号	頁	年
丹下健・肖映秋	育苗資料:床替え時期とスギ1年生苗の成長	演習林	48	1-8	2009
五名美江・藏治光一郎・春田泰次・鴨田重裕・小田智基・堀田紀文・鈴木誠・木村徳志・五十嵐勇治・大村和也・渡邊良広	東京大学5演習林8試験流域における渓流水質の特性	演習林報告	118	65-82	2008
進藤克実・松下範久	非滅菌環境下におけるマツタケとアカマツの菌根合成分	演習林報告	120	1-9	2009
川口高朗、龍原哲	人工二段林におけるスギ・ヒノキ下木の成長	日林学術講	119	H14	2008
真板英一・鈴木雅一	森林植生の伐採が山地小流域の直接流出量に与える影響	日林学術講	119	P2f03	2008
江草智弘・坂澤寛治・小田智基・大手信人・鈴木雅一	新第三紀層流域における流域スケールと流量・水質の関係	日林学術講	119	P2f16	2008
渡邊祐哉・清水美紗子・小田智基・大手信人・鈴木雅一	森林流域の地下水帯における脱窒プロセスの時空間分布と水文条件の影響	日林学術講	119	P3f01	2008
池田信輔・大澤裕樹・丹下健	野外に生育するツバキ科8種の地上部におけるアルミニウム集積特性	日林学術講	119	P3g03	2008
大澤裕樹	木本植物に顕著な高アルミニウム耐性の生理学的解析	日林学術講	118		2007
池田信輔・大澤裕樹・丹下健	野外に生育するツバキ科8種の地上部におけるアルミニウム集積特性	日林学術講	119		2008
高木俊・宮下直	シカはジャコウアゲハの生活史をどう変えうるか:植物の形質変化がもたらす可塑的休眠	日本生態学会大会講演要旨	55	P3-110	2008
北村智之・宮下直	シカが土壤動物群集に与えるインパクトの状況依存性:ギャップ・非ギャップの比較	日本生態学会大会講演要旨	55		2008
藤平量郎	房総のヒメコマツ物語⑥	樹の生命	6	20-21	2008
藤平量郎	房総の植物相の多様性と温暖化に伴うその危機と再生について	樹木医会千葉大会記念公演集	H20年度	27-34	2008
二反田獎・松下範久・宝月岱造	ポプラ樹皮内におけるナラタケ菌の二段階の蔓延過程	樹木医学会第13回大会講演要旨集		19	2008
小田智基・浅野友子・鈴木雅一	塩化物イオンの物質収支を用いた新第三紀層山地小流域における深部地下水浸透量の推定	水文・水資源学会誌	21-3	195-204	2008
北村智之・宮下直	シカによる土壤生態系への影響とその状況依存性	土壤動物学会			2008
柳洋介・高田まゆら・宮下直	ニホンジカによる森林土壤の物理環境の改変:房総半島における広域調査と野外実験	保安生態学研究	13	65-74	2008
鎌内宏光	シンポジウム「外房地域における森里海連関学の今後の展開」の報告	陸水学雑誌	69	155-157	2008
浦本豪一郎・齋藤高浩・伊藤慎	海底扇状地に認められるシート状砂岩の発達過程:房総半島鮮新統清澄層	日本堆積学会2008弘前大会講演要旨		40	2008
浦本豪一郎・伊藤慎	房総半島鮮新統清澄層のシート状砂岩の累重様式	日本地質学会115回講演要旨	115	97	2008
西村拓・井本博美・宮崎毅	西東京の森林クロボク土における土壤水分変動と土中二酸化炭素ガス濃度の関連	土壤水分ワークショップ		pp. 8-1～8-4	2009
吉田泰輔・井本博美・関勝寿・西村拓・宮崎毅	温度、水分、および炭素含量が森林黒ボク土の二酸化炭素放出に及ぼす影響	平成20年農業農村工学会大会講演要旨		pp.546-547	2008
大澤裕樹	木本植物に固有な高アルミニウム耐性機構	林木の育種(第18回バイテク林木育種研究会)	7月号	(予定)	2009

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一号	頁	年
和田一郎・岩田朋文・田悟敏弘	埼玉県・千葉県・東京都で採集したアミメカゲロウ目・ラクダムシ目・ヘビトンボ目の記録(埼玉県秩父市の東京大学演習林での昆虫調査の記録を含む)	寄せ蛾記	132	37-54	2008
斎藤馨・山本祥子	野外環境教育プログラムにおける事後の復習教材開発に関する研究	日本造園学会誌ランドスケープ研究	72(5)	893-896	2009
平田泰雅・古家直行・鈴木誠・山本博一	Estimation of Stand Attributes in Cryptomeria japonica and Chamaecyparis obtusa Stands from Single Tree Detection using Small-Footprint Airborne LiDAR Date	J For Plann	13	303-309	2008
高木俊・宮下直	Host Plant Quality Influences Diapause Induction of <i>Byasa alcinous</i> (Lepidoptera:Papilionidae)	Entomological Society of America	March 2008	392-396	2008
中島徹・平田泰雅・古家直行・竹添かつとし・鈴木誠・龍原哲	Estimating Canopy Information in Cryptomeria japonica and Chamaecyparis obtusa Stands using Airborne LiDAR Data	Reprint from Journal of Forest Planning	13	313-318	2008
Yasutomo Hoshika,Tomohiro Hajima,Yo Shimizu,Masayuki Takigawa and Kenji Omasa	Estimation of ozone stomatal flux for deciduous forests in East Asia	農業気象国際シンポジウムISAM2009			2009
Komatsu M, Son J, Matsushita N, Hogetsu T	Fluorescein-labeled wheat germ agglutinin stains the pine wood nematode, <i>Bursaphelenchus xylophilus</i>	Journal of Forest Research	13	132-136	2008
Takafumi Ohsawa, Yoko Saito, Haruo Sawada, Yuji Ide	Impact of altitude and topography on the genetic diversity of <i>Quercus serrata</i> populations in the Chichibu Mountains, central Japan	Flora	203	187-196	2008
孫貞阿・小松雅史・松下範久・宝月岱造	The migration speed and pathway of pine wood nematodes in the tissues of <i>Pinus thunbergii</i> stem segments	韓国林学会定期学術研究発表会講演要旨集		81-84	2009

#### 2008年度 演習林を利用して行った論文数

千葉	29
北海道	3
秩父	7
愛知	2
富士	1
樹芸	0
田無	16
合計	58

※複数の演習林にまたがった論文がある場合、各演の合計と総計は一致しない

## 全利用者

演習林名：千葉演習林

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
1	4	1~31	鴨川市有害獣対策協議会				1	1	1	有害獣鳥獣捕獲	
2	4	1~31	君津市役所 経済部農林推進課(有害獣駆除)				5	5	5	有害獣鳥獣捕獲	
3	4	1	東大 理・地球惑星物理学系(環境三四郎)		12	1		13	13	サークルの勉強会(環境三四郎)	
4	4	1	東大 新領域自然環境学専攻	1	1			2	2	檜皮剥皮実験対象林分の残材処理	
5	4	3	静岡大学 農・環境森林科学科(造林学研究室)	2	3			5	15	異なる森林生態系における土壤呼吸に関する研究	清澄宿泊施設
6	4	3	千葉大学 地球科学コース堆積学研究室			1		1	3	三浦層群の堆積学的研究	札郷宿泊施設
7	4	1	東大 農・森林理水及び砂防工学研究室			3		3	3	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壤呼吸メカニズムの評価及び気象観測	
8	4	1	東大 農・森林理水及び砂防工学研究室	1	2			3	3	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壤呼吸メカニズムの評価及び気象観測	
9	4	1	東大 農・森林理水及び砂防工学研究室	1	3	3		7	7	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壤呼吸メカニズムの評価及び気象観測	
10	4	1	東大 農・森林動物学研究室			1		1	1	溪流の底生動物群集における物質循環	
11	4	1	慶應義塾大学 経済学部(生物学教室)	1				1	1	両棲類のモニタリング	
12	4	1	東大 農・千葉演習林				24	24	24	公開講座「野鳥の巣箱をかけよう」	
13	4	1	千葉県昆虫談話会				3	3	3	清澄山昆虫相の調査	
14	4	1	千葉県昆虫談話会				5	5	5	清澄山昆虫相の調査	
15	4	1	内浦山県民の森				7	7	7	「清澄山新緑ハイキング」下見	
16	4	1	東大 地震研究所地震地殻変動観測センター	1				1	1	地震観測機器点検	
17	4	1	かずさDNA研究所	1				1	1	千葉演習林内の植物調査	
18	4	1	かずさDNA研究所	1				1	1	千葉演習林内の植物調査	
19	4	1	立正大学 地球惑星学部	1				1	1	流水による岩盤の侵食	
20	4	1	千葉演習林ボランティア会Abies			10	10	10	春の一般公開用クラフト作り		
21	4	1	千葉県立君津亀山少年自然の家			4	4	4	春の一般公開時開催事業の下見		
22	4	1	日本蛾類学会				2	2	2	清澄山自然保護区の蛾相研究	
23	4	1	東大 農・森林理水及び砂防工学研究室	1	2	2		5	5	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壤呼吸メカニズムの評価及び気象観測	
24	4	1	東大 農・森林動物学研究室	1				1	1	モチノキの存在様式とモチノキ種オナガコバチの個体群動態	
25	4	1	東大 農・千葉演習林						381	春の一般公開	
26	4	4	高知大学 農・附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター	1				1	4	鹿柵作設についての実地研修	清澄宿泊施設
27	4	5	東大 農・生物多様性科学研究室	1				1	5	シカ採食による宿主の形質変化のジャコウアゲハへの影響	清澄宿泊施設2
28	4	2	東大 農・生物多様性科学研究室	1		1		2	3	シカが土壤生態系に与える影響の把握	清澄宿泊施設2
29	4	2	東大 農・保全生態学研究室	2				2	5	野外実験用具の片付け	清澄宿泊施設
30	4	1	内浦山県民の森				2	2	2	「清澄山新緑ハイキング」下見	
31	4	1	NPO法人房総の野生生物調査会				2	2	2	千葉演習林植生調査	
32	4	1	内浦山県民の森				53	53	53	「清澄山新緑ハイキング」	
33	4	1	千葉県環境生活部大気保全課				1	1	2	化学物質大気環境調査及びダイオキシン類大気環境調査	
34	4	1	千葉県環境生活部大気保全課							化学物質大気環境調査及びダイオキシン類大気環境調査	
35	4	1	千葉県環境生活部自然保護課	2				2	4	千葉県自然環境調査	
36	4	1	千葉県環境生活部自然保護課							千葉県自然環境調査	
37	4	3	東大 農・生物多様性科学研究室			1		1	3	シカ採食による宿主の形質変化のジャコウアゲハへの影響	清澄宿泊施設2
38	4	3	立正大学 地球惑星学部	1				1	3	流水による岩盤の侵食	札郷宿泊施設
39	4	1	東大 農・森林動物学研究室			1		1	1	溪流の底生動物群集における物質循環	
40	5	1~31	鴨川市有害獣対策協議会				1	1	1	有害獣鳥獣捕獲	







No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
173	8	2	慶應義塾大学 経済学部 (生物学教室)	1		1		2	4	音声モニタリングによるカエル類の生息調査	郷台宿泊施設
174	8	1	東大 農・森林利用学研究室	1		1		2	2	GISを利用した林内道路計画に関する研究	
175	8	1	名古屋大学 生命農学研究科							森林昆虫(キクイムシ類など)とその共生微生物の地理的変異	
176	8	2	東大 農・森林理水及び砂防工学研究室	1	2	2		5	10	森林流域のスケールが流量・水質に与える影響について	札郷宿泊施設
177	8	2	東京農工大学 野生動物保護学			2		2	4	千葉県のニホンリスの保全生態学的研究	清澄宿泊施設
178	8	1	千葉演習林ボランティア会Abies			1	4	5	5	役員会	
179	8	2	船橋市立海神中学校	11				11	11	中学校理科担当教諭の宿泊研修	清澄宿泊施設
180	8	1	東大 農・森林植物学研究室	1				1	1	倒木上における樹木の更新に関する研究	
181	8	1	産業総合研究所地図資源環境研究部門	1				1	1	地質調査	
182	8	1	東大 農・千葉演習林				26	26	26	夏の森林教室	
183	8	1	千葉演習林ボランティア会Abies				4	4	4	夏の森林教室サポート	
184	8	1	内山グリーン㈱				3	3	3	育苗について打ち合わせ	
185	8	1	東大 農・森林動物学研究室			1		1	1	カミキリー線虫-菌の共種分化プロセス	
186	8	21	東大 農・生物多様性科学研究室			1		1	21	シカが土壤生態系に与える影響の把握	清澄宿泊施設2
187	8	5	東大 農・秩父演習林	1				1	5	第12期二次林植生及び埋土種子調査	清澄宿泊施設2
188	8	1	千葉県農林総合研究センター森林研究所	2			1	3	3	ヒメコマツ苗木の種子調査	
189	8	1	東大 農・森林利水及び砂防工学研究室	1	1	4		6	6	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壤呼吸メカニズムの評価、気象観測	
190	8	1	東大 農・造林学研究室	1		1		2	2	巻枯らしの水分生理およびスギ高齢林の立地評価	
191	8	1	千葉演習林ボランティア会Abies				5	5	5	天津小学校緑の教室下刈作業他	
192	8	3	東大 農・森林経理学研究室	1		1		2	6	リモートセンシング技術を活用した樹冠動態モデルの開発	清澄宿泊施設
193	8	1	東大 農・森林動物学研究室							モチノキの存在様式とモチノキタネオナガコバチの生存率	
194	8	1	東大 財務部資産経営チーム	6				6	6	売り出し予定地確認のための視察	
195	8	4	東大 農・森林経理学研究室			2		2	8	土壤サンプリング	清澄宿泊施設
196	8	2	東大 農・秩父演習林	2				2	4	媒介昆虫と病原菌の遺伝的変異と病原性の変異からナラ枯れの起源に迫る	清澄宿泊施設
197	8	1	NPO法人房総の野生生物調査会				3	3	3	千葉演習林植物調査と郷合作業所見学	
198	9	4	東大 農・生物多様性科学研究室			1		1	4	シカが土壤生態系に与える影響の把握	清澄宿泊施設2
199	9	4	横浜国立大学環境情報学部環境リスクマネジメント専攻			1		1	4	常緑樹種の歴史的な分布要因の調査	清澄宿泊施設2
200	9	6	京都大学 理学研究科地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室	3	14	2		19	114	課題演習E1/地質調査法野外実習(3回生必修)	清澄宿泊施設
201	9	1	東大 農・保全生態学研究室	2				2	2	水生昆虫の生態学的研究	
202	9	1~30	鴨川市有害獣対策協議会				1	1	1	有害獣鳥獣捕獲	
203	9	1~30	君津市役所 経済部農林推進課(有害獣駆除)				5	5	5	有害獣鳥獣捕獲	
204	9	3	千葉県環境生活部大気保全課				1	1	3	化学物質調査	
205	9	1	NPO法人房総の野生生物調査会				1	1	1	シードトラップ回収	
206	9	3	東大 農・森林理水及び砂防工学研究室	1	3	4		8	24	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壤呼吸メカニズムの評価、気象観測	
207	9	1	株ソウダイカンパニー					1	1	土壤動物関係の資料収集	
208	9	27	横浜国立大学環境情報学部環境リスクマネジメント専攻			1		1	27	常緑樹種の歴史的な分布要因の調査	清澄宿泊施設2
209	9	5	東大 農・森林理水及び砂防工学研究室	2	3	3		8	22	土壤吸収速度に降雨が与える影響についての研究	清澄宿泊施設2
210	9	2	慶應義塾大学 経済学部(生物学教室)	1		1		2	4	音声モニタリングによるカエル類の生息調査	郷台宿泊施設
211	9	1	東大 農・造林学研究室		1	1		2	2	スギ高齢林の地位評価	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
212	9	2	日本鳥類標識協会				2	2	2	サンコウチョウの基礎研究、鳥類標識調査、鳥類相の把握	
213	9	5	東大 生圈システム学専攻 耕地生圈生態学研究室			1		1	5	スギ・ヒノキ人工林における鳥類相を規定する要因(予後調査)	清澄宿泊施設2
214	9	1	株エコ・トレード							文献情報の収集(情報提供依頼)	
215	9	4	東大 農・千葉演習林	9	11	1		21	77	全学体験ゼミナール「フィールドで考える野生動物の保護管理」	清澄宿泊施設
216	9	3	東大 農・生物多様性科学研究室			1		1	3	シカが土壤生態系に与える影響の把握	清澄宿泊施設
217	9	3	千葉大学 理学研究科地球科学コース堆積学研究室			1		1	3	三浦層群の堆積学的研究	札郷宿泊施設
218	9	2	千葉県昆虫談話会				2	2	4	昆虫調査	
219	9	2	東大 農・森林理水及び砂防工学研究室		2	1		3	6	森林流域のスケールが流量・水質に与える影響について	清澄宿泊施設2
220	9	4	東大 農・森林理水及び砂防工学研究室	1	2	3		6	18	土壤吸収速度に降雨が与える影響についての研究	清澄宿泊施設2
221	9	1	千葉市立稻毛小学校	2			19	21	21	農山村留学	
222	9	1	東大 農・森林動物学研究室	1		2		3	3	モチノキの存在様式とモチノキタネオナガコバチの個体群動態、ヒゲナガカミキリ属カミキリと線虫の共種分化プロセス	
223	9	1	ヤシマ産業㈱ 研究室				4	4	4	実験用ヤマビル採取	
224	9	2	NPO法人房総の野生生物調査会				5	5	10	植生調査	郷台宿泊施設
225	9	1	東大 農・秩父演習林	1				1	1	第12期二次林の広葉樹林上木伐採後土壤動物調査	清澄宿泊施設2
226	10	1	横浜国立大学環境情報学部環境リスクマネジメント専攻			1		1	1	常緑樹種の歴史的な分布要因の調査	
227	10	7	東大 農・秩父演習林	1				1	7	第12期二次林の広葉樹林上木伐採後土壤動物調査	清澄宿泊施設2
228	10	31	鴨川市有害獣対策協議会				1	1	1	有害獣鳥獣捕獲	
229	10	31	君津市役所 経済部農林推進課(有害獣駆除)				5	5	5	有害獣鳥獣捕獲	
230	10	1	東大 農・造林学研究室	1			2	3	3	国産材利用に関するエコツアー一打ち合わせ	
231	10	3	千葉県環境生活部大気保全課				1	1	3	化学物質調査	
232	10	2	慶應義塾大学 経済学部(生物学教室)	1		1		2	4	音声モニタリングによるカエル類の生息調査	郷台宿泊施設
233	10	3	株ブロード研究所 環境課				3	3	9	第7回自然環境保全基礎調査植生調査に係る現地調査	清澄宿泊施設
234	10	1	千葉演習林ボランティア	1			7	8	8	月見研修コース下見	
235	10	3	東大 農・森林理水及び砂防工学研究室	1	1			2	6	土壤吸収速度に降雨が与える影響についての研究	清澄宿泊施設2
236	10	1	東大 農・生物多様性科学研究室	1		1		2	2	シカ排除柵の試験地見学	
237	10	4	京都大学 フィールド科学教育研究センター	1		1		2	6	二夕間川におけるウナギの基礎生態	清澄宿泊施設
238	10	4	(独)産業技術総合研究所 地図資源環境研究部門	2			3	5	20	地質調査の研修	
239	10	2	東大 農・森林理水及び砂防工学研究室	1	2	3		6	7	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壤呼吸メカニズムの評価、気象観測	
240	10	1	京都大学 フィールド科学教育研究センター	1				1	1	黒ボク土壤における樹木のリン利用に関する研究	
241	10	1	東大 地震研究所	1				1	1	地震観測装置の点検	
242	10	3	立正大学 地球環境学部	1				1	3	流水による岩盤の侵食	札郷宿泊施設
243	10	2	千葉県昆虫談話会				2	2	3	昆虫調査	
244	10	1	千葉演習林ボランティア				3	3	3	公開講座「演習林を歩こう」コース下見	
245	10	1	ヤシマ産業㈱研究室				3	3	3	ヤマビル忌避試験	
246	10	2	東大 農・森圏管理学研究室			1		1	2	ミヤマトベラ発芽試験区の撤収、本沢林道散策	清澄宿泊施設
247	10	1	NPO法人房総の野生生物調査会				1	1	1	シートトラップ回収	
248	10	2	東大 農・森圏管理学研究室	4	6	1		11	22	森圏管理学実験	清澄宿泊施設
249	10	2	千葉演習林ボランティア	5			13	18	34	お月見研修	札郷宿泊施設
250	10	5	静岡大学 理学部地球科学科	2	14			16	80	地質学調査法実習II	清澄宿泊施設
251	10	2	東大 農・森林理水及び砂防工学研究室		1	4		5	10	森林流域のスケールが流量・水質に与える影響について	清澄宿泊施設
252	10	3	東大 農・生物多様性科学研究室			1		1	3	シカ採食による宿主の形質変化のジャコウアゲハへの影響	清澄宿泊施設
253	10	1	東大 農・森林植物学研究室	1	1			2	2	倒木上における樹木の更新に関する研究	







No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
387	3	1	千葉県君津市経済部農林振興課				75	75	75	有害獣駆除のため(銃器による駆除)	
388	3	2	東大 農・森林理水及び砂防工学研究室		4	4		8	16	総合対照流域法による水文過程や水質形成、土壤呼吸メカニズムの評価、気象観測	札郷宿泊施設
389	3	1	明治大学 農学部農学科植物線虫学研究室		1			1	1	試験地の見学	
390	3	1	千葉県立博物館友の会	1			4	5	5	千葉県立中央博物館友の会主催「自然観察会」事前調査	
391	3	1	やまびこの会				4	4	4	自然観察及びハイキング	
392	3	2	房総丘陵トレイルラン＆ハイク実行委員会				316	316	316	トレイルラン＆ハイク大会(大会役員による事前準備)	清澄宿泊施設
393	3	1	東大 農・森林生物科学科		1			1	1	ヒル捕獲のためのトラップについての研究	
394	3	1	千葉演習林OB				3	3	3	森林博物資料館の見学	
395	3	1	千葉演習林内土地所有				1	1	1	私有地確認	
396	3	2	森林インストラクター東京会				20	20	39	千葉の自然を理解し森林インストラクター活動に生かす	清澄宿泊施設
397	3	2	日本蛾類学会				3	3	6	清澄山特別自然保護区の蛾類相研究	
398	3	1	東大 農・森林理水及び砂防工学研究室	1		1		2	2	袋山試験地日帰り観測	
399	3	1	東大 農・秩父演習林	2	2			4	4	新修士1年生の修士論文研究(ヒメボタル)の調査場所の視察	
400	3	1	東大 農・演習林研究部			1		1	1	檜皮剥皮試験地にて樹木の測定	
401	3	2	千葉演習林ボランティア会 Abies	3			19	22	39	定期総会及び活動「演習林を歩こう」	清澄宿泊施設
402	3	2	NPO法人房総の野生生物調査会				4	4	8	NPO法人房総の野生生物調査会3月例会	郷台宿泊施設
403	3	1	東大 農・森圈管理学研究室	1				1	1	里親木の選定	
404	3	1	東大 農・森林動物学研究室			1		1	1	モチノキの存在様式とモチノキタネオナガコバチの生存率	

利用者数合計 9,596  
 利用者延べ数合計 11,540  
 利用件数 404

**演習林名:北海道演習林**

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
1	4	5	写真家				1	1	5	北演の森林生態・施業に関する写真撮影	
2	4	4	東京大学 樹芸研究所	1				1	4	暗色雪腐れ病等の病害防除に関する研究	山部宿泊施設2
3	4	2	全国天然木化粧合板 工業協同組合連合会				3	3	6	演習林内見学	山部宿泊施設
4	4	1	東京大学 北海道演習林	4				4	4	会食	
5	4	1	一般				2	2	2	自然観察・自己研修のため	
6	4	1	北海道環境生活部 自然保護課				3	3	3	林内見学	
7	4	1	一般				1	1	1	植生調査(山菜採取)	
8	4	1	NHK旭川放送局	1				1	1	報道取材	
9	5	5	写真家				1	1	5	北演の森林生態・施業に関する写真撮影	
10	5	1	富良野市保健福祉部 こども未来課東山保育所				22	22	22	東山保育所 春の小遠足	
11	5	4	東京大学 樹芸研究所	1				1	4	暗色雪腐れ病等の病害防除に関する研究	山部宿泊施設2
12	5	2	帯広畜産大学 畜産科学科 環境総合科学講座		4	2		6	12	エゾモモンガ・エゾリスの森林利用性に関する基礎生態学的研究	山部宿泊施設2
13	5	2	東京大学 農学生命科学研究科 森林利用学研究室	1				1	2	ユプロ国際会議エクスカーションの下見・打合せ	山部宿泊施設2
14	5	1	富良野市生涯学習センター 生涯学習センター係長				15	15	15	富良野市ことぶき大学山部校森林学習開催のため	
15	5	1	富良野市立山部小学校	3			40	43	43	遠足のため	
16	5	3	一般				2	2	6	北海道演習林植樹祭参加 他	山部宿泊施設
17	5	2	東京大学 北海道演習林	1				1	2	会食	山部宿泊施設
18	5	1	筑波大学 生命環境科学研究科 生物圏自然科学専攻	1				1	1	ヤナギ類に寄生するさび病菌の異種寄生性の解明	
19	5	1	日刊富良野新聞社	1				1	1	植樹祭取材のため	
20	5	4	東京大学 農学生命科学研究科 森林科学専攻	1	1			2	8	昆虫嗜好性根昆蟲の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雑と媒介昆虫種数の影響	山部宿泊施設2
21	5	4	北海道大学 大学院農学研究院	1		21		22	88	北海道大学大学院講義 「景域保全学」実習	北海道演習林セミナーhaus
22	5	3	東京大学 北海道演習林	4				4	6	会食	
23	5	1	東京大学 北海道演習林	1				1	1	会食	
24	5	2	帯広畜産大学 畜産科学科 環境総合科学講座	1				1	2	エゾモモンガ・エゾリスの森林利用性に関する基礎生態学的研究	山部宿泊施設
25	5	2	帯広畜産大学 畜産科学科 環境総合科学講座		2	4		6	12	エゾモモンガ・エゾリスの森林利用性に関する基礎生態学的研究	山部宿泊施設2
26	5	1	北海道立林業試験場 道東支場	1				1	1	森林性甲虫群集の多様性に関する林相別比較試験実施のための調査地点下見とトラップ設置	
27	5	2	東京大学 附属演習林	1				1	2	協議・視察	山部宿泊施設
28	5	1	東京大学 北海道演習林	5				5	5	会食	
29	5	3	東京大学 農学生命科学研究科 林政学研究室	3				3	9	森林政策学演習の下見	山部宿泊施設
30	5	1	東京大学 北海道演習林	1				1	1	会食	
31	5	4	東京大学 新領域創成科学研究科 自然環境学専攻 生物圏情報学	2		11		13	52	自然景観情報野外実習	北海道演習林セミナーhaus
32	5	3	東京大学 北海道演習林	1				1	3	会食	
33	5	2	神奈川県森林インストラクター有志 野外自然観察会員有志				15	15	30	林分施業法について研修 大麓山等自然観察	
34	5	1	北海道立林業試験場 道東支場	1				1	1	森林性甲虫群集の多様性に関する林相別比較試験実施のための調査地点下見とトラップ設置	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
35	6	6	東京大学 樹芸研究所	2				2	12	科研 エゾマツ 暗色雪腐れ病棟の病害防除に関する研究	山部宿泊施設2
36	6	2	東京大学 田無試験地	1				1	2	科研 エゾマツ	山部宿泊施設2
37	6	2	東京大学 秩父演習林	1				1	2	科研 エゾマツ	山部宿泊施設2
38	6	5	東京大学 農学生命科学研究科 森林科学専攻	1		1		2	10	昆虫嗜好性根昆虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雑と媒介昆虫種数の影響	山部宿泊施設
39	6	2	東京大学 教育学部 附属中等教育学校	1				1	2	宿泊研修の下見・打合せ	山部宿泊施設
40	6	1	一般				3	3	3	植生調査(山菜採取)	
41	6	3	富良野市生涯学習センター 博物館係長	1			34	35	71	富良野市教育委員会主催「放課後子ども教室」開催のため	
42	6	1	沙流川イオル構想平取町 推進協議会イオルの森検討部会				12	12	12	沙流川イオル構想平取町推進協議会 イオルの森検討部会視察研修	
43	6	1	北海道新聞 旭川報道部	3				3	3	連載企画「森めぐり旗の旅」取材	
44	6	1	全国林野連労働組合 北海道地方本部旭川支部				17	17	17	路網の整備状況見学のため	
45	6	4	北海道立林業試験場 道東支場	1				1	4	森林性甲虫群集の多様性に関する林相別比較試験実施のための調査地点 下見とトラップ設置	
46	6	1	富良野市身体障害者福祉協議会				15	15	15	林内見学	
47	6	4	東京大学 農学生命科学研究科 森圏管理学研究室	2				2	8	聖ヒノキクローン試験地間伐	山部宿泊施設
48	6	4	東京大学 農学生命科学研究科 森圏管理学研究室	1				1	4	ウダイカンバ家系競争試験地調査	山部宿泊施設2
49	6	1	帯広畜産大学 環境昆虫学研究室	1		1		2	2	植生の異なる森林内における地表性甲虫類の分布に関する研究	
50	6	4	東京大学 田無試験地	1				1	4	アカエゾマツ調査 (科学研究費補助金基盤B)	山部宿泊施設
51	6	3	東北大学 農学研究科 資源生物科学専攻	1				1	3	アカエゾマツ調査 (科学研究費補助金基盤B)	山部宿泊施設
52	6	3	森林総合研究所 北海道支所	1				1	3	アカエゾマツ調査 (科学研究費補助金基盤B)	山部宿泊施設
53	6	2	林木育種センター 遺伝資源部保存評価課 特性評価研究室	1				1	2	ブナ産地試験地における晩霜害の調査	山部宿泊施設
54	6	2	帯広畜産大学 畜産科学科 環境総合科学講座	1	2	2		5	10	エゾモモンガ・エゾリスの森林利用性に関する基礎生態学的研究	山部宿泊施設2
55	6	4	東京大学 農学生命科学研究科 森林利用学研究室	7		18		25	97	ユーロ国際会議エクスカーション	北海道演習林セミナーhaus
56	6	1	上教研南部地区社会科 班	14				14	14	自然と地形の見学に関する研修	
57	6	3	株式会社きんばら (企業里親)				15	15	45	林分施業法および銘木生産に関する研修 北海道演習林職員向け内部研修講演	北海道演習林セミナーhaus
58	6	2	東京大学 附属演習林	1				1	2	北海道演習林での収穫木の経済価値 評価に関する調査	北海道演習林セミナーhaus
59	6	1	東京大学 北海道演習林	2				2	2	会食	
60	6	2	北海道ボランティアレンジマー協議会				28	28	56	自然観察指導についての研修 枝打ち等ボランティア作業	北海道演習林セミナーhaus
61	6	1	東京大学 北海道演習林	1				1	1	会食	
62	6	1	東京大学 教養学部	1				1	1	UP執筆のための取材	
63	6	1	東京大学 農学生命科学研究科 森林動物学研究室			1		1	1	昆虫嗜好性線虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雑と媒介昆虫種影響の研究のための調査	山部宿泊施設2
64	7	4	写真家				1	1	4	北演の森林生態・施業に関する写真撮影	
65	7	1	北海道帯広農業高等学校	2			39	41	41	東京大学北海道演習林(苗畑や樹木園)の見学	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
66	7	3	東京大学 農学生命科学研究科 森林動物学研究室			1		1	3	昆虫嗜好性線虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雑と媒介昆虫種影響の研究のための調査	山部宿泊施設2
67	7	1	帯広畜産大学 環境昆虫学研究室	1		1		2	2	植生の異なる森林内における地表性甲虫類の分布に関する研究	
68	7	4	東京大学 樹芸研究所	1				1	4	科研 エゾマツ 暗色雪腐れ病棟の病害防除に関する研究	山部宿泊施設2
69	7	1	ウタリ協会平取支部				2	2	2	東京大学林政実習の下見	
70	7	1	NPO法人 ナショナルトラスト・チコロ ナイ				10	10	10	アイヌ文化伝承のため樹皮採取および林内見学	
71	7	25	東京大学 附属演習林			1		1	25	修士論文「北方針広混交林における実生及び稚樹期の更新と環境」のための調査	山部宿泊施設2
72	7	1	帯広畜産大学 畜産科学科 植物生産科学分野	2	24			26	26	樹木の生態と施業技術について見学研修	
73	7	4	東京大学 教育学部 附属中等教育学校	3	41			44	176	宿泊研修「北海道コース」	北海道演習林セミナーhaus
74	7	3	釧路市動物園	2				2	6	演習林及びその周辺地域の植物・動物調査	山部宿泊施設
75	7	1	東京大学 北海道演習林	1				1	1	会食	
76	7	5	北海道立林業試験場 道東支場	1				1	5	森林性甲虫群集の多様性に関する林相別比較試験実施のための調査地点下見とトラップ設置	
77	7	1	三次地区森林組合				20	20	20	林分施業法に関する研修	
78	7	3	森林総合研究所 北海道支所	1				1	3	樹木個体群における自然選択に対する遺伝適応の実態観察	山部宿泊施設
79	7	4	東京大学 農学生命科学研究科 森林動物学研究室			1		1	4	昆虫嗜好性線虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雫と媒介昆虫種影響の研究のための調査	山部宿泊施設2
80	7	3	北海道大学 大学院農学研究院	1				1	3	アカエゾマツの遺伝適応に関する現地調査及び打合せ	山部宿泊施設
81	7	1	帯広畜産大学 環境昆虫学研究室			2		2	2	植生の異なる森林内における地表性甲虫類の分布に関する研究	
82	7	1	富良野市生涯学習センター 博物館係長	1			34	35	35	富良野市教育委員会主催「放課後子ども教室」開催のため	
83	7	2	帯広畜産大学 畜産科学科 環境総合科学講座	3	25			28	56	帯広畜産大学畜産学科生態系環境科学ユニット3年生の研修旅行として演習林内の森林・施設等の見学	北海道演習林セミナーhaus
84	7	1	東京大学 北海道演習林	3				3	3	会食	
85	7	1	森林総合研究所 関西支所			1	24	25	25	日韓森林生態セミナー・エクスカーション	
86	7	3	東京大学 新領域創成科学研究科 自然環境学専攻	2		9		11	33	大学院講義「持続的森林圏経営論」のため	北海道演習林セミナーhaus
87	7	2	帯広畜産大学 畜産科学科 環境総合科学講座		2	1		3	6	エゾモモンガ・エゾリスの森林利用性に関する基礎生態学的研究	山部宿泊施設2
88	7	3	東京大学 農学生命科学研究科 森林動物学研究室			1		1	3	Monochanus属カミキリの遺伝子解析用サンプルの採集、生態調査	山部宿泊施設2
89	7	1	東京大学 北海道演習林	2				2	2	会食	
90	7	1	NHK札幌放送局 番組製作	4				4	4	NHK札幌放送局番組製作「プライムH」で使用の映像撮影	
91	7	8	東京大学 農学生命科学研究科 森林流域管理学			1		1	8	修士研究打合せ	山部宿泊施設2
92	7	2	東京大学 農学生命科学研究科 森林流域管理学			1		1	2	林分施業法の見学	山部宿泊施設2
93	7	2	東京大学 新領域創成科学研究科 自然環境学専攻	1				1	2	大学院講義「持続的森林圏経営論」のため	山部宿泊施設
94	7	4	東京大学名誉教授	1			1	2	8	演習林見学	山部宿泊施設
95	7	1	東京大学 北海道演習林	1				1	1	会食	
96	7	2	森林総合研究所 北海道支所	1				1	2	天然林とトドマツ林における開空度調査	
97	7	1	東京大学 北海道演習林	1				1	1	会食	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
98	8	31	東京大学 附属演習林			1		1	31	修士論文「北方針広混交林における実生及び稚樹期の更新と環境」のための調査	山部宿泊施設2
99	8	7	東京大学 農学生命科学研究所 森林流域管理学			1		1	7	修士研究打合せ	山部宿泊施設2
100	8	1	帯広畜産大学 環境昆虫学研究室			1		1	1	植生の異なる森林内における地表性甲虫類の分布に関する研究	
101	8	4	東京大学 田無試験地	1			3	4	16	標高別造林試験地の毎木調査 (科学研究費補助金基盤A) 樹木園における樹木・自然環境に関する教育	山部宿泊施設
102	8	7	東京大学 農学生命科学研究所 森林動物学研究室	1	1			2	14	昆虫嗜好性線虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雑と媒介昆虫種影響の研究のための調査	山部宿泊施設
103	8	7	千葉大学 大学院理学研究科	1	2	1	1	5	25	演習林内の水文環境見学と富良野周辺の地下水調査	山部宿泊施設2
104	8	5	北海道立林業試験場 道東支場	1				1	5	森林性甲虫群集の多様性に関わる林相別比較試験実施のための調査地点下見とトラップ設置	
105	8	8	東京大学 愛知演習林	3				3	18	河川環境評価研究(提科研)および水系総合調査推進のための調査	山部宿泊施設
106	8	3	NPO法人北海道水文気候研究所				1	1	3	第5次水系調査	山部宿泊施設2
107	8	4	東京大学 農学生命科学研究所 造林学研究室			1		1	4	第5次水系調査	山部宿泊施設
108	8	5	北海道大学 大学院環境科学院 環境起業専攻			1		1	5	第5次水系調査	山部宿泊施設2
109	8	5	北海道工業大学 都市環境学科	1				1	5	第5次水系調査	山部宿泊施設2
110	8	5	東京農業大学 森林総合科学科 治山・緑化工学研究室		3			3	15	第5次水系調査	山部宿泊施設2
111	8	4	山梨大学 大学院医学工学総合研究部	1	1	2		4	16	第5次水系調査	山部宿泊施設2
112	8	5	一般				1	1	5	第5次水系調査	
113	8	3	旭川市北邦野草園	1				1	3	第5次水系調査	山部宿泊施設2
114	8	2	東京大学 樹芸研究所	1				1	2	水質分析の実施 エゾマツの病害防除に関する研究	山部宿泊施設
115	8	1	北海道大学 名誉教授				4	4	4	韓国研究者の演習林試験地の管理等についての情報収集と現地観察	
116	8	4	東京大学 樹芸研究所	1				1	4	水質分析の実施 エゾマツの病害防除に関する研究	山部宿泊施設2
117	8	1	帯広畜産大学 環境昆虫学研究室			1		1	1	植生の異なる森林内における地表性甲虫類の分布に関する研究	
118	8	2	科学の森里親制度 里親				6	6	12	林内見学・里親面会	
119	8	1	富良野市立富良野小学校	15				15	15	北海道演習林における天然林施業の実際及び自然観察	
120	8	4	東京大学 農学生命科学研究所 林政学研究室	4	16	4		24	96	森林政策学演習	北海道演習林セミナーhaus
121	8	2	東京大学 農学生命科学研究所 非常勤講師	1				1	2	林政学実習(講義等)	北海道演習林セミナーhaus
122	8	1	東京大学 北海道演習林	1				1	1	会食	
123	8	5	北海道大学 創成科学共同研究機構	1		1	1	3	15	北海道中軸部に分布する空知層群の古地磁気解析	山部宿泊施設2
124	8	1	森林総合研究所 北海道支所	1				1	1	樹木個体群における自然選択に対する遺伝適応の実態鶴鳴	
125	8	2	国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター	6				6	12	アスベストに係る土壤・大気資料の採集及び分析	
126	8	2	帯広畜産大学 畜産科学科 環境総合科学講座	1				1	2	エゾモモンガ・エゾリスの森林利用性に関する基礎生態学的研究	山部宿泊施設
127	8	2	帯広畜産大学 畜産科学科 環境総合科学講座		1	4		5	10	エゾモモンガ・エゾリスの森林利用性に関する基礎生態学的研究	山部宿泊施設2
128	8	1	東京大学 北海道演習林	1				1	1	会食	
129	8	1	東京大学 北海道演習林	1				1	1	会食	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
130	8	1	北海道森林管理局 日高北部森林管理署長	27				27	27	森林施業研修会 林分施業法の考え方と施業地見学	
131	8	1	北大どんぐりOB・OG会				32	32	32	北海道演習林における天然林施業の実際を見学	
132	8	2	東海大学 海洋学部 海洋生物学科	2	5	2		9	18	北海道演習林における天然林施業の実際と研究例の見学	北海道演習林セミナーhaus
133	8	1	富良野市議会				30	30	30	上川地方議員連絡協議会における視察研修	
134	8	1	帯広畜産大学 環境昆虫学研究室			1		1	1	植生の異なる森林内における地表性甲虫類の分布に関する研究	
135	9	2	写真家				1	1	2	北演の森林生態・施業に関する写真撮影	
136	9	26	東京大学 附属演習林			1		1	26	修士論文「北方針広混交林における実生及び稚樹期の更新と環境」のための調査	山部宿泊施設2
137	9	4	北海道立林業試験場 道東支場	1				1	4	森林性甲虫群集の多様性に関する林相別比較試験実施のためのトラップ設置	
138	9	1	東京大学 北海道演習林	2				2	2	会食	
139	9	5	東京大学 農学生命科学研究所 森林動物学研究室	1		1		2	7	昆虫嗜好性線虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雑と媒介昆虫種影響の研究のための調査	山部宿泊施設2
140	9	5	東京大学 新領域創成科学研究所 自然環境学専攻	1		1		2	7	大学院講義「持続的森林園経営論」のため	山部宿泊施設
141	9	4	東京大学 田無試験地	1				1	4	アカエゾマツ調査 (科学研究費補助金基盤B)	山部宿泊施設
142	9	4	森林総合研究所 北海道支所	1				1	4	アカエゾマツ調査 (科学研究費補助金基盤B)	山部宿泊施設
143	9	4	北海道大学 大学院農学研究院	1				1	4	アカエゾマツ調査 (科学研究費補助金基盤B)	山部宿泊施設
144	9	4	東京大学 北海道演習林		11			11	44	全学体験ゼミナール「森に学ぶ(7)」	北海道演習林セミナーhaus
145	9	4	東京大学 北海道演習林	4				4	10	会食	
146	9	1	一般				1	1	1	自然観察・山菜採取	
147	9	1	富良野市生涯学習センター 博物館係長	1			34	35	35	富良野市教育委員会主催「放課後子ども教室」開催のため	
148	9	2	東京大学 財務系統括長	4				4	8	施設及び林内視察	山部宿泊施設
149	9	1	東京大学 北海道演習林	2				2	2	会食	
150	9	1	一般				1	1	1	林内見学	
151	9	2	帯広畜産大学 環境昆虫学研究室			1		1	2	植生の異なる森林内における地表性甲虫類の分布に関する研究	
152	9	2	東京大学 人事・労務系 人事企画グループ長	6				6	12	評価制度説明会及び短時間有期雇用職員ヒアリング	山部宿泊施設
153	9	1	東京大学 北海道演習林	2				2	2	会食	
154	9	3	株式会社JTBパブリッシング	3				3	9	取材	
155	9	3	北海道大学 大学院理学研究院 地震火山研究観測センター	1				1	3	十勝岳火山性地殻変動観測(GPS)	
156	9	1	北海道大学 農学部 森林科学科		4			4	4	天然林施業に関する見学	
157	9	1	有限会社 日月社				1	1	1	富良野観光協会HPに掲載の森林写真撮影	
158	9	2	帯広陸産大学 畜産科学科 野生動物管理学研究室	1				1	2	エゾモモンガ・エゾリスの森林利用性に関する基礎生態学的研究	山部宿泊施設
159	9	2	帯広陸産大学 畜産科学科 野生動物管理学研究室		4	1		5	10	エゾモモンガ・エゾリスの森林利用性に関する基礎生態学的研究	山部宿泊施設2
160	9	1	韓国山林科学院 山林生産技術研究所	2		1		3	3	東京大学北海道演習林における研究活動および管理運営に関する情報収集および林内見学	山部宿泊施設2
161	9	1	東京大学 農学生命科学研究所 森林動物学研究室			1		1	1	昆虫嗜好性線虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雫と媒介昆虫種影響の研究のための調査	山部宿泊施設2

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
162	10	1	韓国山林科学院 山林生産技術研究所	2		1		3	3	東京大学北海道演習林における研究活動および管理運営に関する情報収集および林内見学	
163	10	3	東京大学 農学生命科学研究所 森林動物学研究室			1		1	3	昆虫嗜好性線虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雑と媒介昆虫種影響の研究のための調査	山部宿泊施設2
164	10	9	東京大学 新領域創成科学研究所			1		1	9	修士論文研究「Sustainable forest management practice:Evaluation of growth,structure and ecological properties」	山部宿泊施設2
165	10	1	富良野市 保健福祉部 子ども未来課 東山保育所	4			19	23	23	東山保育所 秋の小遠足	
166	10	2	北海道教育大学 教育学部 札幌校	6	25	2	1	34	68	野外実習	北海道演習林セミナーhaus
167	10	3	北海道立林業試験場 道東支場	1				1	3	森林性甲虫群集の多様性に関する林相別比較試験実施のためのトラップ設置	
168	10	1	社団法人 大阪自然環境 保全協会			13	13	13	13	哺乳動物のフィールドサインによる観察と生息環境を知る	
169	10	1	富良野市立樹海中学校 1学年保護者委員長	1			14	15	15	学年事業「秋の森を学ぶ親子体験」	
170	10	3	東京大学 樹芸研究所	1				1	3	暗色雪腐れ病棟の病害防除に関する研究	山部宿泊施設2
171	10	3	ETH (スイス工科大学)	1				1	3	日本産樹木種子採取	山部宿泊施設
172	10	1	東京大学 北海道演習林	1				1	1	会食	
173	10	1	水生昆虫研究会	11	1	2	11	25	25	水生昆虫研究会のエクスカーションとして林内見学	
174	10	1	JR東日本研究開発センター 防災研究所	11				11	11	演習林で行っている施業、研究テーマ等の見学	
175	10	2	東京大学 大学院工学系研究科	3				3	6	事務打合せ他	山部宿泊施設
176	10	1	東京大学 北海道演習林	2				2	2	会食	
177	10	2	北海道森林インストラクター会 北海道森林インストラクター会			15	15	30	北海道森林インストラクター会会員研修会		
178	10	1	富良野市生涯学習センター 博物館係長	1			39	40	40	富良野市博物館・富良野の自然に親しむ会共催講座「富良野の自然に親しむ会集い第4回紅葉を楽しもうin東大演習林神社山」	
179	10	1	北海道大学 大学院農学研究院 花卉／緑地計画研究室	1		1		2	2	ウコンウツギとミヤマガマズミの種子発芽特性に関する研究	
180	10	4	東京大学 附属演習林	6				6	19	科研「50年間の林分動態と施業履歴に基づく森林生態系の順応型管理システムの構築」環境教育プログラム班現地調査	山部宿泊施設
181	10	2	陸水学会	3		2	4	9	18	陸水学会非公式エクスカーション	山部宿泊施設2
182	10	2	土井木工株式会社	1				1	2	北海道演習林内見学	山部宿泊施設
183	10	2	東京大学 附属演習林	1				1	2	北海道演習林内見学 (土井木工株式会社に同行)	山部宿泊施設
184	10	1	東京大学 北海道演習林	2				2	2	会食	
185	10	6	北海道大学 大学院理学研究院 地震火山研究観測センター	1				1	6	十勝岳火山性地殻変動観測(GPS)	
186	10	1	三井物産フォレスト株式会社 北海道事業部 平取山林事務所	11				11	11	北海道演習林内見学	
187	10	2	NHKライツ・アーカイブス センター			6	6	6	10	放送番組「どうがめさんと仲間たち(仮)」取材のため	
188	10	3	東京大学 田無試験地	1		1		2	6	アカエゾマツ調査 (科学研究費補助金基盤B)	山部宿泊施設2
189	10	3	森林総合研究所 北海道支所	2				2	6	樹木個体群における自然選択に対する遺伝適応の実態解明	山部宿泊施設2
190	10	1	北海道立林産試験場 企画指導部	20				20	20	演習林研究成果の視察及び林産利用に関する意見交換	
191	10	4	富良野市生涯学習センター 博物館係			3	3	3	12	遺跡調査	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
192	10	5	東京大学 樹芸研究所	1				1	5	暗色雪腐れ病棟の病害防除に関する研究	山部宿泊施設2
193	10	2	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 雨竜研究林	3		2	16	21	42	IUFRO国際研究集会に係る現地見学会	北海道演習林セミナー・ハウス
194	10	1	東京大学 北海道演習林	1				1	1	会食	
195	10	1	芦別山岳会				9	9	9	大麓山登山及び林分施業法の見学	
196	10	2	帯広陸産大学 畜産科学科 野生動物管理学研究室	1				1	2	エゾモモンガ・エゾリスの森林利用性に関する基礎生態学的研究	山部宿泊施設
197	10	2	帯広陸産大学 畜産科学科 野生動物管理学研究室		4	3		7	14	エゾモモンガ・エゾリスの森林利用性に関する基礎生態学的研究	山部宿泊施設2
198	10	1	北海道網走西部森づくり センター	3			12	15	15	紋別市林業技術研究会現地検討会	
199	10	1	政策研究大学院大学	1			7	8	8	森林景観の観察・体験 (東大造林学OBグループ)	山部宿泊施設
200	11	1	政策研究大学院大学	1			7	8	8	森林景観の観察・体験 (東大造林学OBグループ)	
201	11	5	東京大学 秩父演習林	6				6	29	エゾシカの生息密度と被害発生に及ぼす要因の解明(科研費研究「50年間の林分動態と施業履歴に基づく森林生態系の順応型管理システムの構築」)のための野外調査)	山部宿泊施設
202	11	1	東京大学 北海道演習林	6				6	6	会食	
203	11	1	北海道議会				2	2	2	北海道の森林・林業見学	
204	11	3	東京大学 愛知演習林	1				1	3	河川環境評価研究(提科研)および水系総合調査推進のため	山部宿泊施設
205	11	2	株式会社きんばら (企業里親)				2	2	4	林内見学および里親木の見学	山部宿泊施設2
206	11	3	東京大学 農学生命科学研究所 森圈管理学研究室	1				1	3	ウダイカンバ家系競争試験地調査	山部宿泊施設2
207	11	3	東京大学 樹芸研究所	1				1	3	暗色雪腐れ病棟の病害防除に関する研究	山部宿泊施設2
208	12	2	東京大学 新領域創成科学研究所 自然環境学専攻	1				1	2	カラマツ・トドマツ二段林試験地の成長量測定	
209	12	3	東京大学 農学生命科学研究所 森林科学専攻	1				1	3	風況シミュレーションを活用した風害発生要因の分析に関する研究	山部宿泊施設2
210	12	2	東京大学 田無試験地	1				1	2	アカエゾマツ調査 (科学研究費補助金基盤B)	山部宿泊施設
211	12	1	沙流川流域イオル構想平取町推進協議会				3	3	3	イオルの森施業計画打合せ及び林内見学	
212	12	2	東京大学 施設・資産系 建築チーム	5				5	10	山部庁舎耐震改修工事打合せ	山部宿泊施設
213	1	2	東京大学 農学生命科学研究所 安全衛生管理室	2				2	4	附属施設薬品等巡視の下見	山部宿泊施設
214	1	1	東京大学 北海道演習林	3				3	3	会食	
215	1	5	東京大学 農学生命科学研究所 森林科学専攻	1				1	5	風況シミュレーションを活用した風害発生要因の分析に関する研究	山部宿泊施設2
216	2	2	東京大学 農学生命科学研究所 森林利用学研究室	1				1	2	研究打合せ	山部宿泊施設2
217	2	3	東京大学 樹芸研究所	1				1	3	暗色雪腐れ病棟の病害防除に関する研究	山部宿泊施設2
218	2	1	統計数理研究所 数理・推論研究系	2				2	2	北海道演習林における山火事、台風被害とその後の森林回復について、情報提供および再生林の視察	
219	2	2	東京大学 附属演習林		1		1	1	2	研究発表のため	山部宿泊施設2
220	3	2	帯広陸産大学 畜産科学科 野生動物管理学研究室	1	2	3		6	12	エゾモモンガ・エゾリスの森林利用性に関する基礎生態学的研究	山部宿泊施設2
221	3	3	東京大学 北海道演習林		24			24	72	全学体験ゼミナール「雪の森林に学ぶ」	北海道演習林セミナー・ハウス
222	3	3	東京大学 北海道演習林	4				4	8	会食	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
223	3	1	富良野市生涯学習センター 博物館係長				30	30	30	富良野市博物館・富良野の自然に親しむ会共催講座「富良野の自然に親しむ会 第5回早春の森を歩こうin東大演習林神社山」	
224	3	2	東京大学 樹芸研究所	1				1	2	暗色雪腐れ病棟の病害防除に関する研究とシカの分布調査	山部宿泊施設2
225	3	4	東京大学 秩父演習林	6	1			7	27	エゾシカの生息密度と被害発生に及ぼす要因の解明(科研費研究「50年間の林分動態と施業履歴に基づく森林生態系の順応型管理システムの構築」)ための野外調査)	山部宿泊施設
226	3	1	東京大学 北海道演習林	7				7	7	会食	
227	3	1	上川南部地区指導林家 連絡協議会	18				18	18	北海道指導林家 上川南部地区指導林家連絡協議会研修会研修会	

利用者数合計	1,425
利用者延べ数合計	2,711
利用件数	227

**演習林名:秩父演習林**

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
1	4	1	埼玉県農林総合研究センター 森林・緑化研究所 森林・緑化担当	2				2	2	荒川流域水辺林再生技術の開発	
2	4	3	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1		2		3	9	ロボットカメラメンテナンスほか	桜本宿泊施設
3	4	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻造林学研究室	2	3			5	20	森林土壤学実験	川俣宿泊施設
4	4	2	埼玉県農林総合研究センター (埼玉昆虫談話会)	2			3	5	10	秩父山地の昆虫相調査(誘蛾灯による夜間採集含む)	川俣宿泊施設(自炊)
5	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科	1				1	1	ミズナラ結実の遺伝特性解明、長期森林生態系研究 等	
6	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科	1				1	1	ミズナラ結実の遺伝特性解明、長期森林生態系研究 等	
7	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科	1				1	1	ミズナラ結実の遺伝特性解明、長期森林生態系研究 等	
8	4	1	埼玉県環境科学国際センター	2				2	2	1) 奥秩父中山間地における光化学オキシダント(オゾン)濃度のモニタリングと、アサガオを用いたオゾンによる植物被害調査、2) 絶滅危惧種ミヤマスカシヨリの維持・存続に関する研究	
9	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・付属演習林			1		1	1	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	
10	4	1	日本獣医生命科学大学・獣医学部・獣医保険看護学科	1				1	1	動物生態調査実習(下見)	
11	4	2	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林動物学研究室	1		1	1	3	6	穿孔虫の分化過程、遺伝的多様性、生態の解明	桜本宿泊施設
12	4	1	一般				1	1	1	苗木(合の子モミ)の学習	
13	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専攻	1				1	1	森林土木学実習下見	
14	4	1	埼玉県立さきたま史跡の博物館	2				5	7	7 NHKアーカイブズ(川口市)からの依頼により、荒川源流の巨樹を描いた作品を同所に展示するとともに、テレビ放映するための取材を行う。画家は奥多摩町の平岡忠夫氏。	
15	4	2	NPO法人房総の野生生物調査会					5	5	10 秩父演習林見学	川俣宿泊施設
16	4	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1	1			2	2	クマハギ木の確認	
17	4	1	新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション	1				1	1	シオジの開花結実特性	
18	4	1	足立区荒川ビジターセンター				5	5	5	自然探訪 荒川源流ウォーキング下見	
19	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・付属演習林			1		1	1	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	
20	4	1	秩父演習林サポートー				1	1	1	早春の昼光性蛾カバシャクの観察、一部採集	
21	4	1	埼玉県農林総合研究センター 森林・緑化研究所 森林・緑化担当	2				2	2	荒川流域水辺林再生技術の開発(機器回収)	
22	4	1	埼玉県農林総合研究センター 森林・緑化研究所 森林・緑化担当	2				2	2	荒川流域水辺林再生技術の開発(機器回収)	
23	4	4	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専攻	2		2		4	16	森林土木学実習	川俣宿泊施設
24	4	1	財団法人 石油産業活性化センター 自動車・燃料研究部	3		1		4	4	研究計画調整のための施設見学	
25	4	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻			1		1	1	小赤沢鉄塔の下見	
26	4	2	埼玉昆虫談話会				1	1	2	蛾の調査及び一部採集	
27	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・付属演習林			1		1	1	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	
28	4	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圈情報学分野			1		1	2	クマハギ調査	桜本宿泊施設

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
29	4	1	信州大学農学部森林学科	2	1	1		4	4	ブナの肥大成長観測	
30	4	1	東京大学秩父演習林	3			17	20	20	サポーター養成講座「秩父演習林の教育研究」	
31	5	1	東京大学愛知演習林	2				2	2	シオジの水分生理が冬季の直径収縮現象に与える影響	
32	5	1	東京大学愛知演習林	1				1	1	イヌブナとブナの開花状況調査	
33	5	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1		8		9	9	生物環境学実験	
34	5	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	3	3	2		8	16	全学自由研究ゼミナール デジタルビデオ制作－夏学期新緑編－	
35	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科	1				1	1	ミズナラ結実、長期生態系、鳥類標識、スズタケ結実確認	
36	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科	1				1	2	ミズナラ結実、長期生態系、鳥類標識、スズタケ結実確認	
37	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科	1				1	2	ミズナラ結実、長期生態系、鳥類標識、スズタケ結実確認	
38	5	1	足立区荒川ビジターセンター				5	5	5	自然探訪 荒川源流ウォーキング	
39	5	1	足立区荒川ビジターセンター				24	24	24	自然探訪 荒川源流ウォーキング	
40	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・附属演習林	1		1		2	3	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	栃木宿泊施設
41	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・附属演習林	1		1		2	4	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	栃木宿泊施設
42	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・附属演習林			2		2	4	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	栃木宿泊施設
43	5	1	埼玉県高体連登山専門部	26			81	107	107	学校総合体育大会登山の部	
44	5	2	埼玉県農林総合研究センター（埼玉昆虫談話会）	2			2	4	7	秩父山地の昆虫相調査(誘蛾灯による夜間採集含む)	川俣宿泊施設(自炊)
45	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・生物材料科学専攻・木材科学研究室	2		2		4	4	樹木新生組織に含有される多糖フィブリルの存在形態	
46	5	1	日本獣医生命科学大学・獣医学部・獣医保険看護学科	1				1	1	水生生物学実習および動物生態学実習(下見)	
47	5	3	日本獣医生命科学大学・獣医学部・獣医保険看護学科	2	20			22	66	水生生物学実習および動物生態学実習	川俣宿泊施設
48	5	3	日本獣医生命科学大学・獣医学部・獣医保険看護学科	2	20			22	66	水生生物学実習および動物生態学実習	川俣宿泊施設
49	5	1	独立行政法人国立環境研究所水土圈環境研究領域土壤環境研究室	2				2	2	森林土壤の細密調査を活用した土壤有機炭素貯留機構の要因解明と収支推定手法の開発	
50	5	3	自然環境センター	2				2	6	モニタリング1000	
51	5	1	埼玉県立大滝げんきプラザ				2	2	2	共催事業 森林で遊ぼう1のトロッコ軌道跡ハイキングコースの現地調査	
52	5	1	埼玉県立大滝げんきプラザ				75	75	75	共催事業 森林で遊ぼう1「新緑のトロッコ軌道」の実施(トロッコ軌道跡ハイキング)	
53	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 演習林研究部	1		1		2	2	秩父演習林におけるクマハギ被害のリスク評価	
54	5	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学分野			1		1	1	クマハギ調査	
55	5	3	埼玉大学・教育学部・理科教育講座(生物学研究室)	1	4			5	15	秩父山地における半翅類昆虫相の調査	
56	5	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	3		2		5	10	霧観測サイトの設計	栃木宿泊施設
57	5	1	埼玉県環境科学国際センター	2				2	2	オゾンデータの回収、ミヤマスカシユリの生育確認	
58	5	1	しおじの会				3	3	3	秩父演習林見学	
59	5	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学			1		1	1	クマハギ調査	
60	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・付属演習林・秩父演習林	1			10	11	11	サポートー養成講座「秩父演習林(森林・施設)の管理・運営」	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
61	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科・付属演習林・秩父演習林	2				2	4	全学体験ゼミナール「森に学ぶ(1)危険生物の知識」の下見 蛾及び甲虫類の調査並びに一部採集	栃木宿泊施設
62	5	3	埼玉昆虫談話会				1	1	3		
63	5	1	しおじの会				3	3	3	アルペンクラブという山の会の山行の下見	
64	5	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻			1		1	1	霧観測サイトでの水量の計測、試料の採水、メンテナンス	
65	5	2	生圈システム学専攻・森林圏生態社会学研究室			1		1	2	秩父演習林におけるクマハギ被害のリスク評価	栃木宿泊施設
66	5	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学分野			1		1	1	クマハギ調査	
67	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・生物材料科学専攻・生物素材科学研究室	2				2	2	樹木新生組織に含有される多糖フィブリルの存在形態	
68	5	1	西武鉄道㈱レジャー事業部			5	5	5	5	入川渓谷の下見	
69	6	1	千葉県森林インストラクター会	1		7	8	8	8	千葉県森林インストラクター会野外講座の下見	
70	6	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	3	3	2		8	8	全学自由研究ゼミナール デジタルビデオ制作－夏学期新緑編－	
71	6	4	東邦大学理学部生物学科	1	20	2		23	92	野外生態学実習 I	川俣宿泊施設
72	6	2	埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所生産環境担当	4		11	15	30		昆虫生息のデータベース構築調査	川俣宿泊施設(自炊) 栃木宿泊施設
73	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科・付属演習林・演習林研究部	3		14		17	34	全学体験ゼミナール「森に学ぶ(2)危険生物の知識」	川俣宿泊施設
74	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科・付属演習林・演習林研究部	1	6			7	14	総合科目D「森林-人間系の科学」	川俣宿泊施設
75	6	1	東京理科大学大学院・総合科学技術経営研究科・総合科学技術経営専攻	8		8		16	16	ブナ原生林観察	
76	6	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学分野			1		1	2	クマハギ調査	栃木宿泊施設
77	6	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質採水、メンテナンス	
78	6	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質採水、メンテナンス	
79	6	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質採水、メンテナンス	
80	6	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質採水、メンテナンス	
81	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・附属演習林		1	1		2	2	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	
82	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・附属演習林		1	1		2	3	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	栃木宿泊施設
83	6	1	しおじの会			18	18	18	18	槭の会 秩父演習林見学	
84	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・付属演習林・演習林研究部	1				1	1	総合科目D「森林-人間系の科学」下見	
85	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科	1				1	2	ミズナラ結実の遺伝特性解明、長期森林生態系研究、スズタケ開花調査、モニタリングサイト1001森林調査	
86	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科	1				1	1	ミズナラ結実の遺伝特性解明、長期森林生態系研究、スズタケ開花調査、モニタリングサイト1002森林調査	
87	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科	1				1	2	スズタケ開花調査、鳥類調査	
88	6	1	立正大学大学院オープンリサーチセンター	1				1	1	シオジの開花結実特性	
89	6	1	生圏システム学専攻・森林圏生態社会学研究室			1		1	1	秩父演習林におけるクマハギ被害のリスク評価	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
90	6	2	財団法人 日本野鳥の会 自然保護室				2	2	4	モニタリング1000森林コアサイト鳥類調査	
91	6	4	生圈システム学専攻・森林 圏生態社会学研究室			1		1	4	人工林経営におけるクマハギ被害のリ スク評価	川俣宿泊施設(自炊)
92	6	2	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻生物圏情報学 分野			1		1	2	クマハギ調査	柄本宿泊施設
93	6	2	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻生物圏情報学 分野			1		1	2	クマハギ調査	柄本宿泊施設
94	6	1	埼玉県環境科学国際セン ター	3				3	3	オゾンデータの回収、ミヤマスカシユリ の生育確認、アサガオの移植	
95	6	2	埼玉大学・教育学部・理 科教育講座(生物学研究 室)		3			3	6	秩父山地における半翅類昆虫相の調 査	
96	6	1	東京大学農学生命科学 研究科附属演習林	1	1			2	2	生物による搅乱が食物連鎖を通して地 表徘徊性甲虫相に及ぼす影響の解明	
97	6	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻	1		3		4	4	サイバーフorest研究	
98	6	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻	1				1	1	景観情報の収集、センサービデオ運用 準備作業	
99	6	1	新潟大学農学部附属 フィールド科学教育研究 センター佐渡ステーション	1				1	1	シオジの開花結実特性	
100	6	3	埼玉昆虫談話会				1	1	3	蛾及び甲虫類の調査並びに一部採集	
101	6	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻生物圏情報学 研究室			1		1	1	クマハギ調査	
102	6	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻	2		1		3	3	自然環境学研究、サイバーフorest研 究	
103	6	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科・付属演習 林・秩父演習林	3			10	13	13	サポートー養成講座「植物」	
104	6	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科・付属演習 林・秩父演習林	1			14	15	15	サポートー養成講座「森林における安 全管理」	
105	7	2	埼玉県立秩父農工科学 高等学校森林科学科	2			39	41	82	樹木採集実習	川俣宿泊施設
106	7	1	千葉県森林インストラク ター会	1				1	1	千葉県森林インストラクター会野外講座 の下見	
107	7	1	千葉県森林インストラク ター会	1			72	73	73	千葉県森林インストラクター会野外講座	
108	7	2	埼玉県農林総合研究セン ター水田農業研究所生産 環境担当	2	2		5	9	18	昆虫生息のデータベース構築調査	川俣宿泊施設(自炊)
109	7	1	秩父の環境を考える会				12	12	12	エコツーリズム部会の新緑ウォーク	
110	7	2	東京大学大学院農学生 命科学研究科・森林科学 専修・附属演習林			1		1	2	修士論文研究(秩父山地天然林優先 種の更新動態)	柄本宿泊施設
111	7	1	東京大学農学生命科学 研究科生物環境工学専 攻環境地水学研究室	3		1		4	4	土壤表面燃焼下における土壤中の熱 移動と有機物の挙動に関する研究の下 見・打ち合わせ	
112	7	1	東京大学大学院理学系 研究科生物化学専攻	2		1		3	3	生態学野外実習 I の下見	
113	7	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナン ス	
114	7	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナン ス	
115	7	2	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻			1		1	2	霧等水文観測物質の採水、メンテナン ス	柄本宿泊施設
116	7	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナン ス	
117	7	1	生圈システム学専攻・森林 圏生態社会学研究室			1		1	1	人工林経営におけるクマハギ被害のリ スク評価	
118	7	2	東京大学秩父演習林	1			4	5	10	科研:森林から得られる燃料を使った林 業体験プログラム	
119	7	2	秩父市立影森中学校				5	5	10	職場体験	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
120	7	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学研究室			1		1	1	クマハギ調査(人の立ち入り影響調査)	
121	7	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学研究室			1		1	2	クマハギ調査(人の立ち入り影響調査、センサーダブルカメラ、痕跡調査)	川俣宿泊施設(自炊)
122	7	2	生圏システム学専攻・森林圏生態社会学研究室			1		1	2	人工林経営におけるクマハギ被害のリスク評価	
123	7	4	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森圏管理学研究室	3		9		12	46	フィールド科学総合演習(森圏管理学)	川俣宿泊施設
124	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森圏管理学研究室	2				2	2	フィールド科学総合演習(森圏管理学)の事前設定	
125	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 田無試験地	1				1	2	冬期全学体験ゼミの現地検討、石塚君の研究指導	柄本宿泊施設
126	7	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	3	21	3		27	108	森林植物学実験 野外実習	川俣宿泊施設 川俣宿泊施設(自炊)
127	7	1	東京大学農学生命科学研究科附属演習林		1			1	1	卒論研究のため	
128	7	1	埼玉大学・教育学部・理科教育講座(生物学研究室)		2			2	2	秩父山地における半翅類昆虫相の調査	川俣宿泊施設(自炊)
129	7	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1		1		2	2	自然環境学研究、サイバーフォレスト研究	
130	7	1	生圏システム学専攻・森林圏生態社会学研究室	1		3		4	4	秩父演習林におけるクマハギ被害のリスク評価	柄本宿泊施設
131	7	3	秩父市立秩父第一中学校				3	3	8	職場体験	
132	7	2	東京大学農学生命科学研究科	1		1		2	4	ミズナラ結実の遺伝特性解明、鳥類標識調査	
133	7	1	東京大学農学生命科学研究科	1				1	1	ミズナラ結実の遺伝特性解明、鳥類標識調査	
134	7	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1		1		2	2	自然環境学研究、サイバーフォレスト研究	
135	7	2	埼玉昆虫談話会				2	2	4	蛾及び甲虫類の調査並びに一部採集	
136	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・付属演習林		1	1		2	2	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	
137	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・付属演習林			1		1	1	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	
138	7	1	東京大学農学生命科学研究科生物環境工学専攻環境地水学研究室	1	1	2		4	4	土壤表面燃焼下における土壤中の熱移動と有機物の挙動に関する実験の土壤試料採取	
139	7	1	新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション	1				1	1	シオジの開花結実特性	
140	7	2	埼玉大学・教育学部・理科教育講座(生物学研究室)		3	1		4	8	秩父山地における半翅類昆虫相の調査	
141	7	3	共栄学園高等学校	2			1	3	9	森林体験実習	柄本宿泊施設
142	7	1	埼玉県環境科学国際センター	3				3	3	オゾンデータ回収、アサガオ被害調査、ミヤマスカシヨリの生育確認	
143	7	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学研究室			1		1	1	人の立入り影響調査	
144	7	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学研究室	1		1		2	2	京大高柳先生案内	
145	7	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1		1		2	2	自然環境学研究、サイバーフォレスト研究	
146	7	1	東京大学秩父演習林				9	9	9	サポートー養成講座「秩父演習林の動物(哺乳類・昆虫)」	
147	8	2	埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所生産環境担当	3			6	9	18	昆虫生息のデータベース構築調査	川俣宿泊施設(自炊)
148	8	1	東京都立墨田川高等学校	4			17	21	21	学校設定科目 生物実習(1単位)およびSPPの実施	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
149	8	2	東京大学秩父演習林	1			3	4	8	科研:森林から得られる燃料を使った林業体験プログラム	
150	8	1	生圈システム学専攻・森林圏生態社会学研究室	1		3		4	4	秩父演習林におけるクマハギ被害のリスク評価	柄本宿泊施設
151	8	2	生圈システム学専攻・森林圏生態社会学研究室	1				1	2	秩父演習林におけるクマハギ被害のリスク評価	
152	8	4	首都大学東京・都市教養学部・理工学系	2	13	1		16	64	動物系統計学野外実習	川俣宿泊施設
153	8	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1		2	1	4	9	霧施設、森林試験地見学	柄本宿泊施設
154	8	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナンス	
155	8	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナンス	
156	8	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナンス	
157	8	2	東京大学秩父演習林	2				2	4	媒介昆虫と病原菌の遺伝的変異と病原性の変異からナラ枯れの起源に迫る	柄本宿泊施設
158	8	2	東京大学農学生命科学研究科石田研究室	1	1			2	2	スズタケ開花調査、鳥類標識、キクイムシ地域集団	
159	8	1	東京大学農学生命科学研究科石田研究室	1	1			2	4	スズタケ開花調査、鳥類標識、キクイムシ地域集団	
160	8	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学研究室			1		1	2	クマハギ撮影(センサー撮影作業、クマハギ木痕跡調査)	柄本宿泊施設
161	8	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学研究室			1		1	1	人の立入り影響調査、痕跡調査	
162	8	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学研究室			1		1	1	人の立入り影響調査、痕跡調査	
163	8	1	小鹿野町立小鹿野中学校	1				1	1	社会貢献体験研修(生物実習補助)	
164	8	1	小鹿野町立小鹿野中学校	1				1	1	社会貢献体験研修(リタートラップ回収)	
165	8	1	小鹿野町立小鹿野中学校	1				1	1	社会貢献体験研修(ライトセンサス調査)	
166	8	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1		1		2	2	自然環境学研究、サイバーフォレスト研究	
167	8	2	埼玉昆虫談話会				1	1	2	蛾及び甲虫類の調査並びに一部採集	
168	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・付属演習林			1		1	2	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	柄本宿泊施設
169	8	5	東京大学農学部森林環境科学学科		1			1	5	地表徘徊性甲虫の採集	柄本宿泊施設
170	8	3	平成20年度全国高等学校総合体育大会 秩父市・小鹿野町実行委員会	146		767	913	2739		平成22年度全国高等学校総合体育大会 登山大会	
171	8	1	東京大学農学部森林環境科学学科		1			1	1	シカ柵内外でのピットフォールトラップ設置	
172	8	1	埼玉県立北本高等学校	1				1	1	倒木上に発生する変形菌の季節的変動について	
173	8	1	埼玉県立北本高等学校	1				1	1	倒木上に発生する変形菌の季節的変動について	
174	8	3	ユースホステル研究会				8	8	24	自然探索	川俣宿泊施設
175	8	1	新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション	1				1	1	シオジの開花結実特性	
176	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・付属演習林			1		1	2	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	柄本宿泊施設
177	8	2	埼玉大学・教育学部・理科教育講座(生物学研究)	6	6	1		13	26	秩父山地における半翅類昆虫相の調査	
178	8	2	埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所生産環境担当	6	4	2	15	27	54	昆虫調査、観察	
179	8	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1				1	2	センサービデオ運用準備作業、景観情報の収集	
180	8	1	東京大学秩父演習林	2			9	11	11	サポートー養成講座「森林生態系の管理と利用」	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
181	9	4	同志社大学経済学部	3	4			7	25	エコロジー経済学ゼミ合宿	川俣宿泊施設
182	9	4	東京大学大学院理学系 研究科生物化学専攻	2	11	1		14	56	生態学野外実習 I	川俣宿泊施設
183	9	3	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環境学専攻	2		7		9	27	自然景観情報野外実習	
184	9	1	立正大学 地球環境科学	1	7			8	8	野外観察および研究試料の採取	
185	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専攻・森林動物学研究室	2		1		3	3	入川ブナ林における枯死材穿孔虫サンプルの採取	
186	9	2	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環境学専攻	1				1	2	大プロ鉄塔カメラ太陽電池用配線敷設	
187	9	1	しおじの会				3	3	3	10月29日見学会の下見	
188	9	1	太平観光株式会社				1	1	1	見学の下見	
189	9	3	静岡大学農学部・環境森林学科	1	3			4	12	土壤呼吸に及ぼす温暖化影響の実験評価	柄本宿泊施設
190	9	2	埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所生産環境担当	1			3	4	8	秩父山地の昆虫相調査(誘蛾灯による夜間採集含む)	川俣宿泊施設(自炊)
191	9	3	生圈システム学専攻・森林圈生態社会学研究室			1		1	3	秩父演習林におけるクマハギ被害のリスク評価	
192	9	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学研究室			1		1	1	クマハギ調査(痕跡・カメラ・発生チェックなど)	
193	9	3	埼玉昆虫談話会				1	1	3	蛾及び甲虫類の調査並びに一部採集	
194	9	2	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環境学専攻	1		1		2	3	樹幹流、林内雨ボトルの増設、採水作業	柄本宿泊施設
195	9	2	埼玉大学・教育学部・理科教育講座(生物学研究室)		2			2	4	秩父山地における半翅類昆虫相の調査	
196	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・付属演習林			1		1	1	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	
197	9	1	埼玉県立北本高等学校	1				1	1	倒木上に発生する変形菌の季節的変動について	
198	9	3	東京大学北海道演習林	1				1	3	大滝げんきブラザ共催事業水生昆虫指導、秩父演習林の見学と水生昆虫の採集	川俣宿泊施設(自炊)
199	9	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学研究室			1		1	1	クマハギ調査	
200	9	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学研究室			1		1	1	クマハギ調査	
201	9	4	東京大学秩父演習林	20				20	68	関東甲信越地区大学演習林技術職員研修	川俣宿泊施設
202	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・付属演習林・演習林研究部	1				1	1	全学体験ゼミ下見	
203	9	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナンス	
204	9	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナンス	
205	9	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナンス	
206	9	1	東京大学演習林研究部	1			3	4	4	秩父演習林自然観察会下見	
207	9	1	埼玉県立北本高等学校	1				1	1	倒木上に発生する変形菌の季節的変動について	
208	9	1	埼玉県立北本高等学校	1				1	1	倒木上に発生する変形菌の季節的変動について	
209	9	1	東京大学秩父演習林	3			7	10	10	サポートー養成講座「秩父演習林の林業生産と育林技術」	
210	9	1	埼玉県環境科学国際センター	2				2	2	オゾンデータの回収、ミヤマスカシユリの生育確認	
211	9	4	東京大学演習林研究部	5	13			18	72	教養学部全学体験ゼミナール 徹底検証「秩父」	川俣宿泊施設
212	9	1	立正大学大学院オープンリサーチセンター	1				1	1	シオジの開花結実特性	
213	9	1	秩父市立尾田蔵中学校	1			18	19	19	OLTチャレンジデー(原生林散策)	
214	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・付属演習林			1		1	1	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
215	9	2	東京大学農学生命科学 研究科石田研究室	1				1	2	スズタケ開花調査、鳥類標識、キツム シ地域集団	
216	9	2	東京大学大学院農学生 命科学研究科 生物・環 境工学専攻	2	2	3		7	14	修士論文「地表面加熱下における土壤 中の温度変化と有機物の挙動に関する 研究」にあたって、土壤断面調査、土壤 表面加熱実験およびサンプリングを行 うため	
217	9	1	しおじの会				2	2	2	調査地での忌避ブロックの対候状況の 確認	
218	9	1	東京大学秩父演習林	2			17	19	17	公開講座「秩父演習林のきのこ」	
219	9	1	東京農工大学大学院	1				1	1	サイバーフォレスト研究	
220	10	2	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻	2		9	1	12	23	自然環境デザイン実習 ドラム缶炭がま 設置、ツリーハウス模型	川俣宿泊施設(自炊)
221	10	1	かわごえ環境ネット 自然 環境部				19	19	19	秩父演習林の見学及び紅葉観察	
222	10	3	東京大学大学院農学生 命科学研究科・生物材料 科学専攻・製紙科学研究 室	1	18	3		22	66	平成20年度森林科学実習	川俣宿泊施設
223	10	1	日本ビオトープ管理士会・ 関東支部				9	9	9	森林生態系の成り立ち	
224	10	2	生圈システム学専攻・森林 圈生態社会学研究室			1		1	2	秩父演習林におけるクマハギ被害のリ スク評価	
225	10	2	生圈システム学専攻・森林 圈生態社会学研究室			1		1	2	秩父演習林におけるクマハギ被害のリ スク評価	
226	10	2	北海道日高支厅林務課・ 森づくりセンター・富良野 山林研修所	15				15	28	演習林各所観察	
227	10	1	埼玉県立北本高等学校	1				1	1	倒木上に発生する変形菌の季節的変 動について	
228	10	1	かわさき市民アカデミーみ どり会				22	22	22	生涯学習受講生の野外樹木研修	
229	10	2	埼玉昆虫談話会				1	1	2	蛾及び甲虫類の調査並びに一部採集	
230	10	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻生物圏情報学 研究室			1		1	1	クマハギ発生調査	
231	10	2	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻生物圏情報学 研究室			1		1	2	クマハギ調査	柄本宿泊施設
232	10	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻生物圏情報学 研究室			1		1	1	クマハギ調査	
233	10	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科・森林科学 専修・付属演習林			1		1	1	修士論文研究(秩父山地天然林優先 種の更新動態)	
234	10	2	東京大学大学院農学生 命科学研究科・森林科学 専修・付属演習林			1		1	2	修士論文研究(秩父山地天然林優先 種の更新動態)	川俣宿泊施設(自炊)
235	10	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナン ス	
236	10	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナン ス	
237	10	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナン ス	
238	10	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナン ス	
239	10	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科森林科学 専攻造林学研究室	1		1		2	2	木本植物に発達した新奇アルミニウム 防御機構の解明	
240	10	1	しおじの会				23	23	23	見学(ハイキング)	
241	10	2	東京大学演習林田無試 験地	2	11			13	26	全学体験ゼミナール「キノコに親しむ」	川俣宿泊施設
242	10	2	金沢大学自然科学研究 科	3				3	6	「高解像度衛生データ活用のための東 アジアの植生調査」のための視察	柄本宿泊施設
243	10	2	スイス工科大学	1				1	2	スイス樹木園の日本見本林育成のため の種子採取	川俣宿泊施設
244	10	1	東京大学農学部森林環 境科学学科		1			1	1	卒論研究	
245	10	1	しおじの会				1	1	1	調査地内、忌避ブロック廻りの雑木の 取除きと試験品の補修	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
246	10	1	東京大学農学生命科学 研究科石田研究室	1				1	1	スズタケ開花調査、鳥類標識、キタイム シ地域集団	
247	10	2	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻	1				1	2	ロボットカメラメンテナンス	
248	10	2	東京大学農学生命科学 研究科石田研究室	2				2	4	鳥類標識	
249	10	1	東京大学農学生命科学 研究科石田研究室	1				1	1	ミズナラ調査、長期生態系調査	
250	10	3	東京大学大学院農学生 命科学研究科 生物・環 境工学専攻	3	5			7	21	修士論文「地表面加熱下における土壤 中の温度変化と有機物の挙動に関する 研究」にあたって、土壤断面調査、土壤 表面加熱実験およびサンプリングを行 うため	
251	10	1	テレコムスタッフ				5	5	5	TV番組の撮影	
252	10	1	新潟大学農学部附属 フィールド科学教育研究 センター佐渡ステーション	1				1	1	シオジの開花結実特性	
253	10	2	東京大学大学院農学生 命科学研究科生圈システ ム学専攻森園管理学研究 室	1		1		2	4	冷温帯広葉樹種の種内競争に関する 研究	柄本宿泊施設
254	10	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科森林科学 専攻	1				1	1	保存機材の存廃分別下見	
255	10	1	東京大学農学生命科学 研究科石田研究室	1				1	1	リータトラップ試料乾燥・計測	
256	10	1	東京大学農学生命科学 研究科石田研究室	1				1	1	リータトラップ試料乾燥・計測	
257	10	1	東京大学農学生命科学 研究科石田研究室	1				1	1	リータトラップ試料乾燥・計測	
258	10	1	東京大学農学生命科学 研究科石田研究室	1				1	1	リータトラップ試料乾燥・計測	
259	10	2	埼玉昆虫談話会				1	1	2	蛾及び甲虫類の調査並びに一部採集	
260	10	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻	1				1	1	科研用カエデ類の採集	
261	10	1	東京大学秩父演習林				7	7	7	サポーター養成講座「森林の公益的機能」	
262	10	1	信州大学農学部森林科	1	2	2		5	5	ブナの肥大成長観測	
263	10	1	東京大学秩父演習林				30	13	43	ワサビ沢展示室特別開室	
264	10	1	東京大学秩父演習林				84	84	84	ワサビ沢展示室特別開室	
265	10	1	埼玉県環境科学国際セン ター	2				2	2	オゾンデータの回収、ミヤマスカシユリ の生育確認と回収	
266	10	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻	5				5	5	秩父演習林自然観察会	柄本宿泊施設
267	10	1	東京大学秩父演習林				41	41	41	ワサビ沢展示室特別開室	
268	10	1	東京大学秩父演習林				39	39	39	自由見学日	
269	11	5	ワルシャワ農業大学林学 科		2			2	10	日本産カエデ属樹木の採集・写真撮影 など	柄本宿泊施設
270	11	1	カタクリの会(石神井 ウォーキングと健康を考え る会)				14	14	14	ウォーキングと紅葉の観賞	
271	11	1	東京大学農学生命科学 研究科石田研究室	1				1	1	ミズナラ結実の遺伝特性解明	
272	11	1	東京大学農学生命科学 研究科石田研究室	1				1	1	ミズナラ結実の遺伝特性解明・長期森 林生態系研究等	
273	11	1	東京大学農学生命科学 研究科石田研究室	1				1	1	ミズナラ結実の遺伝特性解明・長期森 林生態系研究等	
274	11	1	東京大学農学生命科学 研究科石田研究室	1				1	1	ミズナラ結実の遺伝特性解明・長期森 林生態系研究等	
275	11	1	東京大学農学生命科学 研究科石田研究室	1				1	1	ミズナラ結実の遺伝特性解明・長期森 林生態系研究等	
276	11	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科・森林科学 専修・付属演習林			1		1	1	修士論文研究(秩父山地天然林優先 種の更新動態)	
277	11	2	東京大学演習林研究部	1	3			4	8	全学体験ゼミナール「年輪の科学」	川俣宿泊施設
278	11	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナン ス	
279	11	1	生圈システム学専攻・森林 圏生態社会学研究室			1		1	1	秩父演習林におけるクマハギ被害のリ スク評価	
280	11	2	生圈システム学専攻・森林 圏生態社会学研究室			1		1	2	人工林経営におけるクマハギ被害のリ スク評価	川俣宿泊施設(自炊)
281	11	1	東京大学秩父演習林				7	7	7	サポーター養成講座「秩父演習林と秩 父の歴史」	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
282	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1	1	1		3	3	落葉採取(実験材料)	
283	11	1	スイス工科大学	1				1	1	スイス樹木園の日本見本林育成のための種子採取	川俣宿泊施設
284	11	1	東京大学秩父演習林				59	59	59	ワサビ沢展示室特別開室	
285	11	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	2		11	1	14	28	自然環境デザイン実習 炭焼、ツリーハウス模型製作	川俣宿泊施設(自炊)
286	11	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1		8	10	19	19	日本学術振興会 きらめき・ときめきサイエンス「科学の森の紅葉14年間ー記録映像と現地で植物季節変化を感じようー」現地公開講義	
287	11	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1				1	1	ロボットカメラメンテナンス	
288	11	1	東京大学秩父演習林				75	75	75	ワサビ沢展示室特別開室	
289	11	1	秩父鉄道株式会社営業推進課				300	300	300	ハイキング	
290	11	1	新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション	1				1	1	シオジの開花結実特性	
291	11	1	東京大学愛知演習林	1				1	1	イヌブナ・ブナの結実状況調査	
292	11	2	横浜国立大学大学院環境リスクマネジメント専攻			1		1	2	対流圏オゾンが植物個体のバイオマスに及ぼす長期的影響-丹沢山地のブナ-	柄本宿泊施設
293	11	1	東京大学秩父演習林				65	65	65	自由見学日	
294	11	1	東京大学農学部森林環境科学学科		1			1	1	卒論研究	
295	11	3	埼玉大学・教育学部・理科教育講座(生物学研究室)	1	7	2		10	30	秩父山地における半翅類昆虫相の調査	
296	11	2	森林GISフォーラム	4	9	4		17	34	森林GISフォーラム 学生フォーラム	川俣宿泊施設
297	11	1	信州大学農学部森林学科	1	2			3	3	ブナの肥大成長観測	
298	11	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	5				5	5	秩父演習林自然観察会	柄本宿泊施設
299	11	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	20				20	20	秩父演習林自然観察会	柄本宿泊施設
300	11	1	NHK文化センター柏教室				26	26	26	渓畔林の観察	
301	11	1	東京大学秩父演習林				191	191	191	ワサビ沢展示室特別開室	
302	12	1	生圈システム学専攻・森林圈生態社会学研究室			1		1	1	人工林經營におけるクマハギ被害のリスク評価	
303	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・付属演習林			1		1	1	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	
304	12	1	埼玉県環境科学国際センター	2				2	2	ミヤマカシヨリ移植鉢の回収	
305	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林科学専修・付属演習林		1	1		2	2	修士論文研究(秩父山地天然林優先種の更新動態)	
306	12	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学研究室			1		1	1	クマハギ発生チェック・センサー・カメラ他	
307	12	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学研究室			1		1	2	クマハギ調査	柄本宿泊施設
308	12	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナンス	
309	12	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圏情報学研究室			1		1	2	クマハギ発生チェック	柄本宿泊施設
310	12	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	2		1		3	3	ロボットカメラメンテナンス	
311	12	2	生圏システム学専攻・森林圈生態社会学研究室	2		1		3	6	人工林經營におけるクマハギ被害のリスク評価	柄本宿泊施設
312	12	1	東京大学農学部地域経済・資源科学過程 国際開発農学専修		1			1	1	卒論「森林・農地土壤における物理性と線虫を指標とした生物多様性の相関解析」	
313	12	1	新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション	1				1	1	シオジの開花結実特性	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
314	12	1	東京大学農学生命科学 研究科石田研究室	1				1	1	ミズナラ結実調査	
315	12	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻生物圏情報学 研究室			1		1	1	クマハギ発生チェック	
316	12	1	埼玉県環境科学国際セン ター	3				3	3	ミヤマスカシユリ移植鉢の回収	
317	12	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻	3		1		4	4	ロボットカメラメンテナンス	
318	12	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナン ス	
319	1	2	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻	1				1	2	ロボットカメラメンテナンス	
320	1	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻生物圏情報学 研究室			1		1	1	クマハギ調査	
321	1	1	新潟大学農学部附属 フィールド科学教育研究 センター佐渡ステーション	1				1	1	シオジの開花結実特性	
322	1	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナン ス	
323	1	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻生物圏情報学 研究室			1		1	1	クマハギ調査	
324	1	2	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻	1				1	2	ロボットカメラメンテナンス	
325	2	1	しおじの会				3	3	3	子供の教育	
326	2	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻生物圏情報学 研究室			1		1	1	クマハギ調査	
327	2	1	新潟大学農学部附属 フィールド科学教育研究 センター佐渡ステーション	1				1	1	シオジの開花結実特性	
328	2	1	埼玉県環境科学国際セン ター	2				2	2	オゾンデータとオゾン計の回収、ミヤマ スカシユリの状況確認	
329	2	1	東京大学愛知演習林	1			1	2	2	設置センサー等の回収「シオジの冬季 における樹幹部収縮現象の解明」	
330	2	2	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻	1		1		2	3	ロボットカメラ用太陽電池設置変更	
331	2	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科・演習林研 究部	2		1		3	3	市町村合併に伴う森林行政の変化に 関する調査	
332	2	3	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻	2		1		3	8	ロボットカメラメンテナンス	
333	2	1	生圈システム学専攻・森林 圏生態社会学研究室	1		1		2	2	センサーカメラの回収・設置	
334	2	3	東京大学大学院農学生 命科学研究科・演習林研 究部	1		1		2	5	養菌性キクイムシ類のニッチと共生菌に 関する研究	
335	3	2	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻	1				1	2	ケヤキ人工林景観データ収集、ロボット カメラメンテナンス	
336	3	2	東京大学大学院農学生 命科学研究科・演習林研 究部	2		1		3	6	市町村合併に伴う森林行政の変化に 関する調査	
337	3	1	新潟大学農学部附属 フィールド科学教育研究 センター佐渡ステーション	1				1	1	シオジの開花結実特性	
338	3	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻			1		1	1	霧等水文観測物質の採水、メンテナン ス	
339	3	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻生物圏情報学 研究室			1		1	1	センサーカメラチェック	
340	3	2	東京大学大学院新領域 創成科学研究科自然環 境学専攻	1				1	2	ケヤキ人工林景観データ収集、ロボット カメラメンテナンス	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
341	3	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林経理学研究室	1				1	4	不成績造林地における林分構造に関する研究	
342	3	1	秩父演習林				4	4	4	公開講座「冬の森林観察」	
343	3	1	埼玉県環境科学国際センター	2				2	2	オゾンデータとオゾン計の回収、ミヤマスカシユリの状況確認	
344	3	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1				1	1	ロボットカメラメンテナンス	
345	3	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1				1	2	ロボットカメラメンテナンス	

利用者数合計	3,402
利用者延べ数合計	6,303
利用件数	345

## 演習林名:愛知演習林

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
1	4	1	東京大学保健センター	1				1	1	産業医による職場巡視	
2	4	1	犬山市健康福祉部健康推進課				33	33	33	犬山市民健康館健康づくり推進事業(ウォーキング)紹介	
3	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林利水及び砂防工学研究室			1		1	1	研究打ち合わせのため	
4	4	3	東京大学農学生命科学研究科森林経理学研究室	1				1	3	生態的要因を考慮した次世代型森林資源予測システムの開発	赤津宿泊施設
5	4	1	犬山市エコアップリーダーの会東大演習林G				12	12	12	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
6	4	1	シデコブシの会				9	9	9	演習林の自然観察	
7	4	1	犬山市健康福祉部健康推進課			41		41	41	犬山市民健康館健康づくり推進事業(ウォーキング)紹介	
8	4	1	愛知演習林	2	6		3	11	11	あいち建築デザイン専門学校・現地見	
9	4	1	犬山市エコアップリーダーの会東大演習林G				11	11	11	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
10	4	2	演習林研究部	1				1	2	東山林道調査、業務打ち合わせ	
11	4	1	東京大学森林植物学研究室	1				1	1	ナラ類集団枯損を引き起こす病原菌の分子生態学的研究	
12	4	1	東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科治山・緑化工学研究室		2			2	2	卒論研究打ち合わせ	
13	4	1	他大学		1			1	1	インタビュー	
14	5	4	愛知演習林	2	6			8	32	全学ゼミナル	赤津宿泊施設
15	5	1	犬山市エコアップリーダーの会東大演習林G				9	9	9	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
16	5	1	犬山市健康福祉部子ども未来課				17	17	17	体操教室ウォークラン下見	
17	5	1	愛知演習林				18	18	18	公開講座(巣箱観察)	
18	5	5	愛知演習林	2		2		4	20	樹液流センサ(グラニエセンサ)の作成および設置の講習	赤津宿泊施設
19	5	1	犬山市健康福祉部健康推進課				11	11	11	犬山市民健康館健康づくり推進事業(ウォーキング)紹介	
20	5	1	犬山市エコアップリーダーの会東大演習林G				10	10	10	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
21	5	1	犬山市健康福祉部子ども未来課				9	9	9	体操教室ウォークラン下見	
22	5	1	一般				1	1	1	白藤川沿いの植物	赤津宿泊施設
23	5	2	東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科治山・緑化工学研究室	1	4			5	10	卒論研究・利用者講習会参加	赤津宿泊施設
24	5	1	犬山市エコアップリーダーの会東大演習林G				14	14	14	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
25	5	1	犬山市健康福祉部子ども未来課				211	211	211	体操教室ウォークラン	
26	5	1	豊田森林組合とよた森林学校事務局				48	48	48	とよた森林学校	
27	5	2	千葉演習林	1				1	2	実生サンプスギをベースにしたスギ品種の地域別着花量の比較	赤津宿泊施設
28	6	3	東京大学砂防研究室	1	6	1		8	24	森林保全学実習	赤津宿泊施設
29	6	2	東京農業大学地球環境科学部森林総合科学科治山・緑化工学研究室		1			1	2	愛知演習林にて土壤侵食量を測定するための土砂受け箱の設置箇所の下見	赤津宿泊施設
30	6	3	愛知演習林	1	7			8	19	教養講義	赤津宿泊施設
31	6	1	犬山市健康福祉部健康推進課				17	17	17	犬山市民健康館健康づくり推進事業(ウォーキング)紹介	
32	6	1	シデコブシの会				1	1	1	演習林で行うイベントや販売にかかる打ち合わせ	
33	6	1	犬山市エコアップリーダー				10	10	10	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
34	6	1	シデコブシの会				3	3	3	木材販売のための丸太測定	
35	6	3	東京農業大学地球環境科学部森林総合科学科治山・緑化工学研究室		5			5	15	愛知演習林にて土壤侵食量を測定するための土砂受け箱の設置箇所の下見	赤津宿泊施設
36	6	1	犬山市エコアップリーダー				10	10	10	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
37	6	1	GCTVそらまめ俱楽部				3	3	3	愛知演習林の取材	
38	6	2	東京農業大学地球環境科学部森林総合科学科治山・緑化工学研究室		1			1	2	愛知演習林にて土壤侵食量を測定するための土砂受け箱の設置箇所の下見	赤津宿泊施設
39	7	1	NPO法人かすがいネイチャー	2			13	15	15	ニホンリス保全の為の高森山松枯れ調査対策プロジェクト	
40	7	1	シデコブシの会				5	5	5	砂出し体験	
41	7	1	犬山市健康福祉部健康推進課				15	15	15	犬山市民健康館健康づくり推進事業(ウォーキング)紹介	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
42	7	2	東京大学農学系事務部 経理課	3				3	6	平成20年度内部監査のため	赤津宿泊施設
43	7	1	犬山市エコアップリーダー				9	9	9	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
44	7	1	GCTVそらめ俱楽部				4	4	4	取材	
45	7	2	東京農業大学治山緑化 工学研究室		3			3	6	卒業論文のための調査	赤津宿泊施設
46	7	1	犬山市エコアップリーダー				10	10	10	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
47	7	1	愛知演習林	4			50	54	54	県道33号線沿いの清掃活動	
48	7	1	愛知演習林				25	25	25	公開講座(水生昆虫)	
49	7	2	東京農業大学治山緑化 工学研究室		1		2	3	6	卒業論文のための調査	赤津宿泊施設
50	7	1	梅村学園三重中学校	2			36	38	38	三重中学校特別授業「地球環境と調	
51	7	1	愛知演習林	1				1	1		
52	8	1	犬山市エコアップリーダー				4	4	4	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
53	8	1	犬山市エコアップリーダー				6	6	6	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
54	8	1	犬山市エコアップリーダー				8	8	8	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
55	8	1	名古屋市立北高等学校				2	2	2	教員研修の下見	
56	8	1	一般				4	4	4	子供の夏休み自由研究	
57	8	1	犬山市エコアップリーダー				6	6	6	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
58	8	2	東京大学新領域創成科学研究科自然環境学専攻山本研			1		1	2	研究相談(田中先生)と演習林見学	赤津宿泊施設
59	8	1	地域活性化協議会				42	42	42	水生昆虫観察	
60	8	4	東京農業大学地球環境科学部森林科学科		5			5	16	卒業論文作成	赤津宿泊施設
61	8	1	愛知演習林				9	9	9	公開講座(巣箱作り)	
62	8	5	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林利水及び砂防工学研究室	1	10	2		13	65	測量学実習	赤津宿泊施設
63	9	2	東京大学農学生命科学研究科森林経理学研究室	1				1	2	生態的要因を考慮した次世代型森林資源予測システムの開発	赤津宿泊施設
64	9	5	東京大学農学生命科学研究科砂防			1		1	5	研究指導を受けるため	五位塚宿泊室
65	9	1	犬山市健康福祉部健康推進課				30	30	30	犬山市民健康館健康づくり推進事業(ウォーキング)紹介	
66	9	2	東京教育大学農学部林学科36年卒の会				10	10	20	演習林散策	赤津宿泊施設
67	9	1	千葉演習林	1				1	1	実生サンプスギをベースにしたスギ品種の地域別着花量の比較	
68	9	1	東京農業大学地球環境科学部森林科学科		1			1	1	卒業論文作成	
69	9	1	犬山市エコアップリーダー				9	9	9	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
70	9	3	東京農業大学地球環境科学部森林科学科		1			1	3	卒業論文作成	五位塚宿泊室
71	9	1	犬山市エコアップリーダー				14	14	14	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
72	9	3	東京農業大学地球環境科学部森林科学科		4			4	11	卒業論文作成	赤津宿泊施設
73	9	1	シデコブシの会				33	33	33	日本樹木医会愛知県支部 第1回理事会・技術講演会・演習林見学	
74	10	1	シデコブシの会				17	17	17	東明公民館「生き生きウォーキング」下見	
75	10	1	森林植物学研究室	1		1		2	2	<i>Raffaelea quercivora</i> の分子生態学的研究	
76	10	1	犬山市役所環境部				22	22	22	犬山里山塾の開催	
77	10	1	犬山市エコアップリーダー				10	10	10	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
78	10	1	犬山市役所環境部				110	110	110	里山アドベンチャーの開催	
79	10	1	犬山市健康福祉部健康推進課				22	22	22	犬山市民健康館健康づくり推進事業(ウォーキング)紹介	
80	10	2	東京農業大学地球環境科学部森林科学科		1			1	2	卒業論文作成	赤津宿泊施設
81	10	1	シデコブシの会				3	3	3	東明公民館「生き生きウォーキング」下見	
82	10	3	東京農業大学地球環境科学部森林科学科		3			3	9	卒業論文作成	赤津宿泊施設
83	10	1	愛知県企業庁水道部水道事業課	22				22	22	水処理研修	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
84	10	1	犬山市健康福祉部健康推進課				1	1	1	犬山市民健康館健康づくり推進事業(ウォーキング)準備作業	
85	10	1	犬山市健康福祉部健康推進課				2	2	2	犬山市民健康館健康づくり推進事業(ウォーキング)準備作業	
86	10	1	東京大学農学生命科学研究科砂防			1		1	1	研究指導を受けるため	五位塚宿泊室
87	11	14	東京大学農学生命科学研究科砂防			1		1	14	研究指導を受けるため	五位塚宿泊室
88	11	2	愛知演習林	1			5	6	12	自然体験活動及び里山体験	赤津宿泊施設
89	11	2	シデコブンの会				38	38	76	下品野公民館家庭教育学級 親子で楽しもうオリエンテーリング	
90	11	1	犬山市健康福祉部健康推進課				41	41	41	犬山市民健康館健康づくり推進事業(ウォーキング)	
91	11	3	東京農業大学地球環境科学部森林科学科		4			4	12	卒業論文作成	赤津宿泊施設
92	11	2	なのはな				20	20	40	演習林散策	
93	11	1	一般				1	1	1	ハナノキ自生地の地質・地形	
94	11	1	犬山市健康福祉部健康推進課				21	21	21	犬山市民健康館健康づくり推進事業(ウォーキング)紹介	
95	11	1	犬山市環境部環境課				1	1	1	3者共催プログラムの事前準備	
96	11	1	愛知演習林	3			30	33	33	公開講座「犬山の森を知ろう！～親子で楽しむ東大演習林～」	
97	11	1	東京農業大学地球環境科学部森林科学科		1			1	1	卒業論文作成	
98	11	1	シデコブンの会				38	38	38	第2回人と自然の共生国際フォーラムフィールドワーク県内森林・林業活動現地見学	
99	11	2	シオジの会	1			15	16	32	演習林見学	赤津宿泊施設
100	11	2	秩父演習林	1		1		2	3	カシノナガキクイムシの耐寒性試験、ヨシブエナガキクイムシとカシノナガキクイムシの共生菌の乗り移りに関する研究	五位塚宿泊室
101	11	5	東京大学農学生命科学研究科砂防			1		1	5	研究指導を受けるため	五位塚宿泊室
102	11	1	興津川保全市民会議				25	25	25	観察研修	
103	11	3	東京農業大学地球環境科学部森林科学科		7			7	13	卒業論文作成	赤津宿泊施設
104	11	1	シデコブンの会				24	24	24	なごや環境大学「庄内川水系・水の旅」第6回	
105	11	1	シデコブンの会				119	119	119	東明公民館「生き生きウォーキング」	
106	12	2	東京大学農学生命科学研究科森林経理学	1				1	2	研究指導を受けるため	五位塚宿泊室
107	12	4	東京農業大学地球環境科学部森林科学科		4			4	16	卒業論文作成	赤津宿泊施設
108	12	1	犬山市健康福祉部健康推進課				16	16	16	犬山市民健康館健康づくり推進事業(ウォーキング)紹介	
109	12	1	名古屋大学生命農学研究科生物圈資源学専攻	1	36			37	37	愛知演習林見学	
110	12	1	シデコブンの会				13	13	13	紅葉を見ながら標石を探そうツアー	
111	12	1	東京大学農学生命科学研究科森林経理学	1				1	1		
112	12	10	東京大学農学生命科学研究科砂防			1		1	10	研究指導を受けるため	五位塚宿泊室
113	12	2	東京農業大学地球環境科学部森林科学科		1			1	2	卒業論文作成	赤津宿泊施設
114	12	1	犬山市エコアップリーダー				6	6	6	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
115	12	3	東京農業大学地球環境科学部森林科学科		1			1	3	卒業論文作成	赤津宿泊施設
116	1	7	東京大学新領域創成科学研究科自然環境学専攻山本研			1		1	7	研究指導を受けるため	赤津宿泊施設
117	1	1	犬山市エコアップリーダー				6	6	6	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
118	1	5	東京農業大学地球環境科学部森林科学科		1			1	5	卒業論文作成	五位塚宿泊室
119	1	1	犬山市健康福祉部健康推進課				14	14	14	犬山市民健康館健康づくり推進事業(ウォーキング)紹介	
120	1	1	犬山市エコアップリーダー				8	8	8	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
121	2	16	東京大学農学生命科学研究科砂防			1		1	16	研究指導を受けるため	五位塚宿泊室
122	2	1	犬山市健康福祉部健康推進課				23	23	23	犬山市民健康館健康づくり推進事業(ウォーキング)紹介	
123	2	1	犬山市エコアップリーダー				7	7	7	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
124	2	1	犬山市エコアップリーダー				8	8	8	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
125	2	3	愛知演習林	1	21			22	66	教養全学自由研究ゼミナール	赤津宿泊施設
126	2	1	丸山湿原群保全の会				3	3	3	犬山試験地の水収支計測の見学	
127	2	4	東京大学新領域創成科学研究科自然環境学専攻山本研	1				1	4	研究指導を受けるため	赤津宿泊施設
128	2	1	秩父演習林	1		1		2	2	カシノナガキクイムシ試験研究	
129	3	1	犬山市健康福祉部健康推進課				15	15	15	犬山市民健康館健康づくり推進事業(ウォーキング)紹介	
130	3	1	犬山市エコアップリーダー				8	8	8	市民利用と環境整備に関する地域交流協定に基づく活動	
131	3	1	愛知演習林	4			16	20	20	公開講座	
132	3	1	東京農業大学地球環境科学部森林総合科学科		6			6	6	本論提出、3年生の卒論相談	
133	3	1	千葉演習林	1				1	1	実生サンブスギをベースにしたスギ品種の地域別着花量の比較	
134	3	2	愛知演習林	3	1			4	8	教養全学体験ゼミナール	
135	3	8	砂防工学研究室			1		1	8	研究のため	
136	3	1	シデコブシの会				20	20	20	シデコブシの会総会・木材販売	
137	3	1	恵那市林材業振興協議会				27	27	27	恵那市林業振興協議会視察研修会	
138	3	1	瀬戸椿の会				13	13	13	植物観察	

利用者数合計 1,856  
 利用者延べ数合計 2,268  
 利用件数 138

**演習林名:富士演習林**

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
1	4	1	山梨県観光資源課	5				5	5	富士山レンジャー新任研修	
2	4	1	(独)物質・材料研究機構:材料信頼性センター:腐食研究グループ	1				1	1	山間部および森林部における金属材料の腐食挙動調査	
3	4	1	東邦大学・理学部・生物学科	1				1	1	シラビソの水分収支・光合成特性についての成木と稚樹の比較	
4	4	1	学校法人・大乗淑徳学園・山中湖研修センター				130	130	130	樹木園見学	
5	4	1	東邦大学・理学部・生物学科	1				1	1	シラビソの水分収支・光合成特性についての成木と稚樹の比較	
6	4	2	東京大学・運動会		20		10	30	60	保健休養	
7	4	1	東邦大学・理学部・生物学科	1				1	1	ブナ植栽林におけるブナ実生の生存と成長	
8	5	1	東邦大学・理学部・生物学科	1				1	1	ブナ植栽林におけるブナ実生の生存と成長	
9	5	3	山梨県セーリング連盟				160	160	480	東日本地域の少年少女ヨット大会開催に伴い、レクレーションの場として使用し、親睦を図る	
10	5	1	(独)物質・材料研究機構:材料信頼性センター:腐食研究グループ	1				1	2	山間部および森林部における金属材料の腐食挙動調査	
11	5	2	個人					6	6	野鳥観察	
12	5	1	特定非営利活動法人・富士山自然学校					3	3	修学旅行エコツアーや見	
13	5	1	特定非営利活動法人・富士山クラブ・静岡事務所					3	3	自然体験活動下見	
14	5	1	特定非営利活動法人・富士山自然学校	6			55	61	61	修学旅行エコツアーや	
15	5	7	(株)松栄開発				2	2	14	3林班測量	富士山中宿泊施設
16	5	1	東邦大学・理学部・生物学科	1				1	1	シラビソの水分収支・光合成特性についての成木と稚樹の比較	
17	5	11	山中湖村・村長				22000	22000	22000	第37回スボニチロードレース大会に伴う会場及び周辺通路として	
18	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生園システィム学専攻森園管理学研究室	3	7			10	20	森園管理学実験	
19	5	1	特定非営利活動法人・富士山クラブ・静岡事務所					20	20	自然体験活動	
20	5	1	アドベンチャーディバズ					45	45	FUN FUN TRAIL RUN	
21	5	1	渋谷区教育委員会事務局(西原小学校)	7			77	84	84	移動教室にて散策	
22	5	1	(株)東北新社クリエイツ					45	45	ドラマ撮影	
23	5	1	東邦大学・理学部・生物学科	1				1	2	ブナ植栽林におけるブナ実生の生存と成長	
24	5	2	渋谷区教育委員会事務局(広尾小学校)	7			33	40	80	移動教室にて散策	
25	5	1	東京大学・大学院農学生命科学研究科・森林科学専攻・森林動物学研究室	3				3	3	森林動物学実験下見	
26	5	2	東京大学・大学院農学生命科学研究科・附属演習林・千葉演習林	1				1	2	実生サンプスギをベースにしたスギ品種の地域別着花量の比較	富士山中宿泊施設
27	5	2	特定非営利活動法人・富士山自然学校					53	53	修学旅行エコツアーや	
28	6	4	東京大学・大学院農学生命科学研究科・附属演習林・秩父演習林			1		1	4	ピットホールトラップを使った地表徘徊性甲虫相の調査	
29	6	4	東京大学・大学院農学生命科学研究科・附属演習林・秩父演習林	1				1	4	基盤データ整備に伴う鳥類相の調査	
30	6	2	(株)松栄開発					2	2	3林班測量	富士山中宿泊施設
31	6	2	渋谷区教育委員会事務局(本町小学校)	7			39	46	92	移動教室にて散策	
32	6	9	(株)松栄開発					3	3	3林班測量	富士山中宿泊施設
33	6	1	東邦大学・理学部・生物学科	1		1		2	2	シラビソの水分収支・光合成特性についての成木と稚樹の比較	
34	6	1	(独)物質・材料研究機構:材料信頼性センター:腐食研究グループ	1				1	1	山間部および森林部における金属材料の腐食挙動調査	
35	6	2	東京大学・大学院農学生命科学研究科・附属演習林・富士演習林	1	10		1	12	24	総合科目D『森林一人間系の科学』	
36	6	1	なし					3	3	野鳥観察	
37	6	1	東邦大学・理学部・生物学科	1	1			2	2	産地の異なるブナの開葉フェノロジーに対する環境要因の解析	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
38	6	1	東京大学・大学院農学生命科学研究科・附属演習林・富士演習林	1		5		6	6	森林生態圈管理学特論	
39	6	1	東邦大学・理学部・生物学科	2				2	2	シオジ苗における冬期の幹の収縮	
40	6	1	東邦大学・理学部・生物学科	1		1	1	3	3	ブナ林とミズナラ林の蒸散量の比較	
41	6	2	一般				28	28	56	少年野球 練習	
42	6	1	聖ヨゼフ学園小学校				2	2	2	一年生体験学習下見のため	
43	7	2	聖ヨゼフ学園小学校	5			82	87	174	1年生体験学習	
44	7	1	学校法人渋谷教育学園 渋谷幼稚園	20			63	83	83	一泊保育	
45	7	2	東京大学大学農学生命科学研究科	3	5	2		10	20	環境設計演習 現地演習	
46	7	1	一般				3	3	3	クロスズメバチの巣採取	
47	7	2	学校法人星美学園 静岡サレジオ小学校	9			63	72	144	自然観察	
48	7	1	ホールアース自然学校				54	54	54	ナイトハイク	
49	7	2	青葉学園幼稚園	24			106	130	260	一泊保育	
50	7	1	東邦大学・理学部・生物学科	1				1	1	ブナ林とミズナラ林の蒸散量の比較	
51	7	1	(独)物質・材料研究機構:材料信頼性センター:腐食研究グループ	1			1	2	2	山間部および森林部における金属材料の腐食挙動調査	
52	7	1	一般				1	1	1	クロスズメバチの巣採取	
53	7	2	八幡幼稚園	18			64	82	164	夏期宿泊保育 体験学習	
54	7	2	東京大学運動会(経済学部経済学科)		18		12	30	60	山中寮工事視察	
55	7	3	ガールスカウト東京都支部第217団				64	64	192	散策、ポイントラー	
56	7	1	野外学校F.O.S				20	20	20	子供の会	
57	7	2	特定非営利活動法人 アースバウンダー				167	167	174	環境教育プログラム	
58	7	1	不二聖心女子学院				94	94	94	ウォーキングラリー	
59	7	2	青葉学園 野沢こども園	13			28	41	82	一泊保育	
60	7	1	大田区立雪谷小学校	1			14	15	15	自然観察	
61	7	1	東邦大学・理学部・生物学科	1				1	1	シラビソの水分収支・光合成特性についての成木と稚樹の比較	
62	7	1	特定非営利活動法人 富士山自然学校	5			52	57	57	夏休み自然教室	
63	7	1	東京大学大学農学生命科学研究科附属演習林 秩父演習林	1				1	1	実習補助のための前泊	富士山中宿泊施設
64	7	3	森林動物学研究室	4	17	3		24	72	森林動物学実験	
65	7	1	東京大学大学農学生命科学研究科附属演習林 千葉演習林	1				1	1	実生サンブスギをベースにしたスギ品種の地域別着花量の比較	
66	7	4	(株)松栄開発				3	3	12	測量	富士山中宿泊施設
67	7	1	特定非営利活動法人 アースバウンダー				70	70	70	環境教育プログラム	
68	7	1	特定非営利活動法人 富士山自然学校				13	13	13	自然体験教室下見	
69	7	1	財団法人 国際青少年研修協会		30		190	220	220	野外活動体験	
70	7	1	藤枝カトリック日曜学校				15	15	15	自然観察	
71	8	1	財団法人 国際青少年研修協会		30		190	220	220	野外活動体験	
72	8	3	藤枝カトリック日曜学校				15	15	45	自然観察	
73	8	17	ホールアース自然学校				6	6	102	ホテルマウント富士宿泊者向け自然散策	
74	8	18	東京大学・運動会・馬術		19		1	20	360	馬術部合宿	
75	8	2	世田谷キリスト教会アミリーキャンプ				25	25	25	安全な緑の芝生で昼食を取る	
76	8	2	東海大学・スポーツ医学研究所	2	32	1		35	35	動作の研修	
77	8	4	東邦大学・理学部	1		2		3	3	ブナ林とミズナラ林の蒸散量の比較	
78	8	4	(株)松栄開発				2	2	2	測量(演習林発注)	
79	8	3	カトリック藤ヶ丘教会		1		29	30	90	散策など(教会夏季学校キャンプのプログラムとして)	
80	8	1	東邦大学・理学部	1				1	1	シラビソの水分収支・光合成特性についての成木と稚樹の比較	
81	8	1	(独)物質・材料研究機構 材料信頼性センター 腐食グループ	1				1	1	山間部あるいは森林地帯での金属材料の腐食挙動調査	
82	8	1	東邦大学・理学部			1		1	1	ブナ林とミズナラ林の蒸散量の比較	
83	8	1	日本野鳥の会 神奈川支部				2	2	2	野鳥観察	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
84	8	1	東邦大学・理学部	1	1		1	3	3	ブナ植栽林におけるブナ実生の生存と成長	
85	8	1	カトリック二俣川教会		4		29	33	33	散策・レクリエーション(小学生の合宿において)	
86	8	3	(株)松栄開発				2	2	6	測量(学生部発注)	富士山中宿泊施設
87	8	2	一般				2	2	4	林内見学	
88	8	1	撫岳荘				25	25	25	スポーツによる交流活動	
89	8	4	東邦大学・理学部	1	2	2		5	14	ブナ林とミズナラ林の蒸散量の比較	富士山中宿泊施設
90	8	1	東邦大学・理学部・生物学科		1			1	1	産地の異なるブナの開花フェノロジーに対する環境要因の解析	
91	8	1	富士山自然学校	3			20	23	23	自然体験学習	
92	8	1	アースバウンダー	1			19	20	20	環境教育プログラムの実施	
93	8	1	目黒星美学園小学校				88	88	88	見学	
94	9	1	ホールアース自然学校				35	35	35	学校団体向け ナイトハイクプログラムの実施	
95	9	4	東京大学・大学院農学生命科学研究科・附属演習林・研究部	5	10			15	56	全学体験ゼミ「森に学ぶ(2)－森林の保健休養機能」	
96	9	2	東邦大学・理学部		1	1		2	4	ブナ林とミズナラ林の蒸散量の比較	富士山中宿泊施設
97	9	3	東邦大学・理学部	1	26	1		28	84	1年生野外実習	
98	9	1	株式会社シュリンクス				1	1	1	NIMS篠原先生、及び東電の暴露試験片取替え作業	
99	9	1	アースバウンダー				14	14	14	ヒメボタルとコウモリの観察会	
100	9	4	東京大学・工学系研究科・社会基盤学専攻	9	52			61	244	フィールド演習	
101	9	1	東邦大学・理学部		1		1	2	2	ブナ植栽林におけるブナ実生の生存と成長	
102	10	2	東邦大学・理学部			1		1	2	ブナ林とミズナラ林の蒸散量の比較	富士山中宿泊施設
103	10	1	東京大学・大学院農学生命科学研究科・生圈システム学専攻・森圏管理学研究室	1				1	1	ミズナラ遺伝構造調査 試験地設定下見	
104	10	1	東京大学・大学院農学生命科学研究科・附属演習林・研究部	3				3	3	総合科目「森をはかる」現地実習下見	
105	10	2	東京大学・大学院農学生命科学研究科・附属演習林・秩父演習林	3				3	6	基盤データ整備・鳥類相の調査	
106	10	1	(株)静岡新聞社 SBS学苑パルシェ校				12	12	12	植物観察	
107	10	1	特定非営利活動法人 アースバウンダー	40				40	40	ガイドウォーク	
108	10	1	特定非営利活動法人 アースバウンダー				10	10	10	ガイドウォーク	
109	10	3	聖ヨゼフ学園小学校	7			77	84	252	自然体験学習	
110	10	2	東京大学・大学院農学生命科学研究科・緑地植物実験所			1		1	2	演習林周辺での研究に伴う宿泊施設の利用	富士山中宿泊施設
111	11	1	東邦大学理学部		1	1		2	2	ブナ植栽林におけるブナ実生の生存と成長	
112	11	2	東京大学・大学院農学生命科学研究科・生圈システム学専攻・耕地生圏生態学研究室			1		1	2	里山におけるアカギツネとタヌキの食性に関する研究	富士山中宿泊施設
113	11	1	美花里自然教室					12	12	環境学習会のフィールドとして利用	
114	11	1	富岳写真教室				3	3	3	見学	
115	11	1	株式会社シュリンクス				1	1	1	暴露試験片取替え作業	
116	11	4	私立目黒星美学園小学校	9			119	128	512	演習林湖畔広場	
117	11	1	秩父演習林サポートー				2	2	2	見学	
118	11	2	株式会社・新津組				1	1	2	山中寮内藤セミナーhaus建設工事での宿泊	富士山中宿泊施設
119	11	1	富士山自然学校				1	1	1	見学	富士山中宿泊施設
120	11	5	東京大学・大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻・耕地生圏生態学研究室			1		1	5	里山におけるアカギツネとタヌキの食性に関する研究	富士山中宿泊施設
121	11	1	東邦大学・理学部・生物学科			1		1	1	シラビソの水分収支・光合成特性についての成木と稚樹の比較	
122	11	1	東京大学・大学院農学生命科学研究科・附属演習林・研究部	4	49			53	53	総合科目「森をはかる」	
123	12	11	東京大学・大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻・耕地生圏生態学研究室			1		1	11	里山におけるアカギツネとタヌキの食性に関する研究	富士山中宿泊施設
124	12	1	しおじの会				2	2	2	イベント補助	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
125	12	1	東邦大学・理学部・生物学科	1	1			2	2	シオジ苗における冬季の幹の収縮	
126	12	1	(独)物質・材料研究機構 材料信頼性センター 腐食グループ	1				1	1	山間部あるいは森林地帯での金属材料の腐食挙動調査	
127	12	1	東邦大学・理学部・生物学科	1				1	1	シラビソの水分収支・光合成特性についての成木と稚樹の比較	
128	1	3	ボーイスカウト府中第6団				13	13	39	ボーイスカウト雪上訓練キャンプ	
129	1	1	(独)物質・材料研究機構 材料信頼性センター 腐食グループ	1			1	2	2	山間部あるいは森林地帯での金属材料の腐食挙動調査	
130	2	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	3				3	6	基盤データ整備 鳥類調査	
131	2	1	株式会社ピカ PICA山中湖ヴィレッジ				10	10	10	月夜の夜の散歩	
132	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士演習林	15			1		16	東大教職員対象 特別ガイド	
133	3	1	(独)物質・材料研究機構 材料信頼性センター 腐食グループ	1			2	3	3	山間部あるいは森林地帯での金属材料の腐食挙動調査	
134	3	2	東京電力技術開発研究所材料技術センター環境 材料技術グループ	2			4	6	10	鋼管内部環境の腐食性評価に伴う資材の設置、センサ動作確認等の作業	
135	3	1	株式会社 シュリンクス				1	1	1	室温度計設置作業	
136	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1				1	1	スギ苗の測定・調査	
137	3	1	東邦大学・理学部・生物学科	1				1	1	シラビソの水分収支・光合成特性についての成木と稚樹の比較	
138	3	1	株式会社 シュリンクス				1	1	1	暴露試験片の取替え作業	

利用者数合計 25,316  
 利用者延べ数合計 27,995  
 利用件数 138

**演習林名:樹芸研究所**

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
1	4	10	東京大学・農学生命科学 研究科・森林科学・造林 学研究室			1		1	10	熱帯産フタバガキ科樹木の低温応答	
2	4	1	静岡大学教育学部附属 浜松中学校				3	3	3	中学校総合学習の一環	
3	4	1	学校法人 九里学園浦和 実業学園中学校	6			87		93	温室見学	
4	4	2	東京大学・農学生命科学 研究科・生圈システム学・ 森圈管理学研究室	3	1	5		9	18	森林調査の基本技術の習得	
5	4	1	一般見学				5	5	5	温室見学	
6	5	1	南伊豆町役場町民課				1	1	1	気象雨量データ提供(廃棄物処分場管 理記録用)	
7	5	1	南伊豆町役場企画調整 課				1	1	1	気象観測データ提供(町勢要覧資料)	
8	5	9	東京大学・農学生命科学 研究科・森林科学・造林 学研究室			1		1	9	熱帯産フタバガキ科樹木の低温応答	
9	5	1	東京大学・演習林・樹芸 研究所				18	18	18	公開講座「春の散策」	
10	5	4	東京大学・農学生命科学 研究科・森林科学・造林 学研究室			1		1	4	撥水性土壤の分布および斜面における 土壤水分動態	
11	5	2	東京大学・農学生命科学 研究科・森林科学・造林 学研究室	1		1		2	4	木本植物に発達した新奇アルミニウム 防護機構の解明	
12	6	3	東京大学・演習林・秩父 演習林	1	2			3	7	総合科目D「森林一人間系の科学」	
13	6	2	東京大学・農学生命科学 研究科・森林科学・造林 学研究室	1		1		2	4	撥水性土壤の分布および斜面における 土壤水分動態	
14	6	1	東京大学・演習林・樹芸 研究所				51	51	51	温室特別公開	
15	6	3	東京大学・農学部・フィー ルド科学専修	1	1			2	6	埋土種子調査のための土壤サンプル の採取と植生調査	
16	6	2	東京大学・演習林・富士 演習林	1				1	2	森林教育プログラム調査報告	
17	6	2	東京大学・演習林・千葉 演習林	1				1	2	暖温帯常緑広葉樹林の持続的維持に關 する繁殖生態学的研究	
18	6	1	ろうきんグリーン友の会				13	13	13	温室見学	
19	7	1	財団法人 東京大学新聞 社		2			2	2	東大新聞取材「夏休み・潜む危険に氣 をつけろ」	
20	7	1	静岡県立下田高校南伊 豆分校	11				11	11	南伊豆分校第1回職員研修	
21	7	3	東京大学・農学生命科学 研究科・緑地植物実験所	1	5	1		7	21	応用生物学基礎実験 I (緑地生物学 専修)	
22	7	1	東京大学・演習林・樹芸 研究所				24	24	24	公開講座「子ども樹木博士」	
23	7	1	一般見学				2	2	2	温室見学	
24	7	2	東京大学・農学生命科学 研究科・森林科学・造林 学研究室	1		1		2	4	撥水性土壤の分布および斜面における 土壤水分動態	
25	7	1	東京大学・農学部・フィー ルド科学専修		1			1	1	暖温帯常緑広葉樹二次林における伐 採後の遷移過程の推定	
26	7	1	一般				1	1	1	フタバガキ科植物の育成状況視察	
27	7	1	静岡県立下田高校	8			8	8	8	静岡県高等学校理科AT公開授業	
28	8	4	東京大学・演習林・樹芸 研究所	3	28			31	122	全学体験ゼミナール「夏版 伊豆に學 ぶ」	
29	8	1	東京大学・演習林・富士 演習林	1				1	1	実習打合せ	
30	8	2	東京大学・農学部・フィー ルド科学専修		2			2	4	暖温帯常緑広葉樹二次林における伐 採後の遷移過程の推定	
31	8	2	東京大学・農学部・フィー ルド科学専修		2			2	4	暖温帯常緑広葉樹二次林における伐 採後の遷移過程の推定	
32	8	4	東京大学・演習林・樹芸 研究所	4	23			27	107	国際開発農学専修森林実習	
33	8	2	東京大学・演習林・千葉 演習林	1				1	2	実験器具設置	
34	9	1	東京大学・農学生命科学 研究科・森林科学・造林 学研究室	1		1		2	2	撥水性土壤の分布および斜面における 土壤水分動態	
35	9	4	東京大学・演習林・樹芸 研究所	1	24			25	98	全学体験ゼミナール「森に学ぶ」	
36	9	3	東京大学・農学部・フィー ルド科学専修	1	1			2	6	暖温帯常緑広葉樹二次林における伐 採後の遷移過程の推定	
37	9	1	賀茂林業研究会				60	60	60	静岡県林業大会 青野研究林視察	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
38	9	3	東京大学・農学部・ファーリード科学専修		1			1	3	暖温帯常緑広葉樹二次林における伐採後の遷移過程の推定	
39	9	1	一般見学				3	3	3	温室見学	
40	10	3	東京大学・農学部・ファーリード科学専修		1	1		2	5	暖温帯常緑広葉樹二次林における伐採後の遷移過程の推定	
41	10	1	東京大学・演習林・樹芸研究所				16	16	16	温室特別公開	
42	10	2	山形大学・理学部・物質生命化学科	1	1			2	3	ゴム生産植物の組織培養を利用したゴム合成機構の解析	
43	10	1	東京大学・演習林・研究部	1				1	1	全演協科研研究流出水の平均滞留時間推定のため	
44	10	1	東京農業大学・地域環境科学部・森林総合科学科・森林生態学研究室		4			4	4	毎木・植生調査実習の現地下見	
45	10	2	東京大学・農学生命科学研究科・生圏システム学・森林圏生態社会学研究室			1		1	2	クマハギ被害地の人工林樹皮の揮発性物質分析	
46	10	1	天城自然ガイドクラブ				2	2	2	静岡県主催の森林と県民との交流事業「森林鑑定団」の下見	
47	10	2	東京大学・農学部・ファーリード科学専修		1			1	2	暖温帯常緑広葉樹二次林における伐採後の遷移過程の推定	
48	11	1	東京大学・農学生命科学研究科・生圏システム学・森圏管理学研究室	1			7	8	8	クヌキ・スダジイ材製品化に向けての試験伐採現地検討会	
49	11	1	東京大学・農学生命科学研究科・森林科学・造林学研究室	1		1		2	2	撥水性土壤の分布および斜面における土壤水分動態	
50	11	1	天城自然ガイドクラブ				13	13	13	静岡県主催の森林と県民との交流事業「森林鑑定団」	
51	11	1	東京農業大学・森林生態学研究室	4	43	5		52	52	森林実習	
52	11	1	東京大学・演習林・樹芸研究所				25	25	25	温室特別公開	
53	11	2	東京大学・農学部・ファーリード科学専修		1			1	2	暖温帯常緑広葉樹二次林における伐採後の遷移過程の推定	
54	12	2	山形大学・理学部・物質生命化学科	1	1			2	4	ゴム生産植物の組織培養を利用したゴム合成機構の解析	
55	12	2	東京大学・農学生命科学研究科・生圏システム学・森林圏生態社会学研究室			1		1	2	クマハギ被害地の人工林樹皮の揮発性物質分析	
56	12	1	東京大学・演習林・樹芸研究所				9	9	9	公開講座「鳥の巣箱をつくろう」	
57	12	1	東京大学・演習林・研究部	1				1	1	柏キヤンバスどんぐり保育園開園式記念植樹用の苗木提供	
58	12	1	東京大学・農学生命科学研究科・森林科学・造林学研究室	1		1		2	2	撥水性土壤の分布および斜面における土壤水分動態	
59	12	1	東京大学・演習林・樹芸研究所				6	6	6	温室特別公開	
60	12	1	東京大学・農学部・ファーリード科学専修		1			1	1	暖温帯常緑広葉樹二次林における伐採後の遷移過程の推定	
61	1	2	東京大学・演習林・樹芸研究所				3	3	6	シカ調査ボランティア	
62	1	1	東京大学・演習林・樹芸研究所				8	8	8	温室特別公開	
63	1	1	一般見学				4	4	4	温室見学	
64	1	1	下田市立稲梓小学校	2			21	23	23	森林教室	
65	1	2	東京大学・演習林・秩父演習林	2				2	4	車両(マイクロバス)移動	
66	2	1	一般見学				2	2	2	温室見学	
67	2	1	東京大学・農学生命科学研究科・森林科学・造林学研究室	1		1		2	2	撥水性土壤の分布および斜面における土壤水分動態	
68	2	1	一般見学				4	4	4	温室見学	
69	2	4	東京大学・演習林・樹芸研究所	1	37			38	150	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」1	
70	2	1	一般見学				4	4	4	温室見学	
71	2	1	東京大学・演習林・樹芸研究所				13	13	13	温室特別公開	
72	2	1	一般見学				2	2	2	温室見学	
73	2	4	東京大学・演習林・樹芸研究所	1	34			35	137	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」2	
74	3	1	一般見学				2	2	2	温室見学	
75	3	3	東京大学・演習林・研究部	2	2			4	12	山地源流域における降雨一流出の空間分布を把握するための調査	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
76	3	3	東京大学・農学生命科学 研究科・生圏システム学・ 森林圏生態社会学研究 室			1		1	3	クマハギ被害地の人工林樹皮の揮発 性物質分析	
77	3	2	東京大学・農学生命科学 研究科・生圏システム学・ 森林圏生態社会学研究 室			1		1	2	クマハギ被害地の人工林樹皮の揮発 性物質分析	
78	3	2	東京大学・演習林・研究			1	1	2	4	試験地見学	
79	3	1	東京大学・演習林・樹芸 研究所				12	12	12	温室特別公開	
80	3	1	一般見学				6	6	6	青野研究林見学	
81	3	1	一般見学				4	4	4	温室見学	

利用者数合計                    654  
 利用者延べ数合計              1,303  
 利用件数                      81

**演習林名:田無試験地**

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
1	4		名古屋大学大学院生命農学研究科森林保護学研究分野							日本列島における森林昆虫の個体群構造	利用者による現地利用を伴わない
2	4	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻自然環境評価学研究室			2		2	2	街路樹の生理生態	
3	4	19	東京大学農学生命科学研究科附属演習林研究部	1				1	19	クズとイシミカワの生物防除のための候補昆虫の探索	
4	4	6	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1		2		3	12	サクラでんぐ巣病に関する研究	
5	4	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室			4		4	9	マツ類の樹体内におけるマツザイセンチュウの移動・分布とマツ類の枯死機構との関係の究明	
6	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室			1		1	1	マツ材線虫病の細胞生理学的研究	
7	4	1	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻学伊藤元巳研究室			1		1	1	無融合体ニガナの多様性の解析	
8	4	2	白梅学園短期大学保育	1	24			25	46	関東近郊の森林における生物の観察	
9	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	3	18	1		22	22	造林学実験	
10	4	1	東京都立一橋高等学校	1				1	1	生物II 菌根菌の観察	
11	4	2	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1	1			2	3	木本植物のアルミニウム集積を伴う強力なアルミニウム耐性の解析	
12	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室	1		1		2	2	昆虫嗜好性線虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雑と媒介昆虫種類の影響	
13	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	2				2	2	カエデ2種の光要求度	
14	4	1	ホトトギスの会				16	16	16	自然観察会	
15	4	3	東大農場演習林の存続を願う会				73	73	73	植物観察	
16	4	1	NPO法人習志野イースタースポーツクラブ				15	15	15	自然環境の大切さを考える	
17	4	1	一般				1	1	1	植物観察	
18	4	1	滝浪会				13	13	13	俳句吟行	
19	4	1	西東京市生活環境部みどり公園課				70	70	70	市民対象の「みどりの散策路めぐり」	
20	4	1	小平市シルバーパートナーセンター				60	60	60	市民樹木観察会	
21	4	1	休日公開				113	113	113		
22	4		その他一般見学者				616	616	616		
23	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室			1		1	1	マツ材線虫病の細胞生理学的研究	
24	5	18	東京大学農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	18	クズとイシミカワの生物防除のための候補昆虫の探索	
25	5	1	白梅学園短期大学保育科	1	22			23	23	関東近郊の森林における生物の観察	
26	5	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室			2		2	4	マツ類の樹体内におけるマツザイセンチュウの移動・分布とマツ類の枯死機構との関係の究明	
27	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科応用昆虫学研究室	2	29	5		36	36	フィールド農学基礎実習(昆虫採集等)	
28	5	1	東京大学農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	1	クズとイシミカワの生物防除のための候補昆虫の探索	
29	5	1	全学体験ゼミナール(教養学部)		5			5	5	都市の緑の生き物に親しむ	
30	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1				1	1	サクラでんぐ巣病に関する研究	
31	5	4	東京大学大学院農学生命科学研究科生物環境工学専攻生物環境情報工学研究室			1		1	4	対流圏オゾンの植生影響評価に向けた気孔コンダクタンスマデリング	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
32	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室	1		1		2	2	昆虫嗜好性線虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雑と媒介昆虫種類の影響	
33	5	1	財団法人石油産業活性化センター				2	2	2		
34	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1		1		2	2	スギ針葉表面からの水分吸収	
35	5	1	一般				1	1	1	竹とんぼの竹の採集	
36	5	1	休日公開				29	29	29		
37	5	1	健康ウォーキング				25	25	25	自然観察会	
38	5	3	東大農場演習林の存続を願う会				70	70	70	植物、動物観察	
39	5	1	ホトギスの会				16	16	16	自然観察会	
40	5	1	練馬閑町リサイクルセンター活動機構				25	25	25	自然観察会	
41	5	1	ひばりが丘保育園				46	46	46	散歩	
42	5	1	NPO法人南沢シュタイナー子ども園				86	86	86	遠足	
43	5	1	桶川市植物愛好会				20	20	20	植物観察	
44	5	1	西東京市立西原保育園				64	64	64	遠足	
45	5	1	社会福祉法人シャローム南沢				29	29	29	散歩	
46	5		その他一般見学者				699	699	699		
47	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1				1	2	サクラでんぐ巣病に関する研究	
48	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生物環境工学専攻生物環境情報工学研究室			1		1	2	対流圏オゾンの植生影響評価に向けた気孔コンダクタンスマodeling	
49	6	21	東京大学農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	21	クズとイシミカワの生物防除のための候補昆虫の探索	
50	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室			1		1	1	マツ類の樹体内におけるマツザイセンチュウの移動・分布とマツ類の枯死機構との関係の究明	
51	6	2	一般				1	1	2	二酸化チツソ測定	
52	6	2	全学体験ゼミナール(教養学部)	1	5			6	12	都市の緑と生き物に親しむ	
53	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	3	18	1		22	22	造林学実験	
54	6	2	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻学伊藤元巳研究室			1		1	2	無融合体ニガナの多様性の解析	
55	6	1	西東京市立保谷第二小学校(市小研)	25				25	25	西東京市立小学校教育研究会 理科研究会(6月度)	
56	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室					1	2	昆虫嗜好性線虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雫と媒介昆虫種類の影響	
57	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室	1	17	1		19	38	森林動物学実験	
58	6	2	東京大学大学院農学生命科学専攻科生園システム学専攻緑地創成研究室			1		1	2	緑化樹種アオキにおける自主タイプと非自生タイプの交雫可能性の検証	
59	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室			1		1	1	マツ材線虫病の細胞生理学的研究	
60	6	1	東京大学農学部生園システム学専攻森園管理学研究室		2			2	2	暖温帯常緑広葉樹二次林における伐採後の遷移過程の把握と予測	
61	6	2	東京大学大学院農学生命科学専攻科生園システム学専攻森園管理学研究室	2				2	3	ユビソヤナギとエゾヤナギ実生の耐雪性の検討	
62	6	1	ホトギスの会				16	16	16	自然観察会	
63	6	4	東大農場演習林の存続を願う会				84	84	84	動物観察	
64	6	1	NHK学園くにたちオープنسスクール				25	25	25	自然観察会	
65	6	1	特別養護老人ホームグリーンロード				1	1	1	七夕用笛の分譲	
66	6	1	西東京市立本町小学校				58	58	58	動物観察	
67	6		その他一般見学者				457	457	457		

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
68	7	22	東京大学農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	22	クズとイシミカワの生物防除のための候補昆虫の探索	
69	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	2	スギ針葉表面からの水分吸収	
70	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1				1	1	サクラでんぐ巢病に関する研究	
71	7	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室			1		1	3	マツ類の樹体内におけるマツザイセンチュウの移動・分布とマツ類の枯死機構との関係の究明	
72	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室			1		1	1	マツ材線虫病の細胞生理学的研究	
73	7	3	東京大学大学院農学生命科学研究科生物環境工学専攻生物環境情報工学研究室			1		1	3	対流圏オゾンの植生影響評価に向けた気孔コンダクタンスマデリング	
74	7	12	東京大学農学部生園システム学専攻森園管理学研究室		1			1	12	暖温帯常緑広葉樹二次林における伐採後の遷移過程の把握と予測	
75	7	11	東京大学大学院農学生命科学専攻科生園システム学専攻森園管理学研究室	1				1	11	ユビソヤナギとエゾヤナギ実生の耐雪性の検討	
76	7	1	(株)ベネッセコーポレーション	5	15	1		21	21	「サイエンス体験キャンプ」キャンプカウンセラー野外研修	
77	7	1	ホトギスの会				16	16	16	自然観察会	
78	7	5	東大農場演習林の存続を願う会				74	74	74	植物、動物観察	
79	7	1	西東京市立田無小学校				103	103	103	生活科見学	
80	7	1	一般				15	15	15	吟行	
81	7		その他一般見学者				267	267	267		
82	8	18	東京大学農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	18	クズとイシミカワの生物防除のための候補昆虫の探索	
83	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	2	カエデ2種の光要求度	
84	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室			1		1	2	マツ類の樹体内におけるマツザイセンチュウの移動・分布とマツ類の枯死機構との関係の究明	
85	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生物環境工学専攻生物環境情報工学研究室			1		1	2	対流圏オゾンの植生影響評価に向けた気孔コンダクタンスマデリング	
86	8	12	東京大学農学部生園システム学専攻森園管理学研究室		1			1	12	暖温帯常緑広葉樹二次林における伐採後の遷移過程の把握と予測	
87	8	6	東京大学大学院農学生命科学専攻科生園システム学専攻森園管理学研究室	1				1	6	ユビソヤナギとエゾヤナギ実生の耐雪性の検討	
88	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物環境工学専攻環境治水額研究室	2	2	4		8	8	土壤CO <sub>2</sub> 濃度の経時変化モニタリング	
89	8	1	(財)石油産業活性化センター自動車燃料研究部	1	1			2	2	スギおよびヒノキからの生物起源揮発性有機化合物放出量測定	
90	8	4	東大農場演習林の存続を願う会				72	72	72	植物、動物観察	
91	8	1	休日公開				13	13	13		
92	8	1	森林教室				9	9	9		
93	8		その他一般見学者				119	119	119		
94	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	3	18	1		22	22	造林学実験	
95	9	20	東京大学農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	20	クズとイシミカワの生物防除のための候補昆虫の探索	
96	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	2	1	1		4	6	スギ針葉表面からの水分吸収	
97	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室			1		1	2	マツ類の樹体内におけるマツザイセンチュウの移動・分布とマツ類の枯死機構との関係の究明	
98	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1				1	1	サクラでんぐ巢病に関する研究	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
99	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物環境工学専攻生物環境情報工学研究室			1		1	1	対流圏オゾンの植生影響評価に向けた気孔コンダクタンスモデリング	
100	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室	1				1	1	昆虫嗜好性線虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雑と媒介昆虫種類の影響	
101	9	1	東京大学農学部生園システム学専攻森園管理学研究室		1			1	1	暖温帶常緑広葉樹二次林における伐採後の遷移過程の把握と予測	
102	9	3	東京大学大学院農学生命科学専攻科生園システム学専攻森園管理学研究室	1				1	3	ユビソヤナギとエゾヤナギ実生の耐雪性の検討	
103	9	2	(財)石油産業活性化センター自動車燃料研究部	1	1			2	4	スキおよびヒノキからの生物起源揮発性有機化合物放出量測定	
104	9	1	(財)公園緑地管理財団武蔵管理センター				2	2	2	生物多様性に配慮した樹林地の景観管理技術に関する研究	
105	9	1	東京大学アジア生物環境研究センター	1				1	1	樹齢の異なるアカマツからのエンドファイト分離および同定	
106	9	1	東大農場演習林の存続を願う会				12	12	12	環境省実施(事務委託:日本自然保護協会)の「モニタリング1000里地調査」	
107	9	4	東大農場演習林の存続を願う会				64	64	64	植物、動物観察	
108	9	1	陸軍士官学校61期生会				35	35	35	見学	
109	9	1	ホトギスの会				16	16	16	見学	
110	9		その他一般見学者				243	243	243		
111	10	21	東京大学農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	21	クズとイシミカワの生物防除のための候補昆虫の探索	
112	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1				1	1	サクラでんぐ巣病に関する研究	
113	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物環境工学専攻生物環境情報工学研究室			1		1	1	対流圏オゾンの植生影響評価に向けた気孔コンダクタンスモデリング	
114	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室	1				1	1	昆虫嗜好性線虫の侵入定着と遺伝的構造に及ぼす種間交雫と媒介昆虫種類の影響	
115	10	2	東京大学農学部生園システム学専攻森園管理学研究室		1			1	2	暖温帶常緑広葉樹二次林における伐採後の遷移過程の把握と予測	
116	10	5	東京大学大学院農学生命科学専攻科生園システム学専攻森園管理学研究室	1				1	5	ユビソヤナギとエゾヤナギ実生の耐雪性の検討	
117	10	4	東大農場演習林の存続を願う会				64	64	64	植物、動物観察	
118	10	1	散策会				20	20	20	見学	
119	10	1	ホトギスの会				16	16	16	見学	
120	10	1	旧東大田無学寮OB会の集い				24	24	24	見学	
121	10	1	田無学童クラブ				34	34	34	見学	
122	10	1	八ね会(高齢者・生涯学習OBの会)				10	10	10	見学	
123	10	1	柳橋保育園				24	24	24	見学	
124	10	1	東久留米第五小学校				95	95	95	見学	
125	10	1	一般				1	1	1	見学	
126	10	1	朝サンシャイン研究会				14	14	14	見学	
127	10	1	西東京市立向台小学校(農場より依頼の件)				206	206	206	見学	
128	10	1	かりがね草の会				13	13	13	見学	
129	10	26	休日公開				39	39	39	見学	
130	10	26	子ども樹木博士				27	27	27	学習	
131	10		その他一般見学者				429	429	429	見学	
132	11	15	東京大学農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	15	クズとイシミカワの生物防除のための候補昆虫の探索	
133	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1		1		2	2	サクラでんぐ巣病に関する研究	
134	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生物環境工学専攻生物環境情報工学研究室		1			1	2	対流圏オゾンの植生影響評価に向けた気孔コンダクタンスモデリング	
135	11	2	東京大学農学部生園システム学専攻森園管理学研究室		1			1	2	暖温帶常緑広葉樹二次林における伐採後の遷移過程の把握と予測	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
136	11	2	東京大学大学院農学生命科学専攻科生園システム学専攻森園管理学研究室	1				1	2	ユビソヤナギとエゾヤナギ実生の耐雪性の検討	
137	11	2	東京大学大学院農学生命科学専攻科生園システム学専攻緑地創成研究室			1		1	2	緑化樹種アオキにおける自主タイプと非自生タイプの交雑可能性の検証	
138	11	1	東大農場・演習林の存続を願う会				11	11	11	環境省実施(事務委託・日本自然保護協会)の「モニタリング1000里地調査」	
139	11	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属北海道演習林	1				1	4	都市域におけるマツ材線虫病被害と媒介昆虫マツノマダラガミキリの動態	
140	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属北海道演習林	1				1	1	都市樹林地におけるナラタケモドキの生態と病原性	
141	11	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属北海道演習林	1				1	4	ブナ科樹木萎凋病抵抗性の樹種間差に関与する要因	
142	11	1	東京大学大学院・農学生命科学専攻科・生園システム学専攻・博士課程1年	1		1		2	2	ヨシブエナガキイムシヒカシノナガキクイムシの共生菌の乗り移りに関する研究	
143	11	3	東大農場演習林の存続を願う会				74	74	74	植物、動物観察	
144	11	1	自由学園初等部	4			42	46	46	見学	
145	11	1	ホトトギスの会				13	13	13	見学	
146	11	1	社団法人日本植物友の会				24	24	24	見学	
147	11	1	西東京市立田無小学校	3			98	101	101	見学	
148	11	2	休日公開				52	52	60	見学	
149	11		その他一般見学者				292	292	292	見学	
150	12	16	東京大学農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	16	クズとイシミカワの生物防除のための候補昆虫の探索	
151	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	1	スギ針葉表面からの水分吸収	
152	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室			1		1	1	マツ類の樹体内におけるマツザイセンチュウの移動・分布とマツ類の枯死機構との関係の究明	
153	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室			1		1	1	マツ材線虫病の細胞生理学的研究	
154	12	1	東大農場・演習林の存続を願う会				11	11	11	環境省実施(事務委託・日本自然保護協会)の「モニタリング1000里地調査」	
155	12	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属北海道演習林	1				1	4	ブナ科樹木萎凋病抵抗性の樹種間差に関与する要因	
156	12	1	東京大学農学生命科学研究科附属田無試験地	2			8	10	10	第18期生樹木医研修会	
157	12	2	一般				1	1	2	二酸化チッソ測定	
158	12	4	東大農場演習林の存続を願う会				81	81	81	植物、動物観察	
159	12		その他一般見学者				199	199	199	見学	
160	1	18	東京大学農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	18	クズとイシミカワの生物防除のための候補昆虫の探索	
161	1	2	(財)石油産業活性化センター自動車燃料研究部	2				2	4	スギおよびヒノキからの生物起源揮発性有機化合物放出量測定	
162	1	2	東京大学農学生命科学研究科附属北海道演習林	10				10	10	GIS講習	
163	1	2	東京大学農学生命科学研究科附属演習林							附属演習林技術職員採用試験	
164	1	4	東大農場演習林の存続を願う会				73	73	73	植物、動物観察	
165	1		その他一般見学者				127	127	127	見学	
166	2	18	東京大学農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	18	クズとイシミカワの生物防除のための候補昆虫の探索	
167	2	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属北海道演習林	1				1	3	生立木樹幹腐朽の非破壊機器診断法に関する検討	
168	2	1	東京大学・大学院農学生命科学研究科・森林科学専攻・森林植物学研究室	1				1	1	ナラタケ属菌の感染機構の解明	
169	2	1	東大農場・演習林の存続を願う会				11	11	11	環境省実施(事務委託・日本自然保護協会)の「モニタリング1000里地調査」	
170	2	4	東大農場演習林の存続を願う会				81	81	81	植物、動物観察	

No.	月	日数	代表者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用者述べ数	利用目的	宿泊施設
171	2	2	いであ株式会社				6	6	6	オオタカ調査	
172	2	1	みどり保育園すみれぐみ				23	23	23	見学	
173	2		その他一般見学者				137	137	137	見学	
174	3	5	東京大学農学生命科学 研究科附属秩父演習林	1				1	5	クズとイシミカワの生物防除のための候補昆虫の探索	
175	3	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科森林植物 学研究室	2				2	2	サクラてんぐ巣病に関する研究	
176	3	1	東京大学大学院農学生 命科学専攻科生園システィ ム学専攻森園管理学研究 室	1				1	1	ユビソヤナギとエゾヤナギ実生の耐雪 性の検討	
177	3	1	東大農場・演習林の存続 を願う会				11	11	11	環境省実施(事務委託・日本自然保護 協会)の「モニタリング1000里地調査」	
178	3	4	東大農場演習林の存続を 願う会				87	87	87	植物、動物観察	
179	3	1	ホトギスの会				15	15	15	見学	
180	3	1	東京都環境局自然環境 部計画課				3	3	9	オオタカ調査	
181	3	1	月曜会				22	22	22	見学	
182	3	1	西東京市福祉部生活福 祉課				10	10	10	見学	
183	3		その他一般見学者				260	260	260	見学	

利用者数合計 6,937  
 利用者延べ数合計 7,298  
 利用件数 183

## ■研修■

### 技術職員

研修名	開催機関	開催月	参加人数
平成20年度技術職員等試験研究・研修会議	東京大学演習林	11	20
第11回関東甲信越地区演習林技術職員研修	東京大学演習林	9	6
第15回東海地区農学部附属演習林技術職員研修	信州大学演習林	9,10	4
第17回九州地区農学部附属演習林技術職員研修	琉球大学演習林	10	4
平成20年度東京大学教室系技術職員研修 (樹木医学関係)	東京大学演習林	10	2
平成21年度東京大学教室系技術職員研修 (コンピュータネットワーク研修)	東京大学	12	2
GIS講習会	東京大学	6	1
GIS内部講習会	東京大学	1	1
環境安全研究センター施設見学会	東京大学	7	4
評価制度説明会	東京大学	8	1
平成20年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション技術職員研修	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	9	6
北海道地区国立大学法人等技術職員研修	国立大学法人北海道大学	10	2
北海道地区中堅係員研修	人事院北海道事務局	7	1
平成20年度第1回農学生命科学研究科技術職員総合研修	東京大学農学生命科学研究科	3	3

### 事務職員

研修名	開催機関等	開催月	参加人数
係長級研修(初任者)	東京大学	10,12	1
北海道地区センター養成研修	人事院北海道事務局長	12	1
予算執行管理システム説明会	東京大学	7,8	2
評価制度説明会	東京大学	8	1

## ■各種委員会報告■

### 運営委員会

演習林規則第5条により設置されている演習林の管理及び運営に関する最高議決機関である。委員は、演習林の教授・准教授のほか、研究科長が推薦する研究科の教授又は准教授(10名以内)と事務部長であり、演習林長が委員長を務める。今年度は、2009年3月18日に開催した。

### 演習林会議

演習林長の諮問機関としての役割を持つ。毎月1回、原則として教授会開催日の前日に開催する。メンバーは講師以上の演習林教員である。今年度は都合11回開催した。

### 演習林編集委員会

「東京大学農学部演習林報告」と「演習林」の編集発行を行っている。原則として2ヶ月おきに開催し、2008年度はメールによる委員会を含め都合10回開催した。

### 事務主任会議

地方演事務主任相当職によって地方演における事務処理遂行上の問題点等について報告、意見交換を行う。原則として演習林長、研究部長、統括技術長も出席する。必要に応じて事務部の関係課長、係長も同席する。年1回、当初予算決定後に開催する。今年度は2008年7月15日に事務主任・技術主任合同会議として開催した。

### 技術職員等試験研究・研修会議

技術職員等による研究報告と情報交換、技術研修等を目的に年1回開催する。今年度は、2008年11月6日から11月7日にかけて千葉演習林で開催した。

### 技術主任会議

地方演技術職主任によって地方演における森林管理や技術職員組織に関わる諸問題について報告、意見交換を年1回行う。原則として演習林長、研究部長も出席する。今年度は2008年7月14、15日の2日間にわたり開催した。

## 科学の森ニュース編集委員会

広報誌「科学の森ニュース」の編集に当たっている。電子メールでのやりとりを中心にしながら、発行に合わせて編集委員会を開催している。2008年度は4回開催した。

## ホームページ編集委員会

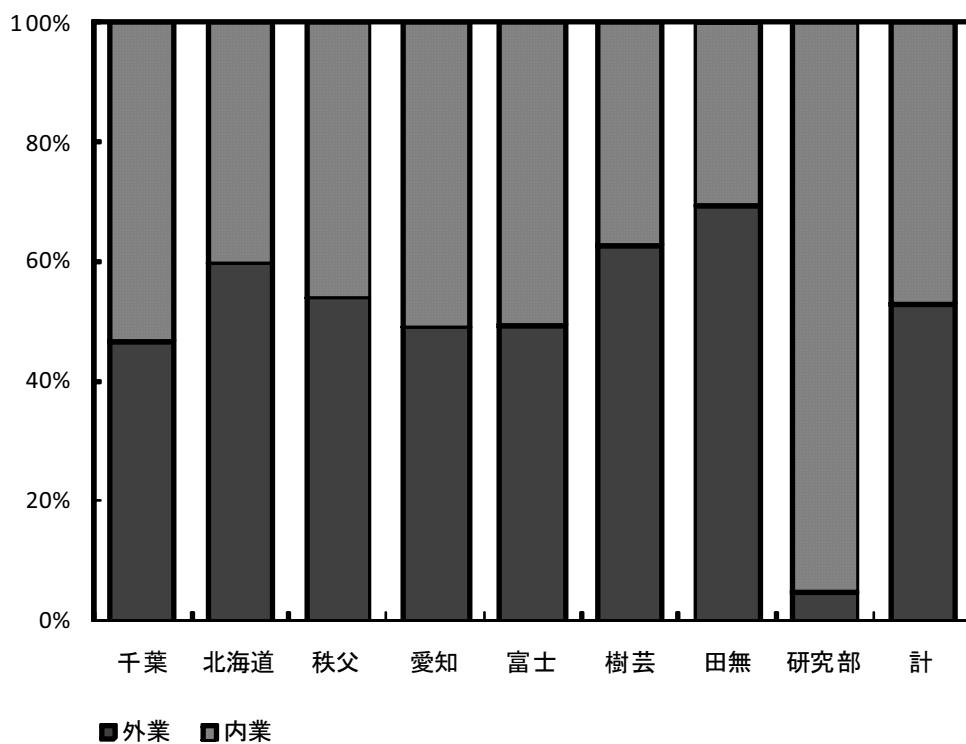
ホームページの編集を行っている。電子メールでのやりとりを中心にしながら、ホームページの更新に合わせて編集委員会を開催している。2008年度は20回開催した。

## 管理体制・業務検討WG

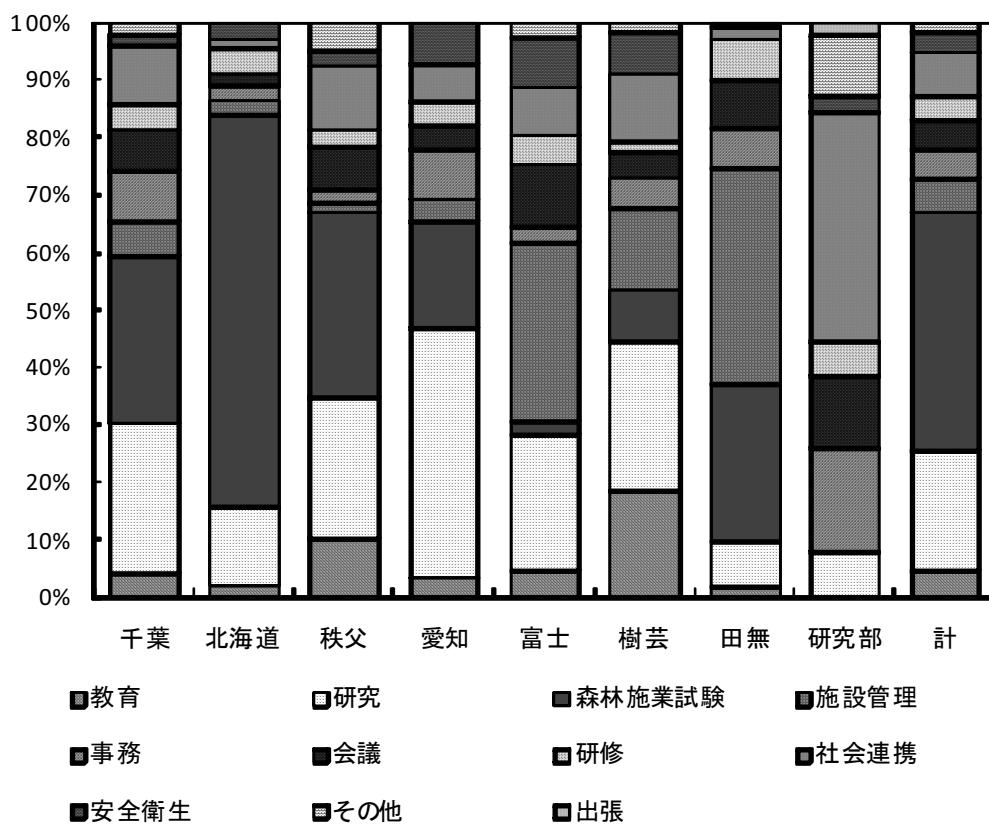
技術職員の業務内容を把握し業務の一層の改善につなげるために、技術職員の業務状況調査を2007年度の1か月間の試行に引き続いて2008年度は1年間の調査を行った。調査結果は下表の通りで各演習林の業務分野別の時間割合を示した。教育業務は全学体験ゼミや森林実習の実施を反映して樹芸研究所で多かった。研究は地方演習林間でばらつきがあったが演習林全体で約1/5を占めた。森林施業試験は北海道演習林で突出して多く、林分施業法をはじめとする林産物収入を裏付けている。施設管理は富士演習林および田無試験地で多かつたが、芝／草刈りの必要性によるものである。なお、本WGの業務は次期試験研究計画策定委員会の一部に引き継ぐこととし、2008年度をもって解散した。

技術職員の従事時間：業務別・内外業別の時間数割合

		% 千葉 北海道 秩父 愛知 富士 樹芸 田無 研究部計								
技術職員数		14	28	10	6	2	4	2	3	69
業務別 内訳	教育	4.0	1.9	10.1	3.2	4.6	18.5	1.7	0.3	4.6
	研究	26.1	13.9	24.3	43.6	23.4	25.9	7.9	7.3	21.0
	森林施業試験	28.9	68.4	32.3	18.3	2.5	9.0	27.5	0.0	41.4
	施設管理	6.2	2.4	1.7	4.2	30.8	14.0	37.5	0.4	5.6
	事務	9.0	2.6	2.4	8.5	3.1	5.6	7.0	17.6	5.4
	会議	7.2	2.0	7.4	4.1	10.7	4.3	8.2	12.5	5.0
	研修	4.4	4.4	3.2	4.0	5.3	2.1	7.5	6.0	4.2
	社会連携	10.0	1.6	11.1	6.8	8.3	11.7	2.1	40.2	7.6
	安全衛生	2.1	2.7	2.5	7.2	8.6	7.2	0.8	2.5	3.3
	その他	2.1	0.3	4.9	0.1	2.6	1.8	0.0	10.8	1.9
出張		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.1
外業		46.5	59.9	54.0	49.2	49.6	62.6	69.5	5.0	53.1
内業		53.5	40.1	46.0	50.8	50.4	37.4	30.5	95.0	46.9



各演習林の外業と内業の時間数



各演習林の業務分野別時間数

## **安全衛生管理委員会／教育研究安全衛生マネジメントシステム**

安全衛生管理委員会を2008年11月12日に開催し、農薬管理、災害、交通安全について現状の確認と今後の対応策の検討を行った。また、毎月開催される全学の安全衛生管理室長会議および農学部の安全衛生管理室会議に演習林を代表して出席した。

安全衛生に関する各種研修、講習については、演習林外部の研修、講習へ職員が参加するとともに、演習林内部でも実施した。これら研修、講習等については、安全衛生のページ、安全・防災のための講習会等の表、資格取得のための講習等の表を参照。

教育研究安全衛生マネジメントシステムについては2007年度より研究部および各地方演習林をそれぞれユニットとして実施している。2008年度も継続して、各ユニットで安全衛生計画等の作成、定期的なミーティング、リスクアセスメントと対策の検討、安全衛生に関する各種研修、講習を行った。

## **寄付制度検討 WG**

「科学の森里親制度」を発展させた新たな寄付制度のあり方を検討した。パンフレットを作成し、「東京大学の森」育成資金”を2009年度から発足する準備を行なった。

## **財務検討 WG**

平成20年度内に演習林の財務関連の将来構想を検討するために設置された臨時のワーキングである。7月15日、10月20日、12月2日、1月14日、2月10日の5回開催され、全演的な予算・人員配置の将来予測や各演習林での予算・人員問題について検討した。検討結果は平成21年度に設置された次期試験研究計画策定委員会に引き継がれ、具体的な対応策等について検討されることとなった。

## **広報情報室**

2008年度は広報情報室の活動も2年目となり初年度に引き続き以下のようないわく活動を行うとともに月例の打ち合わせ会議の中できさまざまな活動の方針について検討を行った。

1. 「科学の森ニュース」の編集・発行(42～45号)
2. 年報(2007年度活動報告)編集・発行
3. 学生募集用パンフレット「科学の森で学ぼう」の編集・発行
4. 書籍の販売
5. 演習林報告(119、120号)、演習林(47号)の編集・発行
6. 科学の森教育研究センターHPの管理運営
7. 演習林ネットワーク関連業務、メールアドレス管理
8. 基盤データ整備実務

## 9. 利用者データの収集・管理体制の整備

また、2008年度の広報情報室活動として千葉演習林の協力の下、東大教職員向けのイベントを初めて実施した。

### 1. 千葉演習林紅葉の猪ノ川渓谷特別ガイド

日時:2008年11月29日(土)

参加者:28名

## 教育推進委員会

演習林教育推進委員会は2007年度より演習林教員を中心とした教育活動を組織的にバックアップすると同時に、より積極的な教育プログラム開発を進めるために設置された。2008年度はまず以下の6点の活動方針をたて担当を決めて活動していくこととした。

1. 教養学部講義の充実（全学体験ゼミナール、総合科目等）
2. 教育推進経費の設定と教育活動の予算面でのバックアップ体制の確立
3. 教員紹介パンフレットの作成等の教育活動に関する業務における広報情報室との連携
4. 講義科目や演習林ゼミなどにおける演習林教員の教育活動のとりまとめ
5. 学生への演習林教員の教育研究のアピール増進
6. 教員総会開催などによる演習林教員間の意識差の低減

特に、「2」に関連する教育推進経費の設定と管理、「6」に関連する教員総会の開催など新たに始めた活動は一定の成果があったと考えられる。

## 研究推進委員会

演習林研究推進委員会は2007年度より演習林教員を中心とした研究活動を組織的にバックアップすると同時に、研究プロジェクトの組織的な獲得、演習林の蓄積してきたデータの研究成果としての公表の促進を図るために設置された。2008年度は以下の5点について重点的に活動を行った。

1. 科研費基盤A(一般)の研究推進
2. 東京大学AGSプロジェクトの研究推進
3. 新たなプロジェクト獲得のための戦略検討
4. 演習林データの有効活用と論文としての発表に関する戦略検討
5. 教員総会開催などによる演習林教員の意識の高揚

演習林教員による具体的なプロジェクト研究としては、「1」と「2」の不達のプロジェクト研究が行われた。2009年3月には研究推進委員会を開催し、現在の科研費基盤A(一般)終了後の大型プロジェクト

の獲得のために必要な検討を行った。また、これまでに演習林に蓄積されてきたデータの有効活用に関する検討を開始した。教員総会の開催により、教員の意識の高揚と共通認識を持つために一定の成果があったと考えられる。

## **森林病害虫WG**

森林病害虫対応ワークグループ（旧新居試験地WG）では、おもに、愛知演習林新居試験地の松くい虫対策と、犬山研究林および赤津研究林のナラ枯れ対策に対応した。松くい虫関係では、2008年度の枯損量は、137本、 $40\text{ m}^3$ と、被害量のピークであった2004年に比較すると約20分の1にまで減少した。市町村交付金相当額により、県と共同による予防散布、マツ植栽地の整地と、作業道の整備を行った。また、2007年度末のマツの過伐に対する後処理を関係諸機関と進めた。具体的には、抵抗性クロマツ2,500本の植栽と2007年度に植栽したヤマモモの補植を行った。2007年度に最初に発見されたナラ枯れは、被害本数は451本と前年の約10倍に増加した。ナラ枯れに関しては、枯死率が約20%で生き残った木には免疫ができるから、森林に対する防除対策は行わない方針を決めている。しかし、今後は、里親木など単木レベルで保護対策が必要になることが予想される。

## **次期試験研究計画策定委員会WG**

これまで、各地方演習林の試験研究計画が地方演習林スタッフによって策定されてきた。これは各地方演習林がそれぞれに異なる立地条件と利用状況のもとにありその特異性を無視できないことと「現場のことは現場で決める」という考え方からとられてきた方法と考えられる。しかし、予算、教職員数が削減されていく一方で演習林の担う役割は多様化する傾向が続いている。従来から重視されてきた「各地方演習林の独自性」だけでは十分な活動が行えなくなってきた。このような状況下で策定される各演習林の試験研究計画は各々の演習林の個性にあった独自性を持つと同時に全般的に統一された方向性を持つ必要があり、各演習林の担う役割を明確にしていく必要がある。そこで、演習林の運営管理すべてにわたり10年間の森林管理や演習林の運営、試験研究、教育活動のなど演習林のすべての活動の根柢となる全般を網羅した10ヵ年計画を新たに策定することとなった。策定にあたっては地方演習林長、統括技術長が委員となり演習林長が委員長を務める「次期試験研究計画策定委員会」が設置され、そのもとに「次期試験研究計画策定委員会ワーキング」が設置された。

同ワーキングは全般の教職員の中からメンバーが選出され2009年3月18日に第1回の会合をもつた。今後「森林管理計画班」、「教育研究計画班」、「予算・人員配置計画班」、「事業計画班」の4つのグループに分かれて2011年度開始を目指とした次期試験研究計画策定作業を進めていくこととなる。

## **基盤データ整備委員会**

研究フィールドとしての演習林の価値をよりいっそう高めることを目的に、さまざまな基礎的なデータの収集と提供を組織的に行うのが基盤データ整備委員会である。気象部門、生物部門、水文部門、固定試験地部門、GIS部門で構成されている。

### **気象観測部門**

各地方演習林協力の下、演習林における気象観測を継続している。2008 年度も引き続き千葉 4ヶ所、北海道 2ヶ所、秩父 4ヶ所、愛知 3ヶ所、富士 1ヶ所、樹芸 2ヶ所、田無 1ヶ所、合計 17ヶ所で観測を行った。

観測データは演習林ホームページで公開するとともに、2008 年のデータをとりまとめて「演習林」49号(2010年1月発行予定)に2008 年気象年報として掲載する。



### **生物部門**

演習林基盤データ整備委員会【生物部門】は、(1)木本植物、(2)草本植物、(3)鳥類、(4)脊椎動物(鳥類を除く)、(5)昆虫類、の5つの分野についてデータの収集にあたっている。基本的には、これまでの情報の蓄積が多く、また調査を実施しやすい木本植物、草本植物、鳥類の3分野について先行してデータの収集・整備を進めてきたが、2008 年度より昆虫類の調査が開始されている。脊椎動物については、本格的な調査実施に向けての予備情報の収集を進める方針で活動を行っている。2008 年度に行った主な活動とその成果は以下の通りである。

(1) 木本植物分野および草本植物分野

演習林内に生育する維管束植物(自生種・導入植栽種)をリストアップし、さく葉標本を3点以上作成することを目標に資料の収集にあたっている。2008年度の活動状況は以下の通りである。

演習林名	調査	調査	標本	標本	その他
	日数	人員	種数	点数	
千葉	5	5			草本の写真撮影(他業務の移動中などに確認), 木本(保護樹調査)12種についてGPSにより位置を記録, 写真を撮影した。
北海道	5	9	175	273	標本は過去採取済み種を含む。画像データ約60種180枚(未整理)。通常業務中に40時間程度の踏査, 写真撮影などを行った。
秩父			1	8	通常業務中1種採。さく葉標本4点, 液浸標本4点
愛知	13	13	219	627	希少種1種は写真撮影のみ。標本採集は行わなかった(補足分, 重複分含む)。
富士	2	2	5	25	通常業務中2日程度標本採取, 写真撮影を行った。
樹研	13	13	63	189	花, 実のないものも含む。通常業務中に標本採取を行った日も7日程度あり。未同定, 過去採取したものも含む。
田無					種子採取, 標本作製を外部委託(謝金)で行った。調査日数8日, 標本数123種, 123点
全演習林合計	38	42	463	1,122	標本点数は、過去に採取したものを含む 田無試験地にて種子標本の作製を行った



## (2) 鳥類分野

演習林でみられる鳥類のリストアップを目標に 2004 年度から調査を継続してきている。2008 年度の調査実施状況、確認種数は、以下の通りである（調査回数は、ラインセンサス、定点調査、任意調査等の合計）。

演習林名	調査回数	確認種数
千葉	70	52
北海道	18	82
秩父	34	53
愛知	23	57
富士	48	35
樹研	55	57
田無		
全演習林合計	248	---



## (3) 脊椎動物(鳥類を除く)分野

各演習林で過去の目撃記録や資料の洗い出し、新たな目撃情報の収集などを行い演習林内に生息している脊椎動物のリストアップを行っている。各演習林の取り組み状況および成果は以下の通りである。

演習林名	取り組み状況
千葉	<ul style="list-style-type: none"><li>・通勤時や業務中に目撃した脊椎動物をチェック。</li><li>・脊椎動物に絞った調査は実施せず。</li><li>・ニホンジカ生息数調査を行った。</li></ul>
北海道	<ul style="list-style-type: none"><li>・「目撃ノート」による職員から目撃情報の収集。</li><li>・自動撮影装置を用いた林道のモニタリング調査。</li></ul>
秩父	<ul style="list-style-type: none"><li>・頭骨標本作製</li><li>・カモシカ 2 体、シカ 1 体、アナグマ 2 体、ツキノワグマ 1 体</li></ul>
愛知	<ul style="list-style-type: none"><li>・目撃情報シートに目撃した動物をチェック。</li></ul>
富士	<ul style="list-style-type: none"><li>・職員による特別な調査は実施せず。</li></ul>
樹研	<ul style="list-style-type: none"><li>・職員による目撃情報記録。</li><li>・シカ生息数調査。</li><li>・センサーダブルによる動物出現記録。</li></ul>
田無	<ul style="list-style-type: none"><li>・職員による特別な脊椎動物調査は実施せず。</li></ul>

#### (4) 昆虫類分野

##### 1.全演共通の調査を実施

昆虫班、担当者のスキルアップと各演が共同する仕事を持つことも目的において、共通したプロトコルによる定期・定量的採集法によるデータの蓄積を開始した。研究課題は、ピットホールトラップを使った地表徘徊性甲虫相の調査とした。それは、調査方法が容易であり、季節変動が比較的小さい、生息場所の微環境を反映しやすいので、手法を統一すれば他の場所との比較が可能であるなど、全演を共通とした調査の端緒に相応しいと判断したためである。各演とも長期生態系プロットを調査地とし、5~10ヶ月までに4回の調査を実施した。ピットホールトラップの設置場所は、固定して1~2m間隔で最大40個をかけ、設置と回収の間隔は72時間以上を基本とするようにした。今回が初めての調査であり、詳しいことは判らないが、オサムシ類が多く捕獲されるところやそうでないところ、採取される種に偏りがあるなどの何らかの傾向があるようであった。採集された昆虫類は、千葉演に集められ、外部協力者に同定作業を実施してもらっている。2009年度も同じ条件での調査を進めつつ、調査地の環境データを集めるなどの作業にも取りかかる予定である。

##### 2.各演を利用した研究からの昆虫相のリスト化作業

各演を利用した研究から昆虫相のリスト化作業を進めている。今年度は、秩父演と千葉演にそれぞれの地域の昆虫愛好者による調査が入って、その結果報告を頂いた。今後もいろいろな研究者から集まる情報を、分類してPDFなどの電子情報にして整理する作業を進めていく。

### 水文観測部門

量水観測は多年にわたり観測を継続して初めて精度への信頼度が得られ、研究トピックの範囲も広くなるという性質がある。例えば、極めて長期に観測すれば植生遷移にともなう水収支の変動や降雨一流出系での応答関係の変化を追跡することが可能となる。また、突発的に派生する、山火事や生物害やマスウエイステイングなどによる流域の生態系の激変などは、研究トピックとして重要なイベントであるといえる。また、東京大学の7つの地方演習林で植生・地質・気候の相違は、水収支や降雨一流出応答関係の比較研究の興味深い対象であり、短期間でも精度の高いデータが得られればこの比較研究はかなりの部分が達成可能である。

さて、広範な水文関連の観測項目のうち、量水観測データを基盤データとして整備することがこの部門の目的とするところである。愛知演習林の量水観測を例にして、観測データについて概要を説明したい。

愛知演習林では、大流域として、3流域、小流域として2流域(さらにその内部流域での水位観測を含む)で構成し、それぞれにデジタル記録とアナログ記録(バックアップ用)を収集している。水位は、ベルヌーイ式を基本に変形された土研公式を使用して流量に換算している。流量は、雨量と同様の単位であるmm/day mm/5minなどにまとめられ整理している。雨量は、気象部門で整理されているCR10Xの雨量を欠測値の補充に充てている。量水観測とセットで概ね流域の出口(即ち量水堰堤近傍)にCR10Xとは別に雨量計を設置している。基本的なデータは、雨量・水位とも5分間隔データであり、公表は、日単位データである。量水観測の精度維持上の要点は、土砂の不定期な排出作業にある。また、精密機械である水位計の精度劣化などの問題があり、愛知演習林では、最短で1週間毎にポイントゲージで水位のチェックを実施している。

千葉・北海道・秩父・樹芸の各地方演習林にも試験流域を設定しており、地方演習林単位でデータの整備を行っている。特に、豪雨による引き起こされる土砂の流入の問題で欠測を余儀

なくされ、その欠測期間が長期化する問題をいずれのサイトでも抱えているといえる。この問題への対応は各地方演習林への努力に期待せざるを得ず、負担を強いるケースが今後増えていくことになろう。

## 固定試験地部門

東京大学の7地方演習林は数多くの試験地を設定し、測定を行っている。固定試験地部門では、まず各演習林にある試験地の全容を把握し、そのうえで蓄積されているデータのデータベース化や一元管理体制の構築をめざすことにしている。2008年度は各地方演習林の試験地データをとりまとめていく作業の進め方について検討するとともに試験地属性データのデータベース化に向けた準備を進めた。実際のデータベース化作業は2009年度よりとりかかる予定である。

## GIS部門

演習林基盤データ整備委員会 GIS 部門は 2007 年度に設置された新しい部門である。設置後 2 年目となる本年度は、初年度に設定した 3 つの活動方針(①ハード／ソフトウェアの整備、②GIS オペレータの育成、③GIS データの整備)に従って、以下の活動を行った。

活動方針①に関しては、GIS ソフトウェア (ArcGIS) を利用可能な性能を持つパソコンを少なくとも 1 台は各演に配備し、GIS を全演的に導入するハードウェア基盤を整備した。

活動方針②に関しては、2009年 1月 20～23 日に田無試験地および空間情報科学研究センター（東京大学柏キャンパス）において GIS 内部研修会を実施した。研修に参加した演習林教職員は計 11 名である。中川雄治技術職員（北海道）が講師となり、各地方演の GIS 担当者が①GPS によるデータ取得、②レーザーコンパスによる立木位置の測量、③位置座標付き写真の作成、④田無試験地の地図作成について研修を行った。また、空間情報科学研究センターの古橋大地特任研究員を講師に迎え、①GIS データの品質チェック、②座標系について、の 2 つの講義を受けた。さらに、尾張敏章講師（北海道）が「北海道演習林における GIS 基盤データ整備の到達点」について、藤原章雄助教（秩父）が「秩父演習林の GIS による 1:25,000 紙地図の製作紹介」について、広嶋卓也講師（千葉）が「GIS を利用した伐採適地の選定」について、それぞれ講演を行った。

活動方針③に関して、各演から報告のあった主な活動内容は次のとおりである：各種地図や GPS 測量に基づく試験地・新植地のデータ整備（千葉）、試験地位置および施業区域図の GIS データ作成（北海道）、森林調査簿のデータ整備（秩父）、演習林界・林班界データ整備に関する検討（愛知）、CAD データの GIS データ化検討（富士）、青野研究林の小班区分地図作成および各小班の基本データ入力（樹芸）、3 級および 4 級の測量基準点設置（田無）。

## ■安全衛生■

下表のように安全・防災のための各種講習会を実施した。その他に各演習林の実情と必要性に応じ安全衛生のための定期的な会議や点検を実施、あるいは日常的な連絡・注意喚起のための態勢を整備している。

### 安全・防災のための講習会等

研修名	開催機関等	開催月	参加人数
平成20年度化学物質・高压ガス・UTCRIS取り扱い等講習会	東京大学	6	1
農学生命科学研究科安全衛生健康ガイドス	東京大学	4	1
安全衛生管理関係会議	東京大学	11	1
環境安全本部・農学部安全衛生管理室の薬品等巡視	東京大学	11	1
千葉演習林メンタルヘルス研修会	千葉演習林	1	27
エピペンの使用とハチ刺され予防講習会	千葉演習林	3	20
労働安全計画会議	千葉演習林	毎月	—
安全運転管理者等講習会	鴨川警察署	4	1
交通安全講習会	秩父演習林	2	16
安全教育および救命救急講習会	秩父演習林・秩父消防署	12	9
消火訓練	秩父演習林・樹芸研究所	7,11	14
普通救命講習	愛知演習林・樹芸研	7,11,3	27
劇物・毒物業務上取扱者講習会	東京都(愛知演習林)	11	1
劇物毒物及び農薬取り扱いに関する安全衛生講習	附属農場(愛知演習林)	10	1

### 資格取得のための講習等

研修名	開催機関等	開催月	参加人数
平成20年度衛生管理者資格取得講習会	環境安全本部	12	1
玉掛け技能講習	北海道労働局長登録教習機関有限会社労災防止センター	4,2	3
小型移動式クレーン運転技能講習	北海道労働局長登録教習機関有限会社労災防止センター	4,1	4
車両系建設機械(整地等)運転技能講習	北海道労働局長登録教習機関北海道教習所KK日立建機教習センター北海道教習所	7,2	3
はい作業主任者技能講習	北海道労働局長登録教習機関陸上貨物運送事業労働災害防止協会北海道支部	7	2

研修名	開催機関等	開催月	参加人数
特別管理産業廃棄物管理責任者	財団法人日本産業	1	2
第一種衛生管理者	東京労働局長	3	1
第二種衛生管理者	東京労働局長	3	1
刈払い機取り扱い作業者に対する安全衛生教育	林業・木材製造業労働災害防止協会愛知県支部	6	2
伐木等の業務に係る特別教育	林材業労働災害防止協会愛知県支部	6	2
環境安全講習会	東京大学環境安全研究センター	5,2	7
自由研削砥石取替特別教育	サンキュウリサーチ アンドクリエイト	7	1

## 災害統計

2008年度の災害発生件数は21件、ヒヤリハットは20件であった。休業災害の発生はなかったが、重大事故になりかねない災害、ヒヤリハットが発生したことから、今後も安全衛生対策を強化する必要がある。災害の中ではハチ刺されが毎年約2/3を占めているが件数は減少の傾向にある。ヒヤリハットでは、林内移動時のスリップ、転倒、転落が目立ったほか、枝や材の予期しない転がりも多かった。発生した災害、ヒヤリハットについては演習林安全衛生管理委員会および安全衛生マネジメントシステムの中で分析し、安全衛生の向上に努めている。

	教職員	学生	その他
重大及び休業災害(4日以上)	0件	0件	0件
休業災害(4日未満)	0件	0件	0件
不休災害	19件	1件	1件
災害合計	19件	1件	1件
設備災害		0件	
ヒヤリハットなど	19件	1件	0件

## 山火事予防活動

演習林名	名稱	開催場所	日程	参加人数
北海道	林野火災予防強調期間中の林内巡視及び日直	北海道演習林一円	2008.4.21～5.31	53
愛知	消防訓練	赤津研究林	2009.3.26	9

## ■人事異動■

日付	異動	新職名	氏名	旧職名
2008.4.1	命	附属演習林研究部長	石橋 整司	
〃	命	附属演習林秩父演習林長	鎌田 直人	
〃	命	附属演習林田無試験地主任	後藤 晋	
〃	勤務換	附属演習林研究部教授	石橋 整司	附属演習林秩父演習林教授
〃	勤務換	附属演習林秩父演習林准教授	鎌田 直人	附属演習林研究部准教授
〃	勤務換	附属演習林田無試験地准教授	後藤 晋	附属演習林北海道演習林准教授
〃	昇任	附属演習林研究部講師	安村 直樹	同助教
〃	出向	総務課附属演習林愛知演習林事務室係長	平野 圭二	岐阜大学国際・研究支援課研究支援係長
〃	昇任	総務課附属演習林千葉演習林事務室主任	石野 裕昭	総務課附属演習林千葉演習林事務室一般職員
〃	再雇用	総務課附属演習林愛知演習林事務室一般職員	加藤 正勝	総務課附属演習林愛知演習林事務室係長
〃	再雇用	総務課附属演習林樹芸研究所事務室一般職員	山本 親男	総務課附属演習林樹芸研究所事務室係長
〃	昇任	附属演習林愛知演習林技術専門員	後藤 太茂	同技術専門職員
〃	昇任	附属演習林研究部技術専門職員	相川 美絵子	同技術職員
〃	昇任	附属演習林北海道演習林技術専門職員	磯崎 靖雄	同技術職員
〃	昇任	附属演習林樹芸研究所技術専門職員	辻 良子	同技術職員
〃	勤務換	附属演習林千葉演習林技術専門職員	井口 和信	附属演習林北海道演習林技術専門職員
〃	勤務換	附属演習林千葉演習林技術職員	才木 道雄	附属演習林秩父演習林技術職員
〃	勤務換	附属演習林北海道演習林技術専門職員	村川 功雄	附属演習林千葉演習林技術専門職員
〃	勤務換	附属演習林秩父演習林技術専門職員	千嶋 武	附属演習林田無試験地技術専門職員
〃	勤務換	附属演習林富士演習林技術職員	算用子 麻未	附属演習林秩父演習林技術職員
〃	勤務換	附属演習林田無試験地技術専門職員	鶴見 康幸	附属演習林千葉演習林技術専門職員
2008.4.30	職務復帰	総務課附属演習林秩父演習林事務室一般職員	深谷 仁子	
〃	任期満了退職		福島 東子	総務課附属演習林秩父演習林事務室一般職員(臨時の採用)
2008.7.1	出向	北海道大学工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課係長(安全衛生管理担当)	米田 久和	総務課附属演習林北海道演習林会計係長
〃	配置換	総務課主任(研究支援チーム)	石野 裕昭	総務課附属演習林千葉演習林事務室主任
2008.10.1	採用	総務課附属演習林北海道演習林会計係長	吉田 厚志	北海道大学
〃	配置換	経理課一般職員(予算・決算チーム)	本橋 雅人	秩父演習林事務室
〃	勤務換	附属演習林北海道演習林助教	坂上 大翼	附属演習林田無試験地助教

日付	異動	新職名	氏名	旧職名
	勤務換	附属演習林富士演習林助教	齋藤 暖生	附属演習林秩父演習林助教
	勤務換	附属演習林樹芸研究所助教	井上 広喜	附属演習林千葉演習林助教
2008.10.16	昇任	附属演習林研究部講師	浅野 友子	同助教
	採用	附属演習林田無試験地特任助教	楠本 大	
2009.3.31	定年	再雇用	荒木田 善隆	附属演習林研究部技術専門員(統括技術長)
	定年		永島 初義	附属演習林千葉演習林技術専門員
	定年	再雇用	山中 千恵子	附属演習林千葉演習林技術専門職員
	定年	再雇用	道上 昭夫	附属演習林北海道演習林技術専門員
	定年	再雇用	清水目 元一	附属演習林北海道演習林技術専門職員
	定年	再雇用	飯沼 利雄	附属演習林北海道演習林林業作業員
	定年	再雇用	神塚 武一	附属演習林秩父演習林林業作業員
	任期満了退職		大畑 茂	附属演習林秩父演習林技術職員
	任期満了退職		岩本 則長	附属演習林田無試験地技術職員

## ■予算配分と収入■

### 予算配分

単位:千円

	2007年度	2008年度
配 分 :	303,689	300,406
	57,500 (交付金)	57,500 (交付金)
	5,540 (冊子等)	1,102 (冊子等)
	5,316 (その他)	8,860 (その他)
運 営 費 :	372,045	367,868
借 地 料 :	6,525	6,521
小 計	378,570	374,389

### 収入

林産物収入 :	120,459	131,856
損害賠償金 :	27,982 (支障木)	6,684 (支障木)
寄付金 :	1,140	1,092
小 計	149,581	139,632

### 演習林林産物収入細分表

区分	立木	素材	その他の			合計
			ヒサカキ	苗木	残材等※	
千葉演習林	766.440 m <sup>3</sup>	39.077 m <sup>3</sup>	33 束	50 本		3,612,360 円
	3,132,400 円	432,950 円	28,710 円	5,300 円	13,000 円 <sup>1)</sup>	
北海道演習林	16,245.64 m <sup>3</sup>	4,680.930 m <sup>3</sup>		665 本		126,554,111 円
	57,658,160 円	68,675,691 円		188,160 円	32,100 円 <sup>2)</sup>	
秩父演習林	169.080 m <sup>3</sup>	38.700 m <sup>3</sup>				1,227,905 円
	828,000 円	397,205 円			2,700 円 <sup>3)</sup>	
愛知演習林	317.000 m <sup>3</sup>	50 枝 本				461,795 円
	426,000 円	11,160 円			24,635 円 <sup>4)</sup>	
合 計	17,498.16 m <sup>3</sup>	4,808.707 m <sup>3</sup>	33 束	715 本		131,856,171 円
	62,044,560 円	69,517,006 円	28,710 円	193,460 円	72,435 円	

※ 残材等:森林の市で販売した年輪測定済み円板、松ぼっくり、1m未満の丸太など

1)「東大からの架け箸」材料木

2)林産物収入(森林の市販売、コースター)

3)公開講座等収入

4)タケノコ

## ■組織図■

### 本部

組織(主任職員)		配置職員(教職員)	配置職員(非常勤職員)
演習林長	教授 下村 彰男		
研究部 部長 統括技術長	教授 石橋整司(兼) 技術専門員 荒木田 善隆	教授 山本 博一(兼) 准教授 鴨田 重裕(兼) 講師 安村 直樹 講師 浅野 友子 2008.10.16昇任 技術専門職員 大村 和也 技術専門職員 相川 美絵子 事務部附属施設総務係主任 池田 美智子 2008.6.31まで 石野 裕昭 2008.7.1から	
農学系事務部 事務部長 総務課長	井上 幸太郎 米谷 栄治 2008.3.31まで 飯塚 英一郎 2008.4.1から	附属施設担当専門員 原島 二美雄  他事務部各係	
経理課長 教務課長	川口 安名 平野 榮三		

### 研究部 研究員・学生等

学生等	氏名
大学院研究生	佐竹(秋廣)敬恵
農学特定研究員	陳鍾善
農学特定研究員	トリフコビッチ・スタンコ
大学院研究生 博士3年	堀真人
博士1年	王清春
修士2年	サングアンスップ・スニサ
修士2年	佐藤樹里
修士2年	中馬美咲
修士2年	石塚航
修士1年	植村卓哉
学部4年	松岡健二朗
	濱野剛

千葉演習林

組織(主任職員)			配置職員(教職員)	配置職員(非常勤職員)
林長 教授 林長補佐 講師	山田 利博 廣嶋 卓也			
教育研究主任 助教 主査 技術主任 技術専門職員	山中 征夫 2009.3.31まで 根上 昌久 井口 和信 2008.4.1から			
事務係	事務室係長 事務室主任 事務室主任 事務室主任	根上 昌久 野 山 田 山 勝則 石野 裕昭 2008.6.30まで		
宿泊管理係	技術専門員	永島 初義 2009.3.31まで		臨時用務員 糟谷 育代 技能補佐員 鈴木 俊江 技能補佐員 行方 和子
森林管理係	技術専門職員	井口 和信 2008.4.1から	技術職員 三次 充和	
施設係			主査 根上昌久(兼) 2008.7.1から 主任 石野 裕昭 2008.6.30まで	
企画調整係	技術職員	才木道雄 2008.4.1から	技術職員 三次 充和	
生産販売係	技術専門職員	山中千恵子		
土木係	技術専門職員	大石 諭	技術職員 藤平 晃司	
造林係	技術専門職員	大塚 明宏	技術職員 塚越 剛史	
試験係	助教	池田 裕行	助教 井上 広喜 2008.9.30まで	
資料管理係	講師	廣嶋 卓也	技術職員 軽込 勉	
清澄作業所	技術専門員	永島 初義 2009.3.31まで	技術職員 塚越 剛史	技能補佐員 唐 錬 勇 技能補佐員 富 川 勲
札郷作業所	技術専門職員	鈴木 祐紀	技術職員 藤平 晃司 技術職員 阿達 康眞	技能補佐員 粕谷 善廣 技能補佐員 長谷川 二郎
郷台作業所	技術専門職員	米道 学	技術職員 里見 重成 技術職員 軽込 勉(兼)	技能補佐員 黒川 よし子 技能補佐員 宮原 はな 技能補佐員 岡田 康則

**北海道演習林**

組織（主任職員）		配置職員（教職員）	配置職員（非常勤職員）
林長 教授 梶 幹 男			
林長補佐 講師 尾 張 敏 章			
主査(総務担当) 堀 内 正			
技術主任 技術専門職員 犬 飼 浩			
教育研究主任 助教 宮 本 義 憲			
庶務係 係長 岡 田 教 和 2009.3.31まで	主任 大 屋 裕 子 主任 天 山 学	事務補佐員 穴 澤 三 恵 子	
会計係 係長 米 田 久 和 2008.6.30まで 吉 田 厚 志 2008.10.1から	主任 木 船 聰		
資産管理係 係長 堀 内 正(兼)	主任 横 山 和 宏		
営繕係	係長 堀 内 正(兼)	臨時用務員 菊 原 敬 子	
企画調整係主任 技術専門職員 松 井 理 生	技術職員 大 川 あ ゆ 子		
調査資料係主任 技術専門員 廣 川 俊 英		技能補佐員 稲 葉 文 吉 技能補佐員 岡 本 ヒ サ ョ	
種苗造林係主任 技術専門職員 五 十 嵐 勇 治	技術職員 岡 平 卓 巳	技能補佐員 千 德 勝 洋	
生産販売係主任 技術専門職員 岡 村 行 治		事務補佐員 藤 島 ノ ブ 子 事務補佐員 林 恵 梨	
土木生産係(土木担当)主任 技術専門職員 平 田 雅 和	林業作業員 飯 沼 利 雄		
土木生産係(生産担当)主任 技術専門職員 笠 原 久 臣	技術専門職員 磯 崎 靖 雄 技術職員 丹 羽 悠 二 2009.3.31まで 技術職員 福 岡 哲 希 技術職員 及 川 哲 希		
森林技術係	技術職員 五 十 嵐 秀 雄		
試験係	教授 梶 幹 男 講師 尾 張 敏 章 助教 宮 本 義 憲 助教 坂 上 大 翼 2008.10.1から		
東山作業所主任 技術専門員 道 上 昭 夫(兼)			
事務係		道 上 昭 夫(兼)	
山麓作業所主任 技術専門職員 岡 村 行 治			
調査第一係主任 技術専門職員 福 士 憲 司	技術専門職員 村 川 功 雄 2008.4.1から 技術職員 小 池 征 寛 技術職員 高 橋 功 一 技術職員 犬 飼 慎 也		
調査第二係主任 技術専門職員 木 村 徳 志	技術専門職員 清 水 目 元 一 技術職員 宅 間 隆 二 技術職員 中 川 雄 治 技術職員 遠 国 正 樹		
山部樹木園主任 技術専門員 道 上 昭 夫	技術職員 小 川 瞳 自動車運転手 大 屋 一 美	技能補佐員 内 芝 和 江 技能補佐員 安 藤 佳 子 技能補佐員 佐 藤 裕 子 技能補佐員 中 坪 優 子	

セミナーハウス	施設長 梶 幹 男	岡田教和(兼) 2009.3.31まで	技能補佐員 飯 沼 芳 子 技能補佐員 山 本 ハ ナ 子 臨時用務員 矢 吹 喜 市 臨時用務員 米 澤 京 子
---------	-----------	------------------------	--

**秩父演習林**

組織(主任職員)			配置職員(教職員)		配置職員(非常勤職員)	
林長	准教授	鎌田直人				
事務室係長	事務職員	大村栄	一般係員	深谷仁子 2008.5.1から復職	臨時用務員	笠原美津子
事務室主任	事務職員	渡邊幸司	一般係員	本橋雅人 2008.9.30まで		
教育研究主任	助教	藤原章雄	助教 助教	鈴木牧 齋藤暖生 2008.9.30まで		
技術主任	技術専門職員	芝野伸策	技術職員 技術職員	大畠茂 佐々木和男		
森林施業系主任	技術専門職員	栗田直明(兼)				
森林計画係	技術専門職員	高野充広				
森林管理係	技術専門職員	栗田直明				
朽木作業所主任	技術専門職員	西山教雄	技術職員 技術職員	吉田弓子 神塚武一	臨時用務員 臨時用務員 臨時用務員	小河洋子 山中隆平 山中ミヤ子
大血川作業所主任	技術専門職員	西山教雄(兼)	技術職員 技術職員	吉田弓子(兼) 神塚武一(兼)		
影森苗畑主任	技術専門職員	芝野伸策(兼)				
利用促進系主任	技術専門職員	齋藤俊浩(兼)				
企画調整係	技術専門職員	千嶋武				
資料管理係	技術専門職員	齋藤俊浩			事務補佐員	福島東子

**愛知演習林**

組織(主任職員)		配置職員(教職員)	配置職員(非常勤職員)
林長	准教授 芝野 博文		
事務係	事務室係長 平野 圭二	一般職員 加藤 正勝	事務補佐員 大地 泰子
教育研究主任	講師 藏治 光一郎	助教 田中 延亮	
技術主任	技術専門員 渡部 賢		
技術係長森林管理系	技術専門職員 後藤 太成		
森林計画係	技術専門職員 井上 淳	技術専門職員 荒木田きよみ (兼)	
森林管理係	技術専門職員 井上 淳(兼)	技術職員 高徳 佳絵	
赤津研究林	技術専門職員 後藤 太成(兼)	技術専門職員 井上 淳(兼) 技術職員 高徳 佳絵(兼) 技術専門職員 荒木田きよみ (兼)	技能補佐員 熊谷 喜美子 技能補佐員 大川 くに子 技能補佐員 胡桃沢 清 技能補佐員 胡桃沢 晃子 技能補佐員 原 孝秀 2008.6.30まで 技能補佐員 波多野八重子 技能補佐員 水野 信代 技能補佐員 亀井 弘光
犬山研究林	技術職員 高徳 佳絵(兼)		
東山・穴の宮試験地	技術専門職員 澤田 晴雄(兼)	技術職員 高徳 佳絵(兼)	
新居試験地	技術専門職員 澤田 晴雄(兼)		技能補佐員 近藤 よし江
技術係長利用促進系	技術専門職員 澤田 晴雄		
企画調整係	技術専門職員 澤田 晴雄(兼)	技術職員 高徳 佳絵(兼)	事務補佐員 大地 泰子
試験係	技術専門職員 荒木田きよみ	技術職員 高徳 佳絵(兼)	
気象量水データ管理委員会		准教授 芝野 博文(兼) 講師 藏治 光一郎 (兼) 技術専門職員 後藤 太成(兼) 技術専門職員 澤田 晴雄(兼) 技術専門職員 荒木田きよみ (兼)	
地域交流推進委員会		准教授 芝野 博文(兼) 講師 藏治 光一郎 (兼) 技術専門員 渡部 賢(兼) 技術職員 高徳 佳絵(兼)	
広報委員会	技術専門職員 澤田 晴雄(兼)	技術職員 高徳 佳絵(兼)	
安全衛生管理室	准教授 芝野 博文(兼)	技術専門職員 井上 淳(兼) 事務室係長 平野 圭二(兼) 技術専門職員 後藤 太成(兼) 技術専門職員 澤田 晴雄(兼) 技術職員 高徳 佳絵(兼)	
将来計画検討委員会		講師 藏治 光一郎 (兼) 技術専門員 渡部 賢(兼) 技術専門職員 澤田 晴雄(兼)	
プロジェクト研究	講師 藏治 光一郎		鎌田 幸子 加藤 敦美

**富士演習林**

組織(主任職員)			配置職員(教職員)		配置職員(非常勤職員)	
林長 教授	石橋整司(兼)					
教育研究主任 助教	山本清龍		助教 齋藤暖生 2008.10.1から			
技術主任 技術専門員	芝野伸策(兼)		技術職員 千島茂 技術職員 算用子麻未	臨時用務員	高村洋子	

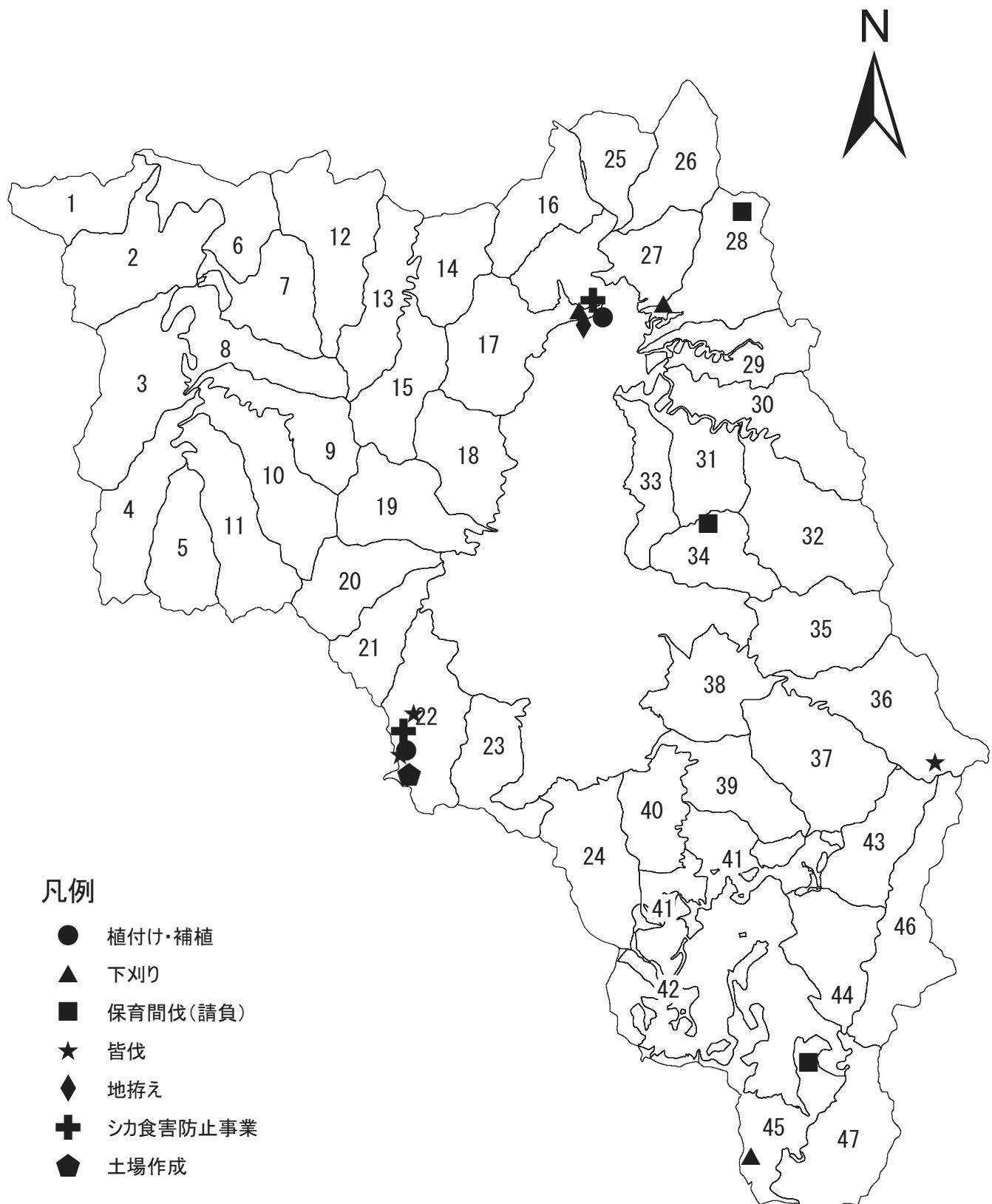
**樹芸研究所**

組織(主任職員)			配置職員(教職員)		配置職員(非常勤職員)	
所長 準教授	鴨田重裕					
事務係 事務職員	山本親男					
技術主任 技術専門職員	渡邊良広					
調査試験研究係			助教 井上広喜 2008.10.1から		技能補佐員 須藤和子	
			技術専門職員 村瀬一隆			
			技術専門職員 辻良子			
森林管理係			技術専門職員 辻和明		技能補佐員 大島浩子 技能補佐員 高橋誠 技能補佐員 土屋福江	

**田無試験地**

組織(主任職員)			配置職員(教職員)		配置職員(非常勤職員)	
試験地主任 準教授	後藤晋					
教育研究主任 助教	前原忠		助教 坂上大翼 2008.9.30まで			
			楠本大 2008.11.16から			
技術主任 技術専門員	鶴見康幸		技術職員 岩本則長		技能補佐員 前田克人 事務補佐員 石浦恭子	
					川田米子	

## ■管理業務実行位置図■ 千葉演習林



### 凡例

- 植付け・補植
- ▲ 下刈り
- 保育間伐(請負)
- ★ 皆伐
- ◆ 地拵え
- + シカ食害防止事業
- ◆ 土場作成

0 1 2 km

N

# ■管理業務実行位置図 ■ 北海道演習林

凡例

保育

★ 枝打ち（直営）

◆ 蔓切り・除伐（請負）

保育 下刈り

● 直営

▲ 請負

■ 直営・請負

請負地拵え

+ 請負地拵え

虫害等防除

■ 野鼠予察

□ 毒餌散布

植え付け・播種

+ 請負

\* 直営

育苗・苗木生産

★ 苗木生産

◆ 種子採取

樹木園等整備

■ 枝打・除伐

林況調査

+ 第1作業級

+ 第2作業級

立木伐採

● 素材

▲ 立木

■ 計画外

立木伐採(単木)

● 広葉樹

車道修繕

— 車道修繕

車道砂利敷き均し

— 直営

--- 請負

天然林成長量試験地測定

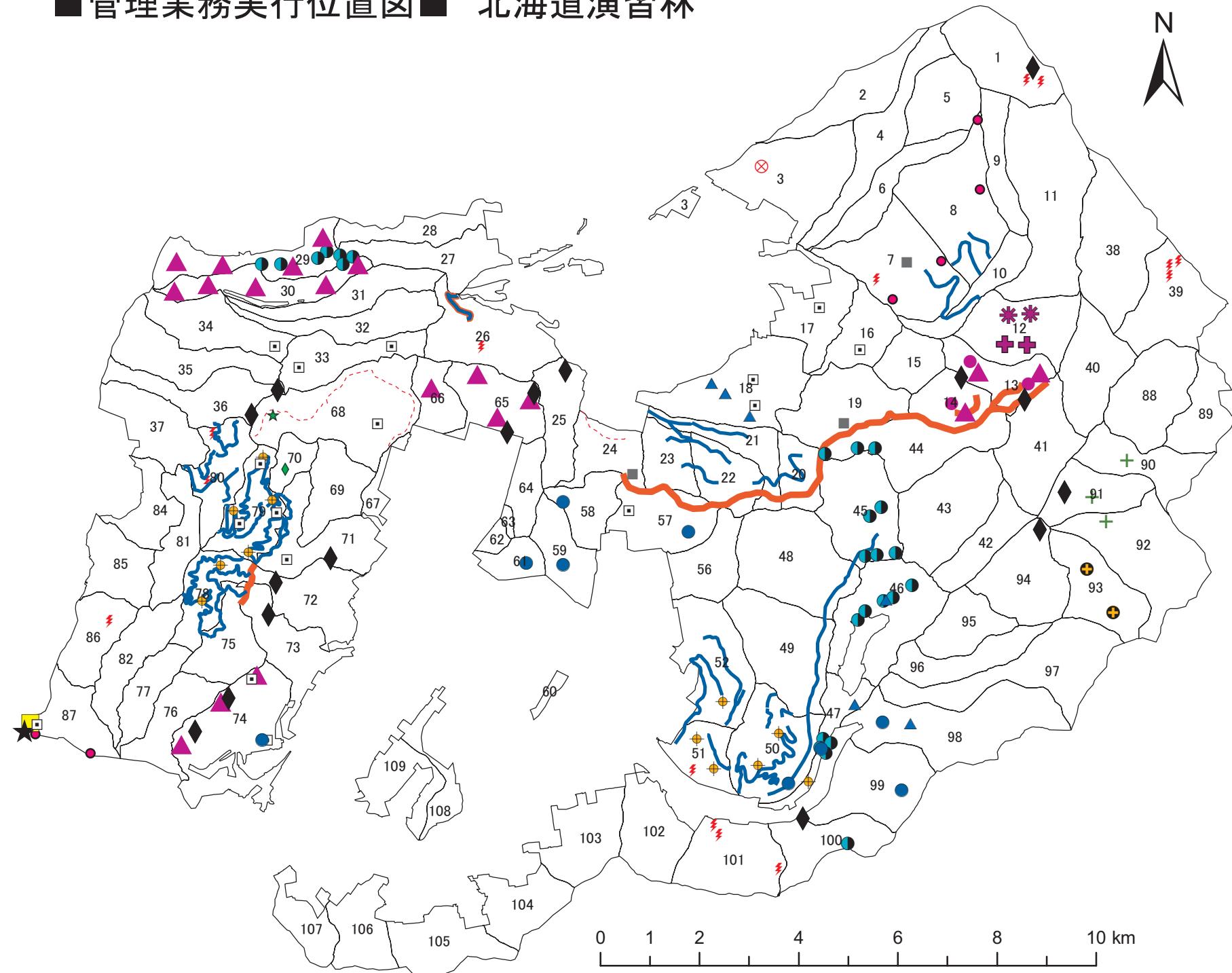
⊗ 検定

⚡ 测定

● 测定・検定

育種試験地測定

● 育種試験地測定

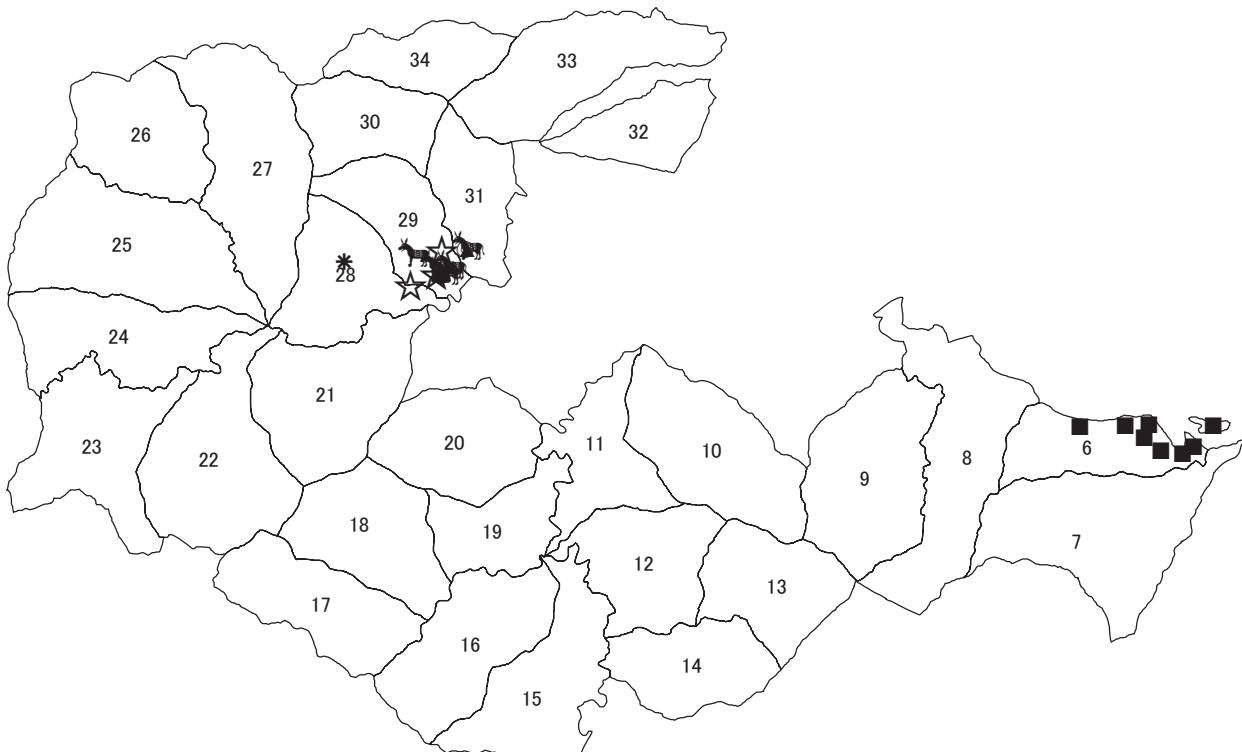


# ■管理業務実行位置図 ■ 秩父演習林

## 凡例

- ◎ 08補植
- ▲ 08下刈
- \* 08枝打ち
- 08(撫育)間伐
- ☆ 08伐採
- + 08シカ柵設置、張替え
- 馬 08シカ柵見回り・補修
- 08クマ被害防止

## 栃木



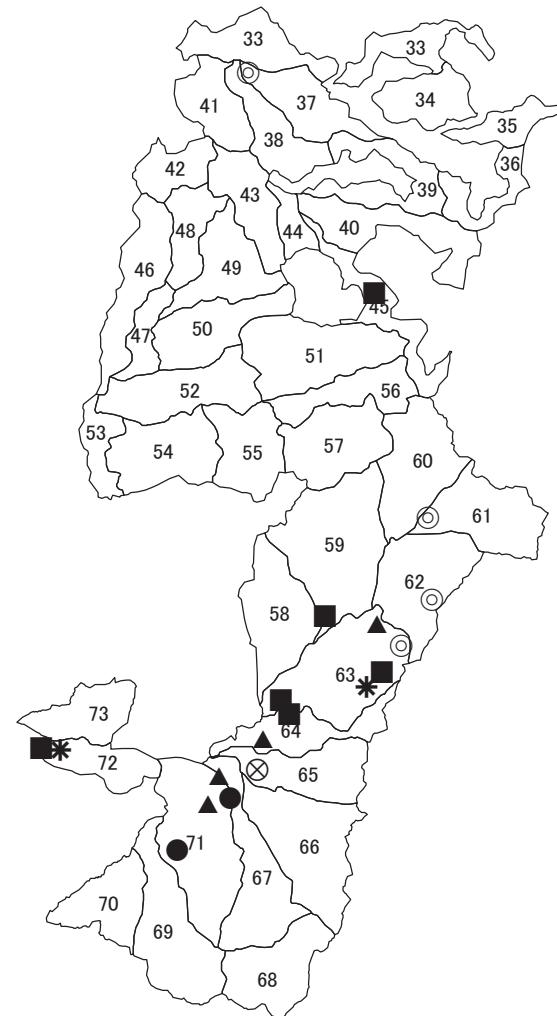
## 大血川



0 2 4 km

N

## ■管理業務実行位置図 ■ 愛知演習林



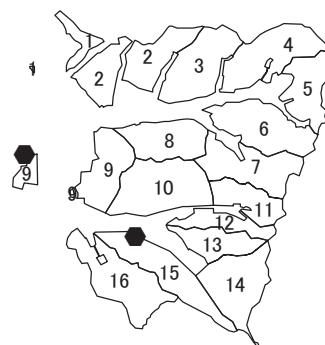
赤津研究林



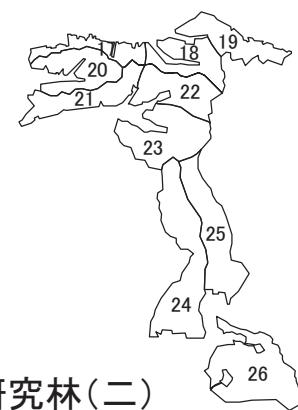
\* 各研究林、試験地の位置関係は実際とは異なっています

## 凡例

- 新補植
- ▲ 下刈り
- \* 枝打ち
- 間伐
- 試験地位置
- ⊗ モニタリング1000
- ◆ 除伐



犬山研究林(一)



犬山研究林(二)

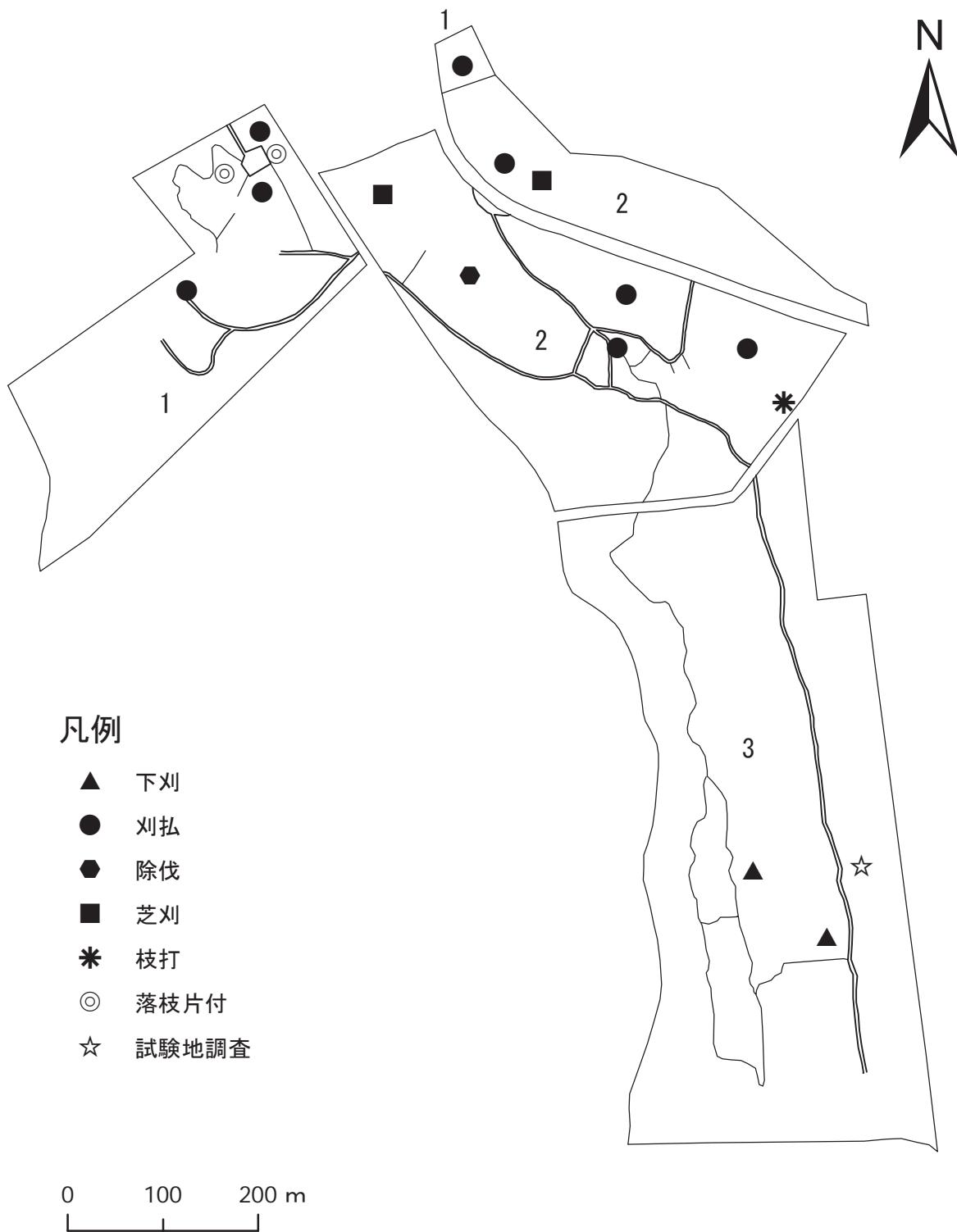


穴の宮試験地

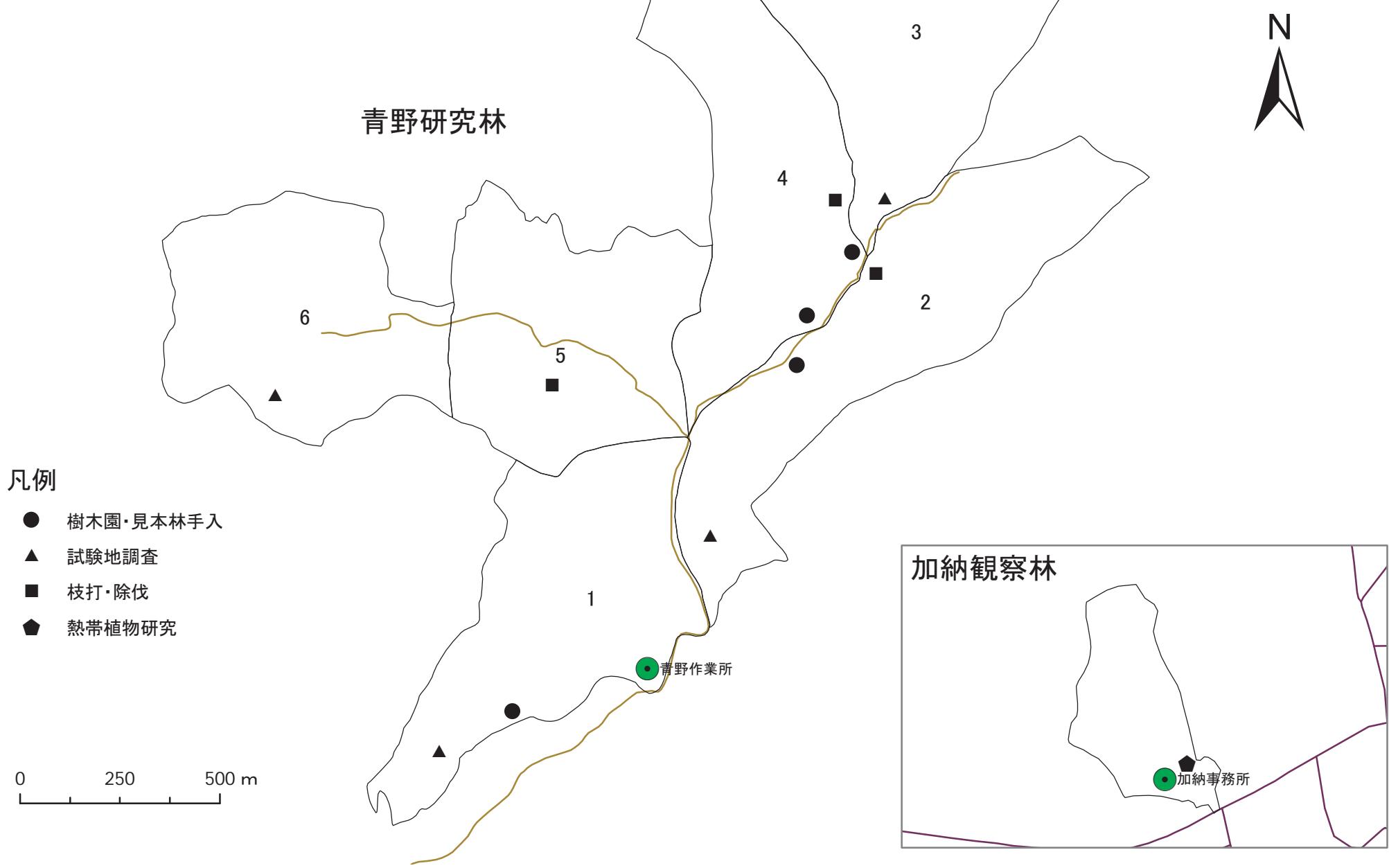


新居試験地

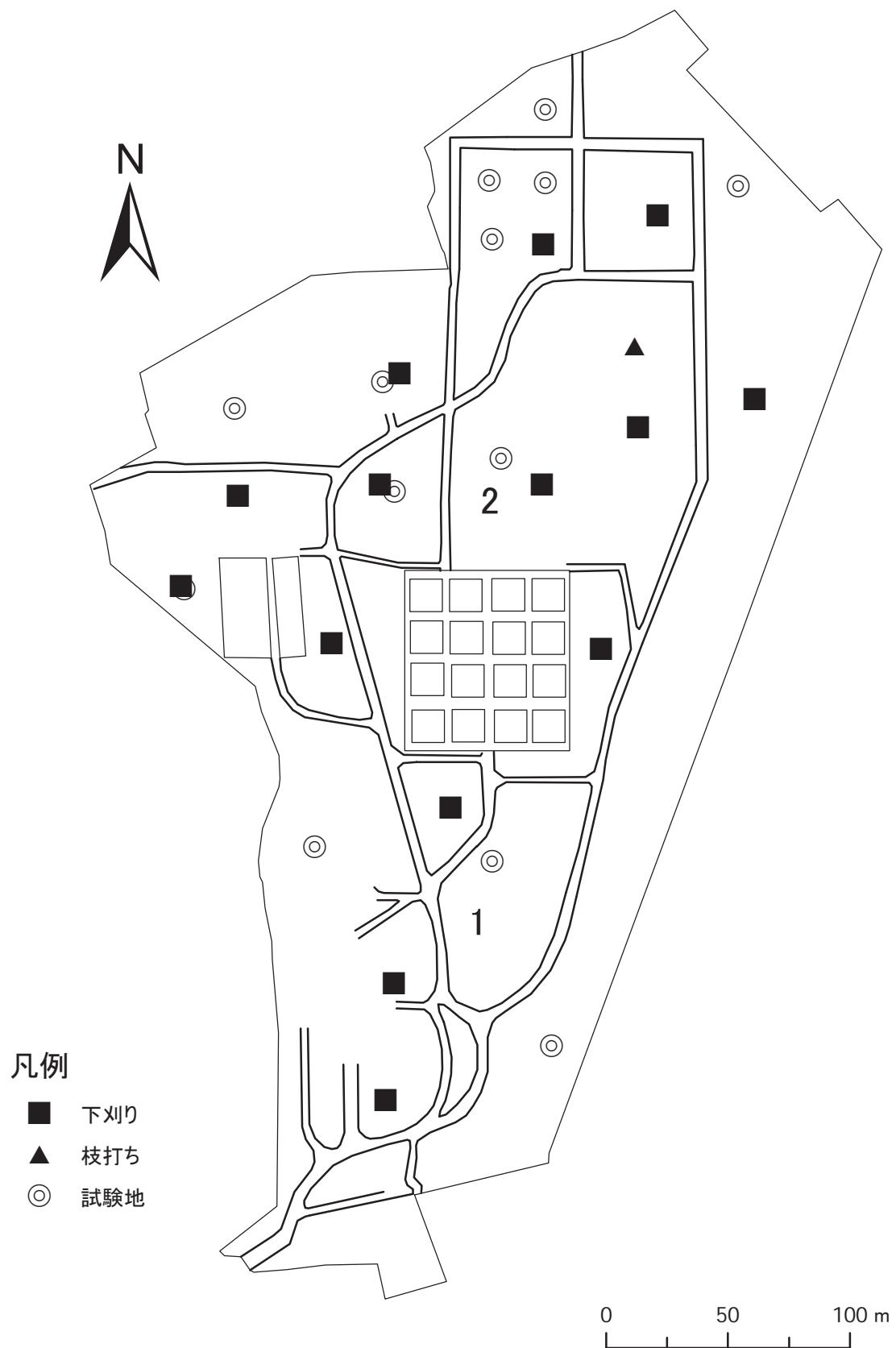
## ■管理業務実行位置図■ 富士演習林



## ■管理業務実行位置図 ■ 樹芸研究所



## ■管理業務実行位置図 ■ 田無試験地



## 管理面積集計表

2008年4月30日現在

ha

合計	樹林地								伐 竹 林	採 跡 地	未立 木地	その 他				
	人工林				天然林											
	小計	針葉 樹林	混交林	広葉 樹林	小計	針葉 樹林	混交林	広葉 樹林								
千葉	2,170	841	811	21	9	1,261		366	895	1		67				
北海道	22,680	3,290	2,990	86	214	18,496	1,808	12,717	3,971		748	146				
秩父	5,812	767	749		18	4,984	117	60	4,807			61				
愛知	1,292	380	374		6	872		872				40				
富士	38	38	34	1	3	0										
樹芸	246	109	50		59	106			106			31				
田無	9	6	2	3	1	0						3				
合計	32,247	5,431	5,010	111	310	25,719	1,925	14,015	9,779	1	0	748	348			

## 林相別蓄積集計表

2008年4月30日現在

m<sup>3</sup>

	計	人工林	天然林
千葉	526,749	314,870	211,879
北海道	4,568,905	545,244	4,023,661
秩父	870,425	162,109	708,316
愛知	195,565	58,751	136,814
富士	11,462	11,462	
樹芸	59,760	39,424	20,336
田無	1,817	1,817	
合計	6,234,682	1,133,676	5,101,006

## 立木伐採量

m<sup>3</sup>

		伐採材積（主伐）						利用 間伐 材積	主間伐 合計		
		人工林			天然林						
計		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	広葉樹				
千葉	立木販売	766	740	740	27	27	27	766			
	素材生産資材量	48	48	48					48		
	その他										
合 計		814	787	787	27	27	27	814			
北海道	立木販売	10,751			10,751	7,083	3,668	5,495	16,246		
	素材生産資材量	4,681			4,681	2,440	2,241		4,681		
	その他										
合 計		15,432			15,432	9,523	5,909	5,495	20,927		
秩父	立木販売	169	169	169					169		
	素材生産資材量	52	52	52					52		
	その他										
合 計		221	221	221					221		
愛知	立木販売	133	101	101	0.2	32	5	27	184		
	素材生産資材量										
	その他										
合 計		133	101	101	0.2	32	5	27	184		
富士	立木販売										
	素材生産資材量										
	その他										
合 計											
樹芸	立木販売										
	素材生産資材量										
	その他										
合 計											
田無	立木販売										
	素材生産資材量										
	その他										
合 計											
合 計	立木販売	11,819	1,010	1,009	0.2	10,810	7,088	3,722	5,679	17,499	
	素材生産資材量	4,780	99	99		4,681	2,440	2,241		4,780	
	その他										
合 計		16,600	1,109	1,108	0.2	15,491	9,528	5,963	5,679	22,279	

## 育林実行量

	造林		保育(ha)	備考
	面積(ha)	植栽本数(本)		
千葉	0.250	260	11.06	補植0.5ha(600本)、下刈り2.57ha、シカ食害防止柵作り0.25ha、シカ食害防止柵撤収0.4ha、保育間伐(請負7.34ha)
北海道	25.080	23,054	153.43	下刈(直30.04ha, 請51.99ha), 蔓切除伐(請18.41ha), 枝打(直14.28ha), 撫育間伐(直4.95ha), 野鼠防除(直33.76ha)
秩父	1.180	1,170	64.88	補植1.18ha(ヒノキ370本、スギ750本、ヒノキ挿し木50本) 下刈2.55ha、枝打(直営2.04ha、請負2.96ha)、シカ柵(張替え0.7ha、見回り補修3.08ha)、クマハギ予防樹皮ガード2.45ha(479本)、間伐(保安林改良事業19.85ha、水源地域の森づくり事業31.25ha)
愛知	1.430	4,410	3.29	
富士				
樹芸			1.40	下刈0.55ha 除伐0.22ha つる切り0.63ha
田無			3.66	下刈3.66ha
合計	27.94	28,894	237.72	

## 植栽樹種

	本			
	スギ	ヒノキ	カエデ	ケヤキ
千葉	170	600	70	20
北海道	トドマツ	アカエゾ	エゾマツ	
	10,470	9,194	3,390	
秩父	スギ	ヒノキ		
	750	420		
愛知	ヒノキ	マツ		
	1,060	3,350		
富士				
樹芸				
田無				

## 素材生産総括表

m<sup>3</sup>

	素材生産資材量			素材生産量			歩留 (%)	
	計	針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹	平均	針葉樹
千葉	47.61	47.61		27.165	27.165		57.06	57.06
北海道	4,680.93	2,439.75	2,241.18	3,545.21	1,840.72	1,704.49	75.74	75.45
秩父	51.52	51.52		38.70	38.70		75.12	75.12
愛知								
富士								
樹芸								
田無								
合計	4,780.06	2,538.88	2,241.18	3,611.08	1,906.59	1,704.49		

注)秩父:すべてクマハギ被害木処理

## 土木実行総括表

m

千葉	実行内容	林道維持	歩道維持	土場造成				
	実行数量	17,780	18,046	427.7m <sup>2</sup>				
北海道	実行内容	車道草刈	車道補修	車道砂利敷き均し				
	実行数量	400,470	66,950	23,390				
秩父	実行内容	車道維持	歩道維持					
	実行数量	13,859	18,460					
愛知	実行内容	車道維持	車道草刈	歩道維持	歩道草刈			
	実行数量	400	400	500	300			
富士	実行内容							
	実行数量							
樹芸	実行内容	車道草刈	歩道草刈					
	実行数量	6,750	2,151					
田無	実行内容							
	実行数量							

## 道路現況

m

	車道延長				歩道延長	
	林道延長	作業道延長	計	密度(m/ha)	延長	密度(m/ha)
千葉	31,262		31,262	14.2	126,190	57.4
北海道	484,500	448,890	933,390	41.0	7,800	0.3
秩父	11,395	2,464	13,859	2.4	181,391	31.2
愛知	11,840	1,500	13,340	10.3	12,400	9.6
富士	2,087		2,087	54.9	2,357	62.0
樹芸	3,593		3,593	14.6	11,753	47.8
田無						
合計	544,677		997,531		339,536	

## 各演習林所在地および連絡先

### 研究部

〒113-8657  
東京都文京区弥生1-1-1  
電話 03-5841-5497  
FAX 03-5841-5494

### 影森苗畠

〒369-1871  
埼玉県秩父市大字下影森764  
電話 0494-23-9768

### 千葉演習林

〒299-5503  
千葉県鴨川市天津770  
電話 04-7094-0621  
FAX 04-7094-2321

### 清澄作業所

〒299-5505  
千葉県鴨川市清澄135  
電話 04-7094-0585

### 札郷作業所

〒292-0537  
千葉県君津市黄和田畑字前沢1442-1  
電話 0439-39-3122

### 郷合作業所

〒292-0533  
千葉県君津市折木沢字相ノ沢  
電話 0439-39-3121

### 愛知演習林

〒489-0031  
愛知県瀬戸市五位塚町11-44  
電話 0561-82-2371  
FAX 0561-85-2838

### 赤津作業所・白坂苗畠

〒489-0014  
愛知県瀬戸市北白坂町1-1

### 犬山作業所

〒484-0094  
愛知県犬山市塔野地字大畔178-2

### 穴の宮試験地

〒489-0008  
愛知県瀬戸市曾野町411-1

### 新居試験地

〒431-0300  
静岡県浜名郡新居町ハマンダ3606-1

### 富士演習林

〒401-0501  
山梨県南都留郡山中湖村山中341-2  
電話 0555-62-0012  
FAX 0555-62-4798

### 樹芸研究所

〒415-0304  
静岡県賀茂郡南伊豆町加納457  
電話 0558-62-0021  
FAX 0558-62-3170

### 青野作業所

〒415-0327  
静岡県賀茂郡南伊豆町青野851  
電話 0558-62-0254

### 田無試験地

〒188-0002  
東京都西東京市緑町1-1-8  
電話 042-461-1528  
FAX 042-461-2302

### 北海道演習林

〒079-1561  
北海道富良野市字山部2条通北1  
電話 0167-42-2111  
FAX 0167-42-2689

### セミナーハウス

〒076-0161  
北海道富良野市字麓郷市街地1  
電話 0167-29-2204

### 山麓作業所

〒079-1561  
北海道富良野市字山部2条通北1  
電話 0167-42-2111

### 東山作業所

〒076-0202  
北海道富良野市字東山9号地

### 山部樹木園

〒079-7582  
北海道富良野市字山部第一苗圃  
電話 0167-39-6017

### 秩父演習林

〒368-0034  
埼玉県秩父市日野田町1-1-49  
電話 0494-22-0272  
FAX 0494-23-9620

### 板本作業所

〒369-1901  
埼玉県秩父市大滝3450  
電話 0494-55-0355

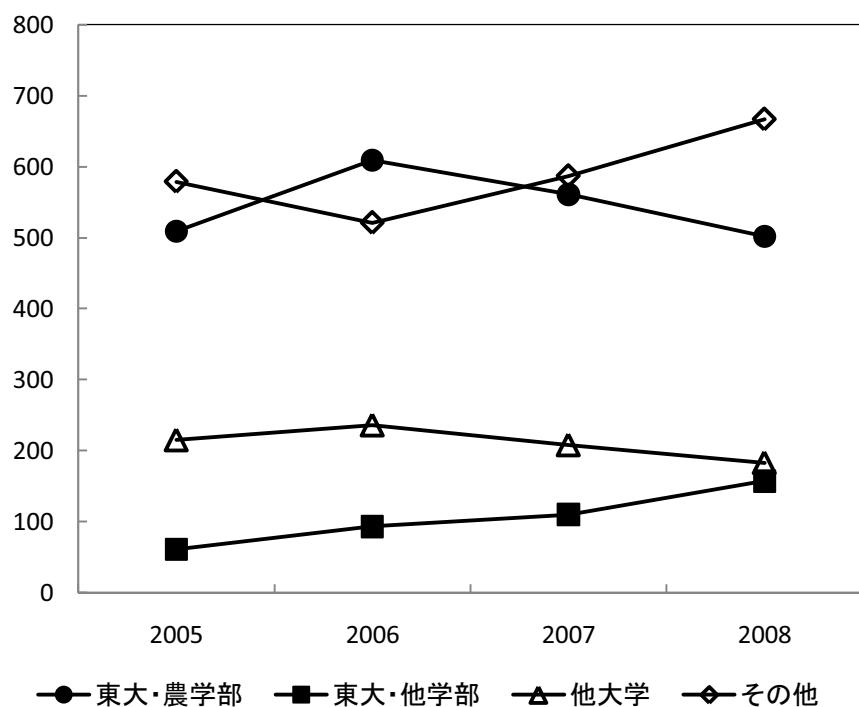
### 大血川作業所

〒369-1907  
埼玉県秩父市大滝5198  
電話 0494-54-1220

## 教職員の写真

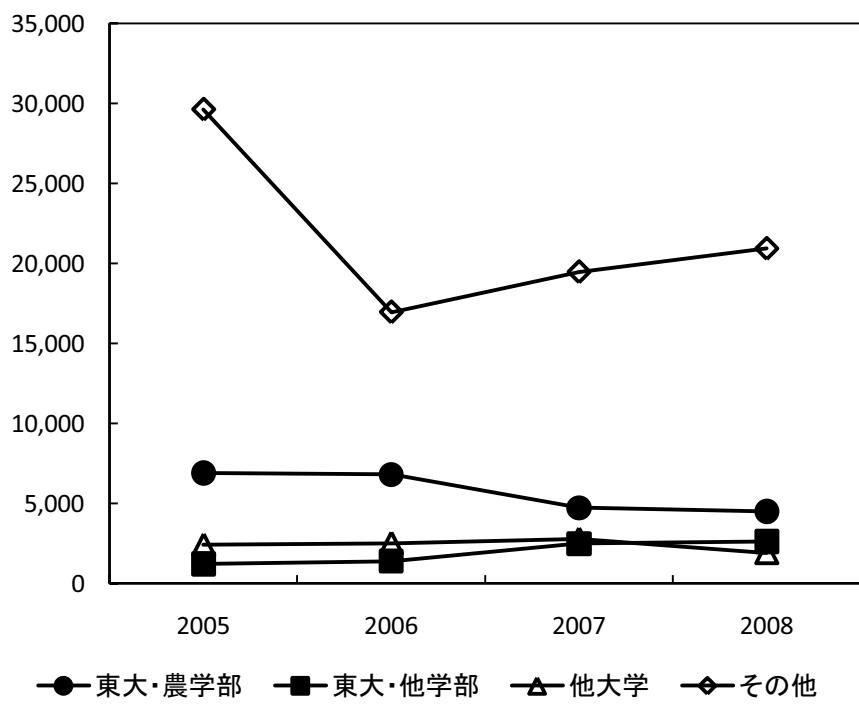
(167ページより)

2009年4月1日以降に在職された方で、希望のあった方を掲載しています。



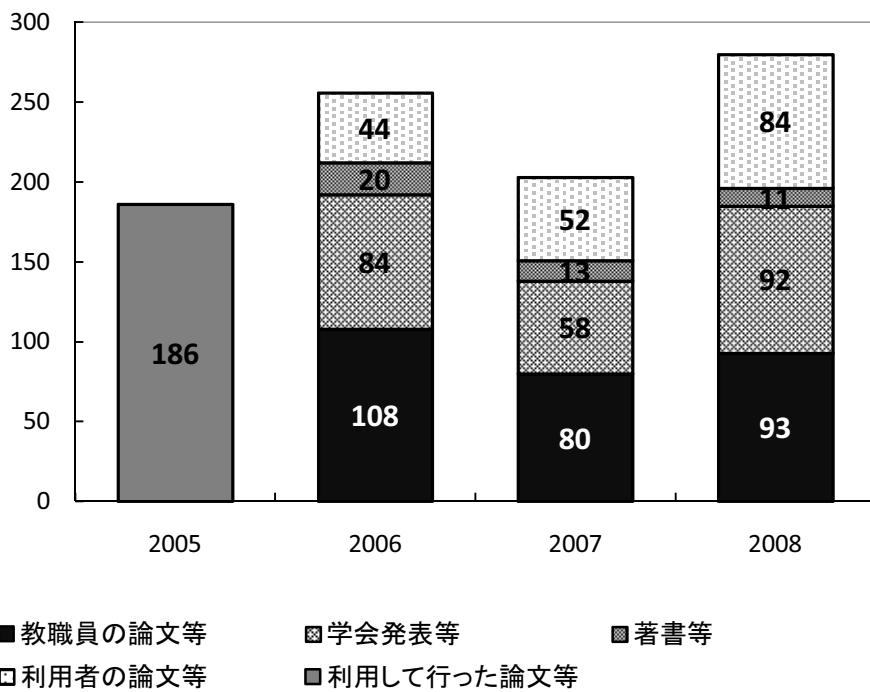
## 利用件数

一般公開(千葉)、ラングラウフ(北海道)、ロードレース(富士)の利用を除く



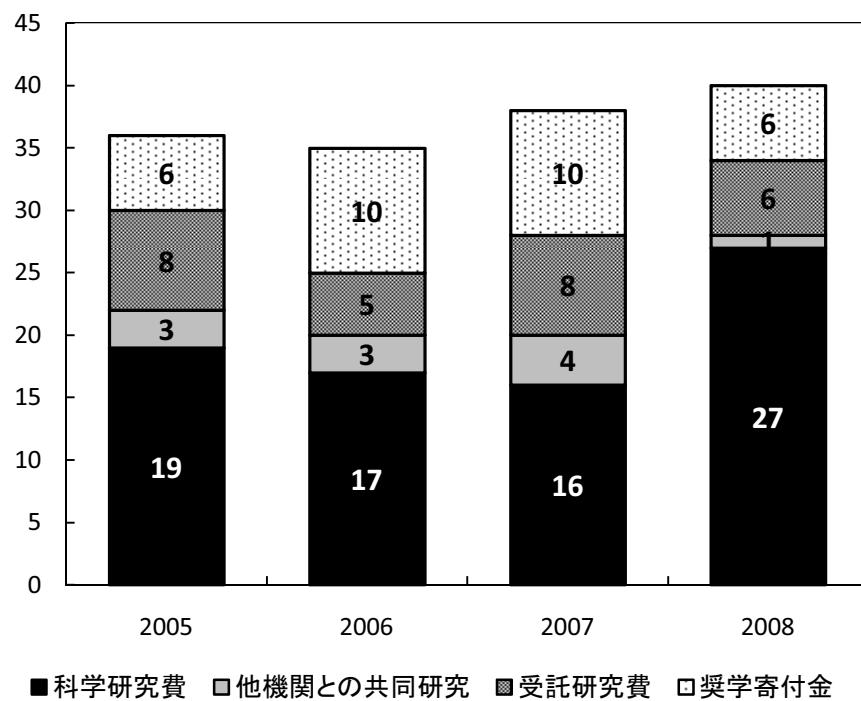
## 利用者延べ人数

一般公開(千葉)、ラングラウフ(北海道)、ロードレース(富士)の利用を除く



## 論文等の本数

2006年度から集計方法を変更した



## 外部研究費の獲得数

奨学寄付金は里親制度を含まない